

長。フランス国立最高美術専門学院研究生。二六年広東省政府農工庁秘書。二八年組織部秘書、南京市政府秘書長。三〇年国立青島大學教務長。三一年中央組織部副部長。三一年浙江省政府教育庁長。三二年南京中央党部留守專員。三三年—三五年国民政府交通部次長、内政専門委員会委員、文化事業計画委員会副主任委員、中国美術会会長、国立戲劇学校院務委员会主任委員。三五年—五〇年国民党中央執行委員会委員。三五年国民党中央執行委員会常務委員。三六年—三七年内政部次長。三八年—三九年教育部次長。四〇年—四一年中央政治学校副校長。四二年—四三年中央党部宣傳部長。四三年—四四年国民党海外党部部長。四〇年—四八年国民党文化運動委員会主任委員。四八年以来立法委員。五〇年—五二年国民党中央改造委員会委員。五二年三月立法院長。五二年以来国民党中央常務委員。中国文芸協会常務理事。五六年四月中華民國各界日本親善訪問団団長として来日。元中央電影公司董事長、中国廣播公司董事長。著書「近代欧州絵画」「自救」「蜜月旅行」「自誤」「密碼」「狄四娘」「最後関頭」「殺敵報国」「再相逢」「忘記了因素」。

張 德 慶 Chang Te-ching

五四年一月当時全国労働模範、中央人民政府第一機械工業部自動車実験室主任。五四年北京市区人民代表大会代表。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(自然科学団体)。五五年五月中国科学院技術科学学部委員。

張 德 馨 Chang Te-hsing

五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問団第七總分団副団長として北

五三年七月中国新民主義青年団第二次全国代表大会にて第二期中央委員会候補委員。

張 南 生 Chang Nan-sheng

福建省の人。厦門大学卒業。かつて国民政府の僑務委員会委員。張鼎丞の部隊に従軍し瑞金ソヴィエト地区において政治工作に従事。西遷に参加し延安に赴く。ソ連において訓練を受け戦時中八路軍の政治部主任。戦後中共軍晋冀察野戦軍団聶榮臻部隊の師政治委員、軍政治部主任、軍政治委員。人民解放軍華北軍区政治部副主任。五三年一月—五四年九月華北行政委員会委員。五三年八月—五五年十月当時人民志願軍政治部副主任。

張 難 先 (義痴) Chang Nan-hsien (I-chih) 1874 ~

湖北省沔陽県の人。二七年広東省政府委員兼建設庁長。二八年湖北省政府委員兼財政庁長。二九年国民政府考試院詮敍部部長。三〇年浙江省政府委員兼主席および民政庁長を歴任。三二年辞任し郷里に帰る。三二年国民党湖北党政委員会委員長。四九年中央人民政府政府委員、武漢軍事管制委員会高毅參議。四九年—五三年一月中南軍政委員会副主席。五三年—五四年一月中南行政委員会副主席。五三年十一月当時中南中ソ友好協会副会長。八月第一期全国人民代表大会湖北省代表。九月同大会第一次會議主席団員、同大会常務委員会委員。五五年七月同大会第二次會議主席団員。同月各国議會連盟参加の人民代表団執行委員会委員。五六年六月全国人民代表大会第三次會議主席団員。

鮮を訪問。五四年八月第一期全国人民代表大会長春市代表。九月まで東北人民政府文化教育委員会委員。

張 德 生 Chang Te-sheng

陝西省の人。現在四八歳。四九年—五四年四月当時中共甘肅省委員會書記。四九年西北軍政委員会委員、甘肅省人民政府副主席。五三年一月西北行政委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会甘肅省代表。五五年三月政治協商會議陝西省第一期委員会主席。十一月当時中共陝西省委員会第一書記。五六年九月中共第八期中央委員会候補中央委員。

張 德 尊 Chang Te-tsun

五四年二月当時中共中央東北局秘書長。

張 德 緒 (南龍) Chang Te-hsi (Nan-lung) 1902 ~

広東省文昌県の人。タイ在住華僑。上海滬江大学商科卒業。德興盛、香港德興利公司、鴻泰股份有限公司等の経営者。タイ・キリスト教青年会主席、その他同教会関係団体の役員。五二年米回国務省の招待を受け米国各地の教育、実業事情を視察。五五年パリの世界キリスト教青年会百週年紀念大会にタイ代表団長として出席、帰路欧州各国を歴訪。

張 德 隆 Chang Te-lung

張 農 Chang Nung
五六年三月当時華南農學院教授。同月政治協商會議広州市第一期委員会特別招請委員。

張 佩 隆 Chang Pei-lung

五三年九月当時中共四川省昭化県委員会副書記、同県選挙委員会主席。

張 伯 謹 Chang Po-chin (Pe-chin) 1899 ~

河北省行唐県の人。日本留学。三二年米コーネル大学卒業。三四年同大学博士号。三六年—三七年欧州の教育事情を視察。帰国後燕京大学教授。三八年南京に赴き国防最高委員会教育専門委員兼軍事委員会政治部設計委員。三九年国民参政会参政委員。同年ニューヨークの世界青年代表大会に中国青年代表団顧問として出席。三九年—四四年湖北省政府委員兼教育庁長。四六年渡米。四五年—四八年北平市政府副市長。四九年行政院教育部次長。五〇年駐日中国代表団第二組組長。五二年駐日大使館公使。

張 伯 秋 Chang Po-chiu

五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。五五年一月政治協商會議第一期山東省委員会副主席。

張 伯 聲 Chang Po-sheng

五四年八月第一期全国人民代表大会河南省代表。五六年二月九三

学社第四期中央委員会委員。三月当時西北大学地質学系主任兼教授。

張 柏 園 Chang Po-yüan

五四年六月まで河南大学副校長。五五年二月河南省人民委員会委員。

張 發 奎 Chang Fa-kui 1896 ~

広東省の人。武昌軍官学校卒業。後李濟深將軍の部下となる。二六年北伐に加わり、武漢衛戍副司令。二七年第四軍(旧鉄軍)軍長。三一年国民党監察委員会委員。三六年浙江福建安徽江西辺区司令。三九年一四四年第四戦区總司令。四五年第二軍管区總司令。四六年第四戦区司令官。四七年十一月戰略顧問委員会委員(兼任広東行營主任)。四九年一月海南特區行政長官、二月陸軍總司令、六月これを辞任した。その後香港に居住。

張 盤 新 Chang Pan-hsin

五四年二月東北抗米援朝總分會の人民解放軍慰問代表团第七分団副団長。五五年二月遼寧省人民委員会委員。

張 盤 石 Chang Pan-shih

山西省の人。中共中央華北局宣傳部部長。五〇年政務院華北行政委員会委員。五三年一月機構改革後の華北行政委員会委員に再任。同月華北大行政区婚姻法貫徹運動委员会主任。五四年三月当時中共中央華北局第四副書記。九月華北行政委員会委員を解任。十二月政

治協商會第二期全國委員會委員(新聞出版界)。五六年三月政治協商會全國委員會學習委員會副主任委員。

張 彼 德 Chang Pi-tê(Peter B. T. Chang) 1913~

広東省の人。三五年暨南大学卒業。宣傳部公共關係課長。上海市政府委員。四九年台湾省參議會議員。五一年台湾省政府新聞處長。五四年以来僑務委員會顧問。

張 非 Chang Fei

五四年三月当時群衆歌曲評選委員。十一月当時中国人民解放軍華北軍区文工団団長。五五年八月当時中国音楽協會常務理事。

張 非 垢 Chang Fei-kou

五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問団第三總分団副団長。五四年二月人民解放軍慰問代表团第三分団(西南)副団長。九月西南軍政委員會文化教育委員會委員解任。五六年十月國務院体育運動委員會副主任。

張 美 娟 Chang Mei-chüan

五五年六月中国インドネシア友好協會理事。

張 畢 來 Chang Pi-lai

五六年二月民主同盟第二期中央委員會委員。

張 冰 痕 Chang Ping-hên

五六年三月当時中央浙江省崇德具委員會書記。

張 萍 Chang Ping

五三年十一月当時天津鐵路管理局副局長。

張 彬 Chang Pin

五一年一五四年二月当時政務院燃料工業部電業管理總局副局長。

五六年四月当時國務院電力工業部基本建設總局局長。

張 斌 Chang Pin

五三年六月当時中共安徽省滁縣地方委員會書記。

張 賓 Chang Pin

五五年二月熱河省人民委員会委員。

張 武 Chang Wu 1903 ~

広東省の人。京都帝國大学卒業。二九年以来中国銀行に勤務。五三年頃以来中国銀行東京支店長。

張 風 伍 Chang Fêng-wu

五五年十一月当時中共四川省江津地区委員會書記。

張 復 海 Chang Fu-hai

五四年十一月最高人民檢察院檢察員。

張 復 生 Chang Fu-shêng

五六年十二月当時中国国際貿易促進委員會展覽部副部長。

張 復 南 Chang Fu-nan

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。

張 福 生 Chang Fu-shêng

五五年十月当時中国国際貿易促進委員會委員。

張 福 林 Chang Fu-lin

一六歳の時山東省棗莊炭礦工夫となる。二六年以降工夫を指導し棗莊礦区工会を組織。二八年国府官憲に逮捕され徒刑六年に処せらる。三四年出獄。再び棗莊礦区に帰り、三七年全礦区工会總代表。日本軍の徐州占領後工夫を率いて山地地区に入り魯南(山東省南部)義勇隊を組織(人民解放軍第三野戦軍第八師の前身といわれる)。四〇年以降魯南の工会指導者。四五年山東省総工会副主任。四八年八月中華全国総工会執行委員。四九年政治協商會議に労働者代表として出席。

張 文 Chang Wên 1879 ~

広東省梅県の人。清末の北洋將辦学堂(北京陸軍大学の前身)を卒業。李濟深と同級生。その後浙江省民政庁長。三三年の福建革命後成立した福建人民政府參謀団副主任。日華事変中は広東陥落後龍川連属の「粵東前線指揮所」主任に降任、間もなく解任。爾後桂林

に隠棲。戦後香港に移り、李濟深、何香凝らと国民党革命委員会を起し、その中央委員。四九年広東省人民政府委員。中南軍政委員会委員。九月政治協商会議全国委員会委員、十月政務院政治法律委員会委員。五三年一月中南行政委員会委員。当時中国民主同盟南方総支部臨時工作委員会副主任委員。十二月当時広東省人民政府副主席。五四年一月当時民主同盟広東省支部委員会主任。八月第一期全国人民代表大会広東省代表。五五年一月政治協商会議第一期広東省委員会副主席。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員。

張文奇 Chang Wên-chi

五三年十一月当時北京市公共衛生局副局長。五四年十二月北京鋼鐵工業学院副院長。

張文義 Chang Wên-i 1929 ~

労働模範。中共黨員。張家口鉱山機器廠技術工人。五五年十月十一月の間中共見本市代表团工作員として来日。

張文浩 Chang Wên-hao

五三年十月—五四年八月当時中華全国学生連合会副主席。

張文綱 Chang Wên-kang

音楽家。少年文学作家。「我們快樂地歌唱」の作曲者。右作品により全国児童文芸創作評選委員会の一等受賞者。五五年八月当時中国音楽家協会理事。

張文廣 Chang Wên-kuang

五三年六月中華全国民主青年連合会第二次全国代表大会にて第二期全国委員会委員。

張文治 Chang Wên-chih

五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。

張文秀 Chang Wên-hsiu

五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。

張文春 Chang Wên-chun

五四年八月第一期全国人民代表大会遼寧省代表。

張文超 Chang Wên-chao

五四年八月第一期全国人民代表大会広州市代表。

張文彬 Chang Wên-pin 1911 ~

湖南省平江県の人。少年の時キリスト教徒だったが、二七年共產主義青年団に入団、無神論者となり、青年革命運動に没頭。その後毛澤東が所長をしていた「農民運動人員訓練所」に入り教育を受けた後、農民ゲリラ隊を組織し、一度平江県を占領したが、間もなく国府軍に逮捕投獄。出獄後再び彭徳懐の指導する平江暴動に参加し、平江赤衛隊代表に選出（一八歳の時）。その後紅軍第五軍に

入り、第三軍団および第五軍団の政警隊長などを歴任。三二年紅軍第二軍団政治警察隊長。西遷後は陝西において第一五軍団警察隊長。三六年西安会談の時周恩来にしたがって西安に派遣され国共合作に活躍、国民党側により逮捕。戦後は香港において雑誌「群衆」によって活躍。五五年二月吉林省人民委員会委員。

張文普 Chang Wên-pu

五四年一月当時錦州鐵道管理局局長。

張文佑 Chang Wên-yu

地質学者。五三年二月中国科学院訪ソ代表团員として訪ソ。五四年四月当時科学院秘書処勤務。五五年六月中国科学院生物学地質学部委員。五六年四月当時科学院地質研究所副処長。

張聞天 (洛甫) Chang Wên-tien (Luo-fu) 1900 ~

江蘇省上海附近の南匯の富農の家に生る。(一説に現在六一歳)。吳淞中学、河海工程学校(南京)に学び、二一年米カリフォルニア大学に学ぶ。二三年—二四年四川で教員。二五年中共に入党。二七年モスクワ留学、二九年帰国。三三年まで上海中共中央政治局にあつて、中央農林部長、組織部長を歴任。三三年江西ソヴェト区に入り書記局書記。三四年中華ソヴェト政府人民委員会主席。三九年中共中央委員会ならびに書記局総書記。四五年七全大会で第七期中央委員、政治局委員。この間一時期矛盾、沈澤民、瞿秋白等とともに「文学研究会」に所属し、「青春的夢」長編小説「長途」を書き、

ダヌンチオ、ワイルド、トルストイおよびツルゲーネフの作品を講訳。また党機関紙に多くの政治論文を発表、その執筆になる中国革命の基本問題に関する教本は共産党の学校でテキストに採用された。戦後四九年五月まで東北行政委員会財政經濟委員会副主任。八月東北人民政府委員、当時中共中央東北局常務委員、中共遼東省委員会書記。中共政權成立後、国連および安保理事会中共代表に任命。五一年四月中共駐ソ大使。五三年三月スターリン逝去弔問団員。五四年四月政務院外交部副部長(駐ソ大使兼任)。同月ジュネーブ會議中共政府代表团代表。八月第一期全国人民代表大会江蘇省代表。九月同大会第一次會議主席団員、同大会常務委員会委員。十一月国務院外交部副部長に再任。十二月欧洲国家會議に中共政府代表として参加。同月中ソ友好協會第二次全国代表会代表(共産党)、同協会總會第二期理事會理事。五五年一月駐ソ大使解任、外交部副部長に専任。五五、六年当時も中共中央政治局委員。五五年七月全国人民代表大会第二次會議主席団員。同月各国議會連盟参加の人民代表团執行委員会委員。五六年九月中共第八期中央委員会委員、同政治局候補委員。

張平化 Chang Ping-hua

四九年当時中共武漢市委員会書記。四九年—五三年一月中南軍政委員会委員。五三年三月—五四年三月当時中共武漢市委員会第二書記。五四年三月当時武漢市各界人民代表會議協商委員会主席。五五年三月政治協商會議湖北省武漢市第一期委員会主席。七月当時中共湖北省委員会第三書記。

張平群 (乘勳) Chang Ping-chün (P. H. Chang, Chêng-hstin) 1902 ~

河北省天津の人。二〇年南開大学卒業。二〇年—二五年英、独に留学。二四年ロンドン大学東方研究院の漢文講師、南開大学商学院教授。四年の後商学院院長。三一年上海英文「民衆論壇報」編集副主任、平津衛戍司令部上校秘書、國際貿易顧問、内政部専門委員、実業部秘書。三三年外交部秘書、行政院簡任秘書。著書「独幕劇集」。三三年—四六年行政院政務委員。四六年—五六年当時ニューヨーク総領事。四六年—四七年ニューヨーク・チャイニーズ・ニヒズ・サービス社長。

張平江 Chang Ping-chiang

五三年一月当時中国国民党革命委員会重慶市分部準備委員会常務委員。五四年九月まで西南軍政委員会人民監察委員会委員。五六年二月国民党革命委員会候補中央委員。

張平之 Chang Ping-chih

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員 (国营企業、合作社全国総機構)。

張輔忠 Chang Fu-chung

上海医学院藥学院院長。五四年六月華東藥学院院長。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員 (医業衛生界)。

代理局長。

張 鈞 Chang Fang 1886 ~

湖南省の人。保定軍官学校卒業。三八年第一二集團軍總司令。三八年—四六年軍事顧問委員会副主席。四八年政策委員会常任委員兼徐州反乱鎮圧軍指揮官。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

張 彭 春 (仲述) Chang Pêng-chun (Chung-shu) 1892 ~

河北省天津の人。清華学校卒。二四年米コロンビア大学博士号。二六年—三七年南開大学教授。三一年シカゴ大学視察教授。三六年西南連合大学師範学院教育学系教授。英国大学交換教授。四〇年—四二年駐トルコ公使。四二年—四五年チリ公使。四六年 (ロンドン)、四七年 (ニューヨーク)、四八年 (パリ)、四九年—五〇年 (ニューヨーク) の国連總會中国代表。四六年国連教育經濟會議中国代表。四七年国連人權委員会副委員長および委員。

張 鳳 翽 Chang Fêng-hui

陝西省の人。西北軍政委員会委員。陝西省人民政府副主席。五三年一月西北軍政委員会委員を免ぜられ西北行政委員会委員。五四年六月西北軍政委員会土地改革委員会委員解任。八月第一期全国人民代表大会陝西省代表。十二月陝西省副省長。

張 慕 堯 Chang Mu-yao

中共黨員。四八年華北人民政府監察委員会委員。四九年政務院人民監察委員会委員。五四年四月当時政務院人民監察委員会庁長。五五年一月国務院監察部部長助理。

張 方 佐 Chang Fang-tsun

日本藏前高工紡績科卒業。国府時代の国营中国紡績建設公司工化処長。華東紡織管理局副局長兼華東紡織学院長。五四年八月第一期全国人民代表大会上海市代表。五五年三月—四月の間中共貿易代表團専門家 (紡織) として来日。

張 邦 英 Chang Pang-ying

陝西省の人。中共陝南区委員会書記を経て、陝西省人民政府副主席。五三年一月西北軍政委員会委員を免ぜられ西北行政委員会委員。九月当時中共中央新疆分局第三書記。五四年八月第一期全国人民代表大会新疆省代表。九月同大会常務委員会委員。

張 寶 和 Chang Pao-hé

中国国際貿易促進委員会職員。五五年十月—十一月の間中共見本市代表団工作員として来日。

張 逢 時 Chang Fêng-shih

五五年十月当時国務院第一機械工業部汽車 (自動車) 工業管理局

張 鋒 伯 Chang Fêng-po

五三年十月—五五年七月当時西安市副市長。中国民主同盟に所属し、その西安市支部主任委員。五四年二月当時人民解放軍慰問代表團第二總分団 (西北) 副團長。十二月陝西省人民委員会委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員会候補委員。四月中印友好協會理事。

張 鵬 圖 Chang Pêng-tu

湖北省人民政府民政庁副庁長。四九年十月政務院人民監察委員会辦公庁主任。

張 北 華 Chang Pei-hua

五三年四月当時中国機器製造業工会準備委员会主任。五六年十一月国務院国家經濟委員会委員。

張 勃 川 Chang Po-chuan

教育学者。政務院高等教育部綜合文学教育司司長。五三年二月中国科学院訪ソ代表団員として訪ソ。五月中国国民文化協進会副主任。五四年六月武漢大学副校長。

張 曼 筠 Chang Man-yün

五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員候補。五四年八月全国人民代表大会江蘇省代表。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員。

張 萬 馥 Chang Wan-fu

五年三月—四月エカフエ会議にオブザーバーとして出席の世界
労連代表団の通訳として来日。

張 夢 庚 Chang Mèng-kéng

五年二月北京市戯曲編導委員会主任。四月当時スエーデン訪問
人民雑伎団副団長。

張 夢 齡 Chang Mèng-ling

五六年六月当時国府駐ダヴァオ領事。

張 明 遠 Chang Ming-yüan

河北省の人。東北人民政府秘書長。五年一月—五四年九月東北
行政委員会副主席。五年二月—五四年一月当時中共中央東北局第
三副書記。「反党連盟」に参加の故をもって処分をうけた旨五五年
四月公表された。

張 明 河 Chang Ming-hé

五五年二月河北省副省長。

張 明 山 Chang Ming-shan

国營鞍山鋼鉄公司小型廠工人。全国労働模範。五三年四月総工会
メーデー参観団員として訪ソ。五四年八月第一期全国人民代表大
会鞍山市代表。

張 明 養 Chang Ming-yang

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(新聞出版界)。
同月中ソ友好協會第二次全国代表大会代表(新聞出版界)。五五年三
月アジア諸国会議出席の中共代表团員。七月中国人民外交学会第
三期理事會理事常務理事。五六年五月中国バキスタン友好協會理
事。八月中国民主促進会第四期中央委員会委員。

張 孟 旭 Chang Mèng-hsi

五四年五月当時湖南省人民政府副主席。五五年二月湖南省副省
長。

張 默 君(女) Chang Mo-chün (Chang, M. K.

Sophie) 1898 ~

湖南省湘郷県の人。米コロンビア大学卒。上海神州女学校長。神
州日報を創刊。一九年江蘇省立第一女子師範学校校長。二四年当時
立法院院長邵元冲と結婚。二七年杭州市政府教育局局長。立法委員、
南京市党部監察委員。三五年中央監察委員。四四年国史館名譽編纂、
中央監察委員会常務委員。四八年考試院委員。五〇年国民党中央評
議員。著書「默君詩草」二卷、「中国政治與民生哲学」、「憲政評
論」「欧米教育考察録」。

張 友 漁 Chang Yu-yü 1901 ~

張 有 生 Chang Yu-shéng 1926 ~

遼寧省の人。北京新聞記録電影制片廠(ニュース記録映画作製所)
記者。五六年五月—六月京劇代表团撮影記者として来日。

張 揚 Chang Yang

五五年三月—四月エカフエ会議にオブザーバーとして出席の世界
労連代表团員として来日。

張 曄 Chang Yeh

元中共中央山東分局組織部長。四九年九月各解放区農民団体主席
代表として政治協商會議に出席。同年—五四年六月華東軍政委員会
人民監察委員会委員。

張 耀 輝 Chang Yao-hui

五六年三月当時上海市人民委員会副秘書長。

張 耀 祥 Chang Yao-hsiang

五五年二月上海市人民委員会委員。五六年一月当時上海市郊区農
民協会主任。

張 耀 曾 Chang Yao-tséng

五五年三月山東省人民委員会委員。

山西省介休生れ。日本問題の専門家といわれる。北平法政専門学

校卒業。一時中美晚報記者。東京法政専門学校留学。三〇年天津市
政府参事。三二年世界日報主筆、北平大学法学院、民国学院、中法
大学教授兼任。四〇年香港華商報主筆。太平洋戦争勃発とともに重
慶に帰り文筆生活。四五年重慶新華日報総編集。四六年一月政治協
商會議の際、一時中共代表团顧問。四七年十二月晋冀魯予辺区政府
副主席。四九年一月天津市人民政府副市長。九月政治協商會議第一
期全国委員会委員。五二年十二月当時中共北京市委員会常務委員。
五三年一月—五六年二月当時北京市人民政府副市長。五三年一月北
京市婚姻法貫徹運動委員会主任。五三年一月—五四年九月華北行政
委員会委員。五四年二月当時人民解放軍慰問代表团第六總分団副団
長。六月北京市憲法草案討論委員会主任。八月第一期全国人民代表
大会北京市代表。五六年二月—九月当時中共北京市委員会副書記。
六月全国人民代表第三次會議提案審查委員会委員。十一月北京
市人民委員会代表团副団長としてソ連東欧を訪問。

張 有 萱 Chang Yu-hsuan

五四年十一月国務院国家計画委員会委員。

張 有 谷 Chang Yu-ku

元国府軍南京空軍總指揮部参謀長、成都空軍第三路司令部司令。
五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

張 有 昌 Chang Yu-chang

五六年一月当時中国科学院応用化学研究所學術委員会委員。

張 翼 (易徳) Chang I (I-té)

広東省潮安県の人。現在四一歳位。ヴィエトナム・サイゴン市シ
ヨロン全民日報編集員、越南報、中華報の社務委員、ヴィエトナム
華僑解放連合会主席を歴任。五四年九月第一期全国人民代表大会華
僑代表。

張 翼 飛 Chang I-fei

五三年十一月当時中央商業部工作検査組組長。

張 瀾 (表方) Chang Lan (Piao-fang) 1872~
1955

四川省南充県生れ。一一年辛亥革命の時、四川保路同志会領袖。
二〇年四川省長。二二年政変により辞任。二六年成都師範大学校
長。二八年一三一年成都大学校長。四五年国民参政会議員、民主同
盟總裁。四六年一月政治協商会議の民主同盟代表。四八年民主同盟
解散を命ぜられ、香港に逃避。四九年六月の新政治協商準備会には
民主同盟を代表して出席。九月政治協商会議第一期全国委員会委員、
同常務委員。十月中央人民政府委員会副主席。五三年一月憲法
起草委員会委員。二月中央選挙委員会委員。三月スターリン追悼首都
各界人民大会主席団員。同月当時中国民主同盟主席。五四年八月第
一期全国人民代表大会四川省代表。九月同大会第一次会議主席団員
員、同大会常務委員会副委員長。十二月政治協商会議第二期全国委
員会委員、同全国委員会副主席。同月中ソ友好協会第二次全国代表

会代表、同協会総会第二期副会長。五五年二月北京医院にて動脈硬
化および肺炎のため逝去。

張 蘭 臣 Chang Lan-chên (Sahat Makunn) 1895~

広東省潮安県の人。タイ国在住華僑(潮州系)。幼少時父親とと
もにタイ国に移住、土工より身を起し、土建、輸出入貿易保険等の
諸事業に成功、バンコック連合銀行総経理、四七年中華総商會主席
となる。国民党僑務委員会委員。タイ王室より白象二等勲章を下賜
さる。五四年五月タイ国商業視察団団長として台湾、香港、日本を
視察後、日、タイ、台の三角貿易(タイ国米の台湾向輸出、台湾米
の日本輸出、日本製機械類のタイ向輸出)増進方を提唱。潮安同郷
会主席、天華医院理事長、中暹協会副会長、タイ国紅十字会董事、
タイ国国連児童救済基金委員会委員、潮州会館主席、中華贈医(診
療、施薬)所の主席および監事長、華僑報徳善堂理事等をも歴任。

張 黎 羣 Chang Li-chün

五三年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員会委員。七月
中国新民主主義青年団第二期中央委員。

張 厲 生 (少武) Chang Li-shêng (Shao-wu)
1900~

河北省。パリ大学卒業。三一年一五〇年国民党中央執行委員会委
員。三六年一三九年国民党組織部長。四一年一四二年中央政治會議
秘書課長。四二年一四四年行政院秘書長。四四年一四八年内政部長。

農藝部副部長。

張 霖 之 Chang Lin-chih

四九年中央重慶市委員会書記、重慶軍管会副主任。五一年西南軍
政委員会委員。五二年九月政務院第二機械工業部副部長。五四年六
月まで重慶市人民政府委員。八月第一期全国人民代表大会河北省代
表。五四年十一月國務院第二機械工業部副部長。五五年四月國務院
第三機械工業部部長。五六年五月電機製造工業部部長。四月当時全国先
進生産者代表會議主席団員。九月中共第八期中央委員会候補委員。

張 令 徳 Chang Ling-té

五三年十月当時中共河北省通県委員会書記。

張 令 彬 Chang Ling-pin

五四年二月当時人民革命軍事委員会総後勤部副部長。十二月中ソ
友好協会第二次全国代表会代表(軍隊)。五五年九月一級解放勲章
を受く。五六年三月当時人民解放軍中將。

張 烈 Chang Lieh

五三年七月当時中共遼東省委員会秘書長。五四年十二月政治協商
會議第二期全国委員会委員(中華全国総工会)。五五年二月遼寧省
人民委員会委員。

張 連 奎 Chang Lien-kui

政務院第二機械工業部第二局長を経て、五四年六月同部副部長。

四四年一四五年国家総動員會議秘書長。四五年宋子文行政院長の下
に内政部長。四六年一月政治協商会議国民党代表。四八年五月行政
院副院長。八月天津地区経済統制指導員。四九年初頭天津が中共軍
の手に帰したため辞職南下。その後台湾省地方自治研究会主任委
員。五〇年国民党中央評議委員。五〇年一五四年行政院副院長。五
四年国民党中央委員会秘書長。

張 礪 生 Chang Li-shêng

五四年八月第一期全国人民代表大会河北省代表。

張 立 長 Chang Li-chang

ハサック族。五四年三月当時新疆工程第一師副政治委員、新疆省
水利參觀団副団長。

張 立 範 Chang Li-fan

五三年一月当時綏遠省農林庁庁長。一月一五四年六月綏遠省人民
政府委員。五四年八月当時内蒙古自治区人民政府農牧部副部長。同
月内蒙古自治区人民政府委員。五五年四月内蒙古自治区人民委員会
委員。

張 林 池 Chang Lin-chih

四八年華北人民政府農業部副部長。四九年十二月政務院農業部辦
公庁主任。五二年一五六年十一月農業部副部長。五四年十二月中ソ
友好協会第二次全国代表会代表(中国共産党)。五六年十月國務院

十一月國務院第二機械工業部副部長。

張 連 權 Chang Lien-chian

労働模範。新民主主義青年団員。かつて中共見本市代表団随員として東ドイツに赴く。瀋陽機床廠旋盤工。五五年十月―十一月の間中共見本市代表団工作員として来日。

張 聯 華 Chang Lien-hua

五四年六月当時中華全国体育總會代表としてスイス訪問。五五年一月―十一月当時國務院体育運動委員會國際連絡司副司長。六月当時中国オリンピック委員会委員として国際オリンピック委員会執行委員会および各国オリンピック委員会代表連席會議に出席。五六年一月中国オリンピック委員会委員。六月当時中華全国体育總會常務委員。

張 醜 村 Chang Lu-tsun

五五年一月政治協商會議第一期広東省委員会副主席。二月広東省人民委員会委員。

張 醜 林 Chang Lu-lin

五三年二月当時中国人民世界平和擁護委員会広州市分会副主席。

張 淮 Chang Huai

五四年十二月中ソ友好協會第二次全国代表会代表(中華全国学生連合会)。

朝 日 加 Chao Jih-chia

西藏族。五三年十二月青海省海南藏族自治州人民政府副主席。

朝 廉 Chao Lien

五三年七月中国新民主主義青年団第二期中央委員会候補委員。

超 荃 Chao Chian

五三年六月当時中国仏教協會理事。

趙 安 博 Chao An-po

日本一高に留学。中共中央社会部職員、元東北人民政府外事局外事処副処長、東北日僑管理委員会委員長といわれる。中国人民外交学会理事。中国紅十字總會顧問。五四年十月―十一月の間中共紅十字会代表団員として来日。五五年一月中国漁業協會準備委員会顧問として北京における日中漁業交渉に出席。五五年七月中国人民外交学会第三期理事会理事。八月世界原水爆禁止大会(広島)参加のため来日。十一月北京における日本憲法擁護国民連合訪華代表団との共同ロムニケ調印式に参加。五六年五月日中民間漁業協議会中共代表団員。六月中国紅十字会代表として「釈放日本人戦犯引渡書」に署名。十一月、十二月の間中共漁業代表団代表として来日。当時中国漁業協會顧問。

趙 以 炳 Chao I-ping

昆明防守司令部中将參謀長。四六年瀋陽警備司令部、第六兵団副司令官兼第三編練処長。四八年東北剿匪總司令部參謀長、第六軍軍長、徐州指揮部副主任。台湾に撤退後陸軍總司令部參謀長。

趙 開 五 Chao Kai-wu

五三年七月中国新民主主義青年団第二期中央委員会候補委員。

趙 凱 Chao Kai

五五年三月安徽省人民委員会委員。五六年四月全国話劇大会にて「戦闘裡成長」で一等演出監督賞を獲得。

趙 希 愚 Chao Hsi-yü

五三年十二月当時群衆日報社社長。

趙 季 平 Chao Chi-ping

五五年五月政治協商會議上海市第一期委員会副主席。

趙 起 Chao Chi

五六年十二月当時中国五金進出口公司(中共側)副經理。

趙 毅 敏(一民) Chao I-min (I-min)

河北省の人。四三年当時延安大学副校長、魯迅芸術学院院長。中共中央中南局宣伝部長兼青年工作委員会書記。四九年末中南軍政委員会委員兼文化教育委員会主任。五三年一月中南行政委員会委員。十一月当時中南区中ソ友好協會副會長。五四年七月チリ―訪問

五三年九月―五六年七月当時中国生理学会理事長。

趙 毓 松 Chao Yü-sung

四川省の人。現在六〇歳。在日華僑。中国青年党中央委員。一時汪政權の工商部長。五〇年来日。

趙 雲 駛 Chao Yün-shih

五四年八月当時内蒙古自治区人民政府財政經濟委員会副主任。同月内蒙古自治区人民政府委員。五五年四月内蒙古自治区人民委員会委員。六月当時中共内蒙古東部区委員会副書記。

趙 易 亞 Chao I-ya

五三年当時華東軍区、第三野戰軍政治部宣伝部部长。

趙 延 壽 Chao Yen-shou

五四年六月当時山西省平順県人民政府県長、同県人民代表大会憲法草案討論委員会主任。

趙 家 驥(大偉、雲起) Chao Chia-hsiang(Ta-wei, Yün-chi) 1909 ~

河南省喜汲県の生れ。東北講武堂第九期歩兵科卒業。陸軍大学第十四期生。三八年第九師少将參謀長、第二軍少将參謀長兼第一一軍団參謀長。四三年軍令部第三処処長、軍事委員会駐滇幹訓団歩兵訓練班少将主任。四四年中米參謀学校を昆明に創設、第五集團軍兼

文化代表团团长。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(共産党)。同月中ソ友好協會第二次全国代表会代表。五五年三月中国人民对外文化協會副会長、常務理事。十一月北京における日本憲法擁護国民連合訪華代表团との共同コミニケ調印式に参加。五六年二月中国亜洲团结委員会委員。

趙 輝 Chao Hui

五三年四月当時中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。

趙 輝 樓 Chao Hui-lou

五五年一月政治協商會議第一期河北省委員会副主席。

趙 九 章 Chao Chi-chang

浙江省の人。現在四九歳。地球物理学者。五三年二月中国科学院代表团員として訪ソ。五四年八月中国氣象学会常務理事。十月中国科学院地球物理研究所所長。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(自然科学団体)。同月中ソ友好協會第二次全国代表会代表。五五年五月中国科学院生物学部委員。五六年二月九三学社第四期中央委員会委員。五七年二月東京で開催の国際地球観測年西太平洋地域連絡協議会に出席。

趙 去 非 Chao Chi-fei

五三年十二月当時松江省人民政府公安庁長。同月一五四年八月松江省人民政府副主席。五五年一月黒龍江省人民委員会委員。

趙 玉 祥 Chao Yu-hsiang

五三年七月煤礦工会全国委員会副主席。

趙 玉 亭 Chao Yu-ting

五五年八月当時滿洲里市副市長。

趙 錦 峯 Chao Chin-feng

五三年一月当時青海省人民政府農林庁長。五四年六月青海省人民政府委員を解任。

趙 君 邁 Chao Chün-mai

五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

趙 啓 民 Chao Chi-min

五六年二月人民解放軍広州駐軍領導機關責任者、海軍中将。

趙 啓 明 Chao Chi-ming

福建省福州の人。現在四三歳位といわれる。五四年六月当時中国人民解放軍中南軍区海軍司令。

趙 啓 駿 Chao Chi-lu

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

趙 景 深 Chao Ching-shen 1902 ~

四川省の人。文学研究者。中学卒業後近代文学を研究。北新書局編集員、各大学教授を歴任。「現代文学」「青年界」を主宰。著書「最近の世界文学」「欧米現代作家」「中国文学史新編」等

趙 慶 杰 Chao Ching-chieh

五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

趙 慶 夫 Chao Ching-fu

五四年八月第一期全国人民代表大会吉林省代表。五六年十一月五七年一月全国人民代表大会代表團員としてソ連、東欧訪問。

趙 健 民 Chao Chien-min

山東省の人。西南軍政委員会交通部部長。五三年一月政務院鉄道部副部長。五四年九月西南軍政委員会財政經濟委員会委員解任。十一月國務院鉄道部副部長。五五年三月山東省省長。五五年八月一五六年六月の間に全国人民代表大会山東省代表に補選。九月中共第八期中央委員会候補中央委員。

趙 元 任 (宣重) Chao Yuan-jên (Hsian-chung)

1892 ~

江蘇省武進県の人。清華学校、米コーネル大学卒業。一八年ハーバード大学卒業、博士号。コーネル大学物理教員。ハーバード大学教授。在学時代同志と共に中国科学社を組織。米國哲学学会、米國数学学会、中国科学社、中国物理学会等の学術団体に加入。二七年

趙 玉 祥 Chao Yu-hsiang

五三年七月煤礦工会全国委員会副主席。

趙 玉 亭 Chao Yu-ting

五五年八月当時滿洲里市副市長。

趙 錦 峯 Chao Chin-feng

五三年一月当時青海省人民政府農林庁長。五四年六月青海省人民政府委員を解任。

趙 君 邁 Chao Chün-mai

五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

趙 啓 民 Chao Chi-min

五六年二月人民解放軍広州駐軍領導機關責任者、海軍中将。

趙 啓 明 Chao Chi-ming

福建省福州の人。現在四三歳位といわれる。五四年六月当時中国人民解放軍中南軍区海軍司令。

趙 啓 駿 Chao Chi-lu

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

趙 景 深 Chao Ching-shen 1902 ~

一二八年国立清華大学教授。二八年中央研究院歴史語言研究所所長。四一年ハーバード大学、ハーバード燕京学院教授。四八年中央研究院院士、中華文化教育基金会委員會管事。著書「国音新詩韻」「新詩歌集」「現代英語の研究」「国語羅馬字常用字表」「現代吳語的研究」「上古中国音における幾つかの問題」「中英文語調比較研究」「字根語調」「注音符号総表」「再注音字母訳音法」「南京音示」「語音的物理成素」「高爾漢(カールグレン)的諧声説」「中国言語調之実験研究法」「国語羅馬字之研究」「官話字羅訳音法」。

趙 源 Chao Yuan

五五年二月福建省人民委員会委員。

趙 光 禮 Chao Kuang-li

五六年十二月当時中国食品出口公司(中共側)副經理。

趙 洪 璋 Chao Hung-chang

優良小麦品種碧蟬号の培育者。五五年五月中国科学院生物学地学学部委員。十二月西北農学院教授。五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

趙 黄 崗 Chao Huan-kang

五四年四月当時新華社記者。

趙 克 Chao Ke

五五年十一月当時中共河北省天津地区委員会書記。

趙國卿 Chao Kuo-ching

五四年四月当時中共延安地方委員会副書記。

趙國強 Chao Kuo-chiang

四八年八月中華全國總工會執行委員。五一年二月中国五金冶煉工業準備委員会主任。五三年五月中国工会第七次全国代表大会主席團員、全國總工會第七期執行委員会主席團委員。九月ウィーンにて開催の世界労働第三回代表大会に中共工会代表團員として出席。五四年八月第一期全国人民代表大会撫順市代表。十月中国重工業工会全國委員会主席。五六年三月全国先進生産者代表会議準備委員会委員。四月オーストラリア訪問中共工会代表團團長。同月全国先進生産者代表会議主席團團員。十一月總工会代表團員として来日、当時中共中央統一戦線工作部二科員といわれる。

趙國有 Chao Kuo-yu 1927~

東北区全国工業労働模範代表。全國總工会生産部副部長。五四年第一期全国人民代表大会瀋陽市代表。

趙士安 Chao Shih-an

五五年二月福建省人民委員会委員。

趙子謙 Chao Tzu-chien

元察哈爾省人民政府委員兼工業庁庁長。五三年一月山西省人民政

一月湖南省江華瑶族自治県県長。

趙爾陸 Chao Erh-lu

山西省の人。現在五六歳。四九年当時人民解放軍第四野戦軍および中南軍区参謀長。五二年八月政務院第二機械工業部部長。五四年九月國務院第二機械工業部部長。同月国防委員会委員。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(共產党)。五五年九月一級八一勳章、一級独立自由勳章および一級解放勳章を授与さる。五六年四月全国先進生産者代表会議主席團員。九月中共第八期中央委員会委員。

趙守一 Chao Shou-i

五三年十二月当時中共中央西北局宣伝部副部長。五五年七月中国人民外交学会第三期理事會理事。

趙守攻 Chao Shou-kung

五六年十月國務院專家局副局長。

趙守鈕(友琴) Chao Shou-niu (Yu-chin) 1880~

山西省太谷県の人。西北国民軍騎兵第五師長。国民革命軍第二集團軍第三二軍長。国民政府軍事委員。北伐完了後河南省政府委員。鄭州市長兼鄭州警備司令。三〇年国民政府山西省宣慰使。実業部專門委員蒙藏委員。陝西省政府委員兼建設庁長。パンチェンラマ護送專使。現在国府監察委員。

趙壽山 Chao Shou-shan

府委員。五五年二月山西省人民委員会委員。

趙子平 Chao Tzu-ping

五三年五月当時中共黒龍江省委員会宣伝部副部長。

趙志强(女) Chao Chih-chiang

回族。五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。

趙志剛 Chao Chih-kang

五六年十一月國務院郵電部副部長。

趙紫宸 Chao Tzu-chên 1890~

浙江省呉興の人。米コロンビア大学神学部卒業。帰国後蘇州の東呉大学教授、北京の燕京大学哲学系および宗教学教授。中国キリスト教運動の指導者。四九年九月宗教界民主人士代表として政治協商會議に出席。マルクス・レーニン主義とキリスト教とが両立することを信じているといわれる。五四年八月当時中国キリスト教三自愛国運動委員会常務委員。

趙紫陽 Chao Tzu-yang

五三年八月当時中共華南分局秘書長。五五年二月広東省人民委員会委員。五五年八月当時中共広東省委員会副書記。

趙自現 Chao Tzu-hsien

瑤族。五四年八月第一期全国人民代表大会湖南省代表。五五年十

陝西省の人。農民出身。測量学校卒業後揚虎城軍旅長。西安事件当時西安の警備に任ず。戦後三八軍軍長。掃共の前線に出征後左遷せられ軍事参議院参議。機を窺い天津より「解放区」に入り、人民解放軍に加わる。四八年以来西北地区「解放」に従事。第一野戦軍第二副司令員。四九年九月政治協商會議第一期全国委員会委員。西北軍政委員会委員。五〇年一月青海省人民政府主席。五二年十一月陝西省人民政府主席。五三年一月西北行政委員会委員。十月中国人民第三回訪鮮慰問団総団副團長兼第二總分團長として赴鮮。五四年八月第一期全国人民代表大会陝西省代表。十二月陝西省第一期人民代表大会第二次會議で、陝西省省長。

趙樹華 Chao Shu-hua

五四年八月第一期全国人民代表大会貴州省代表。

趙樹屏 Chao Shu-ping

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(医薬衛生界)。五五年二月北京市人民委員会委員。五六年四月政治協商會議全国委員会医薬衛生組副組長。

趙樹理 Chao Shu-li

山西省沁水県の人。沁水師範学校卒。文学者。作風は毛澤東が四二年五月に指示した文芸、文化の大衆化コースを具体化したものといわれ、また四三年「小二黒結婚」を発表したときは中共地区で人気を呼んだといわれる。作品は、ほかに中篇「李有才板話」、長編「李家莊的変遷」等。五三年十月中国文学芸術界連合会第二期全国

委員。同月中国作家協会理事。五四年八月第一期全国人民代表大會河南省代表。五六年九月中共八大大會で「更によい更に多くの文芸作品を群衆に供給せよ」と発言。

趙 修 Chao Hsiu

五五年六月当時中共湖北省襄陽県地方委員会書記。

趙 重 德 Chao Chung-té

五二年四月北京に設立された国营專業公司の一である中国畜産公司の最高責任者。

趙 潤 普 Chao Jun-pu

五四年六月遼西省人民政府委員。

趙 少 農 Chao Shao-nung

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。

趙 承 緘 Chao Cheng-ku

五四年七月第一期全国人民代表大會江西省代表。五五年五月中国化学学院物理学化学学部委員。

趙 承 金 Chao Cheng-chin

五五年二月熱河省人民委員会委員。

趙 章 成 Chao Chang-cheng

湖南省の人。現在四三歳位。共産軍連長、營長、团长、師長、志願軍副參謀長を歴任といわれる。五五年九月人民志願軍砲兵司令員。

趙 鍾 奇 Chao Chung-chi

回族。五三年五月中国国民文化協進会副主任。五四年八月第一期全国人民代表大會雲南省代表。五五年二月雲南省人民委員会委員。

趙 琛 Chao Chên 1899 ~

浙江省の人。明治大学に学ぶ。二三年—五一年各地大学教授。三二年—四六年立法委員。四六年—四八年南京高等法院院長。四九年司法行政部次長。五一年行政院司法委員会および設計委員会委員。五二年最高法院檢察長。著書「中国刑法」「行政法」。

趙 仁 虎 Chao Jen-hu

五三年九月当時志願軍某部隊副团长。五四年八月第一期全国人民代表大會志願軍代表。

趙 翠 初 Chao Tsui-chu

五四年五月当時中共中央中南局農村工作部副部長。

趙 世 同 Chao Shih-tung

僮族。五四年八月第一期全国人民代表大會広西省代表。

趙 世 芳 Chao Shih-fang

五四年八月当時中共河北省平山県委員会書記。

趙 世 蘭 Chao Shih-lan

五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大會四川省代表。

趙 政 一 Chao Cheng-i

五三年六月当時中共駐ルーマニア大使館二等書記官。

趙 清 閣 (女) Chao Ching-ke

女流作家。上海美術専門学校卒業。戦争の体験から「旱」「華北の秋」等の小説を書き、中国電影(映画)公司脚本部に入り多数の劇本を作成。「桃李春風」「老舍と合作」につづき、「紅樓夢」劇化の四部作「詩魂冷月」「雪劍鴛鴦」「流水飛花」「禪林帰鳥」を完成。また戦後女流作家の随想集「無題集」を編著。

趙 誠 Chao Cheng

蒙古族。五五年四月内蒙古自治区人民委員会委員。

趙 占 魁 Chao Chan-kui 1897 ~

山西省定襄の人。陝甘寧辺区特等労働英雄。赤貧の家に生れ、最初鍛冶屋の徒弟となり、後銅貨鑄造工場の職工となる。中共に入党後抗日大学および労働学校で学ぶ。四〇年甲種労働英雄勳章を受く。これを契機に中共におけるスターハーフ運動は趙占魁運動と呼ば

れ、全辺区労働者階級の模範的旗じるしとされた。四八年西北地区労働組合連合を代表してハルビンの第六回全国労働大会に参加、中華全国総工会執行委員。四九年九月政治協商会全国委員会委員。西北軍政委員会労働部副部長。五三年三月当時西北行政委員会労働局長。五四年七月当時中華全国総工会西北工作委員会副主任。同月第一期全国人民代表大會西安市代表。

趙 先 (女) Chao Hsien

五五年二月上海市人民委員会委員。三月当時上海市民主婦女連合会主任。

趙 全 璧 Chao Chian-pi

五五年八月当時西安市糧食局長。

趙 善 歡 Chao Shan-huan

五六年二月民主同盟第二期中央委員会候補委員。

趙 祖 康 Chao Tsu-kang

浙江省の人。米国留学。上海市工務局長。上海市規畫建築管理局長。五四年八月第一期全国人民代表大會上海市代表。五五年二月武漢長江大橋技術顧問委員会委員。同月上海市人民委員会委員。八月中国国民党革命委員会上海市委員会副主任委員。五六年二月国民党革命委員会中央委員。

趙宗復 Chao Tsung-fu

五四年六月山西大学副校長を解任。十二月当時太原工学院院長。

趙卓 Chao Chuo

五三年四月雲南瀾滄拉祜族自治区人民政府副主席。

趙卓雲 Chao Chuo-yün

五五年二月広西省人民委員会委員。同月政治協商會議第一期広西省委員会副主席。

趙丹 Chao Tan

映画人。五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。

趙仲時 Chao Chung-shih

五三年十月当時中共駐インドネシア総領事。

趙忠堯 Chao Chung-yao

科学者。アメリカに留学、カリフォルニア州立工科大学卒業後、物理学研究を継続。五一年帰国。錢三強とならぶ原子物理学者。在米当時「カ」大学での研究に「第三種放射線吸収率之測定」がある。五四年八月第一期全国人民代表大会浙江省代表。五五年五月中国科学院物理学数学化学学部委員。六月同学部常務委員会委員。五六年六月全国人民代表大会第三次會議主席団員。

趙超構 Chao Chao-kou

新民報記者。四九年九月政治協商會議出席代表。五四年六月華東軍政委員会人民監察委員会委員を解任。八月第一期全国人民代表大会四川省代表。

趙廷樞 Chao Ting-shu 1906 ~

広東省の人。二九年上海学院卒業。三六年米ミシガン大学卒業。三七年一四〇年審計部副会計検査官。四〇年一四五年中央政治学校および復旦大学教授。四五年一四九年中国農民銀行出納課副課長。四九年同銀行総務課長。五一年一五三年政府顧問(スポーツスマン)。五二年台湾銀行稽核室主任。

趙鐵夫 Chao Tieh-fu

五三年九月ウイーンにて開催の世界労連第三回代表大会に中共工会代表団員として出席。十一月当時中華全国总工会中南区工作委員会副主任。同月中共工会代表団員としてソ連十月革命三六周年式典に参加のため訪ソ。五五年八月当時武漢市工会連合会主席。

趙展山 Chao Chan-shan

五四年十二月当時中共平地泉行政区地方委員会書記。五五年四月内蒙古自治区人民委員会委員。

趙得賢 Chao Tê-hsien

五三年十月中国文学芸術界連合会第二期全国委員会委員。五四年

十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(中国文学芸術界連合会)。

趙德雲 Chao Tê-yün

中国国際貿易促進委員会職員。五五年十月、十一月の間中共見本市代表団工作員として来日(涉外、会場接待担当)。

趙德新 Chao Tê-hsin

五三年八月当時中共湖南省湘西苗族自治区地方委員会組織部長。

趙德尊 Chao Tê-tsun

中共黒龍江省委員会書記。五三年十一月当時中共中央東北局農村工作部長。十二月黒龍江省人民政府主席を解任。五五年四月中共中央発表の「高崗、饒漱石の反党連盟に関する決議」により「反党連盟」参加者として処分を受けた旨明かにされた。

趙篤生 Chao Tu-shêng

五三年十月当時中共中央山東分局統一戦線工作部副部長。

趙伯平 Chao Po-ping

陝西省の人。中共西安市委員会書記。陝西省人民政府委員。四九年年末西北軍政委員会財政經濟委員会委員、同委員会労働部部長。五三年一月西北行政委員会委員。五月一十一月当時中共中央西北局宣傳部部長。五四年五月当時中共西安市委員会第一書記。六月西北軍政委員会土地改革委員会委員を解任。七月第一期全国人民代表大会

西安市代表。十二月陝西省副省長。五五年四月一十一月当時中共陝西省委員会第二書記。

趙發生 Chao Fa-shêng

五五年九月國務院農産品採購部部長助理。

趙風 Chao Fan

音楽家。五三年二月当時政務院文化部辦公厅副主任。九月一五四年七月当時文化部辦公厅主任。五三年九月中国音楽家協会秘書長。五四年三月当時群衆歌曲評選委員会副主任委員。五月人民対外文化協会理事、同常務理事。十二月ソ連展覽接待辦公室副主任。同月中ソ友好協会總會第二期理事会理事。五五年四月國務院文化部芸術事業管理局副局長。六月芸術団副団長として第二回パリ演劇祭のため訪仏。十一月訪英芸術団副団長。

趙斑瓓 Chao Pan-lan

五六年三月当時マカオ「華僑報」社長。

趙範 Chao Fan

五三年六月当時中央人民政府民族事務委員会委員。

趙飛克 Chao Fei-ke

五五年五月中国科学院技術科学学部委員。六月同学部常務委員会委員。五六年三月國務院科学規画委員会委員。

趙 斌 Chao Pin

五四年八月第一期全国人民代表大会熱河省代表。五五年一月中央体育学院副校長。

趙 敏 Chao Min 1914 ~

江蘇省揚州の人。小学校教師から三十七年革命運動に入る。同年揚州文化界救亡協會宣伝団と大別山に入り、民衆工作に従事。その後合肥、信陽公路の労働者、農民を結集して赤色労働組合と農会を結成。ついで霍山県動員委员会主任委員。四八年八月中華全国总工会候補執行委員。四九年中原職工總會準備委员会主任。五三年四月当時中華全国总工会中南区工作委員会委員、武漢市总工会主席。同月チエコ解放八周年記念大会参加中華全国总工会代表団長としてブラーグ訪問。五月中華全国总工会第七期執行委員会執行委員、当時中共武漢市委員会第二副書記。十月当時武漢市工会連合会主席。

趙 武 成 Chao Wu-chéng

中共黨員。中共鄭州市委員会書記。中ソ友好協會開封分会委員。五五年九月当時中共広州市委員会副書記。五六年一月当時中共広州市委員会第二書記。

趙 復 川 Chao Fu-san

河北省の人。現在五一歳位。燕京大学卒業。五四年五月中国人民対外文化協會理事。六月当時中華聖公会華北教区総幹事。五五年十

月当時燕京協和神学院副教務長、当時中華聖公会会長。十一月当時北京中華キリスト教青年会副総幹事。

趙 福 仲 Chao Fu-chung

五三年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員会候補委員。

趙 文 剛 Chao Wên-kang

五三年一月当時重慶一〇一廠副廠長、中共同廠委員会委員。

趙 文 甫 Chao Wên-fu

五四年八月第一期全国人民代表大会河南省代表。五五年二月河南省副省長。

趙 文 隆 Chao Wên-lung

五四年十一月最高人民檢察院檢察員。

趙 步 洲 Chao Pu-chou

五六年十二月当時中国畜産出口公司天津分公司經理。

趙 方 Chao Fang

五五年一月四川省高級人民法院院長。

趙 鳳 岐 Chao Fêng-chi

人民解放軍政治部宣伝部部長。五三年一月貴州大学校長。五四年六月貴州大学校長を解任。八月昆明工学院院長。

趙 鳳 祥 Chao Fêng-hsiang

五三年八月当時中共湖南省醴陵县委書記。

趙 寶 桐 Chao Pao-tung

陝西省の人。現在三六歳位、ソ連より帰国後、五一年中共軍華南空軍司令員、五三年朝鮮戦線に出動、「空軍一級英雄」の称号を受け、のち空軍第二師師長に任ぜられる。

趙 鵬 飛 Chao Pêng-fei

五五年四月最高人民檢察院檢察員。

趙 北 克 Chao Pei-ke

五四年五月当時鞍山鋼鐵公司副經理。

趙 樸 Chao Pu

五四年六月当時西康省人民檢察署檢察長。同月西康省人民政府委員。

趙 樸 初 Chao Pu-chu

四九年九月政治協商会議全国委員会委員。五〇年四月中国民主促進会中央理事會理事。五三年六月当時中国仏教協會準備処主任。同月中国仏教協會副会長兼秘書長兼常務理事。五四年五月中国人民対外文化協會理事。八月第一期全国人民代表大会安徽省代表。十二月政治協商会議第二期全国委員会委員(宗教界)。同月中ソ友好協會

第二次全国代表大会代表(宗教界)。五五年四月中国仏教訪緬代表団秘書長としてビルマを訪問。七月当時中国人民救済總會執行委員会委員。八月原爆禁止世界大会(広島)代表団員として来日。同月各

国議會連盟参加の人民代表団執行委員会委員。同月中印友好協會理事。十月中国仏牙護送団団長としてビルマ訪問。五五年当時中国民主促進会中央常務理事。五六年二月中国亜洲団結委員会委員。

趙 凡 Chao Fan

五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問団第六總分団副秘書長として赴鮮。十二月北京市公債推銷(消化推進)委員会副主任委員。五五年五月当時北京市人民委員会農林水利辦公室主任。十二月当時中共北京市委員会農村工作部長。

趙 夢 朱 Chao Mêng-chu

五五年二月遼寧省人民委員会委員。

趙 明 新 Chao Ming-hsin

五三年一月華東婚姻法貫徹運動委員会副主任。五四年六月華東軍政委員会人民監察委員会委員解任。

趙 明 甫(名、亮) Chao Ming-fu(Liang) 1904 ~

山西省渾源県の人。二九年山西大学採礦冶金科卒。山西省工商庁科員。三七年同省建設庁礦務科員。四九年一五四年八月当時中央人民政府水利部黄河水利委員会副主任。

趙銘周 Chao Ming-chou

五五年十一月中国イスラム教協会委員。

趙毛臣 Chao Mao-chên

五三年十月当時志願軍特等功臣。五四年八月第一期全国人民代表大會志願軍代表。五五年七月同大會第二次會議主席团团員。五六年六月同大會第三次會議主席团团員。

趙孟明 Chao Mêng-ming

五五年一月四川省人民委員會委員。

趙沐卿 Chao Mu-ching

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(山西省)。

趙樂羣 Chao Lè-chün

僮族。五四年八月第一期全国人民代表大會広西省代表。九月同大會民族委員會委員。十月広西省桂西僮族自治区協商委員會副秘書長。五五年二月広西省人民委員會委員。五六年三月桂西僮族自治区副州長。

趙立德 Chao Li-tê

五四年九月西南軍政委員會財政經濟委員會委員を解任。五五年十

一月國務院交通部部長助理。

趙林 Chao Lin

江西省の人。五一年—五三年西南軍政委員會委員。五三年一月西南行政委員會委員。五五年一月四川省人民委員會委員。同月政治協商會議第一期四川省委員會副主席。

趙霖 Chao Lin

五五年二月河南省人民委員會委員。

趙令德 Chao Ling-tê

北鮮華僑連合總會委員長。四九年十月中央人民政府華僑事務委員會委員。

趙連芳(蘭屏) Chao Lien-fang(Lan-ping) 1894~

河南省羅山県の人。二七年米ウイスクンシン大学博士号。広西農務局農去部主任兼技師。国立中央大学農林科教授。三四年—三六年全国經濟委員會農業処長。三六年—四五年全国農業調查局米穀部長。四五年—四七年台湾省政府農林処長。四七年—四八年農林部主任技士。四八年立法委員。

趙魯青 Chao Lu-ching

五三年五月当時政務院糧食部加工管理局辦公室副主任。

沈以宏 Shên I-hung

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五五年六月当時武漢市商業局副局長。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(湖北省)。

沈怡(君怡) Shên-I (Chün-i) 1901~

浙江省嘉興県の人。二〇年同済大学卒業。二五年ドイツのドレスデン大学卒業、工学博士。中国工程師学会正会員、中国科学社員、漢口市工務局技師兼科長。二七年—三七年上海市政府工務局局長、導准委員會委員、黄河水利委員會委員、北京古学院研究員。三八年全国資源委員會実業委員會主席秘書兼委員長。四一年甘肅省建設庁長。四一年—四五年甘肅農業開發公司(水利林牧公司)総経理。四五年二月交通部政務次長。九月大連市長。四五年—四七年最高國家經濟會議公共土木專業委員會長。四六年—四八年南京市長。四八年十二月孫科内閣の水利部長。四九年エカフエ洪水防止局長。著書「市政工程概論」「社会進化史」「黄河年表」等。

沈育民(女) Shên Yü-min

五五年二月広東省人民委員會委員。

沈一夔 Shên I-kung

五五年二月広東省人民委員會委員。

沈尹默 Shên Yin-mo 1882~

浙江省興興県の人。京都帝国大学文科卒業。国立北京大学教授、燕京大学教授、中法大学教授兼孔徳学校長等を経て、二八年河北省政府委員兼教育庁長。三〇年辞任。三一年国立北平大学校長。五五年二月上海市人民委員會委員。五・四運動時代の新詩人、その後古詩に転向。著書「秋明集」。

沈榮炫 Shên Jung-hsian

五五年十月—十一月中共見本市代表团工作員として来日。当時中国国際貿易促進委員會職員(美術担当)。

沈亦珍 Shên I-chên (Yi-tsen) 1900~

江蘇省の人。二二年香港大学卒業、三五年米ミンガン大学卒業。二三年—三四年教授。三八年—四一年甘肅省政府教育庁長。四一年—四四年復旦大学及び中央大学教授。四四年—四六年教育部視学。四九年—五〇年台湾大学教授。五〇年教育部普通教育司長。著書「中学校に於ける天才兒童の教育」「初級中学校用英語読本」。

沈越 Shên Yüeh

吉林省の人。現在四七歳位。もと中共中央東北局政策研究室主任。五三年一月熱河省人民政府主席。五四年一月当時中共熱河省委員会第二書記。

沈家彝 Shên Chia-i 1882~

江蘇省の人。司法官。東京帝国大学卒業。最高裁判所判事、湖北

高等法院長を歴任し、四八年司法院大法官。

沈 桓 Shên Huan

五四年十一月当時北京市学生連合会副主席。

沈 翰 卿 Shên Han-ching

五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(江西省)。

沈 雁 冰(筆名、茅盾) Shên Yèn-ping(Mao Tun)

1896 ~

浙江桐郷の人。作家、文芸評論家。初期は評論、海外文学紹介に努力、三部作「蝕」「大過渡期」以後ロマン作家として成長、魯迅の精神を継承といわれる。日華事変中も創作活動をし「霜葉紅於二月花」を執筆。民族形式、国語文学の問題を追求。戦後ソ連に招かれ「ソ連見聞記」を書く。文匯報に長編「鍛錬」を連載。四九年九月政治協商会議第一期全国委員会常務委員。十月政務院文化教育委員会副主任、政務院文化部長。当時中華全国文学芸術界連合会副主席、中華全国文学工作者協会主席。五三年一月憲法起草委員会委員。同月文化代表団長としてポーツランド訪問、中ポ文化協力協定に調印。二月中央選挙委員会委員。九月全国文学工作者代表大会にて「新しい現実と新任務」について報告。十月中国作家協会理事會主席。十一月ウイーンにて開催の世界平和理事會に出席。五四年一月当時抗米援朝總會常務委員。五月対外文化協合理事會。同月世界平和理事會ベルリン特別會議に出席。八月第一期全国人民代表大会山東省代表。九月國務院文化部部長。十二月政治協商会議第二期全国委

員會常務委員。同月中ソ友好協會總會第二期副會長。五五年五月中国科学院哲学社会科学部委員。六月ヘルシンキの世界平和大会中共代表団長。五六年二月中国亜州團結委員會副主席。同月中央標準語普及工作委員會委員。三月全国文盲一掃協會委員。

沈 其 益 Shên Chi-i

植物学者。論文に「中国ニ属半知菌之研究」「南北真菌記載」あり。五四年八月第一期全国人民代表大会安徽省代表、五六年三月当時北京農業大学教務長。

沈 其 震 Shên Chi-chên

医学者。五三年二月—五月中国科学院訪ソ代表団員として訪ソ。十月当時中央衛生研究院院長。五四年八月第一期全国人民代表大会湖南省代表。五五年五月中国科学院生物学地学学部委員。六月同常務委員會委員。

沈 起 予(綺雨) Shên Chi-yü (Chi Yü) 1904 ~

四川省の人。日本東大文学部の出身。帰国後郭沫若等の創造社の文学運動に参加。三六年六月中国文芸家協會設立に奔走し同會理事、また洪深とともに同年六月より雑誌「光明」の編集に当る。作品「露」「碑」「出發之前」、およびロマン・ローランの翻譯。

沈 錡(春丞) Shên I (Sampson C. Shen,

Chun-chêng) 1917 ~

民代表大会上海代市表。九月同大会常務委員會副委員長。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会副主席。五五年二月張瀾死去のため中国民主同盟主席代理。五六年二月民主同盟中央委員会主席。三月政治法律学会第二期副會長。

沈 觀 鼎(淪新) Shên Chin-ting (Yueh-hsin) 1895 ~

福建省閩侯県の人。九歳の時渡日。二〇年東京帝国大学農学部卒業、帰国。同年北京政府外交部秘書。条約委員會委員、中央政治會議民食委員會專門委員、中央政治学校講師、中央大学副教授、四全大会出席代表を歴任。二二年ワシントン會議中国代表部附。二七年特命全權公使待遇。二八年北京政府外交部情報局副局長、北京政府倒壊後、南京国民政府考試院參事、外交部条約委員會顧問。三二年外交部亞洲局長。同年秋寿府の國際連盟會議に参加。三四年駐パナマ公使。四六年四月対日理事會中国代表部首席顧問、中国駐日代表団副團長。五〇年—五一年駐キューバ公使。五一年—五五年駐ブラジル大使、五六年五月駐日大使。著書、日文「三民主義」「日本官制規之研究」「東文新教程」。

沈 慧 蓮(女) Shên Hui-lien (Shun, Wei-lien)

1900 ~

広東省の人。亜東医学校卒業。広東貧民病院長、重慶農業部落学校長、中国婦女福祉協會長、国民党中国婦女運動委員會主席、国民党中央委員を歴任。五六年当時中華婦女反共抗俄連合會常任委員、国民大会代表、中国紅十字會副總裁、中華婦女福利協會長、中国出

浙江省の人。四〇年中央政治学校大学部新聞系卒業。インド国際大学研究員。四五年インド・ベナルス大学文学博士。四〇年—四七年中央宣伝部國際宣伝処辦事員、科員、專員、科長。四七年—四九年行政院新聞局專門委員、簡任秘書。四九年台湾省政府參議、国立政治大学新聞系教授。四九年—五〇年CNACC及びCATCの新聞顧問。五一年—五二年政府發言人辦公室組長兼室務代理主任。五二年以来總統府秘書。五四年以来国民党中央委員会第四組副主任。五六年二月国府行政院新聞局長。

沈 鈞 儒(衡三) Shên Chün-ju (Hêng-shan)

1873 ~

浙江省嘉興県の人。前清進士。東京法政大学卒業。若くして同盟会に入る。二七年浙江省政府委員兼秘書長。三〇年上海法科大学教授。弁護士開業。上海弁護士會主席。三六年十一月全国各界救国連合会幹部として「危害民国緊急治罪法」に触れて逮捕(いわゆる「救国七君子」の一人)。三七年日華事變勃發後釈放。国民參政員となる。四六年一月政治協商会議民主同盟代表。四八年九月中共地区に入る。四九年九月政治協商会議第一期全国委員会副主席。十月—五四年九月中央人民政府委員、最高人民法院院長。四九年十二月中国民主同盟副主席、中央常務委員、中央政治局員。五一年九月ベルリンの國際民主法律家會議中共代表。五三年一月米国のスパイ、ローゼンバーグ夫妻死刑に關し、國際民主法律工作者協會副主席として抗議。同月婚姻法貫徹運動委員會主任、憲法起草委員會委員。五四年六月当時中国政治法律学会理事會副主席。八月第一期全国人

征軍福利協会長。

沈 元 Shên Yuan

清華大学航空工程学院院長。五三年一月北京航空学院副院長。

沈 元 暉 (女) Shên Yuan-hui

五三年四月当時中華護士(看護婦)学会理事長。同月世界婦人大会出席代表団員。同月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員、五五年六月世界母親大会中共代表団員としてスイスに赴く。

沈 現 綸 Shên Hsien-lun

五六年九月中共駐カンボディア經濟使節団員。

沈 孔 Shên Kung (Sim Khong) 1901 ~

福建省の人。シンガポール在住華僑。建築材料商。沈招茂号店主、新源順豊有限公司董事。五六年七月シンガポール工商業貿易視察団員として日本ついで中共を訪問。

沈 鴻 Shên Hung

江蘇省上海生れ。「辺区工業の父」といわる。第二次上海事変前に工場連合会、工商業の輿地移転を主張し、労働者技師をつれ漢口へ、ついで八路軍辦事処と折衝して陝北に行き、安塞兵工廠の廠長兼技師となり、兵器製造に当る。四四年五月陝甘寧辺区の労働英雄。四九年九月政治協商会議に全国总工会の候補代表として出席。五五年四月國務院第三機械工業部部長助理。

沈 鴻 烈 (成章) Shên Hung-lich (Chêng-chang) 1880 ~

湖北省天門県の人。前清時代日本海軍に留学。民国成立以来、海軍部參謀本部、華北各省に服務。三七年日華事変発生当時青島市長、後山東省政府主席兼同省党部主任委員。戦時中農林部長、国家総動員會議秘書長、党政工作考試委員會秘書長を歴任。戦後浙江省政府主席。四八年—四九年銓叙部部长、五三年当時台湾在住。

沈 克 非 Shên Kê-fei (James K. Shen) 1898 ~

四川省重慶の人。一九年国立北京清華大学卒業、二四年米ウエスタンリザーブ大学医学博士。三六年—四〇年中央病院院長。四〇年—四七年衛生保健管理処長。四七年上海中山病院院長。四九年末—五四年六月華東軍政委員会文化教育委員會委員。五四年八月第一期全国人民代表大會上海市代表。五六年十一月中国エジプト友好協會理事。

沈 谷 南 (女) Shên Ku-nan

五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。十月北鮮慰問。五四年七月第一期全国人民代表大會重慶市代表。

沈 策 Shên Tsé

五四年八月第一期全国人民代表大會鞍山市代表。

沈 士 華 Shên Shih-hua (Tze-hua) 1888 ~

浙江省の人。二四年上海セントジョン大学卒業、ベルリン大学留

五六年二月民主同盟第二期中央常務委員會委員。

沈 茲 九 (女) Shên Tzu-chiu

杭州の人。左翼女流作家。現在四六歳位。胡愈之の妻。日本の女子師範学校卒業。小学教員。一時国外に逃避し、三〇年帰国、中共に加入。三三年申報社に入り「婦女生活」誌を創刊、その主筆。四九年九月政治協商會議全国委員會委員。同年末中央人民政府政務院文化教育委員會委員。当時中華全国民主婦女連合会宣教師部長。五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員會常務委員兼書記、ロベンハーゲンの世界婦人大会に出席。当時「新中国婦女」社社長。五四年八月第一期全国人民代表大會浙江省代表。十二月政治協商會議第二期全国委員會委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員會委員。三月当時政治協商會議全国委員會婦女組副组长。十月中華全国婦僑連合会常務委員會委員。

沈 壽 銓 Shên Shou-chüan

五五年三月山東省人民委員會委員。

沈 從 文 Shên Tsung-wên 1902 ~

湖南省鳳凰県の人。作家。少年時代を湖南の軍隊で送る。二九年吳淞中国公学教授。三一年武漢大学教授。三三年青島大学教授。四六年大公報文芸欄編集員。三六年—四五年西南連合大学教授。四六年北京大学教授。この間胡適に認められ新月派の文学運動に参加。「辺城」(辺境の苗族生活)「從文自伝」(從軍生活)等を発表、戦時中は昆明で教鞭をとり創作を絶つ。戦後北京にもどり、「私の学

学。三三年交通部管理局局長。四〇年ベルリン大学博士号。四二年運輸統制管理局ラングーン事務所長。四二年—四五年インド駐在員。四五年—四六年上海市政府秘書長。四七年当時駐ヴエネセラ公使館代理公使、一等書記官。

沈 子 修 Shên Tzu-hsiu

安徽省の人。現在六七歳位。四九年当時中国民主同盟皖北(安徽省北部)支部臨時工作委員會主任委員、皖北人民行政公署副主任。四九年末—五三年一月華東軍政委員會委員、同文化教育委員會委員。五二年八月安徽省人民政府副主席。五三年一月華東行政委員會委員。五五年三月安徽省副省長。

沈 志 遠 Shên Chih-Yüan 1902 ~

浙江省蕭山県の人。暨南大学、中国公学、上海法学院、北京大学、東北大学各教授を歴任。著書「新經濟大綱」「世界經濟危機」「計画經濟学大綱」「新人生觀講話」等。四九年中国人民救国会の代表として(当時同会中央委員)新政治協商會議準備会に参加。十月政務院文化教育委員會委員、同院出版總署翻譯局局長。燕京大学教授。十二月民主同盟中央委員。四九年末—五三年一月華東軍政委員會委員、同文化教育委員會副主任。五三年一月華東行政委員會委員。五四年八月第一期全国人民代表大會上海市代表。十二月中ソ友好協會第二次全国代表會代表。五五年二月上海人民原子武器使用反対署名運動委員會副主席、上海市人民委員會委員。五月政治協商會議上海市第一期委員會副主席、中国科学院哲学社会科学学部委員。

習」(自己批判)を發表。五四年四月當時民音研究所通信研究員。五六年一月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。

沈 昌 煥 Shên Chang-huan 1913 ~

江蘇省呉県の人。三三年光華大学卒業。三四年—三五年燕京大学に学ぶ。三七年米・シガン大学卒業。三七年—四〇年広東中山大学教授。四一年外交部に入る。四三年—四四年中国派遣米軍司令部参事。四五年總統秘書。四八年外交部礼賓司長。四九年以来台湾省政府顧問。五〇年宣伝部次長。五〇年—五二年国民党改造委員。五〇年—五四年政府發言人。五二年国府行政院新聞局長、国民党改造委員第四組主任。五二年以来国民党中央委員。五二年—五四年国民党中央委員第四組主任。五四年以来外交部政務次長。

沈 松 源 Shên Sung-Yuan

五三年六月十五日中華全国民主青年連合会第二期全國委員會委員。

沈 粹 縝(女) Shên Tsui-chên

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(中華全国民主婦女連合会)。五五年五月—五六年五月當時上海市民主婦女連合会副主任。

沈 青 囊 Shên Ching-nang

五六年一月當時中国科学院応用化学研究所學術委員会委員。

沈 體 蘭 Shên T'i-lan 1900 ~

江蘇省呉江の人。教育者。東呉大学卒業。英オックスフォード大学卒業。麦倫中学校長、東呉大学文学院院长、燕京大学秘書長、上海セント・ジョン大学教授、YMCA全国協会幹事を歴任。四九年末—五四年九月政務院文化教育委員会委員。五一年—五四年六月華東軍政委員会文化教育委員会委員。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員。五五年二月上海市人民委員会委員。

沈 仲 剛 Shên Chung-kang

江西省の人。現在四三歳位。江西ソウヰエト区紅軍学校卒業。五六年当時人民解放軍鉄道兵団訓練部長。

沈 鑄 東 Shên Chu-tung

元国民政府第一四兵団副司令、中将。川湘鄂綏靖公署副主任。五六年七月當時政治協商會議江蘇省委員会委員。

沈 肇 肇 Shên Chao

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(特別招請)。

沈 肇 年 Shên Chao-nien

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。五五年二月湖北省人民委員会委員。

沈 圖 Shên Tu

沈 霽 春 Shên Chi-chun

生理学者。五三年二月—五月中国科学院訪ソ代表团団員。

沈 石 Shên Shih

五三年一月—五六年一月當時人民日報記者。

沈 宗 瀚(海棧) Shên Tsung-han (Hai-cha)

1895 ~

浙江省余姚県の人。一八年北京国立農業專門学校、米ジョージア州立大学卒。二七年コーネル大学農学博士、南京金陵大学農学院教授兼農芸系主任、実業部技正。三四年—四六年実業部中央農業実験所総技師、太平洋科学会議中国代表、江蘇、浙江、山東、湖北、河南、福建、各省政府農業委員会委員を歴任。中国農業改進上の一指導者。四六年中央農業実験所所長。四八年中国農林復興委員会委員。著書「改良品種並増進中国之糧食」、「小麦抗線虫病之遺伝研究」、「雑交小麦對於桿黑粉病之抵抗遺伝」、「水稻直播与移之比較試驗」等三〇余編。中国、米國、カナダの雑誌に寄稿。

沈 宗 琳 Shên Tsung-lin 1912 ~

江蘇省の人。三四年—三六年晨報記者。三八年—四〇年民国日報主筆。四一年—五一年中央通訊社記者。五二年—五三年同社副主筆。五三年以来同誌編集。

五四年七月當時中ソ民用航空公司總經理。十二月中央政府中ソ民用航空交渉代表団団員。

沈 德 建 Shên Tè-chien

五四年八月第一期全国人民代表大会上海市代表。

沈 德 燮 Shên Tè-hsieh 1895 ~

福建省の人。英国ヴィッカーズとロールス・ロイスにおいて航空工学を学び、米國にて軍事飛行術を学ぶ。二二年米國陸軍飛行部隊ポスト・フィールド・ケリーフィールドを卒業。四四年—四五年航空委員会主席代理。四五年—四七年中国航空会社總經理。四七年—四九年同社副董事長。

沈 德 溶 Shên Tè-jung

五四年八月中国キリスト教三自愛國運動委員会全國委員會委員兼常務委員会常務委員。

沈 淨 Shên Fu

映画監督。四九年當時上海崑崙影片公司監督。四九年末—五四年六月華東軍政委員会文化教育委員会委員。五三年四月第七回労働大会上海市代表。十月中国文学芸術界連合会第二期全國委員會委員。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員。

沈 文 英 Shên Wên-ying

五三年二月—五六年二月當時人民日報記者。

沈 平 Shên Ping

五三年当時中央人民政府外交部交際処副処長として中共政府と外蒙、ルーマニア、ハンガリア、チェコ、ポーランド等との間の各種協定調印式に列席。五五年七月駐ジュネーブ総領事。

沈 鵬 飛 Shên Pêng-fei

五六年三月当時華南農學院林業系主任。同月政治協商會議広東省第一期委員会常務委員。

沈 勃 Shên Po

五五年五月当時北京市設計院副院長。

沈 養 山 Shên Yang-shan

五四年十一月國務院司法部副部長。

沈 膺 Shên Ying

五五年三月山東省人民委員会委員。

沈 蘭 之 Shên Lan-chih

五〇年—五四年九月西南軍政委員会財政經濟委員会委員。五四年一月当時中共四川省委員会財政委員会副主任。五五年一月四川省人民委員会委員。

陳愛爾德尼巴圖 Chên-ai-êh-tè-ni-pa-tu

發行書籍を焼却され、また実弟が殺害されたといわれる。戦後マレー少年新報(華文版および英文版)を發行。著書「婆羅史支那王伝説之研究」「華南史前遺跡発現記(英文)」等。

陳 郁 Chên Yu

広東省の人。元海員総工会の青任者。二七年十二月の広東コミニオンに際し、広東ソヴェエトの人民司法委員。三一年瑞金の中華ソヴェエト臨時政府中央執行委員。四五年中共第七期候補中央委員。四八年八月第六次全国労働大会で全国総工会常務委員。四九年東北行政委員会工業部長。九月総工会代表として政治協商會議に出席。十月中央人民政府政務院燃料工業部長。五三年一月北京の「中国ルーマニア科学および技術協力協定」調印中共側代表。五四年九月國務院燃料工業部長。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員。五五年七月國務院石炭工業部長。五六年九月中共第八期中央委員会委員、中共八全大会で「石炭工業建設を強化し、国民經濟の需要を満足させよ」と発言。

陳 一 新 Chên I-hsin

五四年六月湖北省人民政府副主席、当時湖北省人民政府公安厅庁長。五五年二月湖北省副省長。

陳 一 得 Chên I-tê

五五年二月雲南省人民委員会委員。

陳 一 凡 Chên I-fan

蒙古族。五四年四月当時寧夏省蒙古自治区人民政府副主席。

陳 維 稷 Chên Wei-chi

元中国紡織建設公司の技師長。四九年末中央人民政府政務院紡績工業部副部長。五二年四月モスクワ国際經濟會議に出席。五月中国国際貿易促進委員会委員兼任。当時民主建国会常務理事。五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年十一月國務院紡織工業部副部長。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員。五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員。

陳 維 博 Chên Wei-po

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(社会救済福利団体)。五六年六月当時上海中国福利会少年宮主任。

陳 遺 Chên I

五六年四月当時國務院鉄道部第三工程局局長。

陳 育 崧 Chên Yü-sung (Tan Yoek-seong) 1903~

ペナン生れ。原籍福建省海澄県。シンガポール在住華僑。二六年廈門大学卒業。同年海峽殖民地政府華文視学官。三六年廈門大学林惠祥教授とともに廈門人類学博物館を開設。三八年第三回極東史学者會議に出席。三九年華文新聞検査処主任。同年上海に赴き華僑教材編審会を組織し、南洋華僑向教科書を編纂、ついで南洋書局有限公司監理となり、南洋華僑向教科書を發行。戦争中日本軍により

五四年八月松江省人民政府委員を解任。五五年二月当時東北煤礦管理局副局長。九月北京鉱業学院副院長。

陳 寅 恪 Chên Yin-kê

五五年五月中国科学院哲学社会科学学部委員。

陳 蔭 毅 Chên Yin-ku

電気工程学者。五三年二月—五月中国科学院訪ソ代表团員としてソ連訪問。五四年十月当時天津大学電力工程系主任。

陳 蔭 南 Chên Yin-nan

四九年末—五四年六月華東軍政委員会土地改革委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会安徽省代表。五六年二月当時民主同盟第二期中央委員会委員。

陳 宇 Chên Yu

五三年五月中華全国総工会第七期執行委員会委員。五三年十月ウイーンの世界労働大会に中共工会代表団員として出席。十一月当時世界労働アジア・オーストラリア連絡局秘書長。五四年五月対外文化協合理事。五五年三月—四月エカフェ會議にオブザーバーとして出席の世界労働代表団顧問として来日。

陳 雨 泉 Chên Yü-nieh

五三年一月当時中国国民党革命委員会陝西省支部準備委員会委

員、陝西省人民政府委員。五四年十二月同省人民委員會委員。

陳 雨 田 Chên Yü-tien

五三年四月当時安徽省總工會主席。同月總工會ルーマニア・メーデー参観団団長。五五年三月安徽省人民委員會委員。五六年三月当時國務院外交部禮賓司副司長。

陳 芸 田 Chên Yun-tien

五五年二月湖南省人民委員會委員。五六年十二月全國工商業聯合會第二期執行委員(湖南省)。

陳 雲 (舊姓名、廖陳雲、廖雲程) Chên Yun (Liao Chên-yün, Liao Yun-chêng)

江蘇省青浦県の人。現在五一歳位。上海商務印書館植字工出身で、かつて労働運動を指導。三五年頃中共の革命軍事委員會委員。三九年頃中共中央農民部長。四〇年中共第六期中央委員兼政治局局長。四五年六月中共第七期中央委員、政治局局長、書記。四八年八月中華全國總工會主席。四九年五月まで東北行政委員會財政經濟委員會主任。九月政治協商會議第一期全國委員會委員。十月中央人民政府政務院副總理兼財政經濟委員會主任。五二年九月周恩來總理とともにモスクワ訪問。五三年一月憲法起草委員會委員。五四年八月第一期全國人民代表大會上海市代表。九月國務院副總理。五六年六月第一期全國人民代表大會第三次會議にて「私營工商業の社会主義改造問題について」報告。五六年九月中共第八期中央委員會委員、中央委

員会副主席、中央政治局常務委員會委員。中共八大大会で「資本主義工商業の改造後に発生した問題について」発言。十一月國務院商業部部長兼任。

陳 雲 濤 Chên Yun-tao

五三年二月—十一月当時中央人民政府重工業部建築材料工業管理局局長。

陳 雲 鵬 Chên Yun-pêng

五四年四月当時中央松江省直屬機關委員會副書記。六月当時中央松江省直屬機關委員會書記。

陳 永 義 Chên Yung-i

五四年七月当時中共河北省唐縣委員會書記。

陳 永 義 Chên Yung-i (Tan Eng-ghee) 1922 ~

福建省の人。シンガポール在住華僑。ゴム、紙類業。星加坡紙廠董事、宜昌有限公司董事。五六年八月シンガポール工商業貿易視察団秘書として中共を訪問。

陳 永 孝 Chên Yung-hsiao

國務院交通部海運管理總局局長。中ソ合辦大連造船公司幹部。五五年三月—四月中共貿易代表團專門家(造船)として来日。

察団副団長として日本いで中共を訪問。

陳 裔 Chên I

五四年七月当時広西省侗族代表。

陳 易 Chên I

五六年十月國務院第一機械工業部部長助理。

陳 延 炯 (地球) Chên Yên-chiung (Ti-chiu) 1895 ~

広東省番禺県の人。日本帝国大学卒業。三四年平漢鐵路管理局長。三六年粵漢鐵路局長を兼任。四二年—四五年東南公路運輸管理局長。四七年—四八年中国長春鐵道管理委員會主任委員。五〇年—五二年駐日中国代表団顧問。

陳 炎 林 Chên Yên-lin (Chan Yim-lan) 1908 ~

広東省順徳県の人。シンガポール在住華僑。三八年中国産綿布、絹織物輸入販売業利生公司を創設。日本軍占領時休業し、四五年再開。香港に利豊公司、上海に利昌公司を新設。四九年来日、東京および阪神を視察。五〇年神戸に利生分行を設置。香港産の綿布のほか、利生分行を通じて鐘紡、東洋紡、富士紡等の製品を輸入販売。シンガポール中国綿布雜貨入口商連合会主席。

陳 垣 Chên Yuan 1879 ~

陳 永 康 Chên Yung-kang

貴州省の人。侗族。五四年六月当時貴定専区副専員。八月第一期全國人民代表大會貴州省代表。五五年二月貴州省人民委員會委員。

陳 永 康 Chên Yung-kang

江蘇省松江県澧郷長岸村の農民。五三年全国水稻農産模範。五四年八月第一期全國人民代表大會江蘇省代表。五四年中共に入党。五五年一月当時江蘇省松江県連民農業生産合作社責任者。

陳 永 昶 Chên Yung-chang

侗族。五四年八月第一期全國人民代表大會貴州省代表。

陳 永 進 Chên Yung-chin (Tan Eng-chin) 1917 ~

福建省の人。シンガポール在住華僑。ゴム、土産品、船舶業、益和有限公司董事、亞洲保險有限公司董事、聯和有限公司經理、宜昌有限公司董事。五六年八月シンガポール工商業貿易視察団正総務として中共を訪問。

陳 永 清 Chên Yung-ching

五三年十二月当時中央人民政府建築工程部辦公庁主任。

陳 永 和 Chên Yung-hé (Tan Eng-hoe) 1915 ~

福建省の人。シンガポール在住華僑。ゴム業。益和有限公司董事、協和有限公司董事經理。五六年七月シンガポール工商業貿易視

広東新会縣の人。元北京研究院史学研究会員、輔仁大学校長。元代史、西域研究の權威。五二年末—五六年一月当時北京師範大学校長。五四年八月第一期全国人民代表大会広東省代表。五五年五月中国科学院哲学社会科学学部委員。著書「元也里可温考」(二三年)「中西回史日歴」(二六年)「日本文学博士那珂通世伝序」。

陳 應 Chên Ying

五三年八月—五六年一月中共駐外蒙古臨時代辦、參事官。五六年一月駐パキスタン大使館參事官。

陳 恩 鳳 Chên Ân-fêng

五六年二月九三学社第四期中央委員會委員。

陳 化 爭 Chên Hua-chêng

五三年五月当時政務院労働部労働力調配司司長。

陳 家 康 Chên Chia-kang

湖北省広済の人。武漢大学出身。四五年サンフランシスコ會議の際中共側代表董必武に秘書の資格で随行、また「解放」区青年連合會を代表し、世界民主青年連盟大会に参加、その後世界民主青年連盟の執行委員に当選といわれる。四六年旧政治協商會議中共代表團在上海スポークスマン。四九年十月中央人民政府外交部亞州司副司長。同月中ソ友好協會總会理事。五二年八月同司長。五四年四月—六月ジュネーブ會談中共代表團顧問。十一月國務院外交部部長助理兼亞州司長。五五年四月アジア・アフリカ會議中共代表團顧問。七

月外交学会常務理事。五六年六月外交部部長助理を解任、駐エジプト大使。

陳 家 璣 Chên Chia-chin

五四年八月—五六年四月当時新華社記者。

陳 華 木 Chên Hua-mu (Tan Hua-bak) 1896 ~

広東省潮安県の人。シンガポール在住華僑。欧米綿布直輸入業敦信公司経営者。五六年七月シンガポール工商業貿易視察団布疋雜貨組副組長として日本ついで中共を訪問。

陳 嘉 庚 Chên Chia-keng (Tan Kah-kee) 1874 ~

福建省同安県集美生れ。一三年廈門の対岸に集美学校を創立。二二年廈門大学を創設。永くシンガポールに居住し、ゴム園を經營。四〇年帰国し、福建、江西、湖南、貴州、四川を視察後、延安訪問、毛澤東、朱徳と会見。四六年「南僑回憶録」を刊行、平和民主運動に挺身。四九年九月政治協商會議第一期全国委員會常務委員。十月中央人民政府委員。華東軍政委員會委員(当時シンガポール南僑總會主席)。五三年一月華東行政委員會副主席。同月憲法起草委員會委員。五四年九月第一期全国人民代表大会華僑代表、同大会常務委員。十二月政治協商會議第二期全国委員會副主席。五六年六月中華全国帰国華僑連合會準備委員會主任委員。十月同連合會主席。

陳 介 平(女) Chên Chieh-ping

政経済委員會副主任。

陳 額 爾 德 尼 巴 圖 Chên-ê-êrh-tè-ni-pa-tu

蒙古族。五三年十二月寧夏省蒙古自治区準備委員會副主任委員。

陳 學 昭(女) Chên Hsieh-chao

女流作家。フランス文学を学び、短篇「寸草心」「倦旅」(二九年)、長篇「南風の夢」を発表の後、パリに留学。帰国後延安を視察、「延安訪問記」(四〇年)を書く。四九年末—五四年六月華東軍政委員會文化教育委員會委員。五三年十月中国作家協會理事。五五年一月浙江省人民委員會委員。五六年一月政治協商會議第二期全国委員會特別招請委員。

陳 煥 其 Chên Huan-chi (Tan Hoon-kie) 1889 ~

福建省海澄県の人。シンガポール在住華僑。歐羅拉百貨商店、山高家具店、東興公司、レックス・ホテル等を經營。スラバヤ、バンドン等に支店を設置し、南洋第一の百貨店主といわれる。

陳 煥 鏞 Chên Huan-yung

植物学者。米ハーバード大学卒業、中山大学教授。五四年八月第一期全国人民代表大会広東省代表。五五年五月中国科学院生物学部委員。五五年十月当時中国科学院華南植物研究所所長。

陳 漢 平 Chên Han-ping 1905 ~

五三年四月中華全国民主連合會第二期執行委員候補。

陳 開 懋 Chên Kai-mou 1898 ~

浙江省の人。二二年上海大学卒業。駐エクアドル公使館代理公使。五四年国府外交部一等書記官、礼賓司幫辦(次長)。

陳 外 歐 Chên Wai-ou

五五年九月一級八一勳章および一級解放勳章。五六年七月國務院国家測繪總局長。

陳 凱 Chên Kai

五三年十一月全国工商業連合會第一期執行委員。五六年十二月同第二期執行委員(陝西省)。

陳 鶴 琴 Chên Hè-chin 1897 ~

浙江省上虞の人。東南大学教務主任兼教授、上海工部局華人教育処長等を歴任。四九年十月中央人民政府政務院文化教育委員會委員(当時南京大学師範学院院长)、華東軍政委員會文化教育委員會委員(五四年六月まで)。五四年六月南京師範学院院长。十二月政治協商會議第二期全国委員會委員。五五年二月江蘇省人民委員會委員。五六年二月九三学社第四期中央委員會委員。

陳 鶴 軒 Chên Hè-hsian

五四年八月遼寧省瀋陽市人民政府副市長。当時瀋陽市人民政府財

湖南省長沙の人。中央大学に学ぶ。湖北省政府秘書、国府秘書、行政院第六科長、中国銀行券券次長、国民党第七組副組長を歴任。五二年—五四年財政部次長。五四年台湾省政府財政庁長。

陳翰笙 Chên Han-shêng 1897 ~

江蘇省無錫の人。米英に留学。帰国後各大学教授、特に中央研究院社会科学研究所社会組主任として、農村問題を調査研究し「現代中国の土地問題」(三三年)、「広東農村生産関係と生産力」(三四一年、アメリカ版)「中国における地主と農民」(三七年)等を発表。戦時中インドで英情報省に協力。戦後「フアー・イースタン・サーヴェイ」に「中国における独占と内戦」等を発表、ワシントン大学教授をもつとめ、四九年帰国。五一年二月世界平和擁護理事會理事。十月文化使節団員としてインド、ビルマを訪問。五一年頃中国人民外交学会副会長。五三年五月中印友好協會副会長。五四年五月对外文化協會常務理事。八月第一期全国人民代表大會河北省代表。十二月政治協商會議第二期全國委員會委員。五五年五月中国科学院哲学社会科学学部委員。六月ヘルシンキの世界平和大会に出席。七月外交学会副会長に再任。十二月—五六年二月インド、パキスタン訪問。五六年二月中国亞洲團結委員會委員兼副秘書長。三月中国國際貿易促進委員會對外貿易仲裁委員會委員。十一月—五七年一月全国人民代表大會代表團員としてソ連、東欧訪問。

陳企霞 Chên Chi-hsia

五三年十月中国作家協會理事會理事。

總會第二期理事會理事。五五年—五六年八月当時人民解放軍總政治部文化部部长。五五年九月一級解放勳章。

陳其瑗 Chên Chi-yuan 1889 ~

広州の人。北京大学卒業後、広東で中学教員。孫文の広東政府時代広州市財政局長。北伐軍に従い江西省財政庁長。二七年国共分裂後渡米、サンフランシスコ華僑中学校長等。董必武とともに帰国。香港達德学院院长。国民党革命委員會に参加、その中央常務委員。四九年九月政治協商會議第一期全國委員會委員(宗教事務組組長)。十月政務院内務部副部長兼社会司司長、政治法律委員會委員、華僑事務委員會委員。五三年九月および五四年二月北鮮慰問行。五四年九月第一期全国人民代表大會華僑代表。十一月国務院内務部副部長。十二月政治協商會議第二期全國委員會委員。五五年七月全国人民代表大會常務委員會委員に補選。五六年三月国民党革命委員會中央委員會常務委員。十月中華全國歸國華僑連合會副主席。

陳其五 Chên Chi-wu

四九年末当時人民解放軍第三野戰軍政治部宣傳部部长。四九年末—五四年六月華東軍政委員會文化教育委員會委員。五五年十二月当時国務院高等教育部上海高等教育管理局長、中共上海市委員會学校工作部部长。

陳其襄 Chên Chi-hsiang

五〇年三月中国花紗布(棉糸布)公司最高責任者。五三年四月当

陳希雲 Chên Hsi-yün

もと人民解放軍西北軍区後方勤務部部长。五〇年西南軍政委員會財政經濟委員會副主任。五二年八月中央人民政府糧食部副部长。五四年十一月国務院糧食部副部长。十二月政治協商會議第二期全國委員會委員。五七年二月上海にて病死。

陳希仲 Chên Hsi-chung

五五年二月福建省人民委員會委員。五六年十二月全国工商業連合會第二期執行委員(福建省)。

陳希文 Chên Hsi-wên

湖南省の人。現在四八歳位。五三年四月当時工人出版社副社長。五月中華全國總工會第七期執行委員。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員。

陳希愈 Chên Hsi-yü

五三年九月—五四年中国人民銀行副行長。五四年十一月国務院中国人民銀行副行長。

陳沂 Chên I

少将。五三年二月—五四年当時中央人民政府人民革命軍事委員會總政治部文化部部长。五四年七月人民解放軍歌舞團團長としてチェコ、ルーマニア、ポーランド、ソ連を歴訪。五四年五月对外文化協會常務理事。六月当時人民解放軍歌舞團團長。十二月中ソ友好協會

時商業部工業商品貿易局局長。

陳其通 Chên Chi-tung

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員。五五年六月当時人民解放軍文芸工作團團長。五六年三月中国作家協會理事。

陳其尤 Chên Chi-yü

広東省海豊県の人。現在六二歳位。日本留学。二一年頃陳炯明の駐汕頭外交特派員。その後香港にちつ居。日華事変後蒋介石の香港駐在特派員、日本人に通謀の嫌疑で投獄。四四年釈放。戦後重慶から香港へ移り、中国致公党を結成、その主席。四九年九月政治協商會議第一期全國委員會委員、広東省人民政府委員。五四年八月第一期全国人民代表大會広東省代表。十二月政治協商會議第二期全國委員會常務委員。五五年一月中ソ友好協會總理事。五六年二月中国亞洲團結委員會委員。四月中国致公党中央委員會主席に重任。十一月—五七年一月全国人民代表大會代表團員としてソ連、東欧訪問。

陳奇涵 Chên Chi-han

江西省の人。現在五二歳位。瑞金政府時代の団(連隊)長。四九年江西軍区司令。四九年末—五三年一月中南軍政委員會委員。五四年七月第一期全国人民代表大會江西省代表。九月国防委員會委員。五六年九月中共第八期中央委員會候補中央委員。

陳季昇 Chên Chi-shêng

五三年十一月全国工商業連合會第一期執行委員。四九年末—五四

年八月松江省人民政府委員。五五年一月黒龍江省人民委員會委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員（黒龍江省）。

陳 紀 澄 Chên Chi-ying 1908 ~

河北省の人。民国大学卒業。大公報主筆、国民大会代表、自由中国勞工連盟副主席を歴任。四八年以来国府立法委員。

陳 基 義 Chên Chi-i

侗族。五四年八月第一期全国人民代表大会広西省代表。

陳 毅 Chên I 1905 ~

四川省樂至県の人。元帥。上海交通大学出身。二〇年渡仏苦学。二二年帰国、重慶で新蜀報を創刊。二三年北京で中共に入党。二七年国共分裂後四川から江西ソヴェト区に入る。三〇年十二月中共贛西南臨時特区委員書記。三一年中華ソヴェト臨時政府中央執行委員。西遷のとき項英と共に後方守備軍として江西、福建一帯に分散残留。三八年新四軍第一支隊司令。四〇年六月国府軍李明揚、李長江軍を破る。四一年一月皖南事变後新四軍代理軍長。四二年中共中央軍事委員會委員兼華中分会委員兼新四軍代理軍長、上海包圍を開始したが、四五年終戦と共に北上、中共第七期中央委員。華東人民解放軍司令。四八年九月済南を攻略。四九年一月第三野戦軍司令。五月上海を占領、同市軍事管制委员会主任兼上海市長。華東軍政委員會委員、中共中央華東局第三書記、華東軍政大学校長。十月中央人民政府委員、人民革命軍事委員會委員。五三年一月選挙法起

陳 義 生 Chên I-shêng

ホノルル在住華僑（二世）。米コロンビア大学卒業。醸酒廠総経理、思喬義合公司副經理、義合父子有限公司支配人、義合実業公司司庫。中米銀行董事等を歴任。四六年国民代表大会に出席。

陳 儀 Chên I 1893~1949

陸軍大将。浙江省の人。一六年日本陸軍大学卒業。二九年一三四年軍政部次長。三四年一四一年福建省政府主席。三五年国民党中央執行委員會委員。四一年一四二年行政院秘書長。四二年一四四年中央政治會議秘書長。四三年陸軍大学代行校長。四四年国民党中央訓練委員會幹事。四五年八月台湾行政長官。九月兼任台湾警備司令。四七年二・二八事件の責任者。四月台湾行政長官公署撤廃により辞

任。四八年六月浙江省主席。四九年二月局地和平を主張したかどで省主席を罷免され、同年頃銃殺されたといわれる。

陳 俠 Chên Hsia

五六年三月当時中共浙江省温州地方委員会副書記。

陳 競 波 Chên Ching-po

五五年九月西藏自治区準備委員会準備処副処長。五六年三月当時中共西藏工作委員会委員。四月西藏自治区準備委員会副秘書長。

陳 仰 之 Chên Yang-chih

五六年二月民主同盟第二期中央委員会候補委員。

陳 堯 聖 Chên Yao-shêng 1912 ~

浙江省の人。三三年杭州大学卒業。三五年燕京大学卒業。三九年英ロンドン大学政治経済科卒業、博士号。三五年一三六年上海大学教授。四〇年一四一年国連中国代表秘書。四一年一四四年外交部科長。四四年一五〇年駐英大使館一等書記官。五二年以降ロンドン Free China Information 記者。著書「上海共同租界」。

陳 曉 嵐 Chên Hsiao-lan

五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。

陳 欽 仁 Chên Chin-jên 1900 ~

四川省重慶の人。清華大学卒業。米ミズリー大学、ハーバード大学卒業。二九年一三一年東北大学教授。三五年一三六年国立北京大學教授。三六年一四三年漢口自由西報社經理兼総編集。四三年一四七年外交部顧問。四七年一四九年復旦大学教授。四九年台湾省政府顧問。

陳 鈞 Chên Chün

五四年七月一五五年六月当時國務院紡織工業部基本建設局副局長。

陳 瑾 昆（克生） Chên Chin-kun (Kè-shêng)

1886 ~

湖南省常德の人。日本東京帝国大学法学士。帰国後大理院院長、北平大学法商学院および朝陽大学、中国大学の教授を歴任。四九年九月政治協商会議第一期全国委員会委員十月最高人民法法院委員（元華北人民法法院院長、刑法および刑事訴訟法の権威）、政務院政治法律委員會委員、法制委員會副主任委員。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員。

陳 錦 清 Chên Chin-ching

舞踏家。五四年十一月一五五年十月当時北京舞踏学校副校長。五五年十月当時中国舞踏芸術研究会常務理事。

陳 煦 Chên Hsi

五五年三月國務院秘書庁副主任。

陳君慧 Chên Chün-hui
広東省の人。香港在住。元汪政權時代の実業部部长。対日ならびに対東南アジア貿易業。

陳君葆 Chên Chün-pao
広東省の人。香港在住。かつて香港大学教授、同大学図書館長。後同大学で中国文学、翻訳の講座を担当。五五年香港大学教授中共訪問団に加わり北京訪問。華人革新会副主席。

陳訓念 (叔兌) Chên Hsün-yü (Shu-tui) 1907~
浙江省慈谿の人。二九年上海同文書院卒業。香港国民日報社社長。四二年国府立法委員。四三年—四五年重慶中央日報総編集。四五年—四九年上海旬報董事長兼主筆。五〇年—五三年中央通訊社総編集。五三年—五四年中央日報経営者。

陳啓清 Chên Chi-ching 1903~
台湾省の人。日本明治大学卒業。台湾省総商務会会長、台湾省政府委員会委員、官民協会幹事長、台湾第一商業銀行取締役を歴任。

陳啓天 (修平) Chên Chi-tien (Hsiu-ping) 1893~
湖北黃陂の人。武昌中華大学、南京高等師範、国立東南大学卒業。二四年—二九年中華大学、四川大学等の教授、上海知行学院長、中華書局編集、「中華教育界」、中国青年党機関紙「醒獅週報」

第二期全国委員会委員。五五年一月武漢市副市長に再任。二月武漢市工商業連合会主任委員。五六年二月中国亞洲団結委員会委員。五月中国パキスタン友好協合理事。十二月全国工商連第二期執行委員会副主任。

陳慶瑜 Chên Ching-yü 1900~
江蘇省常熟県の人。南京高等師範学校、東南大学卒業。江蘇省滬水県長、財政部整理地方捐税委員会委員、財政部整理公債委員会委員、河南省財政庁主任秘書、陝西省政府委員兼建設庁長、財政庁長、陝西省銀行董事長、陝西企業公司常務董事を歴任。四八年中央銀行南京分行經理、財政部國庫署長。五〇年—五四年財政部次長。五四年六月行政院秘書長。

陳繼祖 Chên Chi-tsu
五三年七月中国新民主義青年団第二期中央委員。
陳見眞 Chên Chien-chên
五四年八月中国キリスト教三自愛国運動委員会副主席兼常務委員。五四年八月第一期全国人民代表大会浙江省代表。

陳建功 Chên Chien-kung
五四年八月第一期全国人民代表大会上海市代表。五五年五月中国科学院物理学数学化学学部委員。五六年二月九三学社第四期中央委員。

主編。三一年民声週報を創刊。三六年国論月刊を主編。三八年—四五年国民参政会参政員、国防最高委員会委員、政治協商会議青年代表。二五年—四五年青年党中央執行委員会常務委員。四六年青年党中央党部秘書長兼任駐会委員。四六年国民大会代表。四七年東南長官公署政務委員經濟部長。四八年工商部長。四九年国府委員、總統府国策顧問兼台湾大学教授、中国評論日刊を主編。著書「民主の真諦」「民主憲政論」「新社会哲学論」「社会学概論」「教育社会学概論」「政治学」「中国作家概論」「韓非子校釈」「商君書校釈」「商鞅評伝」「張居正評伝」「胡曾左平乱要旨」「中国政治哲学概論」「国家主義運動史」。

陳啓文 Chên Chi-wên
五三年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員会候補委員。

陳景雲 Chên Ching-yün
五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員(医薬衛生界)。

陳經畚 Chên Ching-yü
江蘇省の人。回族。永く漢昌化学工業公司總經理。四九年末—五三年一月中南軍政委員会委員、同財政經濟委員会委員。武漢市人民政府副市長(五四年まで)。五一年十一月—五三年一月中南軍政委員会民族事務委員会副主任、兼政治法律委員会委員。五三年一月中南行政委員会委員。十一月全国工商業連合会第一期副主任委員。五四年八月第一期全国人民代表大会武漢市代表。十二月政治協商会議

陳建晨 (女) Chên Chien-chên
五〇年—五四年六月華東軍政委員会政治法律委員会委員。十二月政治協商会議第二期全国委員会委員。五六年二月国民党革命委員会中央委員。五七年二月同会婦女工作委員会委員。

陳建邦 Chên Chien-pang
五六年十二月当時中国儀器進口公司(中共側)副經理。

陳劍飛 Chên Chien-fei
五四年八月松江省人民政府委員を解任。十二月国営友誼農場建場委員会委員。五五年一月黒龍江省人民委員会委員。

陳献南 Chên Hsien-nan
福建省の人。ビルマ在住華僑。業種業。華商商会常務理事。

陳元屏 Chên Yuan-ping
五六年六月当時国府駐マカオ專員。

陳元良 Chên Yuan-liang
五五年三月安徽省高級人民法院院長。

陳古英 Chên Ku-ying
五四年八月第一期全国人民代表大会上海市代表。

陳 吾 愚 Chên Wu-yü

五年三月西北農學院副院長、五六年一月當時中共西北農學院委員書記。

陳 公 培 Chên Kung-pei

自然科學者。四九年末政務院參事。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。

陳 光 Chên Kuang

三四年紅軍第二師長。三七年第一一五師第三四三旅旅長。三九年三月東進支隊長、山東地区を遊撃。四四年頃蘇南区路北地方黨委員會書記兼青年部長。蘇南军区第四区保安司令部政治委員。第一七旅第五一團政治委員、後第一八集團軍第一一五師師長。四六年安東警備司令官。四九年頃蘇南人民行政公署委員兼人民監察委員會主任。五二年江蘇省人民政府委員。五五年八月—五六年六月の間に第一期全國人民代表大會江蘇省代表に補選。

陳 光 明 Chên Kuang-ming

五五年二月吉林省人民委員會委員。

陳 向 明 (女) Chên Hsiang-ming

五三年七月中國新民主主義青年團第二期中央委員。

陳 孝 德 Chên Hsiao-tê

四九年末—五四年九月東北人民政府經濟計畫委員會常務委員兼文化教育委員會委員。五〇年八月中華全國自然科學專門學會連合會副主席。五一年—五四年六月ハルビン工業大學校長。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員。五五年三月對外文化協會理事。五五年十月—十二月當時中國科學院秘書長。

陳 賡 Chên Kêng 1904~

湖南省湘潭縣の人。大將。一二歳の時軍隊に入り五年間二等兵。二二年頃共產主義青年團に加入。広州講武堂修學、黄埔軍官學校第一期卒業生。二六年モスクワ派遣。二七年南昌暴動に参加。年末広州暴動に失敗、上海に逃れ、二年間共産黨工作に従事。蔣介石の第四次討伐中に負傷、上海に赴き逮捕。三三年脱出、江西ソヴィエト区に入り、瑞金で一年間紅軍の學校長。西遷に學生を率いて参加。延安到着後第一軍團第一師長。三七年日華事變初期第八路軍一二九師旅長、華北に転戦。四五年中共第七期候補中央委員。四九年第二野戰軍集團軍司令として長江を南下。河南、陝西兩省を「解放」後、同軍第四兵團司令、江西、広東、貴州、広西に転戦、雲南に進出、昆明を攻略。四九年十月—五四年雲南省人民政府主席。四九年十月—五三年一月西南軍政委員會委員。五四年九月国防委員會委員。五五年五月人民解放軍副總參謀長。九月一級八一勳章、一級獨立自由勳章および一級解放勳章。五六年九月中共第八期中央委員會委員。

陳 興 華 Chên Hsing-hua 1920~

遼寧省の人。五六年當時對外文化協會秘書。五六年五月—六月訪

五五年一月黒龍江省人民委員會委員。五六年十二月全國工商業連合會第二期執行委員(黒龍江省)。

陳 抗 Chên Kang

中國進出口公司科長。五五年三月—四月中共貿易代表團隨員として来日。

陳 洪 安 Chên Hung-an

広東省の人。ビルマ在住華僑。國民黨駐緬總支部執行委員。戰時中抗日運動。ビルマに止り華商會副主席。中共成立後反共分子を糾合して緬華連合總會を組織しその主席。

陳 耕 夫 Chên Kêng-fu

五四年六月—五五年四月當時中國煤礦工會全國委員會副主席。

陳 荒 煤 Chên Huang-mei

五三年八月—五四年九月當時政務院文化部電影(映画)局副局長。五三年十月中國文學藝術界連合會第二期全國委員會委員。中國作家協會理事。五四年五月對外文化協會理事。五五年十月當時國務院文化部電影事業管理局副局長。

陳 康 康 Chên Kang

五六年八月當時人民解放軍昆明军区首長。

陳 康 白 Chên Kang-pai

日京劇代表團秘書として来日。

陳 興 硯 Chên Hsing-yên (Tan Hin-hie)

福建省の人。現在六二歳。ジャカルタ在住華僑。かつてジャカルタ中華商會理事長、洪義順幹部、福建會館理事長等を歴任。現在天声日報董事、自由報董事、中華商報董事、中華總會理事、快樂世界總經理、万源公司總理、中華民國行政院僑務委員會委員。

陳 衡 力 Chên Hêng-li

五六年六月當時國府駐長崎領事。

陳 剛 Chên Kang

湖北省の人。現在四一歳位。五四年八月第一期全國人民代表大會四川省代表。五五年一月四川省人民委員會委員。

陳 克 Chên Ké

五四年四月當時外交部亞細亞司專員。五六年一月中共駐ルーマニア大使館參事官。

陳 克 寒 Chên Ké-han

三八年頃八路軍に従軍。中共中央中原局宣傳部副部長、新華通訊社副總編輯、新華通訊社社長を経て、五一年政務院出版總署副署長。五四年八月第一期全國人民代表大會江蘇省代表。十一月國務院文化部副部長。五六年二月中央標準語普及工作委員會委員。

陳克爾 Chên Kè-érh

五四年六月當時中共海南黎族苗族自治州地方委員會委員。

陳克非 Chên Kè-fei

五六年二月國民黨革命委員會候補中央委員。

陳國礎 (肇基) Chên Kuo-chu (Tan Kok-cho,

Chao-chi, Tian-kee) 1902~

福建省金門県の人。シンガポール在住華僑。一八年安南に渡り商業に従事。二四年中国国民党に加入し同党安南支部委員。三二年安南民報社長。三七年越南華僑救国總會主席。四一年日本軍進駐後重慶に赴き党中央海外部僑務指導員。四三年全国党代表大会で第六回中央執行委員。四六年五月中央海外部南洋辦事処副主任。四七年春党命によりシンガポール中興日報社を改組し社長に就任。

陳國達 Chên Kuo-ta

五六年二月高級知識分子として中共入党許可。当時中南礦冶学院地質系主任教授。

陳國棟 Chên Kuo-tung

四九年十月華東軍政委員會財政部部長。五二年八月—五三年九月中央人民政府財政部副部長。五三年九月糧食部副部長。十一月國務院糧食部副部長。

陳國寶 Chên Kuo-pao

五四年十月當時中共山西長治地方委員會農村工作部副部長。

陳才清 Chên Tsai-ching (C. C. Tan) 1911~

シンガポール生れ。広東省潮陽県出身者の子孫。シンガポール在住華僑。二八年ロンドンのミドル・テンブル大学に入学。三二年英国弁護士資格を獲得。同年シンガポールに帰來し弁護士事務所を開設。四八年立法院議員。四九年進歩党主席。マレイ独立等の政治運動に従事。

陳再道 Chên Tsai-tao

四九年末—五三年一月中南軍政委員會委員。当時河南軍区司令。五四年九月国防委員會委員。五五年二月河南省人民委員會委員。七月当時人民解放軍武漢駐軍指導機關首長。

陳再勵 Chên Tsai-i

五五年二月広西省副省長、政治協商會議第一期広西省委員会副主席。

陳濟棠 (伯南) Chên Chi-tang (Po-nan) 1890~

広東省防城県の人。二四年第一師師長。二七年訪ソ。二九年第四軍軍長。三〇年国民革命軍第八路総指揮。三〇年国民党中央執行委員會委員。三二年広東省政府主席兼西南政務委員會委員。三八年

国民政府委員。三九年国民党中央常務委員、最高国防委員會委員。四〇年—四二年農林部部長。四二年国民党中央執行委員會常務委員。四七年四月戰略顧問委員會委員。四九年一月海南島行政長官兼警備総司令。五〇年陸軍一級上將、總統府資政。五〇年—五二年国民党改造委員會中央評議員。五二年以来国民党中央評議委員。

陳作睦 Chên Tzu-mu

五六年六月当時国府駐プリンスン名譽領事。

陳士傑 Chên Shih-chi

河南省の人。上將。現在四八歳位。共産軍西遷の際の幹部。四九年十月—五三年一月華東軍政委員會委員(当時兵団司令)。五三年三月—五六年二月当時工兵司令。五四年八月第一期全国人民代表大会河南省代表。九月国防委員會委員。五五年九月一級独立自由勳章および一級解放勳章。

陳子欣 Chên Tzu-hsin

五四年十一月最高人民檢察院檢察員。

陳之平 Chên Chih-ping

五三年十一月—五五年十月当時新華社記者。

陳之邁 Chên Chih-mai 1908~

広東省番禺の人。清華大学卒業、米オハイオ大学文学士。三三年

コロンビア大学法学博士。帰国後、国立清華大学政治学系教授、国立北京大学政治系講師。三三年—四四年行政院顧問。四五年—五〇年駐米大使館参事官。五〇年第五回国連總會中国代表団代表。五〇年FAO中国首席代表、駐米大使館公使参事官。五六年六月当時駐フィリピン大使。

陳此生 Chên Tzu-shêng 1902~

広西省貴県の人。上海復旦大学卒業後、広東で中学教師。日本留学。帰国後広西で教師。その後香港に出て蔡廷鍇等の国民党民主促進会の結成に参画。その党務理事。四九年末—五三年一月中南軍政委員會委員。四九年十二月国民党革命委員會中央委員。四九年末—五四年三月当時政務院文化教育委員會委員。五三年一月中南軍政委員會委員。十月北鮮慰問。五四年八月第一期全国人民代表大会広西省代表。五五年二月広西省副省長。五六年二月民主同盟第二期中央委員會委員。三月国民党革命委員會中央常務委員。

陳志達 Chên Chih-ta

五六年四月当時国営上海第一六綿紡織廠廠長。

陳志定 Chên Chih-ting

五五年二月江蘇省人民委員會委員。

陳志方 Chên Chih-fang

五四年十一月当時広州市秘書長。五五年六月—十月当時広州市副

市長。五六年十月中共駐ソリア大使。

陳 思 恭 Chên Ssu-kung

五四年十二月青海省人民委員会委員。

陳 紫 楓 Chên Tzu-fêng 1888 ~

安徽省微壽県の人。辛亥革命に参加。一七年張勳復辟舉行の際安徽宣撫使署參謀長。二〇年安徽省において民治報を創刊、同省国民党支部総幹事。二三年曹錕のために入獄。二五年出獄後国民党革命軍第二軍軍事委員。二七年国民党南京市党部委員、安徽省党部改組委員兼清党主席委員。三〇年国民党中央党史編纂委員会委員。四〇年立法委員。国民大会代表。四八年以来立法委員。著書「總理最近十年史編。」

陳 斯 德 Chên Ssu-tê

苗族。五二年七月広東省海南黎族苗族自治区人民政府副主席。五四年八月第一期全国人民代表大会広東省代表。

陳 時 偉 Chên Shih-wei

五三年九月当時蘭州大学副校長。五四年十二月甘肅省人民委員会委員。五六年二月九三学社第四期中央委員会委員。

陳 質 平 Chên Chih-ping 1906 ~

広東省の人。南京東南大学卒業。三〇年河南大学教授。三四年国

タイ生れ(三世)。原籍広東省饒平県。タイ在住華僑。輸出入貿易および船舶会社代理業暨利行の経営者。製材業、銀行、保険業を兼営。タイ王室より白象勳章皇冠勳章を下賜される。

陳 樹 蘭(女) Chên Shu-lan

紡織工業労働模範。五四年七月第一期全国人民代表大会重慶市代表。

陳 秀 山 Chên Hsiu-shan

四八年八月一五三年四月当時中華全国総工会執行委員。

陳 秋 安 Chên Chiu-an

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員会候補委員。八月民主促進会第四期中央委員会委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(特別招請)。

陳 修 身 Chên Hsiu-shên (Tan Siew-sin) 1910 ~

マラッカ生れ。マラッカ在住華僑。陳禎祿の長子。ゴム園経営者、マライ連邦立法議員、治安判事。シンガポール・ラフルス学院卒業。四三年一四五年華僑協会秘書、四六年一四九年マラッカ工部局議員、五〇年一五一年マラッカ商業会議所会長、港灣委員、ゴム事業関係諸機関役員、マライ華僑公会中央執行委員会の総務、財政宣伝の各分科会委員を歴任。

家軍事会議参事官。三七年一四四年国民党軍事委員会参事。三八年一四一年中国、ビルマ、インド方面西南運輸局局長。四〇年行政院ビルマ辦事処代表。四二年中国防衛補給所の中国側首席代表。四三年駐カルカッタ総領事。四六年一四九年駐フィリッピン公使。四九年七月一五四年駐フィリッピン大使。

陳 實 Chên Shih

五五年五月一八月当時國務院商業部財務局副局長。

陳 錫 聯 Chên Hsi-lien

元人民解放軍第三兵团司令、四九年十二月重慶市人民政府市長。五〇年七月一五三年一月西南軍政委員会委員。五二年砲兵司令官、仏印国境に進駐。五四年八月第一期全国人民代表大会西南軍区代表。九月国防委員会委員。五六年九月中共第八期中央委員会候補中央委員。

陳 守 一 Chên Shou-i

五四年一月当時中央政法幹部学校副教務長。ウィーンの国際法律学者会議に出席。五五年一月アジア法律工作者會議に参加。四月中印友好協合理事。五六年五月当時北京大学法律系及び東方語系教授、北京市律師協會準備委员会主任。同月ブラッセルの国際民法律工作者協會第六回大会に出席。

陳 守 鎮(偉卿) Chên Shou-chên (Wei-ching)

陳 修 政 Chên Hsiu-chêng

五六年一月当時中共河北省大興県委員会書記。

陳 修 良(女) Chên Hsiu-liang

五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。

陳 叔 敬 Chên Shu-ching

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五五年十一月当時重慶市工商連常務委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(四川省)。

陳 叔 通(漢弟) Chên Shu-tung (Han-ti) 1875 ~

浙江省杭県の人。前清の举人、日本政法大学出身。浙江高等学堂監督、大總統府秘書、國務院秘書長、国會議員等を歴任。商務印書館の創立者の一人。上海浙江興業銀行董事。四八年十一月香港より大陸に渡り、四九年六月上海へ。九月政治協商会議全国委員会副主席。十月中央人民政府委員。五〇年十月中国人民世界平和保衛米国防略反対委員会副主席。五三年一月憲法起草委員会委員。五三年十一月中華全国工商業連合会第一期執行委員会主任委員。五四年七月世界平和理事会ベルリン會議に出席。八月第一期全国人民代表大会浙江省代表。九月同大会常務委員会副委員長。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会副主席。五五年六月ヘルシンキ世界平和大会に出席。五六年三月スエーデンの世界和平理事会特別會議に参

加。十二月全国工商連第二期執行委員会主任委員。

陳 叔 亮 Chên Shu-liang

五五年十一月—五六年一月当時國務院外交部亞細亞司副司長。

陳 述 元 Chên Shu-yüan

五〇年—五四年九月西南軍政委員會委員。五五年七月当時昆明工学院教師。

陳 俊 生 Chên Chün-shêng

五三年七月—五五年十月当時中共黑龍江省克山県委員會書記。

陳 春 森 Chên Chun-sên

五三年二月中国鉄路工会政治部宣伝部副部長。

陳 舜 英 (女) Chên Shun-ying

四九年末—五四年六月湖北省人民政府委員。当時中共湖北省委員會婦女工作委員會書記。五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大会湖北省代表。

陳 舜 瑤 (女) Chên Shun-yao

五四年八月第一期全国人民代表大会遼寧省代表。

陳 純 齋 Chên Chun-chai

五五年二月貴州省人民委員會委員。

陳 純 炳 Chên Chun-ping

四九年末陝西省人民政府衛生庁長。五三年一月陝西省人民政府委員。

陳 書 舫 Chên Shu-fang

四川劇俳優。五三年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員會候補委員。十月北鮮慰問。五四年四月—五月ソ連メーデー參觀。五五年一月第一期全国人民代表大会四川省代表に補選。

陳 緒 宗 Chên Hsi-tzung

五三年六月当時中国青年報社社長。七月中国新民主主義青年団第二期中央委員會常務委員。五四年八月第一期全国人民代表大会湖北省代表。

陳 汝 棠 Chên Ju-tang

広東省の人。もと香港において医院経営、のち広東省人民政府衛生庁長。四九年九月政治協商会第一期全国委員會委員。当時国民党革命委員會中央委員。五四年八月第一期全国人民代表大会広東省代表。五五年十月広東省副省長。五六年二月国民党革命委員會中央委員に再任。

陳 序 經 Chên Hsi-ching

五六年一月政治協商会第二期全国委員會特別招請委員。

陳 茹 玄 Chên Ju-hsüan 1894 ~

広東省新寧県の人。米イリノイ大学、コロンビア大学卒業。上海總商会機関紙編集、南京經濟学校長、教務長、光華大学化学系教授兼学長、立法委員、憲法起草委員を歴任。四八年以来国府立法委員。著書「共和国憲法政治」「米連邦政府」。

陳 少 敏 (女) Chên Shao-min

山東省の人。現在四六歳位。貧民出身。国共分裂時には中原地区で李先念の下に婦人運動。日華事変中は予鄂挺身隊を編成、武漢三鎮を脅し、長江兩岸でゲリラ戦に従事。中共予鄂辺区委員會書記。三四年中共軍西遷の時は女子隊(洗衣服、裁縫隊、炊事組、担架隊等)を組織して中共軍に協力し、婦女軍団と童子軍を編成して第一戦で政府軍と戦う。四五年中共第七期中央委員會候補中央委員。四九年九月政治協商会第一期全国委員會(中華全国總工会)。五三年三月当時中国紡織工会第一期全国委員會主席。五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。八月中国紡織工会第二期全国委員會委員。五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。十二月政治協商会第二期全国委員會常務委員。五六年九月中共第八期中央委員。

陳 劭 先 Chên Shao-hsien 1886 ~

江西省清江(樟樹鎮)の人。清朝時代の秀才。日本で孫中山の指

導する同盟会に参加。第二次革命失敗後シンガポールへ逃亡。北伐の際は帰国して軍隊經理。林森が福建省長の時、省財政庁長。白崇禧が淞滬衛戍総司令の時、司令部軍法処長。胡漢民の新国民党の組織の中心人物。三六年上海で逮捕。西安事件の発生で釈放。三七年上海から広西の桂林に行き広西綏靖公署の顧問、広西建設研究会常務委員、桂林文化供給社社長。四九年九月政治協商会第一期全国委員會委員。当時中国国民党革命委員會中央委員。十月政務院政務委員。五三年一月婚姻法貫徹運動委員會委員。五四年二月当時抗米援朝総会在北京常務委員。七月第一期全国人民代表大会江西省代表。九月同代表大会常務委員會委員。五六年二月国民党革命委員會中央委員に再任。三月同常務委員。

陳 尙 文 Chên Shang-wên

台湾省嘉義県の人。二三年東京工業大学卒業。三三年—三七年閩錫山の主宰する西北実業公司電化廠総經理。四〇年—四二年四川省工業試験所所長。四二年—四五年中央工業試験所顧問技師。四四年同所塩碱実験工廠総工程師。四五年台湾公司総經理。四七年—五〇年台湾省建設庁副庁長。五〇年—五三年台湾省建設庁長。五三年台湾省政府委員會委員。五六年当時台湾省政府顧問。

陳 昭 Chên Chao

五五年三月國務院秘書庁副主任。

陳 紹 禹 (王明) Chên Shao-yü (Wang Ming)

1907 ~

安徽省六安県の人。二五年頃中共に加入。上海大学卒業後渡仏。二五年—二七年モスクワ共産大学で校長ミフの薫陶をうけ、武漢に赴きボロヂン等と連絡、共産党工作。さらにモスクワで勉学。二九年上海に帰り、全国总工会宣伝部長。三〇年ミフ来華の際通訳、李立三コースに反対、失脚せしむ。三一年中共総書記。六月モスクワに行き、中山大学教授、中国共産党国際代表。三五年コミンテルン執行委員。執行委員会書記局員候補。この頃「人民戦線」の宣伝に努力。三八年帰国。四五年中共中央委員、一時統一戦線工作部部长、中央法律委员会主任。四九年十月政務院政治法律委員会副主任兼法制委员会主任委員、最高人民法院委員。五六年九月中共第八期中央委員。〔極左的偏向〕をしばしば批判された。(注)

陳紹寬(厚甫) Chên Shao-kuan (Hou-fu) 1888~

福建省閩侯県の人。福州海軍学堂卒。一六年中国駐英公使館附海軍武官。二五年海軍中將。二六年第二艦隊司令長官。二七年国民政府軍事委員会委員。三一年国民政府海軍部長。三五年国民党第五期中央執行委員。四九年頃中国国民党革命委員会委員。四九年末—五三年一月華東軍政委員会委員。福建省人民政府副主席。五一年十月政治協商会議全国委員に補充。五二年福建沿海防備司令官。五三年一月華東行政委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会福州市代表。九月国防委員会委員。五五年二月福建省副省长。五六年三月国民党革命委員会中央委員会副主席。

陳翔鶴 Chên Hsiang-hê

五三年十月中国作家協会理事會理事。

陳上坑 Chên Shang-kang

福建省の人。ブルマ在住華僑。鉄製品業者。華商會理事。

陳職民 Chên Chih-min

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大会貴州省代表。五五年二月貴州省人民委員会委員。十一月当時貴州省工商連主任委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(貴州省)。

陳辛仁 Chên Hsin-jên

四九年末—五四年六月華東軍政委員会文化教育委員会委員。四九年当時中共福建省委員会宣伝部長、福建省人民政府教育庁長。五四年九月駐フィンランド大使。

陳振傳 Chên Chên-chuan (Tan Chin-tuan)

1908~

シンガポール生れ。原籍福建省思明県。シンガポール在住華僑。シンガポール英華書院卒業。シンガポール行政院議員、同立法院議員、中華總商會副會長を歴任。華僑銀行総理、産業主公会主席。

陳振明 Chên Chên-ming

もと中共中央社会部第二室職員、政務院情報総署国外調査研究局

職員といわれる。五五年十月—十一月中共見本市代表团工作員として来日。当時中国国際貿易促進委員会科長。

陳新桂 Chên Hsin-kui

五六年二月民主同盟第二期中央委員会候補委員。

陳新民 Chên Hsin-min

五五年二月湖南省人民委員会委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員。

陳新龍(顯光) Chên Hsin-lung (Hsien-kuang)

広東省台山県の人。メキシコ在住華僑。中墨貿易公司、メキシコ市第一〇区市民商業連合銀行の董事、新龍中国国貨公司、メキシコ海産物有限公司の支配人、国民党総支部執行委員、中華商會主席、国民経済建設委員会委員、広東省政府参議。第一期国民大会華僑代表を歴任。

陳仁炳 Chên Jên-ping

四九年末—五四年六月華東軍政委員会人民監察委員会委員。四九年当時上海セントジョン大学教授。四九年十二月民主同盟第一期中央委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員。

陳粹吾 Chên Tsui-wu

五五年三月安徽省人民委員会委員。

陳翠貞(女) Chên Tsui-chên

五六年一月政治協商会議第二期全国委員会特別招請委員。

陳邃衡 Chên Sui-hêng

五三年八月当時南京市工商連合会主任委員。十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員(中国民主建国会)。五五年十一月当時江蘇省工商連副主任委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(江蘇省)。

陳瑞光 Chên Jui-kuang

五四年十一月国務院中国民用航空局副局長。五五年十一月ラングーンで中共ビルマ航空運輸協定に調印。

陳瑞泰 Chên Jui-tai

五四年十二月山東農學院院長。五五年三月山東省人民委員会委員。

陳崇桂 Chên Chung-kui

五四年八月中国キリスト教三自愛国運動委員会副主席および常務委員。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員。

陳世驥 Chên Shih-hsiang

五五年五月中国科学院生物学地学部委員。五六年八月中国昆虫学会理事長。

陳正人 Chên Cheng-jên

江西省の人。現在五三歳位。五二年十一月中央政府建築工程部部长兼人民解放军总司令部军事建筑工程部长。五四年十二月政治协商会议第二期全国委员会常务委员(農民)。五五年十一月国务院第七辦公室副主任。五六年八月当時中共中央農村工作部副部长。九月中共第八期中央委员会候補中央委員。

陳正清 Chên Cheng-ching

五三年十月—五六年一月当時新華社記者。

陳成義 Chên Cheng-i

甘肅省の人。五四年八月第一期全国人民代表大会甘肅省代表。九月甘肅省人民政府副主席。当時甘肅省人民政府秘書長。十二月甘肅省副省長。

陳清 Chên Ching

五四年十一月最高人民檢察院檢察員。

陳清吉 Chên Ching-chi (Tan Cheng-kiat) 1888~

福建省の人。シンガポール在住華僑。椰子製澱粉、胡椒、食品商、和通公司總經理、和発有限公司主席董事、金南有限公司磚瓦廠主席董事。五六年七月シンガポール工商業貿易視察団員として日本ついで中共を訪問。

陳醒 Chên Hsing

五五年一月國務院商業部部長助理。

陳靜之 Chên Ching-chih

五三年九月当時中国土産公司(中共側)副經理。五五年四月—六月当時中国食品公司副經理。

陳石英 Chên Shih-ying

五四年八月第一期全国人民代表大会上海市代表。

陳迹 Chên Chi

五三年六月—五六年一月当時人民日報記者。

陳雪屏 Chên Hsueh-ping 1901~

江蘇省宜興縣の人。二六年北京大学卒業。二七年米コロンビア大学卒業。三二年—四七年国立北京大学、西南連合大学教授。四七年—四八年国民党青年部長。四八年教育部次長。四九年台湾省政府委員兼教育庁長。五一年—五二年国民党中央改造委員会第一組主任。五二年以来国民党中央常任委員、正中書局董事長、台湾大学教授。五六年四月中華民國各界日本親善訪問団員として来日。

陳占梅 Chên Chan-mei

福建省の人。ビルマ在住華僑。戦時中抗日運動に従事、日本軍占

陳清汾 Chên Ching-fên 1910~

台湾省の人。日本美術学校、パリー官立美術学校卒業。台湾茶業公会長。四八年—五二年台湾農林公司董事長。四八年台湾碱業公司董事長。四九年—五三年当時台湾省政府委員。五五年—五六年当時台湾茶輸出協会会長。

陳誠(辭修) Chên Cheng (Tzu-hsiu) 1897~

浙江省青田縣の人。二二年保定軍官学校卒業。二七年第二七師師長。二八年第一一師師長。二八年第一八軍軍長。三二年第三路軍副北路軍總司令。三四年江西広東福建湖南湖北剿匪軍北路總司令。三五年—三六年武昌行營陸軍改編部部长。三七年第三戰区前敵總指揮、軍政部次長。三八年武漢地区衛戍司令兼第九戰区總司令。三八年—四〇年軍事委員會政治訓練主任兼三民主義青年團秘書長。三九年—四〇年湖北省政府主席。三九年—四一年第六戰区總司令。四三年—四四年ビルマ派遣軍總司令。四四年第一戰区總司令、十一月軍政部部長。四六年—四八年參謀總長。四八年兼東北行營主任滿洲戰区(奉天)司令長官。四九年台湾省主席。五〇年東南軍政長官兼任。五〇年三月行政院長。五〇年—五二年国民党中央改造委員。五二年以来国民党中央委員。五四年五月副總統。

陳誠中 Chên Cheng-chung

五六年十二月当時中国絲綢公司經理。五七年三月来日。

領中中国に帰り、戦後帰郷し華商商会の財務を担当。徐四民と親交があり、中共成立後親共華僑の指導者となる。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員、五六年一月同全国委員会第二次會議に出席。東方貿易公司の董事長。

陳先 Chên Hsien

中華全国体育總會委員。五六年三月世界卓球選手権大会参加のため副團長として来日。

陳先舟 Chên Hsien-chou

遼東省の人。四九年—五三年一月東北人民政府委員、当時東北郵電管理總局局長。五三年一月—五四年九月東北行政委員会委員。五四年八月遼寧省瀋陽市人民政府副市長。当時民主同盟瀋陽市支部主任委員、東北郵電管理局局長。五五年二月遼寧省人民委員会委員。三月政治協商會議遼寧省第一期委員会副主席。五六年二月民主同盟第二期中央委員。

陳先澤 Chên Hsien-tsê 1910~

広東省の人。三五年燕京大学卒業。南京及び重慶中央日報記者、長沙中央日報社長、香港星島日報編集記者、重慶および南京中央通訊社記者を歴任。四七年以来中央通訊社バンコック支局長。

陳宣國 Chên Hsüan-kuo (Tan Suan-kok)

シンガポール生れ。パツ・パト在住華僑。商業。ジョホール州

参事員、マライ華僑公会、パハト副支部長、マライ青年会議副主席。

陳 全 福 Chên Chian-fu

ビルマ生れ。ビルマ在住華僑。和勝公司（紅幫系）の領袖の人、ビルマ政府よりラングーン市名誉判事に推される。

陳 祖 沛 Chên Tsu-pei

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年十二月政治協商会第二期全国委員会委員。五五年十一月当時広州市工商連副主任委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員（広東省）。

陳 楚 Chên Chu

長く中央中南局宣伝部副部長。五四年外交部ソ連東欧司司长。五五年五月ワルシャワの欧州平和安全保障会議に出席。五六年一月駐ソ大使館公使待遇参事官。

陳 宗 器 Chên Tsung-chi

浙江省の人。現在五六歳。五四年七月当時中国科学院辦公庁副主任。中国科学院地球物理研究所長。専門分野地磁気。五七年二月東京で開催の国際地球観測年西太平洋地域連絡協議会出席のため来日。

陳 相 仁 Chên Hsiang-jên

中共中央社会部専員。五五年三月—四月中共貿易代表団秘書とし

て来日。当時中国国際貿易促進委員会秘書。

陳 曾 固 Chên Tsêng-ku

貴州省の人。五〇年西南軍政委員会委員、貴州省人民政府副主席。五三年一月西南軍政委員会委員を解任、西南行政委員会委員となる。八月第一期全国人民代表大会貴州省代表。十一月国務院教育部副部長。

陳 雙 田 Chên Shuang-tien

農業労働模範。五四年八月第一期全国人民代表大会浙江省代表。

陳 岱 礎 Chên Tai-chu 1912 ~

福建省の人。燕京大学卒業。三四年米コロンビア大学卒業。三七年英ロンドン大学博士号。四六年—四八年駐ソ連大使館参事官。四九年—五〇年国府外交部アメリカ局長。五一年四月以来駐オーストラリア大使館代辦。

陳 岱 孫 (本名、總) Chên Tai-sun(Tsung) 1901 ~

福建省閩侯県の人。清華学校卒業。米ウィスコンシン大学経済科の学士、ハーバード大学の碩士および博士号。三七年清華大学法学院院長兼経済学系主任。論文を「清華學報」「清華社会科学」「東方雜誌」などに掲載。五三年一月中央財経学院副院長。五四年六月中央財経学院副院長を解任。十二月政治協商会第二期全国委員会委員（社会科学団体）。五五年七月当時北京大学経済系主任教授。

陳 體 强 Chên Ti-chiang

五五年一月—五六年三月当時中国政治法律学会理事。五五年六月ヘルシンキ世界平和大会に出席。七月外交学会研究部副主任。八月日本広島で開催の原爆禁止世界大会に出席。五六年七月当時中国政治法律学会常務理事。

陳 乃 君 Chên Nai-chün

五四年二月当時全国購販合作社西北辦事処主任。五五年八月全国購販合作社理事。

陳 大 機 Chên Ta-tsung 1901 ~

台湾省台南県の人。タイ在住華僑。台湾商業学校卒業。元三井洋行バンコック支店員。バンコックに美達洋行を開設。台湾会館主席、茶商公会理事長。天華医院董事。

陳 大 榕 (壽丞) Chên Ta-jung(Shou-chêng)

1898 ~

湖南省湘潭県の人。湖南大学出身、湖南各中学校教員。三四年五月湖南省国民党第四期執行委員。五三年以来国府監察委員。

陳 卓 凡 Chên Chuo-fan

五四年十二月政治協商会第二期全国委員会委員（中国農工民主党）。

陳 達 邦 Chên Ta-pang

五四年五月—七月当時中国人民銀行国外業務局専員。

陳 筑 山 Chên Chu-shan

貴州省の人。日本早稲田大学政治経済学部卒業。米ミンガン大学留学。国会議員、中華平民教育促進總會鄉村教育部主任、中央大学区立民衆教育院講師等を歴任。五〇年—五三年一月西南軍政委員会委員。五三年一月西南行政委員会委員。

陳 中 海 Chên Chung-hai

広東省台山県の人。ニューヨーク在住華僑。中山大学卒業、ワシントン大学文学士、コロンビア大学M・A、ハーバード大学、シカゴ大学研究員。国民大会華僑代表、国民党米國総支部執行委員、ニューヨーク中華公所主席。

陳 仲 孚 (奇曾) Chên Chung-fu (Chi-tsêng)

1882 ~

江蘇省呉県の人。在日華僑。日本政法大学卒業。二七年安徽省政府委員兼財政庁長。二八年第二次北伐完成後青島市長、間もなく辞職。三一年広東国民政府政務委員。同年末南京、広東兩政府妥協するや国民党第四次中央候補監察委員。二二年日華問題に関し胡漢民の意を受け、天津に赴き日本經由同年秋上海に帰る。三五年冀察政權に入り外交委員会主席となったが、宋哲元と合わず三六年辞職。

滿洲事変後冀察政務委員会外交委員会主席。汪政權成立後国民政府委員。戦後香港に逃れ、五〇年日本に亡命。

陳 冲 Chên Chung

五四年一月当時政務院鉄道部辦公庁副主任。

陳 忠 鈞 Chên Chung-chün

五六年六月当時国府駐越南ユエ(順化)領事。

陳 忠 經 Chên Chung-ching

教育家。五三年五月—五四年七月当時政務院文化教育委員会対外文化連絡事務局副局長。五四年五月対外文化協会常務理事兼秘書長。八月第一期全国人民代表大会江蘇省代表。十一月国務院対外文化連絡局副局長。五五年九月—五六年七月当時同代理局長。

陳 籌 Chên Chou

五五年七月当時重慶市副市長。

陳 兆 毅 Chên Chao-i

労働模範。五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

陳 長 桐 Chên Chang-tung (Chên Reigson C.)

1896 ~

福建省の人。二一年米コロラド大学卒業。二三年ニューヨーク大学卒業。四一年—四三年中国、ビルマ、インド戦線中国防衛補給所首席代表。四四年—四五年軍需品生産局局長。四六年—四七年輸出入局秘書長。四七年—四九年上海外国貿易協会主席。四六年—四九年上海外国為替銀行業者協会会長。五一年シンガポールの貿易振興に関するエカフェ会議中国首席代表。五三年マニラの第二回エカフェ会議中国代表団副団長。五〇年—五四年中国銀行副総裁。五四年—五六年当時同銀行総経理。

陳 超 羣 Chên Chao-chün (Tan Cheow-koon)

1917 ~

福建省の人。シンガポール在住華僑。ゴム業。宜昌有限公司董事、集益有限公司董事。五六年七月シンガポール工業貿易視察団員として日本ついで中共を訪問。

陳 肇 英 (雄甫) Chên Chao-ying (Hsiung-fu)

1884 ~

浙江省浦江県の人。浙江辦自学堂修学。一九年駐粵桂軍第四師第八旅長。二二年虎門要塞司令。二六年国民党第二次中央候補執行委員。二八年立法委員。二九年—三五年国民党第三—五期中央執行委員。三五年軍事委員会委員長。監察院監察使。五三年当時国防監察委員。

陳 調 甫 Chên Tiao-fu

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五五年十一月當時天津市工商連執行委員。五六年一月政治協商會議第二期全国委員会委員(中国民主建国会)に補選。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(天津市)。

陳 鼎 文 Chên Ting-wên

五六年二月民主同盟第二期中央委員会候補委員。

陳 禎 Chên Chên

五五年五月中国科学院生物学地学部常務委員。

陳 禎 祿 Chên Chên-lu (Tan Cheng-lock) 1883~

マラッカ生れ。十七世紀の中葉福建省南靖県よりマライに移住した華僑の子孫。シンガポール在住華僑。シンガポール・ラフル学院卒業。United Malacca Ruffer Estate Ltd. その他ゴム農園、銀行、保険等の諸事業を経営。二三年—三四年海峽殖民地立法委員会非官吏議員。三七年海峽殖民地代表として渡英、ジョージ六世の戴冠式に参列。四九年マライ華僑公会第一回主席。同年マライ連邦政府より華人諮詢委員会委員を委嘱されたが、反対派に狙撃され負傷。同年九月ジョホール州サルタンよりD・P・M・Jの尊称を贈られた。マラッカ中華総商會会長、海峽華英公会会長、福建會館名譽会長、漳州十属會館主席等を歴任。著書「マライの問題」。

陳 哲 Chên Chê

五四年一月当時河北省人民政府農林庁副庁長。

陳 鐵 Chên Tieh

貴州省の人。五〇年西南軍政委員会委員兼農林部部長。五三年一月西南軍政委員会委員を解任、西南行政委員会委員となる。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員。五五年二月貴州省人民委員会委員、政治協商會議第一期貴州省委員会副主席。五六年二月国民党革命委員会第三期中央委員。

陳 天 煌 Chên Tien-huang

福建省の人。ビルマ在住華僑。精米業者、華商會理事。親共的華僑のリーダーといわれる。

陳 天 順 (泰龍) Chên Tien-shun (Tai-lung)

1904 ~

台湾省台南市の人。日本統治時代より反日運動に参加、台湾工友総連盟主席。四八年台湾省総工会理事長、第一回行憲国民大会代表、工人報を創刊。四九年台湾省政府委員、一元獻機運動委員会副主任委員、勞工之友社常務理事、軍人之友社常務理事、台湾省空襲防護檢視団長。五四年六月—五五年当時台湾省政府委員。

陳 度 Chên Tu

五四年二月当時中共長辛店機関車車輛工場委員会書記。

陳 東 禹 Chên Tung-yü (Tan Tong-woo) 1922~

福建省の人。シンガポール在住華僑。大東船務有限公司董事。五年八月シンガポール工商業貿易視察団団員として中共を訪問。

陳登科 Chên Têng-ké 1918 ~

安徽省北部の人。勤労者作家。貧農の子、二〇歳で国民党軍に入され、四〇年冬新四軍に参加。解放軍通信員。四七年処女作長篇「杜大嫂」、ついで「活人塘」を発表。

陳登昆 Chên Têng-kun

河北省の人。現在四一歳位。中共陝北公学卒業。元共產軍の連隊政治委員。五年一月綏遠省人民政府委員。当時中共綏遠省綏遠市委員会書記。

陳濤 Chên Tao

五年十二月当時山東省長清県人民政府県長。

陳徳潤 Chên Tè-jun

五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(華僑)。

陳獨秀 Chên Tu-hsiu 1879 ~ 1942

安徽省懷遠の人。東京高等師範学校速成科卒業。前清末帰国、安徽高等学校教務長。第一革命の際安徽都督柏文蔚の秘書として革命運動に参加。次いで安徽教育司長。第二革命失敗後上海にて雑誌「新青年」発行、沈尹黙の紹介で北京大学文科学長。一九九年辭任。

陳白塵 Chên Pai-chên

江蘇省淮陰県の人。現在五〇歳位。劇作家。上海で脚本、シナリオを編著、戦争中奥地に入り演劇隊「影人劇団」を組織、また重慶国立戯劇学校教授。代表作「歲寒図」。五年十月中国作家協会理事。会理事。五年十月当時同協会秘書長。五六年二月中国亞洲団結委員会委員。十一月中国エジプト友好協会理事。十二月作家協会書記処書記。

陳伯華(女) Chên Po-hua

漢劇俳優。五年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員会候補委員。十月北鮮慰問。五年四月—五月ソ連メーデー参観。

陳伯興(披荆) Chên Po-hsing (Pi-ching)

広東省台山県の人。米オー克蘭ド在住華僑。綺麗公司、都板銀行等を設立。国民党駐米総支部長、米洲国民日報社長等を歴任。

陳伯清 Chên Po-ching

五年四月—五六年七月当時國務院外交部ソ連東欧司副司長。五六年七月モスクワの中ソ補充バーター貿易協定に調印。

陳伯達 Chên Po-ta 1904 ~

福建省惠安県の人。上海労働大学卒。艾思奇、何幹之らと日華事変前新啓蒙運動を首唱し、新民主主義文化運動の展開に努力。戦時

二〇年秋コミンテルン代表ヴォイチンスキーの援助により中国社会主義青年団を結成。二一年七月中国共産党が成立すると、その中央委員長。二三年中共総書記。二六年六月武漢の国共連席會議中共代表。二七年四月武昌の中共第五回党大会の総主席。六、七月武漢政府の汪兆銘を助けて「国共合作」の持統を主張し、中共幹部の反対に遭う。二八年中共総書記罷免。三二年秋上海フランス租界で国民党軍憲に逮捕さる。三七年日華事変勃発後釈放、事変中失意の中に死亡。著書「獨秀文存」(三三三年)。

陳敦陞 Chên Tun-shêng 1908 ~

福建省同安県の人。現在五〇歳。ヴェトナム・シロン在住華僑。ブノンベンのフランス語の学校卒業。輸入商。南越中華総商會理事長。

陳培元 Chên Pei-yüan

五年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五六年十二月同第二期執行委員(広西省)。

陳培錕 Chên Pei-kun

五五年二月福建省人民委員会委員。

陳梅川 Chên Mei-chuan

五五年三月山東省人民委員会委員。

中蔣介石の「中国の命運」を批判し、戦後「典型的な官僚的独占資本」として蔣介石、朱子文、陳立夫、孔祥熙を非難した「四大家族」、「党国強盜」(袁世凱)を書く。四九年十月政務院文化教育委員会副主任、科学院副院長、中ソ友好協会総会理事。当時中共中央宣傳部副部長、マルクス・レーニン学院副院長、全国社会科学工作者協会副主席。五年一月憲法起草委員会委員。四年十二月政治協商会第二期全国委員会常務委員。五年四月当時中国科学院副院長。五月中国科学院哲学社会科学学部委員。五六年二月当時中共中央農村工作部副部長。三月國務院科学规划委員会委員。九月中共第八期中央委員会委員、中央政治局候補委員。著書は上述の外に「真理の追求」「在文化陣綫上」「論毛澤東思想」など。

陳伯甫 Chên Po-fu

福建省の人。ビルマ在住華僑。石鹼製造業者。親共的華僑のリーダーといわれる。

陳伯林 Chên Po-lin

五五年四月当時重慶市新聞工作者代表。

陳博生 Chên Po-shêng 1892 ~

福建省福州の人。東京帝国大学および英ロンドン大学卒業。欧米に遊学。「晨鐘報」主筆、「晨報」社長、「民言報」主筆、重慶中央日報の発行人を歴任。四〇年—五〇年中央通訊社主筆。三五年同東京支局長。三八年—四八年国民参政會議員。四八年以来立法委員。

陳 半 丁 Chên Pan-ting

画家。五六年一月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。

陳 丕 士 Chên Pi-shih

香港在住華僑。元武漢政府外交部長陳友仁の子。弁護士。香港華人革新会主席として在香港華僑の大陸訪問等を斡旋。

陳 丕 顯 Chên Pi-hsien

福建省の人。日華事変中共蘇中区委員会副書記。四九年華東軍政委員会委員。五二年十一月—五四年六月当時中共上海市委員会第四書記。五三年一月華東行政委員会委員。五五年一月上海市工会連合会第二期委員会委員。二月上海市人民委員会委員。三月—五六年九月当時中共上海市委員会第二書記。五六年九月中共第八期中央委員候補委員、中共八大大会で「労働者大衆に依存して企業をよくやる方針を実施せよ」と発言、当時中共上海市委員会書記。

陳 美 藻 Chên Mei-tso

五五年三月山東省人民委員会委員。

陳 弼 臣 Chên Pi-chên (Chin Sophonpanich)

1911 ~

広東省潮陽県の人。タイ国在住華僑(潮州系)。三二年森興隆有限公司經理。ついでバンコック木業有限公司を創設し製材業に従

事、また金物業、信託、保険業務を営むほか、バンコック銀行を創設しその総經理。タイ王室より白象三等勳章を下賜さる。

陳 冰 Chên Ping

五三年二月当時中共浙江省委員会宣伝部副部長。

陳 彬 Chên Pin 1928 ~

五六年十一月—十二月中共漁業代表團通訳として来日。当時海員工会翻譯員。

陳 敏 之 Chên Min-chih

五五年二月江蘇省人民委員会委員。五六年二月中国民主同盟第二期中央委員会委員。十二月当時世界平和擁護委員会南京市分会秘書長。

陳 扶 生 Chên Fu-shêng

五三年七月中国新民主主義青年團第二期中央委員。

陳 甫 子 Chên Fu-tzu

五五年三月國務院法制局副局長。

陳 阜 Chên Fu

五三年十一月当時天津市人民法院院長。五五年一月天津市高級人民法院院長。

陳 富 恪 Chên Fu-ké

五六年一月政治協商會議第二期全國委員特別招請委員。

陳 楓 Chên Fêng

五五年二月当時中共南寧市委員会書記。六月当時南寧市市長。

陳 福 順 Chên Fu-shun

福建省の人。ビルマ在住華僑。精米貿易業集美貿易公司経営者。華商商会常務理事、東方貿易公司董事。親共華僑のリーダーといわれる。

陳 芬 Chên Fên

五六年十一月中共工会代表團通訳として来日。当時中共中央書記処員といわれる。

陳 文 其 Chên Wên-chi

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五五年三月山東省人民委員会委員。

陳 文 貴 Chên Wên-kui

細菌学者。五〇年—五四年九月西南軍政委員会文化教育委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。五五年五月中国科学院生物学地学部委員。五五年十一月当時中華医学会副理事長。五六年二月中国亜洲團結委員会委員。

陳 文 享 Chên Wên-hsiang

福建省の人。戦後ビルマに渡り国民党駐緬總支部執行委員。五五年台湾に赴き国民党僑務會議に出席、僑務委員に選出。帰郷後反共運動を指導し華僑私立学校の教師となる。

陳 平 Chên Ping

五四年六月当時政務院鉄道部第一工程局材料供应処処長。

陳 平 Chên Ping

五四年四月当時政務院外交部交際処副処長。

陳 平 Chên Ping

マライ在住華僑。五五年十二月マライ共産党中央委員会総書記。

陳 炳 謙 Chên Ping-chien

五三年一月—五四年六月綏遠省人民政府委員(参事)。五四年八月内蒙古自治区人民政府委員(政治法律委員会副主任)。五五年二月政治協商會議第一期内蒙古自治区委員会副主席。四月内蒙古自治区人民委員会委員。

陳 步 墀 Chên Pu-chih

福建省の人。ビルマ在住華僑。抗日運動に携わり、日本軍占領中は中国に帰り、戦後帰郷して怡和公司を経営。華商商会常務理事。

国民党革命委员会委员。

陳 方 Chên Fang

五五年二月雲南省人民委員会委員。

陳 峯 Chên Fêng

ビルマ在住華僑。中共系教員連合会の指導者。学生帰国進学団体を組織。

陳 峰 Chên-fêng (Dr. Tan Luan-hong)

ペナン生れ。ジョホール州パール在住華僑。医師、マライ連邦立法議員。四一年香港大学医学部卒業。四二年—四七年オーストラリア軍および英国陸軍病院勤務軍医少佐。ジョホール州福祉委員会主席。

陳 訪 先 (紹宗) Chên Fang-hsien (Shao-tsung)

安徽省東流県の人。日本明治大学卒業。安徽省国民党党務指導委員兼訓練部長、中央党務組織部幹事。その後渡日、国民党東京支部執行委員兼駐日総支部執行委員秘書長。二九年帰国、河北省党務整理委員兼訓練部長、河北省軍縮指導員、河北省党務整理委員兼常務委員、北平文化指導委員会委員、河南省教育庁長(三六年辞任)を歴任。五三年以來国府監察委員。

陳 鳳 桐 Chên Fêng-tung

農学者。五三年二月当時中国科学技術普及協会副主席。五四年四月中国科学院生物学地学部副主任。八月第一期全国人民代表大会河南省代表。九月当時華北農業科学研究所長。五五年五月中国科学院生物学地学部常務委員。五六年三月国務院科学規劃委員会委員。

陳 鳳 平 Chên Fêng-ping

五五年六月当時中国国際貿易促進委員会經濟研究室副主任。アルゼンチン国際貿易促進委員会第二次大会に中共代表として出席。

陳 鵬 Chên Pêng

五五年九月当時中共北京市委員会副書記。

陳 寶 誠 Chên Pao-chêng

五六年十二月当時中国技術進日公司(中共側)副經理。

陳 望 道 (筆名、陳雪帆) Chên Wang-tao (Hsüeh-fan) 1890 ~

浙江省金華県の人。日本の早稲田、中央、東洋等の各大学で文学および社会学を専攻。帰国後上海民国日報に入り、「婦女評論」「新青年」等を編集。また特志、労働、復旦、上海などの各大学で文学を講義。二〇年中共創立大会に出席。「共産党宣言」の翻譯者。五〇年—五三年一月華東軍政委員会文化部部长。五二年十一月復旦大学校長。五三年一月—五四年六月華東行政委員会委員。五四

年八月第一期全国人民代表大会上海市代表。五五年二月上海市人民委員会委員。五月中国科学院哲学社会科学学部委員。五六年三月民主同盟第二期中央委員会常務委員。

陳 北 辰 Chên Pei-chên

五三年九月当時安東市人民政府市長。

陳 璞 如 Chên Po-ju

五五年二月貴州省人民委員会委員。

陳 曼 雲 (女) Chên Man-yün

五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。五月当時中央人民政府華僑事務委員会辦公庁副主任。五六年十月中華全国帰国華僑連合会常務委員兼副秘書長。

陳 漫 遠 Chên Man-yüan

広西省蒙山県の人。現在五〇歳位。瑞金の紅軍大学卒業後、西遷に参加。八路軍、新四軍の団長。戦後人民解放軍第四野戦軍第一四兵团司令員。四九年広西省人民政府副主席。五一年広西省防空司令官兼務。五〇年—五三年一月中南軍政委員会委員。五三年一月中南行政委員会委員。五四年一月当時中共広西省委員会代理書記。八月第一期全国人民代表大会広西省代表。五五年二月広西省人民委員会委員、政治協商会議第一期広西省委員会主席。五五年六月—五六年九月当時中共広西省委員会書記。五六年九月中共第八期中央委員会

候補中央委員、中共八全大会で「多角経営を実行し、全面的に農業生産を發展させよ」と発言、当時中共広西省委員会第一書記。

陳 明 Chên Ming

福建省閩侯の人。元国府外交部討論委員会委員。三四年当時駐パナマ公使館一等書記官。五二年三月—六月、キヌタン国際産業展示会に中共使節団長として出席。五三年四月—五四年二月中国国際貿易促進委員会展覽部部长。五三年十月、チェコの中共映画週間に参加。五四年八月—五五年十二月当時中央人民政府対外貿易部第三局副局長。五六年五月中国、キヌタン友好協会理事。

陳 明 義 Chên Ming-i

少将。五五年二月当時西藏軍区後方部隊司令兼康藏公路修建司令。六月—五六年二月当時西藏軍区副司令。

陳 明 紹 Chên Ming-shao

五六年二月九三学社第四期中央委員会委員。十一月北京市人民委員会代表団員としてソ連、東欧訪問。

陳 明 仁 Chên Ming-jên

湖南醴陵の人。現在五〇歳位。黄埔軍官学校出身。国府軍師長。四六年四月四平街で中共林彪軍に敗北。四八年冬兵団司令兼湖南省政府主席。四九年中共に寝返る。四九年九月政治協商会議第一期全国委員。四九年末—五三年一月中南軍政委員会委員。五三年一月中

南行政委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会中南军区代表。九月国防委員会委員。五五年九月一級解放勳章。

陳明波 Chên Ming-po 1910 ~

広東省文昌県の人。タイ在住華僑。上海東南医学院卒業。東京帝國大学医学部吳内科教室で研究。日本軍タイ進駐中非協力の故をもつて逮捕。後南成股份有限公司、南成保險有限公司等の總經理。

陳銘樞(眞如) Chên Ming-shu (Chên-ju) 1891 ~

広東省合浦県の人。保定陸軍軍官学校出身。三四年福建革命に参加、失敗後香港に行き、三六年渡欧。その後香港に三民主義同志連合会を組織し反蔣運動。四九年十月中央政府委員、政務院政治法律委員会委員。十月一五三年一月中南軍政委員会委員。十二月国民党革命委員会中央常務委員。五三年一月中南行政委員会副主席。五四年八月第一期全国人民代表大会広西省代表。十二月政治協商会議第二期全国委員会常務委員。五六年二月国民党革命委員会第三期中央常務委員。

陳銘德 Chên Ming-tê

五六年二月国民党革命委員会中央委員。

陳模 Chên Mo

五三年七月中国新民主主義青年団第二期中央委員。

陳孟元 Chên Mêng-yuan

商会議第二期全国委員会委員。五五年十一月当時工人日報社社長。

陳揚 Chên Yang

五六年九月中共駐カンボディア經濟使節団員。

陳養山 Chên Yang-shan

浙江省の人。五三年一月一五四年九月華北行政委員会委員(政治法律委員会副主任、公安局長)。五四年八月中央政府司法部副部长。十一月國務院司法部副部长。

陳耀材 Chên Yao-tsai

五四年十月当時香港九龍工会連合会理事長。

陳浴新 Chên Yü-hsin

五五年二月湖南省人民委員会委員。

陳翊科 Chên I-ke

五四年六月当時農業労働模範。五四年七月第一期全国人民代表大会広西省代表。

陳雷 Chên Lei

元中共黒龍江省委員会書記。五三年三月当時黒龍江省人民政府副主席。十二月一五四年八月同政府主席。五四年八月第一期全国人民代表大会黒龍江省代表。

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。五五年三月山東省人民委員会委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(山東省)。

陳勇進 Chên Yung-chin

五三年六月一五六年二月当時人民日報記者。

陳雄 Chên Hsiung

五五年二月広西省人民委員会委員。五六年二月国民党革命委員会中央委員。

陳裕民 Chên Yü-min

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五六年十二月第二期執行委員(四川省)。

陳熊文 Chên Hsiung-wên (H. Moon Chen)

1908 ~

広東省の人。三二年米シガン大学卒業。三五年一四三年CNA Cの飛行機操縦士。四二年一四六年米空軍に参加。四七年民航空運公司に入社。五六年六月当時同公司业务处处长。著書「航空技術とその実践要領」。

陳用文 Chên Yung-wên

五三年五月全国总工会第七期候補執行委員。五四年十二月政治協

陳雷 Chên Lei

五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。五五年一五六年当時山東省人民檢察院檢察長。

陳嵐峰 Chên Lan-fêng 1903 ~

台湾省宜蘭県の人。暨南大学卒業。日本陸軍士官学校留学。二七年帰国、黄埔軍事政治学校教官。北伐軍東路軍總指揮部參謀、南京中央軍事政治学校大隊長、江西五次紅軍包圍戦に参加、剿共軍參謀处长、戦時中各地に転戦、戦後国防部少將部員。四五年監察委員。

陳離 Chên Li

四川省の人。五〇年西南軍政委員会委員兼水利部長。五三年一月西南軍政委員会委員を解任、西南行政委員会委員となる。五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。五六年二月国民党革命委員会候補中央委員。

陳力向 Chên Li-hsiang

五四年五月当時人民解放軍鉄道兵政治部副主任。

陳力 Chên Li

五四年六月浙江師範学院副院長。当時浙江大学教授。五五年一月浙江省人民委員会委員。五六年二月九三学社第四期中央委員会委員。

陳立夫(名、祖燕) Chên Li-fu (Tsu-yên) 1900 ~

浙江省吳興の人。陳果天の弟。二三年北洋大学採鉱科卒業。二四年米ビッツバーグ大学卒業。帰国後蔣介石の側近にあつて革命に奔走。二八年国民革命軍總司令部秘書長、国民政府訓練總監部政治訓練処長。四三年フォードハム大学名誉博士号。二九年一五〇年国民党中央執行委員会委員。三〇年一三一年国民党中央執行委員会秘書長、中央政治会議候補委員、建設委員会委員。三二年一三七年および四四年一四八年国民党組織部長。三七年軍事委員会第六部長、中央政治学校教務主任。三八年一四一年国民党社会部長、三八年一四四年国民党教育部長。四六年一月政治協商會議国民党代表。四七年一四八年国民党中央政治部秘書長。四八年五月立法院副院長。渡米。十二月孫内閣政務委員。四八年一五〇年行政院政務委員。四九年一月蔣介石総統引退と同時に辭職。六月閩錫山内閣政務委員。七月国民党非常委員会委員兼任。五五年四月当時駐スイス外交部顧問。五六年当時総統府資政。著書「中国電影事業」「中文字典」「唯生論」。

陳立平 Chên Li-ping

五五年二月江蘇省人民委員会委員。五六年十二月当時南京副市長。

陳龍 Chên Lung

四九年十月東北人民政府委員会委員。五一年中央人民政府政務院公安部副部長。五四年十一月國務院公安部副部長。

陳龍堅 Chên Lung-chien 1918 ~

広東省揭陽県の人。タイ在住華僑(タイ国籍をもつ)。機械金物類、建築材料商陳同発有限公司経営者。錫の精錬ならびに輸出のため暹羅鉱務有限公司を創設しその副董事長。また暹羅機器有限公司を創立しその董事長となり、日本の日産自動車、ドイツ、フランスの自動車工場の製品販売代理権を獲得。しばしば日本および欧米を旅行し海外事情に精通といわれる。五五年日本における国際商業会議所会議にタイ国代表団員として出席。

陳良 Chên Liang 1897 ~

浙江省の人。日本青山農学院卒業。四〇年一四六年国防部兵器管理部長。四六年一四七年連合勤務總司令部副司令。四七年一四八年翁内閣糧食部政務次長。四九年五月上海市長。四九年一五〇年參謀本部代理課長。五〇年行政院監査官。五〇年以來行政院顧問。

陳良 Chên Liang

五六年十二月当時中国畜産出口公司上海分公司經理。

陳璉 Chên Lien

五三年中国新民主主義青年団第二期中央委員。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員。

陳六使 Chên Liu-shih (Tan Lark-sye) 1897 ~

福建省同安県の人。シンガポール在住華僑。ゴム製造、輸出業の

て

丁惟汾(鼎丞) Ting Wei-fên (Ting-chêng) 1875 ~

益和樹膠公司、益和樹膠廠の経営者。三八年支店をマレイ、インドネシア、タイ等に設置。第二次大戦勃発により本支店とも停業したが、戦後復活。中華總商會会長、福建省館常任委員長、中華樹膠公会主席、南洋商報董事長等を歴任。

丁惟汾(鼎丞) Ting Wei-fên (Ting-chêng) 1875 ~

山東省日照県の人。日本明治大学卒業。五年日本において孫文の同盟会に加入。帰国後法政学堂長。一三年衆議院議員。二四年国民党第一次中央執行委員。二六年国民党第二次中央執行委員、中央青年部長、中央党務学校訓育主任。二八年国民政府委員、中央党部訓練部長、直魯賑災委員、省政府委員。三〇年国民党中央執行委員会秘書長。三一年国民党第四次中央執行委員。同年監察院副院長。三五年国民党第五期中央執行委員会委員、常務委員会委員。中央政治学校教育長。著書「箕裘錄」「毛詩韻律」その他「爾雅積名」「方言今釈」「齋東語」「俚語証古」など。

丁榮生 Ting Jung-sheng

雲南省の人、現在四三歳位、モスクワ大学卒業、中国共産黨員、五六年当時滿洲里海関副関長といわれり。

丁穎 Ting Ying

広東省の人。農学者。広州の中山大学農学院院長。五〇年八月中華全国自然科学専門学会連合会全国委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会広東省代表。五五年一月政治協商會議第一期広東省委員会副主席。二月広東省人民委員会委員。四月華南農学院院長。五月中国科学院生物学地学学部委員。六月同学部常務委員会委員。十一月農業研究団員として東独訪問、ドイツ農業科学院通訊院士称号をうく。

丁果仙(女) Ting Kuo-hsien

晉劇演員。五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問団員として北鮮に赴く。五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員に補選。

丁華(本名、丁建華) Ting Hua (Ting Chien-hua)

江西省南昌県の人。現在四四歳位。南昌師範学校中退。南昌公安局電信係員当時南昌暴動参加、朱徳に随行して井崗山に赴く。その後西遷軍と共に延安に至る。中共中央組織部副科長、同科長、同処長、八路軍總幹部部第一処局長、中央人民政府人事部第三局処長兼中共中央組織部専門委員を歴任。五五年一月國務院高等教育部部長助理。五六年五月当時全国高等学校学生募集委員会辦公室主任。

丁開先 Ting Kai-hsien

五六年九月当時中共駐ユーゴスラヴィア大使館付武官(大佐)。

丁 貴 堂 (榮階) Ting Kui-tang (Jung-chieh)
1891 ~

遼寧省海城県の人。北京税関学校の出身。一六年—一九年安東税関関員。二七年—二八年上海税関勤務。二九年—三〇年海関総務司中国人秘書。三〇年上海税関中国人秘書、上海YMCA名誉会長。三五年海関行政視察のため欧米に出張。終戦後財政部京滬区特派專員、江海関稅務司、浙海関稅務司を兼任。その後海関副稅務司兼滬浦局長。四九年十月中央政府政務院海関總署副署長。五三年一月この海関總署は対外貿易部の下部組織となり、対外貿易部海関總署副署長。五四年八月第一期全国人民代表大會旅大市代表。五六年二月国民党革命委員會中央委員。

丁 毅 Ting I 1920 ~

山東省の人。中共黨員。演劇工作者。三九年民衆先鋒總隊部「動員劇団」を組織。四〇年第一二〇師獨立第二旅「戰線劇社」の書記および一座の座長。後延安で学習、魯迅芸術學院を卒業。劇作に「ゴロッキ英雄となる」「壁新聞」「ある解放戰士」「劉二起家」等あり、賀敬之との共同執筆による歌劇「白毛女」で五一年度スターリン賞を受く。人民解放軍海軍政治部文化部副部長として陣中文化宣伝工作を担当。五三年十月中国作家協會理事會理事。五四年十二月中ソ友好協會第二次全國代表會代表(文学芸術界連合會)。

丁 玉 璋 Ting Yu-chang

丁 濟 滄 Ting Chi-tsang
五五年四月当時陝西日報社總編輯。

丁 瓚 Ting Tsuan

江蘇省南通県の人。三六年南京中央大學心理学系卒業。(卒業前政治問題で南京政府に逮捕投獄、一年後釈放)。北平協和醫院の神經病理学教室で神經病理を専攻。太平洋戦争勃発後、重慶の中央衛生実験院心理衛生組組長(歌樂山の研究所で研究)。戦後、南京へ帰る。四七年シカゴ大学で研究をつづけ、四九年春英国經由大陸に帰還。神經病学に関する著述、論文が多い。中華全國自然科学専門学会の全國委員會委員兼常務委員會副秘書長。

丁 子 修 Ting Tzu-hsiu

中共黨員。元中共山東省委員會委員、國務院公安部管制科專員(青年団の統制担当)といわれる。中国國際貿易促進委員會科長。五五年三、四月の間中共貿易代表團隨員として来日。(日語堪能といわれる。)

丁 志 輝 (女) Ting Chih-hui

三九年革命に参加。新四軍陳毅の部下となって皖南、江南、蘇北、淮海一帯を遊撃戦に従事。看護婦として活躍。四五年東北に行き、錦州、瀋陽、天津等の諸戦闘に従い、師醫院院長となる。錦州戦時は第四野戦軍第三九軍野戦醫院院長。四九年第四野戦軍代表とし

五四年八月当時中国キリスト教三自愛国運動委員會副主席および常務委員。同月中国キリスト教全國會議主席団員。

丁 繼 哲 Ting Chi-chê

五五年三月安徽省人民委員會委員。

丁 浩 Ting Hao

江蘇省の人、現在三六歳位といわれる。五三年七月中国新民主主義青年団第二期中央候補委員。

丁 浩 川 Ting Hao-chuan

五三年七月当時—五六年七月北京師範大學教務長。五六年七月東北師範大學副校長。

丁 耿 林 Ting Kêng-lin

五四年二月当時中共四川省達県地方委員會書記。五六年七月四川大學副校長。

丁 克 堅 Ting Kê-chien

五〇年四月中国礦業公司(中共側)責任者。五四年中国進出口公司駐ベルリン代表処代表。五五年十月ベルギー訪問貿易団副団長。

丁 國 鈺 Ting Kuo-yü

五五年六月中共駐アフガニスタン大使。

て、政治協商會議に出席。全國部隊労働模範。五三年九月当時中国協和醫院副院長。五四年八月第一期全国人民代表大會人民解放軍代表。五五年七月当時人民功臣。

丁 志 剛 Ting Chih-kang

五三年八月当時山東省人民政府文化事業管理局副局長。

丁 秀 秀 Ting Hsiu

五三年十二月—五四年一月当時中共鞍山市委員會副書記。五四年六月まで本溪市人民政府委員。五五年二月鞍山市人民委員。

丁 秋 生 Ting Chiu-shêng

湖南省の人。現在五〇歳位、五四年浙江軍区政治委員、第八兵団政治委員といわれる。

丁 振 徳 Ting Chên-tê

五五年二月熱河省人民委員會委員。

丁 振 麟 Ting Chên-lin

五四年十二月浙江農學院副院長。五五年一月浙江省人民委員。

丁 是 娥 (女) Ting Shih-ê

滬劇演員。五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問団員として北鮮に赴く。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員(中華全国民主婦

女連合会)。五六年二月民主同盟第二期中央委員会候補委員。

丁 西林 (字、巽甫、號、燮林) Ting Hsi-lin (Sun-fu, Hsieh-lin) 1893 ~

江蘇省泰興県の人。英国パーミンガム大学卒業。国立中央大学物理學助教授。二八年—四五年国立北京大学物理学教授、国立中央研究院物理研究所専任研究員兼所長。他方劇作家としても知らる。処女作は「酒後」。ほかに「一隻馬蜂」「西林独幕劇集」「妙峰山」等の劇本もある。四三年郭沫若とともにソ連科学院の招聘に応じ赴ソ。四九年十月政務院文化部副部长、文化教育委員会委員、中ソ友好協合理事。五一年十月中印友好協会会長。同月訪印文化代表団团长。五三年九月—五六年九月当時中華全国科学技術普及協会副主席。五三年十二月中印友好協会代表団团长として再度訪印。五四年五月中国人民对外文化協会副会長兼常務理事。八月第一期全国人民代表大会江蘇省代表。九月同大会第一次會議提案審査委員会委員。十一月國務院文化部副部长。同月当時中国文字改革委員会常務委員。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(無党派民主人士)。同月中ソ友好協会第二次全国代表会代表(中華全国科学技術普及協会)、同協会総会第二期理事會理事。五五年二月首席代表として中共・ブルガリア文化協力協定五五年執行計画に署名。三月アジア諸国会議出席代表団員。同月アジア諸国会議中国準備委員会委員。七月全国人民代表大会第二次會議提案審査委員会委員。八月—九月ヴィエトナム訪問芸術代表団团长。十一月ヴィエトナム一級労働勲章。十二月北京図書館長。五六年一月中共・ハンガリア文化協力協

五六年十月國務院水利部部长助理。

丁 兆 冠 Ting Chao-kuan 1908 ~

四川省成都の人。成都中学卒業後中共に入党、江西ソヴィエト地区に入り、西遷中共軍四川通過の際部隊より離れ、四川、貴州辺境地区政治工作に従事し、延安共産党校卒業後、八路軍政治工作に携わり、団、師、軍の政治委員、兵団の副政治委員、ついで援朝志願軍に従軍、陳賡指揮の第四兵団副政治委員兼政治部主任を歴任したといわれる。五三年一月西南軍政委員会委員解任。五四年九月同委員会人民監察委員解任。

丁 超 五 Ting Chao-wu

福建省邵武県の人。前清の秀才。民国初期の衆議院議員、国民党福建省党部主任委員、福建省参議會議長を歴任。中共に同調後中国国民党革命委員会中央委員兼上海市分部準備委員会召集人。五〇年一月—五三年一月華東軍政委員会委員。五二年十一月福建省人民政府副主席。五三年一月華東行政委員会委員。五四年六月まで華東軍政委員会人民監察委員会委員。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(中国国民党革命委員会)。五五年二月福建省副省长。五六年二月国民党革命委員会第三期中央委員。

丁 廷 馨 Ting Ting-hsing

五五年二月河北省人民委員会委員。

丁 冬 放 Ting Tung-fang

定五六年執行計画に署名。二月中国垂洲團結委員会委員。同月中央標準語普及工作委員会委員。六月全国人民代表大会第三次會議提案審査委員会委員。

丁 聲 樹 Ting Sheng-shu

五五年六月中国科学院哲学社会科学学部委員。五六年二月中央標準語普及工作委員会委員。

丁 聰 Ting Tsung

安徽省の人。現在四六歳位。美術家。五三年三月中華全国青年第二次代表大会準備委員。六月中華全国民主青年連合總會副秘書長兼常務委員。七月ブカレストにて開催の第三回世界青年代表大会および第四回世界青年と学生平和友誼懇親節に出席の中共青年代表団副秘書長。五四年八月世界民主青年連盟理事會北京會議中共代表団列席代表。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(中華全国民主青年連合会)。

丁 乃 光 Ting Nai-kuang

五五年三月國務院秘書厅副主任。

丁 丹 Ting Tan

五三年十月当時中共駐ソ連大使館参事官。

丁 仲 文 Ting Chung-wèn

山東省青島の人。現在四一歳位。燕京大学経済科卒業。二九歳の頃中共に加入。中国銀行瀋陽支店員、人民銀行東北区副行長を経て、五四年九月まで東北経済計画委員会常務委員。五五年十一月中国人銀行行長助理。

丁 道 衡 Ting Tao-héng

貴州省の人。現在五一歳位。地質学者。中国地学会出版の研究に「新疆礦産誌略」あり、また西北科学考察団研究報告に「蒙古白雲鄂博鉄礦之研究」、「綏遠哈拉托落皆下白堊紀之沈積」、「綏遠西部新種恐之蠟發現」、「拜城楚克塔什鳥拉期幾種珊瑚化石」など。九三学社中央委員。貴州大学校務委員会主任。四九年末—五三年一月西南軍政委員会委員。四九年末—五四年九月西南軍政委員会文化教育委員会副主任。五三年一月西南行政委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。

丁 波 Ting Po

五三年八月当時広州市文学芸術界連合会準備会副主任。五五年八月—十月当時広州市文化局局长。

丁 馬 成 Ting Ma-Chéng (Teng Mah-seng)

1916 ~

福建省の人。シンガポール在住華僑。ゴム、米穀業激成公司、瑞記公司经营。五六年七月シンガポール工商業貿易視察団員として日本ついで中共を訪問。

丁伯文 Ting Po-wên

江蘇省の人。かつて蘇東中学董事。現在メダン新中華日報社長、中国国民党駐メダン直屬支部委員。メダン三山中学董事。

丁福珍(女) Ting Fu-chên 1934 ~

五五年十、十一月の間中共見本市代表团工作員として来日。当時労働模範、新民主主義青年団員、上海国営棉紡一二廠細番手綿糸紡績女工。

丁曼君 Ting Man-chün

五四年十一月最高人民檢察院検査員。

丁里 Ting Li

江蘇省の人。現在三九歳位。上海大学に学ぶ。元華北軍区司令部政治部文化部長。五三年十月中国文学芸術界連合会第二期全国委員会委員。五四年五月中国人民对外文化協会常務理事。五六年四月全国話劇会公演で「冲破黎明前的黑暗」により一等導演賞。

丁履德 Ting Li-tê

五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。十二月山東工学院院长。

丁玲(女) (本名蔣樟文、冰之) Ting Ling

(Chiang Wei-wên, Ping-chih) 1907 ~

定吉活佛 Ting-chi-huo-fo

西藏族。五六年四月当時西藏自治区準備委員会全体委員。

邱作之 Ti Tso-chih

五三年五月当時政務院労働部労働保護司副司長。

程希孟 Chêng Hsi-mêng

五六年十二月当時中国国際貿易促進委員会經濟研究室主任。

程其興 Chêng Chi-hsing

五四年三月当時政務院第一機械工業部供応局代理局長。

程硯秋(菊儂) Chêng Yèn-chiu (Chü-nung) 1904 ~

梅蘭芳と並ぶ京劇の名優。字は菊儂、号は玉霜、主と改めた。硯秋は艶秋とも書く。前清正黄旗人宰相英和の後裔、伶人によって歌伎を習い、四大名旦(四大女形)の一人となった。三二年中国戯曲音楽院副院長の資格でヨーロッパの演劇視察、ゼノアで新教育會議に出席「荒山派」の一段を歌って西洋人に感銘をあたえたといわれる。四九年以後華北文化工作委員會で旧劇の改良に尽力。九月政治協商會議特別招請代表。五三年十月中国文学芸術界連合会第二期全国委員会委員、同月中国人民第三回訪鮮慰問団第一総分団副団長。五四年八月第一期全国人民代表大会河北省代表。十二月中ソ友好協

湖南省臨澧県の人。作家。夫の胡也頻が国府側に殺害されて間もなく、三〇年上海で逮捕。出獄後ソヴェト地区に入り、延安紅軍大学で中国文学を講じ、また「二万五千華里の長征記」の編纂主任。日華事変中八路軍の従軍秘書となり西北服務団を組織。作品は「莎非史女士の日記」「在黑暗中」「韋護」「水」「母親」「震村にて」など。終戦後中共軍の張家口占領とともに同地に入り、その後一時ハルビンに居住。四九年十月中央政府文化教育委員会委員。中央文学研究所主任。世界平和擁護委員会委員。五一年ブダペストで開催の世界婦人民主連盟大会に中共地区を代表、蔡暢、張翠秋、韓幽桐とともに出席。パリ平和大会には中華全国民主婦女連合会代表として李德全等とともに出席。土地改革を扱った「太陽は桑乾河を照す」で五二年度スターリン賞。五三年四月中国第二回全国婦人代表大会主席団員。同月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。八月当時中華全国文学工作者協会副主席。十月中国文学芸術界連合会第二期全国委員会主席団員。同月中国作家協会理事會副主席。五四年五月中国人民对外文化協会理事、当時人民保衛兒童全国委員会主催の全国兒童文芸創作評選委員会委員。八月第一期全国人民代表大会山東省代表。十二月第二次全ソ作家代表大会参加のため中国作家協会代表团員としてモスクワ訪問。同月中ソ友好協会総会第二回理事會理事。五五年三月当時アジア諸国会議中国準備委員会委員。

廷楸 Ting Mao

五五年八月当時人民解放軍内蒙古軍区副政治委員。

会第二次全国代表会代表。五五年四月当時中国戯曲研究院副院長。五六年十一月—五七年一月全国人民代表大会代表团員としてソ連および東欧諸国を訪問。

程孝剛 Chêng Hsiao-kang

五四年七月第一期全国人民代表大会江西省代表。五五年六月中国科学院技術科学学部委員。

程宏毅 Chêng Hung-i 1915 ~

山西省孟県出身。天津南開大学卒業。晋察冀辺区晋東北主任公署秘書科長、辺区抗戦建国学院校務主任、第四專署專員、辺区政府秘書長、中共陽泉市委員會書記兼陽泉市市長、四九年北京市人民政府委員会委員、同財政經濟委員会副主任兼秘書長を歴任。五五年二月北京市副市長。

程浩飛 Chêng Hao-fei

五五年十一月当時國務院文化部辦公厅副主任。

程士範 Chêng Shih-fan

五四年八月第一期全国人民代表大会安徽省代表。

程子華 Chêng Tzu-hua 1907 ~

山西省解県の中農兼商人の家に生る。太原の国民師範学校に入り二六年中共に入党。国共合作時代に広東の張發奎指揮下の学生軍に

入隊し、二七年十二月教導団員として広州暴動に参加。暴動失敗後海陸豊に逃れ、ソウイェト工作を続け、後また山西に逃る。山西で国府軍岳維峻部隊の小隊長、後第一五独立旅に服務、湖北紅軍討伐に派遣さる。二九年十二月二箇中隊を率いて大冶附近で暴動を起し紅軍に寝返る。三一年江西ソウイェト区に至り、紅軍第三五軍の團長。三二年紅軍第四一師師長。三四年代表の資格で鄂豫皖ソウイェト区に入り、三五年徐海東の第一五軍団の政治委員。日華事変中聶榮臻の晋察冀軍区軍の政治委員。四五年中共七全大会で候補中央委員。四九年山西省人民政府主席、中共山西省委員会書記、山西軍区司令員兼政治委員。五〇年十二月合作社連合總社代理主任。朝鮮事變の際、北鮮で五九軍、六一軍、六二軍の三個軍団を指揮したといわれる。五三年二月中央選挙委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。九月同大会常務委員会委員兼予算委員会委員。十二月中ソ友好協會第二次全国代表大会代表（中華全国供銷合作社）。五六年三月全国先進生産者代表会議準備委員。四月同代表會議主席団団員。九月中共第八期中央委員会中央委員。

程子健 Cheng Tzu-chien

旧西康省の人。現在四九歳位。中共中央西南局統一戦線工作部副部长。西南軍政委員会委員。五三年一月西南行政委員会委員、同土地改革委員会委員。五月当時同民族事務委員会副主任。五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。五五年一月政治協商會議第一期四川省委員会副主席。

程潜 (頌軍) Cheng Chien (Sung-yün) 1881~

湖南省醴陵県の人。八年日本陸軍士官学校砲兵科卒業。中華民國成立後湖南督軍公署軍務司長、湖南護路司令。二〇年広東軍政府陸軍部次長。二三年広東孫文大本營軍政部長。同年陳炯明と交戦し行營參謀長。二八年湖南省政府主席。三五年一三七年參謀總長。三七年一三九年河南省政府主席。三九年一四〇年天水行營主任。四〇年一四四年軍事委員会委員。四四年十二月同委員会主任委員。四八年五月憲政民主促進会（後国民党革命委員会と合流）を組織。六月華中特別掃共總司令兼湖南省主席兼治安主任。四九年八月中央に寝返り、十月中央人民政府委員、人民革命軍軍事委員会副主席、当時湖南省人民政府主席。五三年一月憲法起草委員会委員。同月中南行政委員会副主席。五四年八月第一期全国人民代表大会湖南省代表。九月同大会第一次會議主席団団員、同大会常務委員、国防委員会副主席。十二月政治協商會議第二期全国委員会常務委員。同月中ソ友好協會總會第二期副会長。五五年二月湖南省省長。七月全国人民代表大会第二次會議主席団団員。同月各団議會連盟参加の人民代表団副主席。九月一級解放勳章。五六年二月国民党革命委員会第三期中央委員。三月同副主席。三月一四月スエーデン世界平和理事会特別會議中共代表団団員（特別招請代表）。六月全国人民代表大会第三次會議主席団団員。十一月一五七年一月全国人民代表大会代表団副団長としてソ連および東欧諸国を訪問。

程之平 Cheng Chih-ping
五四年五月当時政務院外交部情報司副司長。五五年九月中共駐ビルマ大使館文化參事官。五六年四月当時同大使館臨時代辦。

程照軒 Cheng Chao-hsian
五四年六月まで華東軍政委員会財政經濟委員会委員。五五年十二月当時國務院農業部經濟作物生産總局局長。五六年十月農業部部長助理。

程薪 Cheng Hsin
五五年一月黒龍江省人民委員会委員。

程星齡 Cheng Hsing-ling
湖南省醴陵県の人。現在五三歳位。湖南第一師範をへて、北京大學卒業。三三年頃陳儀福建省主席の下で勤務、ついで劉建緒の下で勤務、後台湾でCC団に睨まれ三年間監禁、四九年秋台湾から長沙に移り、長沙叛變の工作者の一人になったといわれる。同年湖南省人民政府副主席、中央人民政府政務院參事。五二年八月中南軍政委員会政治法律委員会委員兼任。五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問団第五總分団副団長として北鮮訪問。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員（特別招請人士）。五五年二月湖南省副省長。五六年二月国民党革命委員会第三期中央委員。

程滄波 Cheng Tsang-po 1903 ~

江蘇省の人。復旦大学卒。ロンドン經濟學院研究生。二七年一二年上海「チャイナ・タイムス」編集長。二九年上海弁護士会員。三〇年一四〇年「中央日報」社長。三一年一四〇年立法委員。三八年一四〇年復旦大学新聞學院長。四〇年一四五年監察院秘書長。四二年一四四年国民党宣傳部次長。四四年「世界日報」編集長。四五年一四七年監察院江蘇監察使。四六年国民党代表。四六年一四九年上海「新聞報」発行人。四八年ジュネーヴ「報道の自由」會議国府代表。四八年立法委員。

程大荒 Cheng Ta-huang
五五年十二月当時中共遼源市委員会書記。

程坦 Cheng Tan
五三年十月当時中共湖北省委員会第二副書記。

程忠順 Cheng Chung-shun
五三年三月当時人民解放軍の団長。

程天放 Cheng Tien-fang 1899 ~
江西省新建の人。復旦大学卒業後渡米。二三年米イリノイ大学および二六年加トロント大学卒業。二七年江西省政府委員兼教育庁長。二七年一二九年中央大学教授、国民党考試院參事。二九年安徽大学

教授。二九年—三一年同省政府委員兼教育庁長、第三次国民党中央執行委員、中央党部宣傳部副部長。三〇年安徽省政府主席代理。二九年—三一年陸海軍總司令行營黨政委員會委員。二九年—三六年国民党中央執行委員會候補委員。三二年—三五年国立浙江大学總長。三三年—三四年江西省政府秘書長。三四年—三五年中央政治學校部長。三五年—三八年駐独大使。三九年—四二年国立四川大学總長、国民党政務委員。三六年—四三年国民党中央監察委員會委員。三六年—五〇年国民党中央監察委員會常務委員。四三年—四六年中央政治學校副校長、国防最高委員會常務委員。四五年—四六年および五一年パリのユネスコ本部駐在中国代表。四九年国連總會中国代表。四九年—五〇年中央宣傳部長。四八年—五〇年立法委員。五〇年—五四年行政院教育部長。著書「改革中国学校教育芻議」。五六年當時中央政治學校教授。

程秉文 Chêng Ping-wên

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員（江蘇省）。

程復新 Chêng Fu-hsin

五五年一月四川省人民委員會委員。

程慕灝 Chêng Mu-hao

五四年十一月當時中国銀行董事。五六年三月當時香港交通銀行經理。同月政治協商會議廣東省第一期委員會常務委員。

代表して調印。五五年一月當時駐パキスタン大使館臨時代辦。五六年五月中共駐デンマーク大使。

鄭維山 Chêng Wei-shan 1914 ~

湖北省麻城縣の人。二九年中共軍に入隊。後紅軍大学卒業。団級政治委員をへて、四二年晋察冀軍区第三〇团团長。四三年同軍区第四軍分区司令員。四五年十月張家口衛戍司令員。四六年張家口市参議會参議員。後旅長として国共戦参加。四八年晋察冀解放軍察哈爾軍区司令員。四九年人民解放軍華北兵团第六三軍軍長。五五年九月一級八一勳章および一級解放勳章。五六年二月當時京津衛戍副司令員、解放軍中將。

鄭芸(女) Chêng Yin

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員會委員（中華全国民主婦女連合会）。五五年二月北京市人民委員會委員。

鄭英(女) Chêng Ying

五四年六月西康省人民政府委員。當時西康省民主婦女連合会主任。五五年一月—九月西康省人民委員會委員。

鄭榮凱 Chêng Jung-kai

広東省中山縣の人。パナマ在住華僑。雜貨店主。国民党支部執行委員、抗日救国会主席、国民大会代表等を歴任。

鄭恩綬 Chêng En-shou

程明陞 Chêng Ming-shêng

五三年十月—五五年一月當時中央燃料工業部電業管理總局局長。五五年一月燃料工業部部長助理。八月電力工業部部長助理。五六年六月電機工程学会準備委員會副主任委員。五六年十二月西安動力学院院长。

鄭位三 Chêng Wei-san

三二年頃紅軍第七軍李昭瑞指揮下の第二七師長となり、江西、湖南省境附近で遊撃。三四年瑞金ソヴェト政府第二次全国代表大会中央執行委員。日華事变中は新四軍第二師政治委員。四五年中共七全大会で中央委員。四九年九月中共代表の一員として政治協商會議に出席。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員會委員（農民）、同會議第二期全国委員會常務委員。五六年九月中共第八期中央委員會中央委員。

鄭依姆 Chêng I-mu

五四年八月第一期全国人民代表大会福建省福州市代表。五五年二月福建省第一期人民代表大会第二次會議に全国人民代表大会代表として列席。五六年五月當時農業労働模範。

鄭爲之 Chêng Wei-chih

五二年六月中共駐パキスタン大使館参事官。五三年三月カラチで「中国パキスタン棉花取決」および「两国石炭契約書」に中共側を表。

五六年六月當時中ソ朝越四国漁業研究會議中央政府代表团全体代表。

鄭介民 Chêng Chieh-min (Kai-min) 1899 ~

広東省瓊崖文昌縣の人。二五年黄埔軍官学校卒業。二八年モスクワ中山大学卒業。三四年幹部学校卒業。四〇年陸軍大学卒業。四四年—四六年軍事委員會参謀部第二庁庁長。その後軍事委員會調査統計局長。四六年一月国共停戦協定軍事調処執行部国民政府側代表。四六年—四七年国防部第二庁長。四六年—四七年北京行營政府委員。四七年—五〇年国防部次長。五〇年—五二年参謀次長。五二年以来戰略顧問委員會委員。国防部大陸工作処処長。五四年国家保安局長。著書「軍事情報の研究」「ゲリラ戦の研究」

鄭學稼 Chêng Hsueh-chia 1906 ~

福建省の人。二九年国立中央大学卒業。三五年—四四年復旦大学教授。四五年—四八年国立暨南大学教授。四九年以降国立台湾大学教授。著書「マインシャルの經濟理論」「ボトム・パウエルクの經濟理論」。

鄭漢濤 Chêng Han-tao

五五年一月国務院第二機械工業部部長助理。

鄭久鴻 Chêng Chiu-hung

五四年八月第一期全国人民代表大会安徽省代表。

鄭玉麗(女) Chêng Yü-li (Teng Yü-lih) 1921~
台湾省の人。台北第三高等女学校卒業。台湾婦女協会、台北婦女協会常任委員。国民党婦女運動委員会委員。中華婦女反共抗ソ連合会員。自由中国救済会長。国民大会代表。倍英幼稚園管理者。

鄭奎福 Chêng kui-fu

朝鮮族。五四年八月第一期全国人民代表大会遼寧省代表。

鄭彦棻 Chêng Yèn-fên 1902 ~

広東省順徳県の人。広東高等師範卒業。二五年フランス留学、パリ大学研究員。その後ジュネーブ国際連盟事務局勤務七年。三五年一三七年国立中山大学法学部教授兼部長。三八年一四七年国際侵略防止運動中国支部執行員。四〇年一四三年広東省政府委員兼秘書長。四六年一四七年三民主義青年団秘書長代理。四七年アジア関係問題会議首席代表。四五年一四八年国民党中央執行委員会常務委員。四八年六月国民党執行委員会秘書長代理。四九年一五〇年同秘書長。五〇年一五二年国民党中央改造委員、立法委員、国民党海外部代理部長。五二年行政院僑務委員會委員。著書「限制麻醉藥品製造的統計諸問題」(フランス語)「合作教育論」「怎樣才能使機關學校化」「青年与訓練」「省政五論」「從制憲到行憲」「地方自治論文集」「海外僑胞的動向与路向」。

鄭衡平 Chêng Hêng-ping

五五年三月國務院人事局副局長。

中長鐵路蘇家屯機務段先進工人。「超過牽引五〇〇キロ・メートル作業法」を案出。五三年三月当時東北地区工業労働模範。五四年二月当時全国工業労働模範、東北工業学院附属工農速成中学在学中。五四年八月第一期全国人民代表大会瀋陽市代表。

鄭錫昌 Chêng Hsi-san

五四年八月中国キリスト教三自愛国運動委員会常務委員。五五年七月当時天津市キリスト教三自愛国運動委員会主任。

鄭樹顛 Chêng Shu-yung (Tay Soo-yong) 1916~

シンガポール生れ。原籍福建省金門県。シンガポール在住華僑。南京中央大学中途退学。シンガポール民間経営最大のバス会社といわれる鄭古悦公共汽車公司総理。シンガポール・バス車主公会会長、実業有限公司董事、大華糧食廠有限公司董事。

鄭汝燊(君烈) Chêng Ju-shên (Chün-leh)

広東省中山県の人。ホノルル在住華僑。ホノルル平民学校校長、中山中学校主任、中華総商會副会長、檀山永生和有限公司、実地美路有限公司の副支配人。中米銀行董事、致公党ハワイ総支部副主席等を歴任。

鄭紹文 Chêng Shao-wên

四川省の人。現在四七歳位。ソ連留学。最高人民法院中南分院院長。五二年八月一五三年一月中南軍政委員会委員兼政治法律委員会

鄭剛 Chêng Kang

五三年七月当時中共雲南省保山(永昌)地方委員会書記。五六年五月当時中共雲南省宏徳自治州委員会書記。

鄭子政 Chêng Tzu-chêng (Kenneth T. C.)

1904 ~

江蘇省の人。氣象学者。三九年米マサチューセツ工科大学卒業。四一年一四五年中央研究院研究員。四五年一四六年上海氣象台長。四六年一四八年上海氣象局長。四八年一五〇年民間航空隊氣象局長。五一年行政院中央氣象局局長。

鄭志春 Chêng Chih-chun (The Tji-tjoen)

福建省福清県の人。バンドン在住華僑。現在中国国民党駐バンドン直屬支部常務委員、バンドン中華会館学校董事長、バンドン中華商會理事長、錦星金鋪総理、七星染織廠総理、国府僑務委員会委員。

鄭思羣 Chêng Sau-chün

もと西南人民革命大学教育長。五三年十二月重慶大学副校長。五四年九月まで西南軍政委員会文化教育委員会委員。五六年七月重慶大学校長。

鄭錫坤 Chêng Hsi-kun

委員、民政部部長。五三年一月中南行政委員会委員。五四年二月当時人民解放軍慰問代表團第五總分団(中南)副団長。八月第一期全国人民代表大会武漢市代表。九月政務院司法部副部長に補充。十一月國務院司法部副部長。

鄭湘輝 Chêng Hsiang-hui

五五年七月当時重慶市人民代表大会代表。

鄭振鐸(號、西諦) Chêng Chên-tuo (Hsi-ti)

1897 ~

福建省長楽の人。交通大学卒業。ロンドン大学留学。多年商務印書館で編集に従事、魯迅、葉紹鈞、沈雁冰らとともに「文学研究会」の主要メンバー。北平、燕京、清華各大学教授兼任。日華事変中上海の暨南大学教授。「小説月報」「文学」「文学季刊」等の編集者。随筆「句讀集」「山中雜記」、學術著作に「文学大綱」「插图本中国文学史」「中国文学論集」等。四九年三月北平で開催のパリ世界平和大会代表派遣準備大会に参加。六月政治協商會議準備會文化界代表。九月同會議全国委員会委員。十月政務院文化部文物局局長。五一年十月インド、ビルマ訪問文化代表団員。五三年一月一五六年一月当時中国ビルマ友好協会会長。五三年十月当時北京大学文学研究所長。同月中国作家協合理事、中国文学芸術界連合會第二期全国委員会主席団委員。十一月ウィーン世界平和理事会特別招請代表。五四年五月人民対外文化協會常務理事。当時政務院文化部社会文化事業管理局局長。六月政務院文化部副部長。八月第一期全

国人民代表大会江蘇省代表。九月同大会資格審査委員会委員。十一月國務院文化部副部長に再任。十二月訪印文化代表団団長。同月政治協商會議第二期全国委員会委員（対外平和友好団体）。五年五月中国科学院哲学社会科学学部委員。六月インドネシア訪問文化代表団団長。五年二月中国亜洲團結委員会委員。同月当時科学院考古学研究所所長。

鄭 振 文 (則愈、鐸宣) Chéng Chên-wén (Tsé-yü, Tuo-hstian) 1898 ~

広東省潮陽県の人。シンガポール在住華僑。二年上海同済大学を中途退学しドイツに留学、フランクフルト、ベルリン、ライプチヒ等の大学で礦物学、地質学を研究。二年ライプチヒ大学の自然科学博士号。三〇年欧洲各国を視察。三年広東中山大学礦物学教授兼理学院師範部主任。三年国民政府国防最高委員会参事、中央賑濟委員会委員、国民参政会参政員、制憲国民大会代表。四年五月行政院政務委員として張群内閣に入閣。四年翁文灝内閣に留任したが、同年七月辭職し、シンガポールに渡り、長兄鄭士則の経営する鄭綿堯酒廠の幹部となる。

鄭 森 田 Chéng Sên-yü

五年四月当時在モスクワ世界人民平和大会国際委員会委員。六月ブダペスト世界平和理事会特別招請代表。十一月ウィーン世界平和理事会特別招請代表。五年三月アジア諸国会議のニエーデーリにおける国際準備事務局に中共代表として参加、同会議出席中共代表

鄭 長 蕙 Chéng Chang-hua

五年六月当時中国人民志願軍二級英雄、一等功臣。五年六月一五年三月当時空軍二級戰鬥英雄。五年八月第一期全国人民代表大会人民解放軍空軍代表。

鄭 長 勤 Chéng Chang-chin

五六年六月当時広東省韶關市長。

鄭 通 和 (西谷) Chéng Tung-hé (Hsi-ku) 1897 ~

安徽省舒城縣の人。二三年南開大学卒業。二四年米スタンフォード大学卒業。二五年コロンビア大学卒業。上海特別市政府教育局科長。二六年一三六年大夏大学教授主任、中国公学吳淞中国公学および復旦大学教育学教授、暨南大学教育学教授。二七年一三八年江蘇省立上海中学校長。三八年一四六年甘肅省政府委員兼教育庁長。四七年一四九年国民党青年部副部長。四九年一五〇年台湾大学教授。五〇年一五四年行政院教育部次長。五四年正中書局編集長。

鄭 鐵 如 Chéng Tié-ju

五四年十一月当時中国銀行(中共側)董事。

鄭 天 錫 Chéng Tien-hsi (Cheng F. T.) 1884 ~

広東省中山縣の人。二年ロンドン大学出身。法学博士。一六年ロンドンにおいて弁護士免許を獲得。一八年法律編纂委員会編纂

表団団員。六月ヘルシンキ世界平和大会中共代表団団員。八月広島における原爆禁止世界大会の隠秘書として来日。九月当時中国人民世界平和擁護委員会委員。十月当時同委員会連絡部副部長。五六年二月中国亜洲團結委員会副秘書長。

鄭 震 宇 Chéng Chên-yü 1900 ~

河南省の人。国立北京師範大学卒業。二三年同大学教授。三二年一四〇年内政部方域司長。四〇年一四二年甘肅省民政処長。四二年一四七年地政管理局長。四八年立法委員。

鄭 仁 Chéng Jen

五年十一月当時塩業工会工作委员会主任。五六年三月当時全国先進生産者代表會議準備委員会委員。四月同會議主席団団員。

鄭 善 政 Chéng Shan-chéng 1902 ~

福建省の人。厦門大学卒業。二七年一三三年福建省政府教育庁調査員。三七年一三八年国民党海外部および党務委員会委員。四九年行政院僑務委員会第二部長。

鄭 代 蔚 Chéng Tai-wei

五六年九月中共駐カンボディア經濟使節団団員。

鄭 拓 彬 Chéng Tuo-pin

五年五月当時政務院対外貿易部第一局出口(輸出)科副科長。

主任。一九年大理院判事。二〇年司法試験委員。二二年ワシントン會議中国代表団専門委員、関稅特別會議の中国専門委員、法權調査委員会準備処長、國際法權委員会代表代理、國務院商標局法律顧問。二八年上海東吳大学法学院教授。三二年国民政府改組により司法行政部常務次長。三二年同政務次長。三二年一三四年司法行政次長。三五年ロンドンにおける中国芸術國際展覽會の特派委員。三六年一四五年王寵惠の後をうけて國際司法裁判所判事。四五年司法行政部次長。四六年一四九年顧維鈞の後をうけて駐英大使。著書「行為能力に關する國際私法」「東と西」。

鄭 天 翔 Chéng Tien-hsiang

五年二月北京市人民委員会委員。五年九月一十一月当時中共北京市委員会副書記。

鄭 天 保 Chéng Tien-pao

広州華僑事務委員会副主任といわれる。五四年一月当時中国致公党華南總支部主任。七月当時広東省人民政府交際処処長。八月第一期全国人民代表大会広州市代表。五五年十月当時広東省人民委員会辦公庁副主任。五六年四月中国致公党中央委員会秘書長。

鄭 洞 國 Chéng Tung-kuo 1902 ~

湖南省石門縣の人。二四年黄埔軍官学校第一期卒業生。四三年一四四年新編第一軍軍長。四四年ビルマ、インド派遣軍副司令官。四六年東北行營副主任。四八年八月東北掃共副司令。十月長春で林彪軍

に投降捕虜。五四年九月國務院國防委員會委員。

鄭 德 昌 Chêng Tè-chang

五六年二月當時中共駐外蒙臨時代理大使。

鄭 敦 Chêng Tun

五四年八月第一期全國人民代表大會雲南省代表。

鄭 南 涓 Chêng Nan-wei (Chêng, Stanway N.W.)

1914 ~

浙江省の人。三七年米ズリー大学卒業。三七年—四三年情報部
國際宣傳局編集記者。四五年在華米國大使館情報部編纂員。四九年
—五〇年A.P.通信員。五〇年I.N.S.通信員。五一年—五
二年自由アジア協會通信員。四九年以降英文 China News の社長
兼編集長。

鄭 伯 克 Chêng Po-ke

四川省の人。五一年西南軍政委員會委員兼土地改革委員會委員。
五三年一月西南行政委員會委員。五五年二月雲南省人民委員會委
員。

鄭 伯 川 Chêng Po-chuan

五五年三月安徽省人民委員會委員。

鄭 野 夫 Chêng Yeh-fu

五五年一月當時中國美術家協會理事兼副秘書長。

鄭 立 齋 Chêng Li-chai

五三年十一月全國工商業聯合會執行委員。五四年八月第一期全國
人民代表大會甘肅省代表。五六年十二月全國工商業聯合會第二期執
行委員(甘肅省)。

鄭 林 Chêng Lin

五五年二月山西省副省長。

狄 景 襄 Ti Ching-hsiang

五〇年當時西北軍政委員會財政經濟委員會委員。五四年八月中央
人民政府國家計畫委員會委員に補充。當時西北行政委員會財政經濟
委員會副主任。十一月國務院輕工業部副部長。五六年二月中共ハ
ンガリア科学技術協力連合會議定書に署名。

狄 子 才 Ti Tzu-tsai

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(中華全國總工
會)。

狄 超 白 Ti Chao-pai

經濟學者。北京大學經濟學教授。「通俗經濟學講話」の著者。五

鄭 品 聰 Chêng Pin-tsung (Chien-hou) 1901 ~

福建省龍岩の人。二三年廈門にて國民黨に入黨反日運動に投ず。
その後渡台、二八年台東中華會館を組織。三一年海南島墾殖公司を
組織。四五年台湾花蓮、台東兩県の接収に従事、青年団花蓮支部
幹事長。四六年台湾省參議會參議員。四七年國民大會代表。同年立
法委員。四九年國民黨台湾省執行委員會委員。五〇年同台北市執行
委員會書記長。五一年—五二年同台北市改造委員會主任委員。

鄭 文 華 Chêng Wên-hua

五五年一月太原工學院副院長。二月山西省人民委員會委員。五六
年二月民主同盟第二期中央委員會候補委員。

鄭 辟 疆 Chêng Pi-chiang

五四年八月第一期全國人民代表大會江蘇省代表。十月當時江蘇蚕
桑學校校長。五五年二月江蘇省人民委員會委員。

鄭 萬 鈞 Chêng Wan-chün

五四年十二月南京林學院副院長。五五年六月中国科学院生物學地
學學部委員。

鄭 夢 麟 (鄭夢麟) Chêng Meng-lin

五三年十一月全國工商業聯合會執行委員。五六年十二月全國工商
業聯合會第二期執行委員(四川省)。

一年當時政務院財政經濟委員會中央財政經濟計劃局統計処処長。五
四年四月當時中ソ友好協會ソ連メンバー參觀團團員。八月第一期全
國人民代表大會湖南省代表。五五年一月科學者代表團團員としてイ
ンド訪問。五月中国科学院哲学社会科学學部委員。六月同學部常務
委員會委員。十月當時中國ヒルマ友好協會理事。

狄 膺 Ti Ying (Yin Diffoutine) 1896 ~

江蘇省の人。国立北京大学卒業。リヨン大学に留学。四二年—四
五年國民黨中央執行委員會副秘書長。四五年—五〇年同監察委員會
秘書長。五一年—五六年當時立法委員。

翟 永 保 Chai Yung-pao 1929 ~

労働模範、中共黨員。昆明機床廠搪床(穿孔盤)工人。五五年十、
十一月の間中共見本市代表團工作員として来日。

翟 宗 文 Chai Tsung-wên

五五年三月安徽省人民委員會委員。

鐵 秋 Tieh Chiu

五五年二月鞍山市人民法院院長。

田 維 揚 Tien Wei-yang

元人民解放軍軍長。五二年十月中南軍政委員會建築工程副部
長。

田 一平 Tien I-ping

五四年九月まで西南軍政委員会文化教育委員会委員。十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(中國民主同盟)。五六年二月當時民主同盟第二期中央委員會委員。

田 家英 Tien Chia-ying

五五年七月「中華人民共和國」主席辦公庁副主任。

田 華 (女) Tien Hua

滿洲生れ。現在二三歳位。映画女優(「白毛女」主演)。五三年四月中華全國民主婦女連合會第二期執行委員。六月コペンハーゲンにて開催の世界婦人大會出席代表團代表。五四年八月第一期全國人民代表大會河北省代表。五五年九月全國青年社會主義建設積極分子大會主席團員。

田 間 (本名、童天鑑) Tien Chien (Tung Tien-chien)

湖北省の人。艾青と並び称せられる詩人。一四、五歳の頃、聞一多の「死水」を読んで深い感動を受けたといわれる。上海の光華大學文科を卒業、華北「解放」区で長期間政治工作に従事。その詩は音節がはっきりとし、朗誦に適し、詩形式に独自の境地をひらいたといわれる。詩集に「抗戦詩抄」「趕車伝」「戒冠秀」(長篇叙事詩)等、小説に「拍腕図」がある。聞一多は戦時中かれを「時代の鼓手」と推賞。四九年七月中華全國文學藝術界連合會委員。五三年

十月中国作家協会理事。五四年三月當時群衆歌曲評選委員。

田 漢 (壽昌、號、陳瑜、鐵瑞章) Tien Han (Shou-chang, Chên-yü, Tieh Jui-chang) 1898 ~

湖南省漢壽県の人。東京高等師範學校に学ぶ。中華書局編集。暨南、復旦各大学の戲劇教授。南国芸術學院院長。國民政府軍事委員會總政治部第三庁宣伝科長。三七年日華事變發生後、大いに抗日劇を書き、民族統一戦線に協力。四九年七月中華全國文學藝術界連合會常務委員。同月中華全國戲劇工作者協會主席。九月政治協商會議に参加。十月政務院文化教育委員會委員、文化部芸術事業管理局局長。五三年十月中国作家協会理事。同月中国文學藝術界連合會第二期全國委員會主席團委員および中国戲劇家協會主席。五四年三月當時群衆歌曲評選委員。五月中国人民對外文化協會理事。五四年八月第一期全國人民代表大會四川省代表。十二月中ソ友好協會第二次全國代表會代表(中国文學藝術界連合會)。

田 奇 璣 Tien Chi-chün

五五年五月中国科学院生物学地学学部委員。

田 君 亮 Tien Chün-liang

五四年八月第一期全國人民代表大會貴州省代表。五五年二月貴州省人民委員會委員。同月政治協商會議第一期貴州省委員會副主席。

田 炯 錦 (雲青) Tien Chung-chin (Yün-ching) 1899 ~

甘肅省慶陽県の人。二三年国立北京大學卒業。二七年米イリノイ大學卒業。二八年ミズリー大學に入学。帰国後東北大學教授。三一年一三六年および三八年一四六年監察委員。四六年一四八年監察院山西陝西區監察使。三六年國民大會代表。四八年一四九年考選部長。五〇年一五一年行政院政務委員。五一年三月一五四年蒙藏委員會委員長。五四年六月行政院政務委員。

田 耕 莘 Tien Kêng-hsin (Tien, Thomas Candinai) 1890 ~

山東省の人。米マンハッタン・カレッジ名譽法學博士。四五年北平大司教。四六年ローマ法皇より枢機卿を命ぜらる。五六年當時滯米中。

田 鴻 賓 Tien Hung-pin

五六年十一月西北工学院院長解任。同月西安動力学院副院長。

田 錫 富 Tien Hsi-fu

五四年六月まで松江省人民政府委員。五五年二月吉林省人民委員會委員。

田 秀 涓 (女) Tien Hsiu-chüan

四九年四月中華全國民主婦女連合會執行委員。同會華北區工作委

員会主任。五三年三月當時同會華北區婦女工作委員會主席。四月第二期全國婦人代表大會主席團團員。同月全國民主婦女連合會第二期常務委員。五四年八月第一期全國人民代表大會河北省代表。五五年一月當時全國民主婦女連合會婦女兒童福利部部长。

田 新 丹 Tien Hsin-tan

中国國際貿易促進委員會科長。五五年十、十一月の間中共見本市代表團工作員として来日。

田 綏 祥 Tien Sui-hsiang

五五年八月一五六年四月當時國務院對外貿易部交際處副處長。

田 星 雲 Tien Hsing-yün

五四年六月まで中央人民政府最高人民檢察署中南分署委員。五六年七月國務院國家計量局副局長。

田 竺 僧 Tien Chu-sêng

五六年二月国民党革命委員會中央委員。

田 德 民 Tien Tê-min

五三年一月一五五年十一月當時中華全國學生連合會主席。五三年三月中華全國青年第二次代表大會準備委員會委員。六月中華全國民主青年連合會常務委員。同月中国新民主主義青年團第二期中央委員。七月ブカレストにて開催の第三回世界青年代表大會および第四

回世界青年と学生平和友好懇親節に出席の青年代表団員。五四年五月中国人民対外文化協合理事。七月学生体育代表団長としてブダペスト訪問。八月第一期全国人民代表大会河北省代表。十二月中ソ友好協会第二次全国代表会代表（中華全国学生連合会）。五六年一月中国オリンピック委員会委員。

田 富 達 Tien Fu-ta

台湾省の人。高山族。四七年十一月台湾民主自治同盟が成立すると、その理事。四九年九月台湾民主自治同盟高山族代表として政治協商会議に出席。同年末中央政府民族事務委員会委員。五四年八月当時台湾民主自治同盟中央理事。同月第一期全国人民代表大会福建省福州市代表。九月同大会民族委員会委員。十二月政治協商会議第二期全国委員会委員（台湾民主自治同盟）。五六年二月中国亜細洲団結委員会委員。

田 方 Tien Fang

満洲生れ、現在三九歳位、かつてソ連在留、延安魯迅芸術学院教授といわれる。五四年七月第八回国際映画祭に中共映画関係者代表団長としてチェコ訪問。五五年国務院文化部電影（映画）局局长。

田 方 城 Tien Fang-chêng

五六年六月当時国府駐ウエリントン総領事。

田 明 中 Tien Ming-chung

五四年十一月最高人民法院審判員。

田 猛 Tien Mêng

山東省済南の人、現在四四歳位、山東大学卒業、英国に留学、航空機械学を研究、帰国後中共に入党、五六年当時南京空軍基地司令員といわれる。

田 黎 春 Tien Li-chun

五六年十二月当時中国儀器進口公司（中共側）經理。

と

杜 毓 澐 Tu Yü-yün

五五年五月中共駐インド大使館商務參事官。五六年八月駐ネパール代表団員。

杜 聿 明 Tu Yü-ming 1893 ~

陝西省米脂の人。黄埔軍官学校第一期卒業生。戦争中第二〇〇師師長、第五軍軍長、ついで四二年ビルマ遠征中国第一軍司令。戦後龍雲を監禁した昆明事件後、東北保安司令に転じたが、東北廻廊作戦で惨敗、全軍壊滅し単身南下逃亡。淮海作戦のさい徐州で捕虜となる。五六年当時在北京。

杜 延 慶 Tu Yen-ching

長。五六年二月民主同盟第二期中央委員。

杜 國 疇 Tu Kuo-chou 1895 ~

広東省澄海県の人。タイ在住華僑。少年時代サイゴンおよび香港で商店員。一三年バンコックに移住。二八年益豊餅乾廠を創立。四九年同熙保險有限公司を創設し、その常務董事兼總經理。三六年三井洋行の招請に応じ、華商視察団を組織来日し各地の工場を視察。潮州会館理事、暹羅澄海同郷会理事長等を歴任。

杜 國 庠 (守素) Tu Kuo-hsiang (Shou-su)

広東省潮州の人。歴史学者。日本京都帝大卒業。帰国後潮州金山中学校長。長く上海、香港で左翼的文化運動に従事。林伯修、呉念慈のペンネームで「史的一元論」、プレハーンフ「文芸論」、「経済学辞典」などを訳編、出版後間もなく逮捕され、日華事変勃発とともに釈放。戦後「中国思想通史」を発表。のち香港大公報「思想与生活」欄、文匯報「新思潮」欄の主筆。四九年九月政治協商會議全国委員会委員。五〇年頃中南軍政委員会委員、広東省人民政府委員兼同政府文教庁庁長（中共黨員）。五三年八月—五五年九月当時中国人民世界平和擁護委員会広東省分会副主席。五四年八月第一期全国人民代表大会広東省代表。五五年六月中国科学院哲学社会科学学部委員。七月中国人民外交学会第三期理事。五六年二月中国亜細洲団結委員会委員。

杜 子 毅 Tu Tzu-i

陝西省の人。現在四六歳位。五三年一月当時西北总工会副主席。五月中華全国总工会第七期執行委員会主席団委員。五四年度ソ連メーデー参観代表団長、当時总工会西北工作委員会主任。六月まで西北軍政委員会土地改革委員会委員。八月第一期全国人民代表大会河南省代表。

杜 華 安 Tu Huan-an

五三年十二月青海省黄南族自治州人民政府副主席。

杜 幹 全 Tu Kan-chüan

五六年三月当時上海市人民委員会副秘書長。

杜 君 慧 (女) Tu Chün-hui

五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。四月同會議全国委員会婦女組副組長。

杜 光 垣 (毅伯) Tu Kuang-hsian (I-po) 1901 ~

国立北京大学、米コロンビア大学卒業。米国において全米中国学生會会長。中華学芸社および中国政治学会會員。国立青島大学創立準備委員、山東大学教務長を歴任。五六年当時立法委員。訳書「憲政制度之新問題」

杜 光 預 Tu Kuang-yü

五四年八月まで松江省人民政府委員。五五年一月黒龍江省副省

五四年十月当時中共駐インド大使館商務參事官。

杜子毅 Tu Tzu-i

五六年十二月当時中国礦産出口公司(中共側)副經理。

杜子才 Tu Tzu-tsai

五五年七月中国人民外交学会第三期理事。

杜思訓 Tu Su-hsin

五五年七月—十二月当時國務院建築工程部生產局副局長。

杜爾基 Tu Êrh-chi

蒙古族。五四年七月新疆博爾塔拉蒙古自治區人民政府主席。

杜者蘅 Tu Chê-hêng

旧遼西省の人。四九年八月東北人民政府委員兼農業部部長。五三年一月東北行政委員會委員兼財政經濟委員會副主任。五四年八月第一期全國人民代表大會、本溪市代表、遼寧省人民政府主席。當時中共遼寧省委員會副書記。五五年二月遼寧省省長。

杜潤生 Tu Jun-shêng

四九年中南軍政委員會土地改革委員會副主任、當時中共中央中南局秘書長。後同軍政委員會政治法律委員會委員兼任。五四年十一月國務院第七辦公室副主任。十二月政治協商會議第二期全國委員會委

員(農民)。同月中ソ友好協會第二次全國代表會代表、同協會總會第二回理事會理事。五六年三月國務院科學規劃委員會副秘書長。

杜心源 Tu Hsin-yüan

五三年十一月—五四年一月当時中共四川省委員會宣傳部長。五四年九月まで西南軍政委員會文化教育委員會委員。

杜新波 Tu Hsin-po

五三年九月天津市私營企業增產節約委員會副主任委員、當時天津市工商局長。十一月全國工商業聯合會執行委員。五六年十二月同連合會第二期執行委員(天津市)。

杜前 Tu Chien

四九年四月中国新民主主義青年團候補中央委員。五三年七月青年團第二期中央委員、當時同青年團華東工作委員會副書記。同月ブカレストにて開催の第三回世界青年代表大會および第四回世界青年と学生平和友誼親節参加の青年代表團副秘書長。五四年二月当時人民解放軍慰問代表團第四總分團(華東)副團長。五五年四月当時新民主主義青年團中央統一戰線工作部部長。八月中印友好協會理事。十二月当時全国民主青年連合會秘書長。

杜聰明 Tu Tsung-ming 1894~

台湾省の人。官立医学学校卒業。二二年京都帝国大学医学博士。米ジョンズホプキンス大学および英エジンバラ、独ハムブルグ、仏パ

主義青年團第二期中央委員。五四年一月当時人民志願軍高級將校として在平壤。

杜鵬程 Tu Pêng-chêng

作家。「保衛延安」の著者。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(中国文学芸術界連合會)。

杜本泉 Tu Pên-kao

五四年二月当時中共駐ソ大使館副武官。

涂雲菴 Tu Yün-an

五五年二月湖北省人民委員會委員。同月政治協商會議第一期湖北省委員會副主席。

涂則生 Tu Tsê-shêng

五四年六月西康省人民政府委員、當時人民解放軍西康軍区參謀長。五五年一月西康省人民委員會委員。

涂長望 Tu Chang-wang

湖北省の人。現在五〇歳。氣象学者。四九年九月中華全國自然科學工作者代表として政治協商會議に出席。五〇年八月中華全國自然科學専門学会連合會全國委員兼常務委員會副秘書長。五一年四月中国氣象学会副理事長。五一年当時人民革命軍軍事委員會氣象局局長。五二年九月九三学社中央常務委員兼秘書長。五三年九月ブダペスト

リの各大学において薬物学研究。二二年—三七年台北の官立研究所実験治療院長。二二年—三七年官立台北医学学校薬物学教授。三〇年—四七年官立台北阿片中毒患者中央病院院長。三七年—四五年台北帝国大学教授。四五年—五三年国立台湾大学薬学部部長。四六年国民大会代表、台湾省政府委員、台湾医学協會會長、台湾医学振興會長。四八年台湾化学製薬会社社長。著書「薬物学序説」

杜大公 Tu Ta-kung

五六年十二月全国工商業連合會第二期執行委員(上海市)。

杜殿英 Tu Tien-ying 1892~

山東省の人。二四年独ミュンヘン工業大学卒業。三四年—三六年同済大学部長。三九年—四六年国府資源委員會工業部長。四五年台湾機械製造会社取締役會長。五〇年—五二年同委員會副主任。

杜任之 Tu Jên-chih

五五年二月山西省人民委員會委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員會候補委員。

杜平(女) Tu Ping

江蘇省の人。現在四一歳位。西遷当時紅軍幹部。五一年十月人民志願軍政治部副主任として政治協商會議第一期全國委員會第三次會議に出席。五一年十月—五四年二月当時人民志願軍政治部副主任。五三年三月人民志願軍スターリン追悼会準備委員。七月中国新民主

の国際科学工作者協会第三回代表大会に、国際科学者協会名誉秘書、中華全国自然科学専門学会連合会副秘書長として出席。五四年八月第一期全国人民代表大会湖北省代表。九月同大会代表資格審査委員会委員。十一月国務院中央氣象局局長。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員。同月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表。五五年五月中国科学院生物学地学部委員。六月同学部常務委員。八月ジュネーブ原子力平和利用国際会議に出席。五六年四月北京で開催の世界科学工作者協会成立十周年記念会に同協会第一六期執行理事会オブザーバーとして出席。五七年二月東京で開催の国際地球観測年西太平洋地域連絡会議に出席。

都古爾扎布 Tu-ku-erh-cha-pu

蒙古族。五五年四月内蒙古自治区人民委員会委員。

吐爾遜 Tu-erh-sun

五三年六月中華全国民主青年連合会常務委員。

土登堪布 Tu-têng-kan-pu

西藏族。五四年六月当時西康省藏族自治州人民法院副院長。

土登却隱 Tu-têng-chieh-yin

西藏族。五五年三月西康省藏族自治州副州長。

土登却吉堅贊 Tu-têng-chtueh-chi-chien-tsan

西藏族。五六年四月西蔵自治区準備委員会全体委員。

土登欽饒 Tu-têng-chin-jao

西藏族。五六年四月西蔵自治区準備委員会工商処副処長。

土登降秋 Tu-têng-hsiang-chiu

西藏族。五六年四月西蔵自治区準備委員会畜牧処副処長。

土登才仁 Tu-têng-tsai-jên

西藏族。五六年四月西蔵自治区準備委員会全体委員。

土登丹達 Tu-têng-tan-ta

西藏族。五六年四月西蔵自治区準備委員会民政処処長。

刀學林 Tao Hsueh-lin

傣族。五三年一月雲南省西雙版纳傣族自治州人民政府副主席。

刀京版 Tao Ching-pan

雲南省の人。傣族。五三年七月雲南省德宏傣族景頗族自治州人民政府主席。五四年八月第一期全国人民代表大会雲南省代表。五五年二月雲南省人民委員会委員。九月新疆ウイグル自治区成立大会に参列。五六年二月中国亜細亞團結委員会委員。五月雲南省德宏傣族景頗族自治州州長。六月全国人民代表大会第三次會議主席團成員。

刀桂庭 Tao Kuei-ting

滿清族。五三年一月雲南省自治区協商委員会副主席。

刀建堂 Tao Chien-tang

傣族。五五年六月雲南省西雙版纳傣族自治州人民法院院長。

刀建民 Tao Chien-min

傣族。五五年六月雲南省西雙版纳傣族自治州人民委員会委員。

刀(刁)作謙 (字、成章、號、斐立) Tao (Tiao) Tsuo-chien
(Chêng chang, Fei-li) 1880 ~

広東省興寧県の人。香港在住。上海セントジョン大学卒業。英ケンブリッジ大学文科および法律科卒業。前清の法政科進士。翰林院編修。かつて北京「リーダー」、北平英文「デーリー・ニューズ」を創刊。欧州留学生の監督、北京清華学校理事長、国内各大学教授、二二年駐パナマ公使等を経て、香港セント・マルコ中学校長、崇正總會監事。

刀治國 Tao Chih-kuo

傣族。五五年六月雲南省西雙版纳傣族自治州副州長。

刀承宗 Tao Chêng-tsung

傣族。五三年一月雲南省西雙版纳傣族自治州人民政府副主席。五

五年六月雲南省西雙版纳傣族自治州副州長。

刀承忠 Tao Chêng-chung

傣族。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(少数民族)。

刀(刁)沿芬 Tao (Tiao) Chao-fên

五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(広東省)。

刀正綱 Tao Chêng-kang

傣族。五三年一月雲南省西雙版纳傣族自治州人民政府委員。

刀棟庭 Tao Tung-ting

傣族。五五年六月雲南省西雙版纳傣族自治州副州長。十月当時雲南省各民族參觀団团长。五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

刀有良 Tao Yu-liang

雲南省の人。傣族。雲南ビルマ国境の土豪で、五二年当時中共滇辺靖撫委員会委員といわれる。五三年一月雲南省西雙版纳傣族自治州人民政府副主席。五四年八月第一期全国人民代表大会雲南省代表。五五年六月雲南省西雙版纳傣族自治州副州長。

刀良生 Tao Liang-shêng

傣族。五三年七月雲南省德宏傣族景頗族自治区協商委員會委員。

佟 雲 Tung Yin

五五年二月遼寧省人民委員會委員。六月當時同人民委員會商業局長。

佟 英 Tung Ying

五三年七月新民主主義青年團第二期中央委員。

佟 玉蘭(女) Tung Yu-lan

五四年八月第一期全國人民代表大會遼寧省代表。

佟 樹蕃 Tung Shu-fan

滿州族。綏遠省人民政府農林庁畜牧局副局長。五三年一月同政府委員。五四年八月內蒙古自治區人民政府委員。五五年四月內蒙古自治區人民委員會委員。

佟 磊 Tung Lei

五五年一月國務院第二機械工業部部長助理。

唐 榮 (錦旋) Tang Jung (Chin-hsian) 1880~

福建省晉江の人。一七歳のとき渡台、四〇年独力にて唐榮鉄工廠を高雄に創設。現在も存続し、台湾省民営最大のものといわれる。戦後屏東に唐榮国民学校を開く。

価値「人文精神の重建」等。

唐 現之 Tang Hsien-chih

五五年二月広西省人民委員會委員。

唐 午園 Tang Wu-yuan

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(中国農工民主党)。同月中ソ友好協會第二次全國代表会代表。五五年一月武漢市副市長。

唐 敖慶 Tang Ao-ching

五四年七月當時東北人民大学教授(物質構造論専攻)。五五年五月中国科学院物理学数学化学学部委員。五六年一月當時科学院応用化学研究所學術委員。五六年十二月東北人民大學副校長。

唐 際清 Tang Chi-ching 1900~

湖南省の人。二八年南開大學卒業。二八年—三六年天津社会福祉日報主筆。三七年中央通訊社記者。三七年—四二年同社湖南支局長。四二年—五三年同社中国文版編集局長。四七年国民大会代表。五一年—五三年同社副編集局長。五三年中央日報副社長。著書「編集の理論と実践」。

唐 縱(乃建) Tang Tsung (Nai-chien) 1905~

湖南省鄱県の人。黄埔軍官学校および幹部学校卒業。三六年駐独

唐 鉞(壁黄) Tang Yüeh (Pi-huang) 1889~

福建省閩侯県の人。米ハーヴァード大學卒業。国立北京大學心理学教授、商務印書館編訳所哲学教育部主任、北京国立清華大學心理学系主任を経て、国立中央研究院心理研究所專任研究員。五六年一月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。著書「唐鉞文存」「国故新探」「中国史的新頁」「哲學的改造」「功用主任」「人的義務」。

唐 海光 Tang Hai-kuang

五五年四月當時國務院外交部亞洲司專員。

唐 恭才 Tang Kung-tsai

五五年八月當時國務院輕工業部労働工資司副司長。

唐 君遠 Tang Chün-yüan

五六年十二月全國工商業連合會第二期執行委員(江蘇省)。

唐 君毅 Tang Chün-i

四川省の人。現在五〇歳。香港在住。北京大學卒業。南京中央大學その他大學の教授を歴任。戦時中重慶にて中央大學教授。中共の大陸制圧後香港に移り、香港新亞書院哲学教授兼教務長、また香港大學にて中国哲学の講師。五七年二月米國側の招請により中国文化に関する講義および各地視察のため訪米。著書「中国文化の精神的

大使館付武官。四四年国民党中央執行委員。四六年国民大会代表。

同年内政部警察總署長。四八年国防部保安局局長(中將)。五〇年—五二年内政部長。五〇年—五二年国民党中央改造委員會第六組長。五二年国民党中央委員會第一組長。

唐 生智(宇瀟) Tang Sheng-chih (Mêng-hsiao) 1885~

湖南省東安県の人。一五年保定陸軍軍官学校卒業。湖南陸軍に入り果進し、二三年趙恒惕部隊の旅長として、譚延闓と戦いこれを広東に追う。ついで陸軍上將に昇任。二六年湖南省長代理、国民革命軍前敵總指揮、同第八軍長。二七年秋南京政府より討伐令を発せられ国民党より除名。同年末日本に亡命。三一年広東獨立政府の委員。三五年国民党第五期中央候補執行委員。中共政府成立後四九年末湖南省人民政府副主席。湖南省協商委員會副主席。中南軍政委員會委員。五一年十月政治協商會議全國委員會委員に補選。五三年一月中南行政委員會委員、当時中国国民党革命委員會団結委員。五四年八月第一期全國人民代表大會湖南省代表。九月国防委員會委員。十二月政治協商會議第二期全國委員會常務委員。五五年二月湖南省副省長。同月政治協商會議第一期湖南省委員會副主席。五六年二月国民党革命委員會中央委員。三月同常務委員。六月全国人民代表大會第三次會議提案審查委員。

唐 星 Tang Hsing

湖南省の人。四九年中南軍政委員會委員兼同軍政委員會人民監察

委員、湖南軍政委員会委員。五二年八月中南軍政委員会政治法律委員会委員。五三年一月中南行政委員会委員。十月中国人民第三回訪鮮慰問団第五總分団副団長。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員会委員(特別招請人士)。五五年一月武漢市副市長。

唐 巽 澤 Tang Sun-tse

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員(中国民主建國會)。五五年一月浙江省人民委員会委員。四月民主建國會中央委員会委員。

唐 仲 璋 Tang Chung-chang

寄生虫学者。五五年二月福建省人民委員会委員。五六年四月全國先進生産者代表會議代表。当時福建師範學院教授。

唐 棣 華 Tang Ti-hua

五六年九月当時國務院化学工業部設計司司長。同月中共八全大会で「基本建設の計画を確定する際には関係各部門の協力任務を適當に關連させ協力させよ」と発言。

唐 天 際 Tang Tien-chi

五三年一月中南行政委員会建築工程部部长。五三年一月中南行政委員会財政經濟委員会副主任。五三年十月当時人民解放軍防空司令部政治委員。五五年九月一級八一勳章および一級解放勳章。

唐 弢 Tang Tao

唐 立 言 Tang Li-yên

五四年五月ソ連のメーデー參觀代表団員。当時中ソ造船公司鑄鋼廠工段長、旅大市労働模範。八月第一期全国人民代表大会旅大市代表。

唐 榴 Tang Liu

広東省香山県の人。二二年上海復旦大学卒業。駐英大使館書記官。駐バタン領事、司法部秘書、駐スラバヤ領事、長崎領事等を経て、二三年外交部駐滬辦事処処長。二八年駐シンガポール総領事。三二年再度駐シンガポール総領事。三四年駐カルカッタ総領事。三七年駐香港辦事処勤務。戦後外交部駐澳門專員公署勤務を経て、四七年—五六年当時国府駐ホノルル総領事。

唐 亮 Tang Liang

湖南省の人。四二年冀魯予軍区政治主任。人民解放軍第三野戦軍政治部主任。南京市人民政府副市長。四九年末華東軍政委員会委員。五三年一月華東行政委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。九月国防委員会委員。

唐 麟 Tang Lin

五五年二月湖南省人民委員会委員。五六年九月中共八全大会で「如何にして官僚主義を克服するか」について発言、当時中共湖南省委員会宣伝部部长。

浙江省寧波の人。散文家。その文章の辛辣、諷刺の痛烈さは、魯迅に匹敵したといわれる。長く上海郵政総局に勤務。また柯靈とともに雑誌「週報」を編集。後上海文匯報副刊「磁力」の選著兼編集に当る。五三年十月中国作家協会理事。十一月華東作家協会理事。五六年一月政治協商會議第二期全國委員会特別招請委員。著書、散文集「短長集」等。

唐 賓 南 Tang Pin-nan 1903~

広東省中山県の人。香港在住。香港皇仁書院卒業。華商高技洋行を創立しその総経理。かつて香港保良局主席。五六年当時同局常任総理、香港大学の董事。

唐 平 鑄 Tang Ping-chu

五三年十二月当時中央人民政府人民革命軍事委員会総政治部宣传部新聞処処長。

唐 明 照 Tang Ming-chao

五〇年中国人民抗米援朝總會連絡部副部长。五三年十一月ウィーン世界平和理事会特別招待代表。五四年五月中国人民対外文化協会理事。同月世界平和理事会特別會議中共代表団副秘書長。五五年三月アジア諸国会議中共代表団員。六月ヘルシンキ世界平和大会中共代表団員。五六年三月スエーデン世界平和理事会特別會議中共代表団員。五五年八月—五六年六月の間に第一期全国人民代表大会華僑代表に補選。

島 鐵 山 Tao Tieh-shan

五五年二月山西省人民委員会委員。

陶 一 珊 Tao I-shan 1908 ~

江蘇省の人。中央軍官学校に学ぶ。三八年—三九年軍事委員会技術訓練研究所長。四〇年—四二年重慶行營調査処次長。四三年—四四年中米協力組織第二訓練組組長。四六年—四九年上海呉淞行營副參謀長。四九年上海市政府民政局長。五〇年—五三年台湾省警務処処長。五三年台湾省政府顧問。

陶 逸 民 Tao I-min

五六年十二月全國工商業連合会第二期執行委員(江西省)。

陶 榮 錦 Tao Jung-chin 1915 ~

安徽省の人。三九年燕京大学卒業。四三年北平協和医学院卒業。四八年米ジョンズホプキンス大学医学博士。四三年—四七年国立衛生学会医師。四七年—四九年国立南京結核研究所予防部長。四九年国立衛生学会結核管制課長。五一年台湾省衛生管理処結核管制委員会主任。五二年台湾防務協会副秘書長。四九年台湾省立台北結核病防治院長を兼任。著書「重慶における学生間の肺結核」「台湾におけるBCG計画」「台北における肺結核発生範囲」。

陶 桓 馥 Tao Huan-fu

五四年十一月國務院第七辦公室副主任。

陶希晉 Tao Hsi-chin

四八年華北人民政府秘書長。五一年政務院政治法律委員會委員兼秘書長。五三年十二月政務院法制委員會副主任委員。五四年十一月國務院副秘書長、同院法制局局長、同院參事室主任。五六年十二月まで中央法制幹部學校副校長。

陶希聖(彙曾) Tao Hsi-shêng(Hui-tsêng)

1893 ~

湖北省黃岡の人。戰時中蔣介石著「中国の命運」の起草者の一人として知らる。二二年国立北京大学卒業。中華学社および中国経済学社社員、商務印書館編訳所法制經濟部編集員を経て、安徽省立法政専門学校、上海大学、上海法科大学、武昌中山大学、上海復旦大学、暨南大学、国立労働大学、上海法政学院、国立中央大学、北京大学法学院、国立清華大学、司法行政部法官訓練所等の教授および講師を歴任。三一年—三七年国立北京大学教授。この間三五年半月刊誌「食貨」、「民意週刊」を編集。四二年大元帥總司令部局長。四三年—五二年中央日報主任編集長。四七年—五〇年国民党宣傳部次長。五〇年—五一年国民党中央改造委員會第四組長。五〇年總統顧問。著書、「民法親族論」、「商人通例積義」、「親族法大綱」、「法律学之基礎知識」、「中国社会之史的分析」、「中国社会与中国革命」、「中国社会現象拾零」、「中国封建社会史」、「中国政治思想史」、「西漢經濟史」。翻譯「刑法詠本」、「法律進化論」、「マルクス学説之発

展人口論」。

陶貴春 Tao Kuei-chun

五三年十二月当時中共遼東省委員會宣傳部宣傳処副処長。

陶享咸 Tao Hêng-hsien

五五年六月中国科学院技術学部委員。五六年一月政治協商會第二期全國委員會特別招請委員。

陶健 Tao Chien

五五年二月山西省人民委員會委員。

陶峙岳 Tao Chih-yueh 1891 ~

湖南省寧鄉縣の人。黃埔軍官學校出身。三六年江西駐屯国府軍第八師師長。後張治中麾下の兵団司令として新疆省に駐屯。張の辭職後西北行營主任。四九年新疆省政府主席鮑爾漢を助け新疆警備中共に寝返り、西北軍政委員會委員、新疆軍区副司令、新疆省人民政府委員。五一年十月政治協商會全國委員會に補選。五三年一月西北行政委員會委員。五四年八月第一期全國人民代表大會西北軍区代表。九月国防委員會委員、一級解放勳章。同月新疆ウイグル自治区人民委員會委員。五六年当時も依然人民解放軍新疆軍区副司令員。

陶叔南 Tao Shu-nan

五六年十二月全國工商業聯合會第二期執行委員(江蘇省)。

陶淑範(女) Tao Shu-fan

五三年四月中華全國民主婦女連合會第二期候補執行委員。五四年五月—五五年七月当時師範大学第二附屬小学副校長。北京市模範教育工作者。五四年八月第一期全國人民代表大會黑龍江省代表。

陶述曾 Tao Shu-tsêng

五〇年八月中華全國自然科學專門學會連合會全國委員會委員。五四年十二月政治協商會第二期全國委員會委員(自然科學團體)。同月中ソ友好協會第二次全國代表會代表。五五年二月武漢長江大橋技術顧問委員會委員。同月湖北省人民委員會委員。五六年二月国民党革命委員會候補中央委員。

陶然 Tao Jan

五五年九月國務院國家統計局副局長。

陶大有 Tao Ta-yu

五四年八月第一期全國人民代表大會湖南省代表。

陶大鏞 Tao Ta-yung

五六年二月民主同盟第二期中央委員會候補委員。

陶鑄 Tao Chu

湖南省の人。四九年—五四年一月当時解放軍中南軍区政治部主

陶貴春 Tao Kuei-chun

五三年十二月当時中共遼東省委員會宣傳部宣傳処副処長。

陶享咸 Tao Hêng-hsien

五五年六月中国科学院技術学部委員。五六年一月政治協商會第二期全國委員會特別招請委員。

陶健 Tao Chien

五五年二月山西省人民委員會委員。

陶峙岳 Tao Chih-yueh 1891 ~

湖南省寧鄉縣の人。黃埔軍官學校出身。三六年江西駐屯国府軍第八師師長。後張治中麾下の兵団司令として新疆省に駐屯。張の辭職後西北行營主任。四九年新疆省政府主席鮑爾漢を助け新疆警備中共に寝返り、西北軍政委員會委員、新疆軍区副司令、新疆省人民政府委員。五一年十月政治協商會全國委員會に補選。五三年一月西北行政委員會委員。五四年八月第一期全國人民代表大會西北軍区代表。九月国防委員會委員、一級解放勳章。同月新疆ウイグル自治区人民委員會委員。五六年当時も依然人民解放軍新疆軍区副司令員。

陶叔南 Tao Shu-nan

五六年十二月全國工商業聯合會第二期執行委員(江蘇省)。

任。四九年末—五三年一月中南軍政委員會委員。五三年一月中南行政委員會委員。三月当時中共中央華南分局第四書記。十一月—五五年五月当時同華南分局代理書記。五四年十一月当時広東省人民政府代理主席。十二月政治協商會第二期全國委員會委員(共產党)。

五五年一月政治協商會第一期広東省委員會主席。二月広東省省長。十一月当時中共広東省委員會書記。五六年九月当時同第一書記。同月中共第八期中央委員、中共八全大会で「農業重点方針を明らかに全面的に一そう有効に実施せよ。」と発言。

陶孟和(名、履恭) Tao Meng-hè (Lü-kung)

1887 ~

河北省天津の人。東京高師卒業。後渡英しロンドン大学に学ぶ。北京高等師範教授、北京大学教務長、商務印書館編集をへて北京大学政治系の教授。中華文化教育基金委員會および太平洋問題調査會の中国代表、国府立法委員を歴任。四九年九月特別招請代表として政治協商會議に出席、同會議全國委員會委員。十月政務院所屬の科学院副院長。同月中ソ友好協會總会理事。五三年四月当時中国人民世界平和保衛委員會委員。五四年八月第一期全國人民代表大會天津市代表。十二月政治協商會第二期全國委員會委員(社会科学團體)。同月中ソ友好協會第二次全國代表會代表(社会科学團體)、同協會總會第二期理事會理事。五五年六月中国科学院哲学社会科学学部委員。五六年三月國務院科學規劃委員會委員。五月科学院編訳出版委員會委員。著書「社会と教育」、「社会問題」、「孟和文存」等。

陶勇 Tao Yung 1909 ~

塔旺嘉布 Ta-wang-chia-pu

五四年九月まで寧夏省人民政府委員。五四年十二月甘肅省人民委員。委員。

董亞平 Tung Ya-ping

五四年三月当時中共駐北鮮大使館三等書記官。

董渭川 Tung Wei-chuan

五六年一月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。二月九日三學社第四期中央委員。七月当時北京師範大學教育系教授、同月九日三學社專門委員會を組織。

董越千 Tung Yüeh-chien

華北人民政府副秘書長。四九年十二月政務院外交部辦公廳副主任。五一年外交部國際司司長。五三年一月世界人民平和大會中共代表團團員。五三年頃中國政治法律學會理事兼國際連絡部副主任。五四年五月中國人民對外文化協會常務理事。十一月—十二月モスクワで開催のヨーロッパ平和安全保障歐洲國家會議にオブザーバーとして外交部副部長張聞天と共に出席。五五年三月—五六年当時外交部辦公廳主任(國際司司長兼務)。五五年七月中國人民外交學會第三期理事。

董 琰 Tung Yen

五四年八月第一期全國人民代表大會山東省代表。

五五年九月一級解放勳章。

董 昕 Tung Hsin

山西省の人。現在四六歳位。四九年当時中華全國總工會生産部部長兼青工部副部長。四月新民民主主義青年團中央委員會委員兼青工部副部長。五月全國民主青年連合總會全國委員會常務委員。九月政治協商會議代表(青年連合總會)。五〇年九月全國工農兵勞動英雄代表會議主席團副秘書長。五一年当時總工會政策研究室副主任。五三年五月中國工會第七次全國代表大會副秘書長、總工會第七期執行委員會委員、書記處書記、書記處辦公室主任。六月民主青年連合總會第二期全國委員會委員。七月新民民主主義青年團第二期中央委員。五四年三月總工會私營企業工作委員會主任。八月第一期全國人民代表大會河北省代表。五五年二月モスクワでの中ソ友好同盟互助條約締結五周年慶祝大會に工會代表團團長として出席。五六年三月全國先進生産者代表會議準備委員會委員兼秘書長。四月同代表會議主席團員。十一月工會代表團團長として来日。同月中國エジプト友好協會理事。

董 建 奎 Tung Chien-kui

五六年十二月当時中國土產出口公司上海分公司副經理。

董 顯 光 Tung Hsien-kuang (Tung, Hollington

K.) 1887 ~

浙江省寧波の人。上海高等學堂、中英書院、米ピッツバーグ大學

董 學 源 Tung Hsüeh-yüan

五二年十二月—五三年十二月当時中共西安市委員會副書記兼組織部部長。

董 學 隆 Tung Hsüeh-lung

五三年七月中國新民民主主義青年團第二期候補中央委員。

董 希 白 Tung Hsi-pai

安徽省の人。北京の私立中法大學卒業。パリに留學。歸國後、上海中國國際法學會主任。のち三吳大學文學院長。五一年—五四年十月当時中央人民政府外交部條約委員會主任秘書。

董 希 文 Tung Hsi-wên

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(中國文學藝術界連合會)。

董 其 武 Tung Chi-wu 1899 ~

山西省河津の人。現在五七歳位。山西の斌業中學卒業。軍に入り傳作義の下に參謀、旅長、師長、軍長、晋陝辺区副總司令兼戰区政治部主任、綏遠省主席と昇進し、四九年綏遠で中共軍に投降。九月政治協商會議全國委員會委員。十二月—五四年六月綏遠省軍政委員會副主席、同省人民政府主席、後同政府委員。五二年一月当時人民解放軍兵團司令員。同月—五四年九月華北行政委員會委員。五四年八月第一期全國人民代表大會華北軍區代表。九月國防委員會委員。

卒業。一二年ミズリー大學(新聞科)卒業、同大学院に進學。一三年コロンビア大學文學博士。後ニューヨーク・タイムズおよびニューヨーク・イブニング・ポストの通信部に勤務。またニューヨーク・インデペンデントの記者。歸國後一三年上海チャイナ・リパブリカン紙の記者、ついで北京で數種の漢字紙、外字紙の通信員。一四年—一六年北京デイリー・ニュース主筆、第一國會に參議院の英文秘書。一四年國立油務局に入り英文秘書として米國に派遣。一七年スタンダード石油会社の代理人、上海チャイナ・ウィークリー・レビュー誌北京通信員。一九年直隸警察廳顧問、天津交渉員顧問。二一年ホルルに開かれた國際新聞會議に中國代表として北京政府より派遣。同年ワシントン會議に參与。二二年交通部參事。二三年交通總長秘書。二六年吳佩孚の外交顧問。二五年—三一年天津庸報主筆。三一年—三五年上海チャイナ・プレスの經理、ほか英字紙に關係。三六年軍事委員會上海辦事所長。三七年軍事委員會第五厅长代理。三八年—四五年八月國民黨中央宣傳部次長。四五年五月國民黨中央執行委員會委員。四八年六月翁内閣の無任所部長兼新聞局長。四九年行政院政務委員。同年國民黨總裁辦公廳宣傳組長。五一年總統府國策顧問、國民黨中央評議員、中央日報社長、中國廣播(放送)公司總經理。五二年駐日大使。五六年四月駐米大使。著書「蔣介石大元帥伝記」「Dateline」「中國」。

董 作 賓 (彦堂) Tung Tsuo-pin (Yên-tang) 1895 ~

河南省南陽縣の人。國立北京大學卒業。二八年—四七年中央研究院歷史語言哲學科研究員、河南省安陽縣殷墟甲骨骨癭掘に従事、考古

学社の社員。四七年—四八年シカゴ大学交換教授。四八年中央研究院院士。四八年台湾大学教授。著書「殷曆」。

董守義 Tung Shou-i

五二年六月中華全国体育総会委員。九月—五五年六月当時中国国際オリンピック委員会委員。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(教育界)。五五年六月当時中国オリンピック委員会副主席。同月パリで挙行された第五〇回国際オリンピック委員会會議に出席。五六年一月中国オリンピック委員会副主任。八月中国民主促進会第四期中央委員。

董俊民 Tung Chun-min

五六年十月中共駐ルーマニア大使館商務参事官。

董純(女) Tung Chun

湖南省長沙の人。中共湖南省委員会婦工部部长。五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大會湖南省代表。

董純才 Tung Chun-tsai

東北行政委員会教育部副部长を経て、四九年東北人民政府文化教育委員会副主任兼教育部副部长。五三年六月当時中央人民政府教育部副部长。五四年八月第一期全国人民代表大會山東省代表。五四年十一月國務院教育部副部长。五五年七月全国人民代表大會第二次会

五三年二月当時中共吉林省委員会宣伝部理論教育処処長。

董天民 Tung Tien-min

五三年十月中華全国文学芸術界連合会第二期全国委員会委員。

董東 Tung Tung

五三年二月—五四年十二月当時中共石家庄市委員会副書記。

董必武 Tung Pi-wu 1886 ~

湖北省黄安県の人。武昌の中学を卒業。一一年十月十日の武昌革命の時同盟会に入り、革命工作に従う。革命直後宜昌塩稅局長。一三年日本に渡り、孫文と共に活動、また法政専門学校に学ぶ。一五年一旦帰国、後再度日本に來り、一七年卒業と同時に帰国し軍隊内で秘密革命工作に従う。二〇年武漢中学を創設、白話文を教授。九月湖北共產党結成の際創立者の一人。二二年七月上海の中共第一次全国大会参加者の一人。それより四川に行き、再び国府軍隊内で秘密工作を行い、二五年遼寧、チャハル、北京に赴く。二六年一月湖北代表として国民党代表大會に出席、国民党候補中央委員。同年国民革命軍のため漢口の汀泗橋破壊を敢行。二六年—二七年湖北省政府工農庁庁長。二七年国共分裂後水夫に仮装して上海に逃れ、ついで日本に來て六カ月滞在。二八年モスクワに行き三二年まで留学。三二年江西ソヴェト区に入り、党校を創設しその校長。また中華ソヴェト政府執行委員。西遷には衛生委員として参加。四五年当時国民参政会参政員、重慶駐在中共代表、スポーツスマン。中共七

議提案審査委員会委員。五六年二月中央標準語普及工作委員会委員。三月全国文盲一掃協会副会長。八月中国民主促進会第四期中央委員。

董勰平 Tung Chu-ping

五三年五月当時政務院労働部労働政策研究室主任。

董振九 Tung Chên-chiu

五四年十一月最高人民法院審判員。

董仁明 Tung Jên-ming

民家族。五三年十一月全国工商業連合会執行委員。五五年二月雲南省人民委員会委員。五五年十一月当時雲南省工商業連合会常務委員。五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(雲南省)。

董宗山 Tung Tsung-shan 1913 ~

湖北省天門県の人。米ニール大学卒業。外交部駐インド専員公署三等書記官、行政院新聞局顧問を歴任。立法院簡任秘書。五六年四月中華民国各界日本親善訪問団随行秘書として來日。

董爽秋 Tung Shuang-chiu

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(農工民主党)。同月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表。

董速 Tung Su

全大会で中央委員会委員。四五年四月サンフランシスコ国際連合會議に中共側代表として出席。四六年政治協商會議中共代表。四七年三月国民政府の撤退命令により上海から南京經由延安に引揚。四八年八月石家荘に成立した華北人民政府の主席。四九年九月政治協商會議全国委員会委員。十月中央人民政府委員、政務院副總理、同院政法法律委員会主任。五三年一月—五六年九月当時中共中央政治局委員。五三年一月憲法起草委員会委員。三月スターリン追悼首都各界人民大会主席団員。四月中国政治法律学会主席。五四年二月解放軍慰問代表団総団長。八月第一期全国人民代表大會湖北省代表。九月同大会第一次會議主席団員、最高人民法院院長。同月政治協商會議第二期全国委員会委員(共產党)、同委員会副主席。同月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表。五五年二月最高人民法院審判委員会委員。七月各国議會連盟参加の人民代表団主席団員。五五年九月新疆ウイグル自治区成立祝賀の中央人民政府代表。五六年三月政治法律学会第二期会長。九月中共八全大会で第八期中央委員会委員、中央政治局委員、中央監察委員会委員、同監察委員会書記。同大会で「人民民主法制工作」について発言。

董弼忱 Tung Pi-chên

五四年八月西康省人民政府委員。当時同政府公安庁庁長。五五年一月西康省人民委員会委員。

董福生 Tung Fu-shêng

五三年九月当時昆明電工廠副廠長。五四年八月第一期全国人民代

表大会雲南省代表。

董福豆 Tung Fu-tou

福建省の人。ビルマ在住華僑。商業を営み、和勝公司（紅幫系）の指導者の一員。

董文琦 Tung Wên-chi 1901 ~

吉林省の人。名古屋高等工業学校卒業。吉林大学教授。揚子江、湘江灌溉工事技師長。東北各省水利工程局長。四五年—四八年瀋陽市長、在滿洲軍事委員長行營政務部員。五〇年行政院政務委員。

董文隆 Tung Wên-lung

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員（宗教界）。同月中ソ友好協會第二次全國代表会代表（宗教界）。

董邊 Tung Pien

五三年四月中華全國民主婦女連合会第二期執行委員会常務委員。

董力生 Tung Li-shêng

五三年四月中華全國民主婦女連合会第二期執行委員。

滕虎忱 Têng Hu-chên

五四年八月第一期全國人民代表大会山東省代表。五五年三月山東省人民委員会委員。

滕代遠 Têng Tai-yuan 1904 ~

湖南省麻陽県生れ。師範学校卒業。二六年長沙附近で農民運動を指導。二七年四月国共分裂後、江西ソヴェト区に入り軍内政治工作担任。三一年中華ソヴェト政府成立の際その中央執行委員。後モスクワで軍事訓練を受く。四五年中共七全大会で中央委員。四六年一月政治協商會議の際軍事調処執行部に参加。その後東北人民解放軍鉄道部隊司令。四八年八月華北人民政府委員。四九年中原人民解放軍副政治委員。第二野戦軍副政治委員。十月中央人民政府政務院政務委員兼鉄道部長。五二年十二月鉄道部長として「中ソ間の長春鉄道に関する一切の権利を中国に移管する議定書」に調印。五四年二月人民解放軍慰問代表団副団長。九月国防委員会委員、國務院鉄道部長。十二月政治協商會議第二期全國委員會委員（共産党）。同月中ソ友好協會第二次全國代表会代表。五五年八月平壤における朝鮮「解放」十周年慶祝式典参加の中共代表団員。五六年九月中共第八期中央委員会委員、同月中共八全大会で「鉄道の運輸能力を高めるとともに新建設鉄道の質と量を高めよ」と発言。

鄧晏如 Têng Yen-ju

五五年二月遼寧省人民委員会委員。

鄧禹 Têng Yu

五五年二月遼寧省人民委員会委員。

鄧穎超（女） Têng Ying-chao 1902 ~

日本の高等商業学校卒業後、米國に留学。広西省選出參議院議員。国民党本部特設辦事処宣伝部長。二四年ドイツ留学。同年国民党第一次候補執行委員。その後革命軍第八路総指部秘書長。三一年国民党第四次中央候補執行委員。三五年第五期中央候補執行委員。国民党政府委員。五二年国民党中央委員。

鄧華 Têng Hua 1900 ~

湖南省の人。中共建軍当時趙桐部隊の參謀。三〇年中共第一路軍政治委員。四〇年冀熱遼察軍区政治委員。四四年晉察冀辺軍区第五軍分区司令員。四九年第四野戦軍第一五兵团司令員として広東を「解放」。五〇年二月広東省人民政府委員、中南軍政委員会委員。四月海南島を「解放」、海南島軍事管制委員会主任。五一年人民志願軍副司令員として朝鮮戦争に参加。十月政治協商會議全國委員會委員に補選。五三年二月北鮮最高勳章「一級国旗勳章」。三月人民志願軍スターリン追悼会準備委員会委員。五四年八月第一期全國人民代表大会志願軍代表。九月国防委員会委員。同月人民志願軍司令員。十月同司令員を免ぜられ帰国。五五年五月当時瀋陽軍区司令員。九月上将。五六年軍事視察団長としてユーゴスラヴィア派遣。九月中共第八期中央委員会委員。

鄧季惺（女） Têng Chi-hsing

五三年一月まで西南軍政委員会委員。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員（新聞出版界）。五六年三月政治協商會議全國委員會學習委員会委員。

河南省信陽県生れ。天津女子師範大学卒業。一九年五・四運動に参加して逮捕。周恩来が創立した革命団体「醒社」の社員。後北京高等師範学校で教師。二五年広東で周恩来と結婚。二六年広東の国民党第二次全國代表大会で国民党候補中央委員。後江西ソヴェト区に入り、西遷に参加、婦女工作等に努力。三七年中共婦人労働部長として北平に潜入。三八年中共女子代表として漢口で国民党と折衝。四一年国民參政会參政員として重慶に駐在。四五年中共七全大会で候補中央委員。四六年政治協商會議中共代表。四九年四月全國民主婦女連合会副主席。九月政治協商會議全國委員會常務委員会委員。五三年一月婚姻法貫徹運動委員会副主任。二月中央選挙委員会委員。四月中華全國民主婦女連合会第二期副主席。五四年二月人民解放軍慰問代表団副団長。四月当時世界平和擁護委員会常務委員。八月第一期全國人民代表大会河南省代表。九月同大会常務委員。十二月中ソ友好協會第二次全國代表会代表（全国民主婦女連合会）。

五五年七月各国議會連盟参加の人民代表団執行委員。十二月当時國際民主婦女連合会執行委員。五六年九月中共第八期中央委員、中共八全大会で「党はさらに婦女工作の領導を強化し広範な婦人大衆を團結せしめ、その力を發揮させるべきである。」と発言。

鄧戈明（女） Têng Kê-ming

山東省の人。現在四六歳位。五三年四月中華全國民主婦女連合会第二期執行委員。

鄧家彦 Têng Chia-yên 1883 ~

鄧軍凱 Têng Chün-kai

広東省梅県の人。現在五三歳位。アフリカ洲マウリテイウシユ在住華僑。もと護商總會書記。後仁和会館議員、華僑商報總編集、新華中学校長。五四年九月第一期全国人民代表大會華僑代表。

鄧潔(女) Têng Chieh

五二年—五四年三月当時全国合作社連合總社理事會副主任兼生産局局長。五四年十一月國務院中央手工業管理局副局長。五五年四月—五六年七月当時中華全国手工業生産合作社連合總社準備委員會副主任。五六年四月全国先進生産者代表會議主席團員。七月南京農學院副院長。

鄧公玄(太初) Têng Kung-hsuan (Tai-chu)

1901 ~

湖南省の人。二五年国立東南大学卒業。二八年米スタンフォード大学政治科卒業。二五年—二八年少年中国晨報總編集。二六年—二八年国民党サンフランシスコ支部常務委員。二八年—二九年国立交通大学訓育主任。その後鉄道部秘書兼編訳科長、国立中山大学教授、中央駐滬辦事処秘書、交通大学研究所研究員、立法院第三次委員兼憲法起草委員、孫文主義学会發起人、中山文化教育館發起人等を経て、四〇年—四三年国民党中央執行委員會海外党務会秘書長。立法委員。著訳書「欧米政制史」「今日之欧洲」「國際公法与國際關係」。

鄧昊明 Têng Hao-ming

全大会で中央委員。四九年三月中原臨時人民政府主席。ついで中南軍政委員會副主席、同委員会財政經濟委員會主任、第四野戰軍および中南軍区の第二政治委員。十月中央人民政府委員、政務院財政經濟委員會委員、同院華僑事務委員會委員、中ソ友好協會總会理事。五三年一月中南行政委員會副主席。同月憲法起草委員會委員。二月中央選舉委員會委員。三月スターリン追悼首都各界人民大会主席團團員。七月—五六年九月当時中央中央農村工作部部长。五三年十月—五四年八月当時政務院財政經濟委員會副主任。五四年八月第一期全国人民代表大會武漢市代表。九月同大会第一次會議主席團團員、國務院副總理。十一月國務院第七辦公室主任。五五年三月ハンガリア「解放」十周年慶祝式典に中共代表團團長として参列。七月全国人民代表大會第二次會議で「黄河の根本的治水とその水利開發綜合企画に関する報告」を行う。五六年三月國務院科学規劃委員會委員。九月中共第八期中央委員、中共八全大会で「社会主義の基礎に立って工農連盟を一そう強化する問題について」発言。

鄧錫侯(晋康) Têng Hsi-hou (Chün-kang) 1889 ~

四川省營山県の人。保定陸軍軍官学校卒業。四川督軍熊克武の下に營長、團長。一八年劉存厚の下に旅長。二〇年劉成勳の下に第六師長兼順遂鎮守使。二四年四川省長。二五年國務軍第三三師長。同年吳佩孚より四川督軍に任ぜらる。革命軍長江に進出するに及び国民革命軍第二〇軍長。二七年南京政府軍事委員會委員。三一年四川省政府委員、討逆第一四軍總指揮。三五年第四五軍軍長。三六年第六軍副總司令。四九年國府側西南軍政副長官であったが、中共に投降し、西南軍政委員會委員、兼同委員会財政經濟委員會委員、同水

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員會委員(中国農工民主党)。五五年二月江蘇省人民委員會委員。

鄧洪 Têng Hung

五五年二月江西省人民委員會委員。

鄧崗 Têng Kang

五六年一月國務院新華通訊社副社長。

鄧克明 Têng Kè-ming

五五年二月江西省人民委員會委員。

鄧國章 Têng Kuo-chang

五四年二月当時全国農業労働模範。八月第一期全国人民代表大會黒龍江省代表。

鄧子恢 Têng Tzu-hui 1893 ~

福建省龍岩生れ。一六年東京に赴き一年間遊学。黄埔軍官学校卒業。二五年国民党に入党、翌年中共に入党。二七年朱徳の下に福建ソヴィエト区の創設に努力。二九年鄧發部隊の政治委員。三〇年福建省西部八県のソヴィエト政府閩西ソヴィエト主席。三一年中華臨時ソヴィエト政府財政人民委員。三四年紅軍西遷の際福建省西部で瞿秋白等とともに國府軍に捕えられたが、死刑直前脱走。三七年日華事変勃発とともに新四軍に参加、第四師政治委員。四五年中共七

利部長。五三年一月西南行政委員會副主席。五四年第一期八月全国人民代表大會四川省代表。九月国防委員會委員。五五年一月四川省副省長。九月一級解放勳章。五六年二月国民党革命委員會中央委員。

鄧叔群 Têng Shu-chün

五三年一月まで松江省人民政府委員。五四年十二月瀋陽農學院副院長。五五年六月中国科学院生物地学学部委員。五六年一月政治協商會議第二期全国委員會特別招請委員。四月当時科学院植物研究所真菌植物病理研究室研究員。

鄧初民 Têng Chu-min 1898 ~

湖北省石首の人。北伐当時武漢政府に参加。革命失敗後日本に亡命。帰国後広東中山大学教員、桂林師範専門学校教授。戦争中重慶で民主運動に従事。四七年夏香港に行き達德学院法政系主任。民主同盟と国民党革命委員會に加入、その中央委員。四九年北上、九月政治協商會議に出席、同會議全国委員會委員。同年山西省人民政府副主席。五二年一月—五四年九月政務院華北行政委員會委員。五四年六月まで山西大学校長。五四年八月第一期全国人民代表大會山西省代表。十二月政治協商會議第二期全国委員會委員(民主同盟)、同常務委員。同月中ソ友好協會第二次全国代表會代表。五五年二月山西省副省長。同月政治協商會議第一期山西省委員會副主席。七月全国人民代表大會常務委員會委員に補選。五六年二月民主同盟中央常務委員會委員。同月国民党革命委員會中央委員會委員。六月全国人民代表大會第三次會議主席團團員。

鄧小平 Têng Hsiao-ping 1902 ~

四川省嘉定生れ。フランスに苦学生として留学、中共在仏支部に加入。帰国後二五年一二七年の革命に加わり、三四年一三五年の西遷にも参加。戦争中第八路軍一二九師の政治委員。中共中央革命軍事委員会総政治部主任。四五年中共七大大会で中央委員。戦後劉伯承とともに中原解放軍を指揮。四九年第二野戦軍および西南軍区の政治委員。九月政治協商会議全国委員会委員。十月中央人民政府委員、人民革命軍事委員会委員。五〇年七月中共中央西南局第一書記、西南軍政委員会副主席兼同財政經濟委員会主任。五二年政務院副総理。五三年一月憲法起草委員会委員、選挙法起草委員会委員、西南行政委員会副主席。二月政治協商会議全国委員会常務委員。同月中央選挙委員会委員。三月スターリン追悼首都各界人民大会主席団員。九月一五四年六月政務院財政經濟委員会副主任兼財政部部長。五四年五月一五六年二月当時中共中央委員会秘書長。五四年九月国防委員会副主席、國務院副総理。十二月中ソ友好協会第二次全国代表会代表。同月政治協商会議第二期全国委員会委員（共產党）、同常務委員。五五年四月中共中央委員会政治局委員に補選。五六年二月ソ連共產党第二〇回代表大会に中共代表団員として参列。五六年九月中共第八期中央委員会委員、同委員会中央政治局委員、同政治局常務委員、同委員会総書記、同委員会中央書記処書記。

鄧少東 Têng Shao-tung

五三年十月当時解放軍公安部隊副司令員。

鄧兆梧 Têng Chao-wu

共側に寝返り、東北人民海軍学校校長。九月政治協商会議に海軍を代表して出席、同会議全国委員会委員。十二月東北人民政府候補委員。五三年一月一五四年九月東北行政委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会旅大市代表。九月国防委員会委員。五五年九月一級解放勲章。

広東省新会県の人。現在五四歳。サイゴン在住華僑。悦昌木廠、万国集郵公司を経営。サイゴン広肇中華理事會理事長。

鄧哲熙 Têng Chè-hsi

五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員（特別招請人）。

鄧典初 Têng Tien-chu

五六年三月当時香港廠商會理事。四月政治協商會議広東省第一期委員会常務委員。

鄧文翬 Têng Wên-hui

四九年中南軍政委員会委員。五三年一月中南行政委員会委員。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員（特別招請人士）。五五年二月江西省人民委員会委員。

鄧文儀 (雪冰) Têng Wên-i (Hsüeh-ping) 1906 ~

湖南省醴陵の人。二四年黄埔軍官学校第一期卒業。国民党代表と

鄧辰西 Têng Chên-hsi

五四年九月まで西南軍政委員会財政經濟委員会委員。十月中華全国供銷合作總社理事會副主任。五六年三月中国国際貿易促進委員会對外貿易仲裁委員会委員。五月中国供銷合作社代表団团长としてスエーデン、フィンランド、ノルウェー、デンマークを訪問。

鄧楚白 Têng Chu-pai

五三年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員会委員。七月中国新民主主義青年団第二期中央委員。

鄧拓 Têng Tuo

山東省の人。現在四六歳位。もと新華日報主筆。四九年七月全国新聞工作者協會準備委員会委員。五三年一月婚姻法貫徹運動委員会委員。五四年五月中国人民对外文化協會理事。八月第一期全国人民代表大会山東省代表。十月当時人民日報総編集。十二月中ソ友好協会第二次全国代表会代表（新聞出版界）、同協会総会第二期理事。五五年頃中国新聞工作者連誼会会長。五五年六月中国科学院哲学社会科学学部委員。五六年二月中央標準語普及工作委員会委員。三月ポーランドで開催の国際新聞工作者協會主席団擴大會議に出席、同協会副主席。

鄧兆祥 Têng Chao-hsiang 1902 ~

広東省高要県の人。広州海軍学校卒業後英国で勉学。帰国後国府海鷹号艦長、海軍部科長、長治号艦長を歴任。四五年再び英国に行く。四九年二月軍艦重慶号をひきい乗組員（五七四名）とともに中

してモスクワ中山大学に留学し二七年卒業。三一年藍衣社に参加。三五年大使館武官。戦時中軍事委員会政訓処宣伝委員会主任委員、戦時工作幹部訓練団政治総官、中央陸軍軍官学校政治部中将主任、軍事委員会政治部第一庁長等を歴任。四七年国防部政工局長でスポークスマン兼任、張群、翁文灝、孫科、何應欽、閻錫山の歴代内閣において軍事発表を担当。遷台後国民党台湾省党部主任委員。五二年一五六年当時内政部政務次長。著書「青年之培植及救済」「青年与戦争」「革命与戦争」「学習的青年時代」「蔣主席伝略」「偉大的蔣主席」「遊蹤万里」「台湾農村訪問記」等。

鄧文釗 Têng Wên-chao

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大会広東省代表。五五年二月広東省人民委員。十一月当時広東省工商業連合会準備委員会主任委員。五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員（広東省）。

鄧芳芝 (女) Têng Fang-chih

五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。九月同大会第一次會議主席団員。五五年七月同大会第二次會議主席団員。五六年六月同大会第三次會議主席団員。

鄧寶珊 Têng Pao-shan 1887 ~

甘肅省天水の人。辛亥革命前は在新疆部隊で文書係。後建國予備軍副総司令。三〇年楊虎城陝西綏靖公署主任の下で副主任。対日戦中傳作義部隊（第一二戦区）の副司令として包頭を守備。対中共戦

で城を棄て逃亡。後中共に寝返り、四九年政治協商會議全國委員會委員、甘肅省人民政府主席、西北軍政委員會委員。五三年一月西北行政委員會委員。甘肅省抗米援朝分會主席、甘肅省各界人民代表會議協商委員會主席。五四年二月解放軍慰問代表團第二總分團團長。八月第一期全國人民代表大會甘肅省代表。九月同大會第一次會議主席團團員、同大會預算委員會委員、國防委員會委員。五四年十二月甘肅省省長。五五年七月全國人民代表大會第二次會議主席團團員。九月一級解放勳章を受く。五六年三月國民黨革命委員會中央委員會副主席。六月全國人民代表大會第三次會議主席團團員。

鄧友德 Têng Yu-tê

五二年九月國府駐日大使館參事官(新聞關係)。

鄧裕志(女) Têng Yü-chih

湖北省の人。南京の金陵大學卒業後、上海のYWCAに入り、最初学生部、二八年労働者工作部に勤務。四九年初め北平に赴き、ついで東北の工業建設、労働状況等を視察。五月末上海「解放」後上海に戻り、九月政治協商會議に全国民主婦女連合会総会代表の一人として出席。十月一五四年六月華東軍政委員会人民監察委員會委員。五三年一月華東行政委員會委員。華東婚姻法貫徹運動委員會副主任。四月当時中華キリスト教女子青年会全国協会総幹事。同月中華全国民主婦女連合会第二期常務委員。六月コペンハーゲンにて開催の世界婦人大會に出席。五四年八月第一期全国人民代表大會湖北省代表。同月中国キリスト教三自愛國運動委員會常務委員。十二月

政治協商會議第二期全國委員會委員(中華全国民主婦女連合会)。同月中ソ友好協會第二次全國代表會代表。

黨崇山 Tang Chung-shan

五五年三月國務院人事局副局長。

黨晴梵 Tang Ching-fan

五四年六月まで西北軍政委員会土地改革委員會委員。五五年三月政治協商會議陝西省第一期委員會副主席。

同曲乎 Tung Chü-hu

西藏族。五三年一月成立の青海省海北藏族自治州人民政府副主席。五五年六月青海省海北西蔵族自治州副州長。

童雲 Tung Yün

五三年七月新民主主義青年團第二期中央委員。

童集春 Tung Chi-chun

五三年五月中国紡織工会浙江省委員會副主席。

童少生 Tung Shao-shêng

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。五四年六月まで重慶市人民政府委員。八月第一期全国人民代表大會四川省代表。九月当時公私合營民生輪船公司副總經理。五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(特別招請)。

童第周 Tung Ti-chou

動物学者。五三年九月当時山東大學副校長。五四年八月第一期全国人民代表大會山東省代表。五五年三月山東省人民委員會委員。五月中国科学院生物学地学部委員、六月同学部常務委員會委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員會委員。三月國務院科學規劃委員會委員。六月中ソ朝越四國漁業研究會議中共代表團全体代表、同研究委員會委員。六月当時科学院生物学地学部副主任。七月山東大學校副長を免ぜらる。

導 塵 Tao Chên

五三年六月中国仏教協會理事。

特木爾巴根 Tè-mu-èh-pa-kên

蒙古族。興安省政府主席、内蒙古自治運動連合會委員等を経て、内蒙古自治區人民政府委員兼財政部部長。四九年十月中央人民政府民族事務委員會委員。五四年八月第一期全国人民代表大會内蒙古代表。五五年二月政治協商會議第一期内蒙古自治區委員會副主席。四月内蒙古自治區高級人民法院院長。五六年十二月内蒙古師範學院副院長。

德勒格 Tè-lei-ke

五六年八月当時中共駐外蒙大使館一等書記官。

德饒・多吉友甲 Tè-jiao・Tuo-chi-yu-chia

西藏族。五六年四月西蔵自治區準備委員會全体委員。

德 穆 Tè Mu

五六年四月中印友好協會理事。

頓旺・堅贊札巴 Tun-wang・Chien-tsan-cha-pa

五五年五月一五六年四月当時達賴喇嘛駐京辦事処処長。五六年四月ネパール訪問代表團に達賴喇嘛代表として参加しネパール訪問。

頓康・格桑旺秋 Tun-kang・Kê-sang-wang-chiu

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。

頓星雲 Tun Hsing-yün

五六年三月当時解放軍海軍中將。

な

那欽雙和爾 Na-chin-shuang-hé-êrh

蒙古族。五五年四月内蒙古自治区人民委員会委員。

南漢宸 Nan Han-chên 1892~

山西省趙城縣の人。北京大学卒業。二六年北伐前後馮玉祥軍麾下で活動。三六年西安事变前西安に行き楊虎城の秘書長。三七年日華事变勃発後山西で敵後工作(第二戦区動員委員会組織部長)。四〇年延安に赴き、中共中央統一戦線工作部副部長となり、始めて共産党員となる。四一年第二期陝甘寧边区参議会秘書長、陝甘寧边区政府財政庁長。四八年八月華北人民政府委員兼華北銀行總裁。十月政務院財政經濟委員会委員、中国人民銀行行長。五二年四月モスクワ經濟會議に中共代表団团长。また日中貿易交渉代表団团长。五月中国國際貿易促進委員会主席。八月政務院財政經濟委員会國際經濟事務局局長。五三年十一月全国工商業連合会副主任委員。十一月人民銀行行長を辭職。五四年八月第一期全国人民代表大會山西省代表。九月同大会常務委員会委員。中国銀行董事長。五五年十一月北京における日本憲法擁護國民連合訪華代表団との共同コミニケ調印式に参加。五六年二月中国亜洲團結委員会委員。ライプツヒ博覽会參觀代表団团长として渡独。三月國際貿易促進委員会対外貿易仲裁委員会委員。

南翔陪 Nan Hsiang-peï

五六年二月当時清華大学校長。

南木卡才巷 Nan-mu-ka-tsai-hsiang

西藏族。五三年十二月青海省海北西蔵族自治区人民政府副主席。

二

任一力 Jên I-li

五五年一月浙江省人民委員会委員。

任仰山 Jên Yang-shan

五四年六月新疆巴音郭楞蒙古族自治区人民政府副主席。

任景龍 Jên Ching-lung

五四年一月中共四川省委員会統一戦線工作部副部長。

任献文 Jên Hsien-wên

五六年六月中ソ朝越四国漁業研究委員会委員、当時科学院水棲生物研究所副所長。

任謙 Jên Chien

任國祥 Jên Kuo-hsiang

もと中国医科大学内科学院長。五三年十二月中国医科大学副校長。

任國棟 Jên Kuo-tung

五二年十二月中全国農業愛國豊産模範として表彰。当時中共黒龍江省肇源県委員会書記。五三年十月当時中共黒龍江省郭爾羅斯後旗委員会書記。五四年八月第一期全国人民代表大會黒龍江省代表。五六年十一月五七年一月全国人民代表大會代表団团员としてソ連東欧訪問。

任松布 Jên Sung-pu

土族。五六年六月当時青海省民族事務委員会副主任。

任蕭華 Jên Hsiao-hua

五四年四月当時中央人民政府人民革命軍事委員会総政治部主任。

任崇高 Jên Chung-kaio

五五年二月江蘇省人民委員会委員。五六年二月国民党革命委員会中央委員。

任仲夷 Jên Chung-i

五四年八月第一期全国人民代表大會ハルビン市代表。十一月当時中共ハルビン市委員会第二書記。五六年九月当時同第一書記。同月中共八大大会で「ハルビン市の生産発展には充分に準備工作をせ

任顯群 Jên Hsien-chün 1912~

甘肅省の人。戦争中陝甘寧边区政府委員。蘭州市「解放」の際同市軍管会副主任。中国民主同盟西北総支部工商部部长。四九年末西北軍政委員会委員。五三年一月西北行政委員会委員。二月政治協商会議全国委員会委員。五四年二月人民解放軍慰問代表団第二總分団(西北)副团长。六月西北軍政委員会土地改革委員会委員を解任。八月第一期全国人民代表大會甘肅省代表。五六年二月民主同盟第二期中央委員会候補委員。

任興家 Jên Hsing-chia

五四年九月新疆塔什庫爾干塔吉克族自治区人民政府副主席。

任鴻雋(叔永) Jên Hung-chün (Shu-yung)

1886~

四川省巴県の人。陳衡哲女史の夫。日本の高等工業学校を卒業、さらに米コーネル、コロンビア大学に学ぶ。中国科学社社長、北京大学有機化学科教授、四川省政府教育庁長を歴任。戦争中四川大学学長。四九年九月特別招請代表として政治協商会議に出席。五〇年頃政務院文化教育委員会委員。五四年十二月中ソ友好協会第二次全国代表会代表。

よ」と発言。

任 白 戈 Jèn Pai-ké

五三年八月当時西南抗米援朝總分會副主席、重慶抗米援朝分會主席。十月中国文学芸術界連合會第二期全國委員會委員。十一月重慶市中ソ友好協會副會長。五四年五月对外文化協會理事。七月第一期全國人民代表大會重慶市代表。九月西南軍政委員會文化教育委員會委員を解任。五五年一月四川省副省長。十一月ウルムチ市市長。

任 泊 生 Jèn Po-shéng

五五年六月中国インドネシア友好協會理事。

任 弼 紹 Jèn Pi-shao

五三年七月当時炭礦管理總局副局長。五六年二月当時國務院石炭工業部設計管理局局長。

任 豐 平 Jèn Fèng-ping

中央黨員。新華通訊社連絡科長。新華社記者。五五年三、四月の間、中共貿易代表團隨行記者として来日。

任 明 道 Jèn Ming-tao

五二年十二月当時四川省西蔵族自治区人民代表會議協商委員會副主席。

任 雷 遠 Jèn Lei-yüan

回族。五三年七月中国新民主主義青年團第二期中央委員會候補委員。

㊦

納 旺 金 巴 Na-wang-chin-pa

西蔵族。五四年三月国慶節西蔵參觀團團員。五五年三月班禪堪布會議庁委員會副主任。五六年四月西蔵自治区準備委員會委員。

納 堅 贊 Na-chien-tsan

西蔵族。五二年十二月四川省西蔵族自治区人民政府委員會委員。

能 海 Nèng-hai

五三年六月中国仏教協會副會長兼常務理事。五四年八月第一期全

五三年九月ウィーンにて開催の世界労連第三回代表大会に、中共工会代表團員として出席。十一月モスクワにて開催の十月革命三六周年式典に中共工会代表團員として参列。

任 玲 遜 Jèn Ling-sun (Richard) 1907~

広東省の人。三〇年米ワシントン大学卒業。三三年—三九年上海中央通訊社英語部長。四〇年—四一年同香港支局長。三九年—四〇年中国半月刊主筆。四二年—四三年中央通訊社印度支局長。四三年—四七年ロンドン支局長。四八年—四九年サンフランシスコ支局長。四九年以来ワシントン支局長。

ね

寧 武 Ning Wu

遼東省の人。東北における国民党の草分けの人。四六年八月東北行政委員會が成立するとその委員。国民党革命委員會中央委員。四九年九月政治協商會議に特別招請者として出席。同年末政務院人民監察委員會委員。五三年一月—五四年九月東北行政委員會委員。五四年八月第一期全國人民代表大會遼寧省代表。同月遼寧省人民政府副主席。五五年二月遼寧省副省長。三月政治協商會議遼寧省第一期委員會副主席。五六年二月中国亜洲團結委員會委員。

年 得 祥 Nien-tè-hsiang

国民代表大會四川省代表。五五年三月アジア諸国会議中共代表團團員。

農 康 Nung Kang

僮族。五五年二月広西省人民委員會委員。

農 聚 英 Nung Chü-ying

僮族。五三年一月当時桂西僮族自治区人民政府委員。四月中華全國民主婦女連合會第二期執行委員。

儂 明 傳 Nung-ming-chuan

儂族。五四年八月第一期全國人民代表大會雲南省代表

は

巴音克希克 Pa-yin-ké-hsi-ké

蒙古族。五四年六月新疆巴音郭楞蒙古族自治区人民政府主席。

巴 玉 林 Pa-yü-lin

蒙古族。五四年六月新疆巴音郭楞蒙古族自治区人民政府副主席。

巴 金 (本名、李芾甘) Pa Chin (Li Fu-kan) 1906~

四川省成都の人。仏国留学。エスペラント学者。最初北平で沈從文、鄭振鐸らとともに「水星」を主宰したが、三五年停刊、上海「文化生活社」より文学叢刊を三五年末より発刊。三六年六月上海良友圖書公司から「文季月刊」を刊行。三六年六月魯迅等とともに「中国文芸工作社」を設立。四九年七月全国文学芸術界連合会全国委員会委員、当時上海市文学芸術界連合会副主席。十月政務院文化教育作家協会理事。五四年六月華東軍政委員会文化教育委員会委員を解任。八月第一期全国人民代表大会四川省代表。十二月中ソ友好協会第二次全国代表会代表。五五年三月アジア諸国会議中共代表団団員。著書「激流三部曲」「愛情三部曲」「クロボトキン互助論訳本」。

巴 彦 胡 Pa-yên-hu

蒙古族。五四年八月第一期全国人民代表大会黒龍江省代表。

巴 扎 爾 別 克 Pa-cha-êrh-pieh-ké

ハサック族。五四年七月新疆省博爾塔拉蒙古族自治区人民政府副主席。

巴 提 漢 Pa-ti-han

ハサック族。五二年十二月新疆省牧区代表大陸各地參觀団団長。五四年四月新疆省ハサック自治区準備委員会主任委員。

巴 迭 爾 漢 Pa-tieh-êrh-han

新疆の人。ハサック族。新疆民族軍阿山騎兵団団長。四九年十月中央人民政府民族事務委員会委員。

巴 列 金 Pa-lieh-chin

五四年七月当時中央人民政府中央農業部首席顧問。

哈 圖 Ha-tu

蒙古族。五四年八月第一期全国人民代表大会遼寧省代表。五五年二月遼寧省人民委員会委員。

哈 米 Ha-mi

ハサック族。五五年二月阿克塞ハサック族自治区人民政府副主席。

哈 豐 阿 (哈豐嘎) Ha-fêng-a (Ha-fêng-ka)

蒙古族。哲盟東科中旗生れ。戦後東北行政委員会民族委員会主任、内蒙古自治運動連合会東蒙総分會主任。四九年当時内蒙古自治区人民政府副主席。五五年四月内蒙古自治区人民委員会副主席。五月中国人民対外文化協会理事。五六年五月内蒙古自治区蒙古文字改革委員会主任。

哈 木 Ha-mu

ハサック族。五四年一月青海省海西、蒙、藏、ハサック族自治区人民政府副主席。五六年四月当時青海省海西、蒙、藏、ハサック族自治区副州長。

馬 維 榮 Ma Wei-jung

回族。五四年四月寧夏省蒙古自治区人民政府委員。

馬 一 浮 Ma I-fu

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(特別招請)。

馬 一 民 Ma I-min

五四年九月—五六年十二月当時中国雜品出口公司(中共側)副經理。五五年八月ジャカルタ国際博覧会参加展覽団団長。十一月インド訪問工業代表団団長。五六年四月エジプトのカイロにおける単独商品見本市団長。

馬 寅 初 (元善) Ma Yin-chu (Yüan-shan) 1882~

浙江省嵊県の人。上海中西書院卒業。北洋大学鉱科に入る。七年

米エール大学およびコロンビア大学に学び、経済財政学を専攻。帰国後北京大学教授、後中央大学、交通大学、浙江大学、重慶大学教授を十余年間歴任。二八年立法委員。戦時中国国民党の財政政策を批評し、監禁年余にして釈放。四九年四月パリ世界平和擁護大会に副団長として郭沫若、劉寧一らとともに参加。九月政治協商會議全国委員会委員。十月中央人民政府財政經濟委員会副主任。華東軍政委員会副主席。五〇年一月浙江大学校長、五一年八月北京大学校長。五三年一月憲法起草委員会委員。同月華東行政委員会副主席。二月政治協商會議全国委員会常務委員。同月中央選挙委員会委員。四月世界人民平和擁護大会国際委員会委員として訪ソ。当時抗米援朝總會常務委員。五四年五月中国人民対外文化協会理事。八月第一期全国人民代表大会浙江省代表。九月同大会常務委員会委員。七月世界平和理事会ベルリン特別會議中共代表団代表(団長、郭沫若)として訪独。十一月中国銀行常務董事。十二月中ソ友好協会第二次全国代表会代表、同協会総会第二期副会長。五五年六月中国科学院哲学社会科学学部委員。七月各国議會連盟参加人民代表団副主席。五六年三月中国国際貿易促進委員会対外貿易仲裁委員会委員。著書「中国經濟改造」(三五年)「中華銀行論」(二九年)「中国関税問題」(馬寅初經濟論文集)(三二年)等。

馬 子 民 Ma Yu-min

山西省の人。現在二九歳位。中共空軍參謀。穿雲飛行計算尺を發明し空軍二級英雄獎を獲得。

馬 運 五 Ma Yün-wu

回族。五三年一月中国イスラム教協会準備委員会委員（開封市回教民族代表）。十一月全国工業連合会執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大會河南省代表。五五年二月河南省人民委員会委員。

馬 可 Ma Kê

五四年三月群衆歌曲評選委員。五月中国音楽家協会常務理事。同月「我們是明天的青年團」を作曲。同月右作品により、全国児童文芸創作評選委（音楽方面）の三等奨受賞。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員（中国文学芸術界連合会）。

馬 艾 木 Ma Ai-mu

五四年二月当時中共河北省委員会農村工作部副部長。

馬 寒 冰 Man Ha-ping

五五年九月当時人民解放軍總政治部文化部編審出版処処長。五六年二月エジプト訪問文化芸術代表團（团长、鮑爾漢）副团长としてエジプトに赴く。八月文化芸術代表團長としてアフガニスタンを訪問。十一月中国エジプト友好協會理事。

馬 紀 壯 Ma Chi-chuang (G. John) 1911~

河北省の人。海軍軍官学校卒業。米國留学。艦隊參謀長、艦隊司令官、海軍總司令部參謀長等を歴任。五二年—五四年国府海軍總司令。五四年參謀長補佐。

馬 輝 之 Ma Hui-chih

実施計画協定書（自五六年—至五七年）に署名。

馬 玉 聲 Ma Yü-shêng

河北省天津の人。北鮮在任華僑。新義州華僑連合会委員長、平安北道華僑連合会委員長を歴任。五三年北鮮華僑帰国觀光団团长。現在北鮮華僑連合会總會委員長。五四年九月第一期全国人民代表大會華僑代表。

馬 金 慶 Ma Chin-ching

五三年十一月全国工業連合会執行委員。五五年二月吉林省人民委員会委員。五六年十二月全国工業連合会第二期執行委員（吉林省）。

馬 君 武 (名、和) Ma Chün-wu (Hé) 1881~

広西省桂林県の人。六年日本京都帝国大学工科卒業後独逸に留学。一六年広東軍政府秘書長。その後広西省長。二四年北京工業大 schools 校長。二五年司法總長。二六年教育總長。三一年広西大 schools 校長。三二年西南政務委員会常務委員。政治經濟、動植物理、文学等に関する訳著多数。ダーウィン「種の起源」の最初の訳者。

馬 繼 孔 Ma Chi-kung

五五年二月雲南省人民委員会委員、当時中共雲南省委員会副書記。

馬 傑 Ma Chieh

回族。五三年一月当時中央民族事務委員会中南民族工作視察組組

湖南省の人。日華事変中は冀熱特別区党委員会書記。四八年八月中華全国總工會執行委員。四九年東北人民政府人民監察委員会副主任。五三年一月—五四年九月東北行政委員会委員。同人民監察委員会副主任。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員（中華全国總工會）。五五年五月國務院交通部副部長。

馬 吉 提 Ma Chi-ti

ハサック族。五四年三月新疆省水利參觀団团长、当時新疆省水利局副局長。

馬 曉 軍 (展鴻) Ma Hsiao-chün (Chan-hung)

広西省容県の人。日本陸軍士官学校卒業。軍政部主任參事、建設委員会委員、軍事委員会点檢委員長を歴任。国府立法委員。

馬 玉 槐 Ma Yü-huai 1918~

河北省任邱の人。保定同仁中学卒業。三八年—五〇年冀中区、晋察冀辺区回民抗日救国会主任、回民支隊政治委員、冀中軍区第九軍分区副政治委員、北京市人民政府回民工作委員会主任、回民学院院长、北京市人民政府民政局副局長を歴任。五一年二月当時北京市人民政府委員会委員、中央人民政府政務院民族事務委員会委員。五三年五月北京市選舉委員会委員。十一月中国イスラム教協会委員会副主任。五四年二月北京市人民政府民政局局長。八月第一期全国人民代表大會北京市代表。五五年六月中国インドネシア友好協會副會長。七月中国人民外交学会第三期理事會理事。五六年二月エジプト訪問文化芸術代表團（团长、鮑爾漢）副团长。六月中国シリア文化合作

長。五五年二月河南省人民委員会委員、当時民族事務委員会第一司副司長。

馬 堅 Ma Chien

雲南省蒙自県の人。回族。エジプトのアイズハール大学卒業、エジプト国立アラブ文學院卒業。四九年九月政治協商會議全国委員会委員。五〇年十月抗美援朝總會全国委員会委員。五三年五月中国イスラム教協会委員会委員。五四年六月当時北京大学教授。八月第一期全国人民代表大會雲南省代表。五六年十月中国エジプト友好協會理事。著書「中国回教概観」（アラブ文）。訳著「回教哲学」「回教真理」「回教教育史」「回教哲学史」「論語」（アラブ文）「教義学大綱」等。

馬 彦 祥 Ma Yèn-hsiang

浙江郵県の人。北京故宮博物院院長馬衡の子。上海復旦大学卒業後、朱讓丞、潘漢年、袁牧之、沈頌芳等と劇作に従事、「辛酉劇社」を組織。田漢の「南国劇社」、洪深の「戲劇協社」と鼎立。閉鎖解散後フランスに、後ソ連に赴き演劇を研究。帰国後演劇工作に従う。四九年中央人民政府政務院文化部戯曲改進局副局長。中ソ友好協會總會幹事。五三年十月中国文学芸術界連合会第二期全国委員会委員。五四年八月当時政務院芸術事業管理局副局長。同月第一期全国人民代表大會上海市代表。

馬 孔 智 Ma Kung-chih

五五年二月雲南省人民委員会委員。

馬光世 Ma Kuang-shih

五四年十一月最高人民檢察院檢察員。

馬恆昌 Ma Heng-chang 1903~

労働模範。遼東省遼陽県の人。東北第五機器廠勤務。五四年八月第一期全国人民代表大會瀋陽市代表。

馬 洪 Ma Hung

中共中央東北局副秘書長。五二年十一月中央人民政府國家計画委員會委員。五三年十二月同委員會秘書長。

馬興泰 Ma Hsing-tai

回族。五四年八月第一期全国人民代表大會青海省代表。五六年六月政治協商會議青海省委員會副主席。

馬鴻逵 (少雲) Ma Hung-kui (Shao-yün) 1892~

甘肅省の人。甘肅軍官學校卒業。二九年—三〇年第六四師長。三〇年—三三年第一五路軍司令。三五年第一七集團軍總司令兼寧夏省政府主席。新疆省主席。三七年—四五年第八戰区司令。四七年十一月西北戰区(蘭州)副司令。四八年三月—五〇年西北掃共副司令。四九年—五〇年甘肅省長。現在サンフランシスコ在住。

馬鴻賓 Ma Hung-pin

甘肅省導河県の人。回族。馬鴻逵の兄。馬福祥の子。甘肅寧夏鎮守使、国民革命軍第二集團軍暫編陸軍第二二師長等を経て、甘肅省政府委員。甘涼肅辺防司令、新編第七師長、次いで新編第二二師長。四九年西北軍政委員會委員、甘肅省人民政府副主席。五三年一月西北行政委員會副主席。五四年二月人民解放軍慰問代表團第二總分團副團長。六月西北軍政委員會土地改革委員會委員を解任。八月第一期全国人民代表大會甘肅省代表。九月同大會民族委員會委員、国防委員會委員。十二月甘肅省副省長。五五年九月一級解放勳章。

馬國瑞 Ma Kuo-jui

五三年三月当時中共河北省委員會第二書記。五四年四月当時河北省人民代表會議協商委員會副主席。六月河北省憲法草案討論委員會主任委員。五五年一月政治協商會議第一期河北省委員會第一次全体會議で前河北省協商委員會副主席として、周恩來の政治協商會議第二期全國委員會第一次全体會議における政治報告を伝達。同月政治協商會議第一期河北省委員會主席。二月河北省人民委員會委員。

馬國宣 Ma Kuo-hsuan

広東省潮陽県の人。現在四八歳。ヴィエトナム・シロン在住華僑。貿易商。シロン潮州中華理事會理事長。

馬 宰 Ma Tsai

河南省沁陽県の人。戦闘英雄。第二野戦軍某團副團長。中産農家出身。高小卒業。共産党青年團員。一六歳にて革命に参加、民運

科長、參謀股長、團參謀長を歴任したといわれる。

馬子健 Ma Tzu-chien

回族。五三年一月陝西省人民政府委員。

馬子谷 Ma Tzu-ku

五五年二月湖南省人民委員會委員。

馬子水 Ma Tzu-shui

五五年三月当時中共上海市委員會副書記。

馬志揚 Ma Chih-yang

五三年十一月全國工商業聯合會執行委員。五六年十二月全國工商業聯合會第二期執行委員(甘肅省)。

馬 思 義 Ma Ssu-i

回族。中国人民解放軍西北軍区騎兵团團長。四九年中央人民政府民族事務委員會委員。

馬 思 聰 Ma Ssu-tsung

広東省番禺県の人。幼にして仏國に留学し音楽を学ぶ。帰国後南京中央大学美術学院教授。三八年香港九龍で馬國霖と協力し華南音楽院を創立。四九年中華全国文学芸術界聯合會全國委員會委員、北京中央音楽学院院长、中ソ友好協會總会理事。五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問團第一總分團副團長として北鮮へ赴く。当時中国音楽

家協會副主席。五四年三月群衆歌曲評選委員會委員。五月中国人民對外文化協會理事。八月第一期全国人民代表大會天津市代表。五五年六月中国インドネシア友好協會理事。十一月日本憲法擁護国民連合と中国人民對外文化協會との日中文化交流申合せに調印。

馬 紫 笙 Ma Tzu-shéng

五四年八月第一期全国人民代表大會河北省代表。五五年二月河北省人民委員會委員。

馬 識 途 Ma Shih-tu

五五年一月四川省人民委員會委員。

馬 錫 五 Ma Hsi-wu

甘肅省の人。中央人民政府最高人民法院西北分院院長。五三年一月西北行政委員會委員。四月中国政治法律学会理事。五四年二月人民解放軍慰問代表團第二總分團副團長。六月西北軍政委員會土地改革委員會委員を解任。八月第一期全国人民代表大會甘肅省代表。十一月最高人民法院副院長。五五年二月最高人民法院審判委員會委員。

馬 壽 華 Ma Shou-hua 1893~

安徽省渦陽県の人。河南政法大学に学ぶ。一二年—二二年河南高等法院檢察官。二三年—二八年漢口地方法院および安徽省法院の檢察長。二八年—三〇年司法行政部代理司長。三〇年—三二年南京市政府秘書長。三二年—四二年弁護士。四七年—五〇年台湾土地銀行董事長。五〇年国府司法院秘書長。著書「刑事訴訟手続の解釈」「刑

法」。

馬 樹 禮 Ma Shu-li (Mah Soo-lay)

江蘇省連水県の人。現在四八歳。ジャカルタ在住華僑。日本明治大学法科、マニラ・セントトマス大学に学ぶ。現在中華民国立法委員、ジャカルタ中華商報社長兼編集、インドネシア華僑記者公会理事長。著書「中国戦時政治」「インドネシア独立運動史」翻訳「反抗俄基本論」(インドネシア語)。

馬 重 雍 Ma Chung-yung

回族。五四年八月当時甘肅省人民政府民族事務委員会副主任委員。

馬 俊 德 Ma Chin-te

回族。五三年十二月青海省黃南西蔵族自治区協商会議副主席。

馬 春 雨 Ma Chun-yü

五四年一月当時東北軍区勤務、全国戦闘英雄、東北軍区軍人代表大会代表。五四年八月第一期全国人民代表大会東北軍区代表。

馬 駿 Ma Chin

五四年十一月最高人民檢察院檢察員。当時中国人民大学法学教授。

馬 純 古 Ma Chun-ku

内蒙古の人。現在四五歳位。四八年八月中華全国総工会執行委

「子義証」等。

馬 小 弟 Ma Hsiao-ti

五五年一月上海市工会連合会第二期委員会委員。五六年一月当時第一機械工会副主席。

馬 少 波 Ma Shao-po

山東の人。共産黨員。劇作家。日華事変中は周恩来の随員の資格で重慶にあり、四九年中共軍の上海進出に従って、上海公安局秘書長(副局長)となり、上海の特務工作の責任者になったといわれる。五三年二月北京市戯曲編導委員会顧問。五五年一月中国京劇院副院長。七月ワルシャワにおける第五回世界青年学生平和友誼交歓節参加中共青年代表団芸術団団長。十月中国古典歌舞劇団副団長。五六年五月訪日京劇代表団副団長兼秘書長として来日。当時中国戯曲研究院副院長、中国戯劇家協会事務理事。また公安部対外工作部主任といわれる。

馬 松 亭 Ma Sung-ting

五三年五月中国回民文化協進会副主任。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員(宗教界)。五五年十一月中国イスラム教経学院副院長。五六年三月当時政治協商会議全国委員会学習委員会委員。

馬 捷 Ma Chieh

五五年十一月第一トラクター製造廠第三副廠長。

員。五三年五月同第七期執行委員。五三年九月ウィーンにて開催の世界労連第三回代表大会に中共工会代表団員として出席。十一月上海市人民政府労働局局長。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員(中華全国総工会)。五五年当時総工会国際連絡部部長。五六年五月中国・パキスタン友好協会理事。

馬 潤 庠 Ma Jun-hsiang 1912~

広東省台山県の人。南開大学卒業、米シガン大学経済学士、ロンドン大学経済学博士。南京土地税徴収処長。中央農工部処長。国立政治大学教授。立法院立法委員。五四年六月財政部政務次長。

馬 紱 倫(夷初) Ma Hsi-lun (I-chu) 1884~

浙江省杭県の人。杭州の養正学院卒業後教育界に入る。浙江省立第一師範校長、浙江省教育厅長、教育部次長、教育部代理総長、浙江省政府委員兼民政庁長、国民政府参事、北京大学文学系教授等を歴任。四六年較場口事件の時殿打された。四九年中国民主促進会理事、政治協商会議全国委員会常任委員、中央人民政府委員、政務院政務委員、同院文化教育委員会副主任兼高等教育部部長。五〇年中国世界平和擁護委員会全国委員会委員。五三年一月憲法起草委員会委員。二月中央選挙委員会委員。三月中国民主促進会主席。六月中国民主同盟中央委員会副主席。五四年八月第一期全国人民代表大会浙江省代表。九月同大会常務委員会委員。十二月中ソ友好協会総会第二期副会長。五五年六月中国科学院哲学社会科学学部委員。七月各国会連盟参加人民代表団執行委員会委員。五六年二月民主同盟中央委員会副主席に再選。著書「列子偽書考」「説文解字研究法」「莊

馬 紹 文 Ma Shao-wên

東郷族。五四年六月東郷自治区人民政府主席。八月第一期全国人民代表大会甘肅省代表。

馬 翔 Ma Hsiang

もと中国医科大学内科学院副院長。五三年十二月東北薬学院副院長。

馬 信 Ma Hsin

五五年二月熱河省人民委員会委員。

馬 振 武 Ma Chên-wu

五三年五月当時北京市人民政府外事処処長。五六年九月当時國務院外交部礼賓司副司長。

馬 震 武 Ma Chên-wu

寧夏省の人。回族。甘肅回族教主。四九年未汪鋒の下に西北軍政委員会民族事務委員会委員。五三年一月西北行政委員会委員。五五年中国イスラム教協会委員会副主任。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員(特別招請)。同月甘肅省人民委員会委員。

馬 瑞 Ma Jui

五三年四月中ソ民用航空公司蘭州—アルマタ線管理処副処長。

馬世芬 Ma Shi-fen

五四年八月第一期全国人民代表大会瀋陽市代表。

馬星野 Ma Hsing-yeh 1908~

浙江省平陽の人。三四年米ヰズリ大学卒業。三五年一四八年中央政治学校に新聞学科を創設その主任。四二年一四六年宣伝部新聞事業処処長。四五年国民党中央執行委員、国民党代表。四五年一五二年中央日報発行人。五〇年一五二年国民党中央改造委員会設計委員会副主任委員。五四年国民党第四組長。

馬全良 Ma Chian-liang

五四年十二月甘肅省人民委員会委員。

馬大猷 Ma Ta-yu

五五年五月中国科学院技術科学学部委員。五六年一月当時中国科学院応用物理研究所研究員。同月政治協商會議第二期全国委員会委員(特別招請)。六月電子学学会準備委員会副主任委員。

馬戴 Ma Tai

五四年十二月國務院燃料工業部新疆石油公司総支配人。

馬乃庶 Ma Nai-shu

五四年十二月北京对外貿易学院副院長。五六年三月中国国際貿易促進委員会対外貿易仲裁委員会委員。

馬朝芒 Ma Chao-mang

五三年七月中国新民主主義青年団第二次全国代表大会にて同青年団第二期中央委員会候補委員。

馬超俊(星樵) Ma Chao-chün (Hsing-chiao)

広東省台山県の人。香港協華学校卒業後日本に留学。旧中国同盟會員。孫文の革命運動に参与。二三年広東兵工廠長。二四年広州特別市党部執行委員会委員兼工人部長。二七年国民政府勞工局長兼労働法典起草委員会常務委員。二八年広東特別市党部指導委員兼宣傳部長、のち広東省政府委員兼農工庁長建設庁長。二九年国民党第三次中央候補執行委員。同年シネネーヴ国際労働會議に出席。帰国後国民政府立法委員、中央訓練部秘書兼民衆訓練処主任。三〇年国民党民衆運動指導委員会副委員および海外党務委員会副主任委員。三一年南京市長、国民党中央執行委員。三五年国府委員、南京市長。三八年中国戦時児童救済協會。同年漢口に全国慰勞總會などを設立、その副会長。同年社会部副部長。四〇年組織部長。四五年南京市長。四六年国府農工部部長、国民党中央執行委員。同年中国紅十字總會理事。五〇年一五三年国民党改造委員会評議委員。五〇年總統府国策顧問。五二年国民党評議委員。著書「中国勞工問題」「三民主義勞工政策」「中国勞工運動史」「比較労働政策」。

馬貞吉 Ma Chên-chi

五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(山西省)。

馬卓洲 Ma Chuo-chou

回族。五四年六月当時河北省人民政府民族事務委員会副主任委員。八月第一期全国人民代表大会河北省代表。五五年二月河北省人民委員会委員。

馬丹江 Ma Tan-chiang

蒙古族。五四年一月青海省海西、蒙、藏、ハサック自治区協商委員会副主席。

馬竹軒 Ma Chu-hsian

五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。

馬仲才 Ma Chung-tsai

回族。五五年八月当時ウルムチ市副市長。九月新疆ウイグル自治区人民委員会委員。

馬仲明 Ma Chung-ming

五五年七月中国人民外交学会第三期理事会理事。

馬長炎 Ma Chang-yên

五五年三月安徽省人民委員会委員。五六年六月淮河治水委員会秘書長。

馬適安 Ma Shih-an

五五年八月北京農業大学副校長。五六年七月北京大学副校長。

馬哲民 Ma Chê-min

ながらく北京で私立中国大学経済学部教授。中央成立後も北京に留り、張瀾、沈鈞儒の下に中国民主同盟中央委員。五三年一月当時武漢大学法学院院長。五四年二月人民解放軍慰問代表団第五總分団(中南)副団長。八月第一期全国人民代表大会武漢市代表。五五年七月当時中南財經学院院长、民主同盟武漢市支部主任委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員に再選。著書「社会進化史」(一九九年南強書局)、「社会経済概論」(三一年新生命書局)、「経済史」(一九九年南強書局)等。

馬天水 Ma Tien-shui

四九年中共安徽省皖南区委員会第三副書記、華東軍政委員会土地改革委員会委員。五三年八月当時中共中央華東局工業部部長。五四年六月華東軍政委員会土地改革委員会委員を解任。五五年二月上海市人民委員会委員。十月一五六年一月中共上海市委員会副書記。

馬騰靄 Ma Têng-ai

回族。五三年五月当時中国回民文化協進会副主任。六月中華全国民主青年連合会常務委員。十月中国人民第三回訪鮮慰問団第二總分団副団長。五四年八月第一期全国人民代表大会甘肅省代表。九月寧夏省人民政府副主席を解任。五六年五月中国パキスタン友好協合理

事。十一月一五七年一月全国人民代表大会代表团团员としてソ連、東欧訪問。

馬 同 近 Ma Tung-chin

回族。五五年七月ワルンヤフにおける第五回世界青年および学生平和友誼交歓節参加の中国青年代表団員。

馬 德 涵 Ma Te-han

五四年十二月陝西省人民委員会委員。

馬 南 風 Ma Nan-feng

五五年八月当時中国人民建設銀行行長。

馬 佩 勳 Ma Pei-hsun

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員会委員(中華全國總工會)。五六年一月第一機械工会副主席。

馬 白 山 Ma Pai-shan

終戦直後は馮白駒の下で海南島瓊崖縱隊副司令。四九年九月華南人民解放軍代表として政治協商會議に出席。

馬 丕 烈 Ma Pi-lich

五四年十二月甘肅省人民委員会委員。

馬 賓 Ma Pin

五三年一月国営鞍山鋼鐵公司總經理。

馬 富 剛 Ma Fu-kang

五六年一月当時東北各省および内蒙古自治区各民族參觀団(団長陳北辰)副団長。

馬 富 春 Ma Fu-chun

回族。五三年一月甘肅省甘南西蔵族自治区人民政府設立準備委員会委員。

馬 文 奎 Ma Wen

五五年一月北京航空学院副院長。

馬 文 奎 Ma Wen-kui

回族。五三年十二月青海省海北西蔵族自治区協商委員会副主席。

馬 文 昭 Ma Wen-chao

五三年十一月当時北京医学院解剖学科教授。五五年五月中国科学院生物学地学部委員。五六年四月全国先進生産者代表會議主席団員。

馬 文 瑞 Ma Wen-ju

陝西省の人。かつて中共中央陝甘寧辺区委員会隴東地区委員会書記。中共中央西北局委員兼組織部部长。五〇年三月西北軍政委員会委員兼人民監察委员会主任。五三年一月西北行政委員会委員。三月

当時中共中央西北局副書記。五四年九月中央人民政府労働部部长。十二月政治協商會議第二期全國委員会委員(共産党)。五六年三月全国先進生産者代表會議準備委員会委員。九月中共第八期中央委員会候補中央委員。

馬 文 鼎 Ma Wen-ting

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員会委員(特別招請人士)。同月青海省人民委員会委員。

馬 平 夫 Ma Ping-fu

五五年一月天津市人民委員会委員。

馬 平 甫 Ma Ping-fu

五四年七月第一期全国人民代表大会西安市代表、当時西安市人民政府民族事務委員会副主任委員。

馬 步 芳 Ma Pu-fang 1903~

甘肅省の人。回教馬一族(馬步青、馬鴻逵等)幹部。もと新第九師師長、新第二軍軍長。三七年一五〇年第八二軍軍長兼青海省政府主席。四九年七月西北軍政長官。

馬 保 三 Ma Pao-san (Bou-san) 1887~

山東省の人。富農の出身。三三年頃青島で港灣労働者を指導。滿洲事变勃発後、滿州で馬占山とともに抗日ゲリラ戦に従事。その後東北抗日連合軍、八路軍および新四軍で政治工作に従事。青島「解

放」後青島市長に任命。五四年三月山東省人民代表會議協商委員会副主席。当時山東省抗米援朝分会副主席。五五年三月山東省人民委員会委員。

馬 保 之 Ma Pao-chih (Ma, Paul C.) 1908~

広西省の人。二八年南京大学卒業。三三年米コーネル大学卒業。三四年一四五年中央農業研究所首席農業技師。四六年一四九年農林部農業局長。四七年一四九年BOTRAの農業機械化作業処理局長。四九年中国農村復興委員会広西地区局代表。四九年一五一年同委員会農業振興部技師。五二年同部部长。

馬 輔 臣 (礦務) Ma Fu-chên (Kuang-wu)

青海省の人。回教族中の名望家。西北軍政委員会委員兼工業部副部长。青海省人民政府副主席。五三年一月西北行政委員会委員。五四年九月西北行政委員会民族事務委員会副主任委員。十二月青海省副省長。五六年六月青海省省長。

馬 芳 庭 Ma Fang-ting

五六年十月國務院紡織工業部部长助理。

馬 芳 富 Ma Fang-fu

五三年十二月青海省海北西蔵族自治区人民政府副主席。

馬 芳 富 Ma Fang-fu

五三年十二月青海省海北西蔵族自治区人民政府副主席。

馬 烽 Ma Feng

貧しい家庭に育ち、少年の時から軍隊に入り、戦争中「晋綏大衆

報」の主筆、晋綏出版社の編集長。中華全国文芸連合会会員。五三年六月中華全国民主青年連合会常務委員。十月中国作家協会理事。五四年五月人民保衛兒童委員会主催全国兒童文芸創作評奨委員会委員。五五年二月当時中国作家協会普及工作部副部長。著書には四五年西戎と共著の「呂梁英雄伝」（抗日根拠地の農民を描いたもので、東北映画製作所で映画化）がある。その後「結婚」を発表。

馬木提尼牙孜 Ma-mu-ti-ni-ya-tzu

ウイグル族。五四年八月第一期全国人民代表大会新疆省代表。

馬萬祺 Ma Wan-chi

五四年九月澳門中華總商會副理事長。五五年十一月工商連澳門代表。

馬萬水 Ma Wan-shui

全国労働模範。五三年四月総工会ソ連メーデー参観団団員。五四年八月第一期全国人民代表大会河北省代表。

馬明方(字、汝舟、號、濟民) Ma Ming-fang

(Ju-chou, Chi-min) 1904~

陝西米脂県の人。綏徳師範を中途退学。二五年中共入党。二七年以後陝北で地下秘密工作に従事。三一年より三八年まで陝北特別委員会宣伝部長、書記および陝北ソヴィエト主席、さらに陝西省委員会書記を歴任。その後病氣治療と勉学のため赴ソ。四一年―四六年国民党側によって新疆省某地において監禁され、四六年七月延安に

帰る。その後陝西省人民政府主席。中共中央委員候補。五〇年中共中央西北局副書記。西北軍政委員会委員。五二年十月西北軍政委員会副主席。五三年八月政治協商會議全国委員会常務委員。五四年八月第一期全国人民代表大会陝西省代表。九月同大会代表資格審査委員会主任委員、同大会常務委員会委員。五六年九月中共第八期中央委員会委員、中央監察委員会委員。

馬約翰 Ma Yueh-han

五三年九月中華全国体育總會副主席。五四年八月第一期全国人民代表大会河北省代表。十二月中ソ友好協会總會第二期理事。五五年六月ヘルシンキ世界平和大会中共代表団団員。五六年一月中国オリンピック委員会副主任。

馬有岳 Ma Yu-yueh 1901~

台湾省新竹県の人。戦前州庁農會議員、会社社長、庄長、農会長等を歴任、戦後郷長、県参議員、省農會理事、三民主義青年団幹事、省党部執行委員、省改造委員会委員、台湾省農會理事長、省合作金庫監事、省自動車連合会理事、自動車貨運公司董事長等。

馬豫章 Ma Yu-chang

五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(国营企業、合作社全国総機構)。

馬豫真 Ma Yu-chên

回族。五四年八月第一期全国人民代表大会河南省代表。

馬溶之 Ma Jung-chih

土壤学者。五三年二月中国科学院訪ソ代表団団員として赴ソ。五五年八月当時中国科学院土壤研究所長。

馬拉欽 Ma La-chin

五五年一月黒龍江省人民委員会委員。

馬樂庭 Ma Lê-ting

回族。五四年八月第一期全国人民代表大会安徽省代表。五五年五月安徽省人民委員会委員。

馬樂天 Ma Lê-tien

五三年一月青海省人民政府副秘書長。五四年十二月青海省人民委員会委員。

馬利亞 Ma Li-ya

五五年三月当時新疆省民主婦女連合会宣伝部長。

馬力 Ma Li

五三年三月当時河北省人民政府財政庁庁長。五五年二月河北省人民委員会委員。

馬侶賢 Ma Li-hsien

五五年二月上海市人民委員会委員。

馬良驥 Ma Liang-chi

五三年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員会委員。

馬林 Ma Lin

五五年二月山西省人民委員会委員。五五年三月西康省西蔵族自治州副州長。

馬六孩 Ma Liu-hai

華北大同炭礦の坑夫で全国石炭労働模範。馬六孩掘進班の指導者。この班の掘進方法は「馬六孩多抗道循環掘進作業法」、或は「二個半坑道循環作業法」とよばれ全国に普及されつつある。五四年八月第一期全国人民代表大会山西省代表。

馬録文 Ma Lu-wên

回族。五三年十二月青海省海北西蔵族自治区人民政府副主席。五五年六月青海省海北西蔵族自治州副州長。

排啓仁 Pai Chi-jên

景頗族。五三年七月雲南省德宏傣族景頗族自治区人民政府副主席。五五年二月雲南省人民委員会委員。

裴阿欠 Pei A-chien

僱僕族。五四年六月碧江県僱僕族自治区人民政府副主席。八月第一期全国人民代表大会雲南省代表。九月同大会民族委員会委員。同

月雲南省怒江傈僳族自治州人民政府主席。五五年二月雲南省人民委員會委員。

裴 昌 會 Pei Chang-hui

山東省の人。中国国民党革命委員会南充市支部準備委員会委員。西南軍政委員会委員。五三年一月西南行政委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大會四川省代表。九月国防委員会委員。五五年四月政治協商會議重慶市委員会副主席。九月一級「解放」勳章を授与。五六年二月国民党革命委員会中央委員。

裴 文 中 (明華) Pei Wên-chung (Ming-hua) 1904~

河北省灤県の人。シナントロップス・ベキネンシス(北京原人)の発見者で、中国第一の考古学者といわれる。北京大学地質学科を卒業、フランスのパリ古生物研究所のために「東亜之第四紀質及史前文化」を執筆。山西、陝西、山東、綏遠、河北、広西の各省地質調査に赴き、また実業部地質調査所研究員兼周口店辦事処主任の時に右の発見をなす。三四年以来北平研究院、中央研究院或いはロンドン大学で研究。中共政府成立後中国科学工作者協会代表としてパリの世界平和擁護大会に出席。華北高等教育委員会委員。五三年三月九三学社中央委員。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(九三学社)。同月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表。五五年五月中国科学院生物学地学部委員。六月中国インドネシア友好協会理事。五六年二月中国科学院古脊椎動物研究室教授。同月九三学社第四期中央委員会委員に再選。

裴 麗 生 Pei Li-shêng 1897~

山西省の人。モスクワ大学卒業。山西および上海等において中共の政治工作に従事。延安においては中共中央社会部対敵工作局長。四六年兵団政治委員。四九年末程子華主席の下に山西省人民政府副主席。のち主席に昇任。五三年一月華北行政委員会委員。十二月中共山西省委員会第二書記。五四年九月華北行政委員会委員を解任。五五年二月山西省省長。五六年三月國務院科学規劃委員会委員。

貝 時 璋 Pei Shih-chang

生物学者。五三年二月中国科学院訪ソ代表团員として赴ソ。五四年八月第一期全国人民代表大會上海市代表。五五年五月中国科学院生物学地学部委員。十月國務院高等教育部副部长。

貝 祖 詒 (淞孫) Pei Tsu-i (Tsayee Pei, Sung-sun)

江蘇省の人。蘇州東吳大学および唐山交通大学卒業。漢冶萍煤鉄公司会計係、中国銀行総管理処員、中国銀行香港支店支配人等歴任。二七年中国銀行經理、上海銀行公会執行委員、上海共同租界工部局市参事会委員。三〇年米國に旅行。三八年中国銀行副經理。四一年—四四年通貨安定會議議員。四四年連合國通貨財政會議中国代表部部員。四八年—四九年駐米大使館對華經濟援助協力代表部主任。四八年—四九年中国銀行董事長。

貝 仲 選 Pei Chung-hsüan

員会委員。訳著に「鋼鉄はいかに鍛えられたか」(オストロフスキ I・人民文学出版社、五三年一月)がある。

梅 龔 彬 (原名、電龍) Mei Kung-pin (Tien-lung)

湖北省黄梅県の人。上海東亜同文書院卒業後、中共に入党。北伐前は上海で学生運動。二七年張發奎軍の政治主任、武漢国共分裂後、日本に留学。三一年中共を脱党して「神州国光社」に入る。三三年福建人民政府に参加。日華事变中広東省坪石で中大法学院の教員。戦後広東、ついで香港に行き達徳学院の教授。国民党革命委員会が成立すると、その中央委員兼秘書長。李濟深に随って北上、政治協商會議に参加。五一年十月政治協商會議全国委員会委員。中央人民政府政務院財政經濟委員会委員。五三年三月中華全国青年第二次代表大会準備委員会委員。八月政治協商會議全国委員会常務委員。十月政治協商會議全国委員会副秘書長。五四年八月第一期全国人民代表大會湖北省代表。十二月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表。五五年三月アジア諸国会議中共代表団員。五六年二月中国亞洲團結委員会委員。同月国民党革命委員会中央委員再任。

梅 曉 春 Mei Hsiao-chun

五五年二月江西省人民委員会委員。

梅 公 任 Mei Kung-jên 1892~

遼寧省の人。瀋陽師範学院卒業。国民党史料編纂委員会副主任委員。三五年—五〇年同党中央執行委員。三三年監察委員。

五四年九月西南軍政委員会財政經濟委員会委員を解任。五五年一月國務院財政部部長助理。七月中国人民保險公司總經理。五六年三月中国国際貿易促進委員会対外貿易仲裁委員会委員。

梅 貽 琦 Mei I-chi 1889~

河北省天津の人。一四年米ウースター工芸学校卒業。四〇年同校名譽工学博士。一五年—二九年清華大学物理教授。二九年—三一年在米中国人留学生監督官。三一年清華大学校長。三八年—四六年国立西南連合大学理事会主席。四九年教育部長に任命せられたが、就任せず、その後ニューヨーク市所在の在米文教事業顧問委員会主任委員。

梅 貽 寶 Mei I-pao 1900~

天津の人。米オベリン大学、シカゴ大学卒業。帰国して三一年—三三年燕京大学研究院長。三三年—三四年山西省大谷県米人中国系学校副校長。三五年山東省済南済魯大学長。

梅 益 Mei I 1910~

広東省汕頭の人。ソヴィエト文学の翻訳が多い。戦争中江南地方および上海で中共地下工作に従事。四六年旧政治協商會議に際し、中共側南京駐在連絡処スポークスマン。新華通訊社社務委員会委員兼放送部主任。新華社放送事業局局長。五二年十二月中央人民政府政務院文化教育委員会放送事業局長。五四年五月中国人民対外文化協会理事。八月第一期全国人民代表大會雲南省代表。五五年四月中国新聞工作者連誼会副会長。五六年二月中央標準語普及工作委

梅合買提 Mei-hé-mai-ti

ウイグル族。五四年六月新疆巴音郭楞蒙古族自治区人民政府副主席。

梅汝璈 Mei Ju-ao 1904~

江西省の人。清華大学、米スタンフォード、シカゴの各大学で法学を研究。三〇年以来南開、武漢各大学教授。三五年以来立法院委員。四六年極東国際軍事裁判所判事。四八年孫内閣司法行政部長。五一年ウイーンにおける第二回世界平和擁護評議会に出席。中共政府外交部顧問。五三年一月米國ローゼン、バーグ夫妻死刑に關し、法律学者、前極東軍事裁判官として抗議。四月中国人民外交学会理事。五四年六月中国政治法律学会理事。八月第一期全国人民代表大会安徽省代表。九月全国人民代表大会法案委員会委員。五五年中国国際貿易促進委員会副主席。五六年十一月中国エジプト友好協合理事。

梅達君 Mei Ta-chün

五四年十二月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表(中国民主促進会)。

梅蘭芳 (晚華) Mei Lan-fang (Wan-cha) 1895~

江蘇省揚州の人。本名鶴鳴 (He-ming)、別名綴玉軒主人。蘭芳はその芸名。京劇名優。十八番は「天女散花」「嫦娥奔月」「黛玉葬花」等、せんさい典雅なものを得意とする。三〇年齊如山らとともに

に渡米、各地で好評を博し、南加大学、ボルティモア大学等から博士号を贈られた。三二年張彭春教授、映画女優胡蝶とともにモスクワを訪問。日華事変中は香港に隠棲。大東亞戦争で香港陥落後上海に移る。日本側の要請を断り続け遂に舞台に立たなかつた。四九年六月中華全国文学芸術工作者大会に招かれて出席。九月の政治協商会議には特別招請代表として程艷秋、周信芳らの梨園代表とともに出席、同会議全国委員会委員。中国戯曲研究院院長。五二年第一期全国戯曲演出大会に個人榮譽を受く。同年冬ウイーンの世界人民平和大会に出席。五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問団総団副団長として赴鮮。同月中国戯劇家協会副主席。五四年五月中国人民対外文化協会理事。八月第一期全国人民代表大会北京市代表。十二月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表(中国文学芸術界連合会)。同月中ソ友好協会総会第二期理事会理事。五五年四月周信芳とともに舞台生活五〇年記念大会において榮譽獎状を受ける。七月全国人民代表大会第二次會議主席団副員。五六年二月中国亞洲團結委員會委員。同月中央標準語普及工作委員会委員。五月訪日京劇代表団副団長として来日。

買買提・艾沙 Mai-mai-ti・Ai-sha

柯爾克茲族。五四年八月第一期全国人民代表大会新疆省代表。九月同大会民族委員会委員。五五年二月政治協商會議第一期新疆省委員会副主席。

買買提・漢阿吉塔吉阿吉 Mai-mai-ti・Han-a-chi-ta-chi-a-chi

五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(新疆ウイグル自

治区)。

買買提・尼牙孜哈日 (熱) Mai-mai-ti・Ni-ya-tzu-ha-jih (je)

ウイグル族。五四年八月第一期全国人民代表大会新疆省代表。五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(新疆ウイグル自治区)

白海風 Pai Hai-feng

旧熱河省の人。蒙古族。軍人。延安民族学院卒業。四九年末西北軍政委員会委員兼同農林部副部長。西北民族学院副院長。五三年一月西南行政委員会委員。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(少数民族)。

白希清 Pai Hsi-ching

遼寧省の人。病理学専攻。中国民主同盟東北総支部臨時工作委員会委員。四九年東北人民政府衛生部副部長。五三年一月東北行政委員会委員。大連医学院院長。五三年五月瀋陽中国医科大学副校長。同月世界医学會議出席中共代表团第二副団長。十一月ウイーンにて開催の世界平和理事会に特別招待代表として出席。五四年二月東北抗米援朝總分會において結成された全国人民解放軍慰問代表団第七副団長。五月中国人民対外文化協合理事。五四年八月第一期全国人民代表大会大会ハルビン市代表。九月東北行政委員会委員を解任。同月東北人民政府文化教育委員会委員を解任。五五年五、六月放射線影響學術懇談会出席のため来日。十一月中央衛生研究院副院長。

白紀年 Pai Chi-nien

五三年七月中国新民主主義青年団第二期中央委員。

白菊如 Pai Chi-ju

五五年三月当時天津市民主婦女連合会婦女兒童福利部副部長。

白堅 Pai Chien

陝西省の人。山西大学卒業。中共軍師副政治委員、軍政治部主任、中共中央華北局統一戦線工作部副部長。中央人民政府政務院華北行政委員会副秘書長。五三年一月華北行政委員会委員。五四年二月全国人民解放軍慰問代表団第六總分団副団長。三月華北行政委員会秘書長。九月華北行政委員会委員を解任。五五年一月天津市副市長。当時中共天津市委員会副書記。

白向銀 Pai Hsiang-yin

五三年八月当時中央人民政府対外貿易部第一局副局長。五五年十月訪ソ貿易代表団副団長。五六年十月國務院対外貿易部部長助理。

白志明 Pai Chih-ming

五六年三月当時中共延安地方委員会書記。九月中共八全大会において「陝北地方の復興状況」について発言。

白治民 Pai Chih-min

五三年十二月当時中共中央西北局農村工作部副部長。五四年六月

西北軍政委員会土地改革委員会委員を解任。五六年三月当時中共陝西省副委員会書記。

白 壽 彝 Pai Shou-i

五三年五月中国回民文化協進会副主任。五四年五月中国人民对外文化協会理事。十二月中ソ友好協会総会第二期理事会理事。五五年二月当時北京師範大学中国古代および中世紀史教研室主任教授。六月ヘルシンキ世界平和大会中共代表団員。同月中国インドネシア友好協会理事。

白 如 冰 Pai Ju-ping

陝西省の人。陝甘寧辺区政府時代、晋西北行政主任公署の財政処長、辺区政府の財政庁庁長を歴任。五〇年西北軍政委員会委員兼財政部部長。五三年一月西北行政委員会委員。五三年一月西北軍政委員会委員を解任。十一月西北行政委員会財政經濟委員会副主任。五四年十一月中央手工業管理局局長。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(合作社)。五五年一月全国第四次手工業工作會議において中華全国手工業生産合作社連合社準備委員会(常務委員会)主任。五六年九月中共八全大会において「手工業問題」について発言。

白 小 松 Pai Hsiao-sung

雲南省の人。英国に留学。雲南大学教授。五〇年頃西南軍政委員会委員。五三年一月西南行政委員会委員。同月西南軍政委員会委員を解任。五四年八月第一期全国人民代表大会雲南省代表。

白 棟 材 Pai Tung-tsai

五五年二月江西省人民委員会委員。

白 認 Pai Jen

五四年二月人民解放軍慰問代表団第三總分団(西南)副団長。五五年一月西康省副省長。

白 薇(女) Pai Wei

五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

白 敏 Pai Min

五六年七月国务院国家測繪総局副局長。

白 炳 勳 Pai Ping-hsun

五三年七月人民志願軍上校。朝鮮軍事停戦委員会連合觀察小組首席組員。

白 步 洲 Pai Pu-chou

五四年十一月最高人民檢察院檢察員。

白 鋒 悟(女) Pai Fêng-wu

陝西省の人。現在四一歳位。延安抗日大学卒業。五三年一月当時陝西省民主婦女連合会副主任。同月陝西省人民政府委員。四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。五四年十二月陝西省人民委員

白 崇 禧(健生) Pai Chung-hsi (Chien-shêng)

1893~

広西省桂林県の人。李宗仁とともに広西派に属す。一六年保定軍官学校卒業。広西第七軍参謀長。国民政府参謀本部副部長等。二六年国民革命軍總司令部参謀長。二七年—二八年上海戒嚴司令、上海臨時政府政治委員会委員、江蘇政治委員会委員、広東政治委員会委員。二七年第二路軍長、第一三軍軍長兼浙滬衛戍司令、武漢南京兩政府合体後、中央特別委員会委員、国民政府委員、軍事委員会主席團委員、財政整理委員、国民革命軍第二路總指揮兼第一三軍長。二八年武漢政治分会委員、第四集團軍前敵總指揮、北平政治分会委員。三〇年—三一年第四集團軍副總司令兼軍事委員会委員。三一年国民党第四次中央執行委員会委員。三二年国民党中央執行委員会西南執行部常務委員、国民政府西南軍事委員会委員、第四集團軍副指揮。三五年国民党第五期中央執行委員会委員。三六年軍事委員会常務委員。三七年第五路軍副總司令。三七年—四六年国民軍事委員会副参謀長。全国航空委員会委員、国民党中央執行委員会常務委員。三八年—四六年国民軍事會議軍事訓練部部长。四六年—四八年国防部初代部長。四七年華中戦区(九江)司令長官。四八年五月總統府戰略顧問委員長。同年国防部部長、華中掃共總司令。四九年四月華中軍政長官。五〇年戰略顧問委員会副主任委員。

白 成 銘 Pai Cheng-ming

五四年一月当時新疆省中ソ有色稀有金屬公司副總經理。

会委員。五六年三月西藏訪問中央代表団副秘書長。

白 楊(女) Pai Yang

湖南省の人。映画女優。五三年十月中国文学芸術界連合会第二期全国委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会上海市代表。

白 力 行 Pai Li-hsing

五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。

白 朗(女) Pai Lang

作家。五二年十二月世界人民平和大会出席文芸界代表として赴ソ。五三年四月世界婦人大会出席代表団員。同月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。六月コペンハーゲンにて開催の世界婦人大会出席婦人代表団代表。十月中国文学芸術界連合会第二期全国委員会委員。同月中国作家協会理事會理事。五四年八月第一期全国人民代表大会瀋陽市代表。十月中華全国民主婦女連合会常務委員。五六年二月中国五洲団結委員会委員。

帕提漢・蘇古爾巴也夫 Pa-ti-han・Su-ku-êrh-pa-

yah-fu

ハサック族。五四年八月第一期全国人民代表大会新疆省代表。九月同大会民族委員会委員。十一月新疆省伊犁ハサック族自治州長。五五年九月新疆ウイグル自治区副主席。

帕巴拉 Pa-pa-la

西藏族。五三年六月中国仏教協会理事。五五年三月当時昌都地区人民解放委員会副主任委員。五六年四月西藏自治区準備委員会全体委員、兼同委員会宗教事務委員会副主任。

柏青 Po Ching

五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。五五年一月黒龍江省人民委員会委員。

博彦滿都 Po-yên-man-tu

蒙古族。五四年八月内蒙古自治区人民政府委員。五五年四月同自治区人民委員会委員。

博昭 Po Chao

五六年十二月当時中国国際貿易促進委員会工作員。

薄一波 Po I-po 1907~

山西省定襄県の人。太原国民師範学校、北平大学卒業。三二年逮捕、徒刑三年。三七年日華事变初期太原で犠牲救国同盟会を組織。太原陥落後は續範亭とともに閻錫山軍に対し武力抗争。四五年中共七全大会で中央委員。後中共中央華北局書記。四八年八月華北人民政府委員兼同政府第一副主席。第五野戦軍政治委員。四九年十月中央人民政府委員、政務院政務委員、同院財政經濟委員会副主任、財政部長。五三年一月華北行政委員会委員。同月憲法起草委員会委員。

莫雄 Mo Hsiung

国府時代広東第二行政区專員兼保安司令。五五年二月広東省人民委員会委員。五七年二月当時広東省参事室副主任。

薄紹宗 Po Shao-tsung

五五年二月山西省人民委員会委員。

麥蘊瑜 Mai Yün-yü

国府時代広東市建設局局長。五五年二月広東省人民委員会委員。

麥斯武德 Mai-szu-wu-tê (Masud) 1887~

新疆省伊寧の人。伊犁回教専門学校、トルコ軍官学校および医科

第二期執行委員(広西省)。

莫德惠(柳忱) Mo Tê-hui (Liu-chên) 1882~

吉林省雙城県の人。北洋高等警察学堂、北京大学卒業。一三年衆議院議員、蒙藏院副總裁等を経て、二二年東三省保安総司令部諮議。二四年北京政府農商部次長代理。二六年奉天财政厅長兼東北大学長。二七年潘復内閣農商総長。二八年関税自主委員会委員。二九年東支鉄道理事長兼督辦、東北政務委員会委員。三〇年—三三年モスクワ中ソ会議中国代表。四二年四八年国民参政会参政員。四六年一月政治協商会民主同盟代表。同年国民大会代表。四七年—四八年国民政府委員。四八年四月副總統に立候補。六月總統府資政。九月憲政指導委員会委員長。四九年三月何應欽内閣政務委員。五四年考試院院長。

莫文驊 Mo Wên-hua

広西省南寧の人。現在四三歳位。四八年人民解放軍兵団政治委員。四九年中南軍政委員会委員。南寧市長。五三年当時人民解放軍東北军区政治部主任。五五年九月一級八一勳章、一級独立自由勳章および一級解放勳章。

莫文祥 Mo Wên-hsiang

五四年八月第一期全国人民代表大会瀋陽市代表。

范允中 Fan Yün-chung

五六年三月中国国際貿易促進委員会対外貿易仲裁委員会委員。

専門学校、トルコ大学の自然科学科を卒業。同再学校一、德爾乃克学校四、伊犁学校一、東邁亥萊学校一、中央初級学校一校を設けて、皆新式の学問を授け、「阿洪誦経」を作り、また社会事業(阿爾泰医院)に従事。三六年国民政府中央執行委員。立法委員、国民大会代表、国民政府参事、新疆省監察院行署長を歴任。四七年—四八年新疆省長。

莫艾 Mo Ai

五三年十二月当時新華社西北總分社社長。

莫虛光 Mo Hsi-kuang

僮族。五三年三月広西省桂西僮族自治区人民代表会議協商委員会副主席。五六年三月桂西僮族自治州副州長。

莫壽全 Mo Shou-chian

五四年八月第一期全国人民代表大会広西省代表。

莫承貴 Mo Chêng-kui

五五年九月中共駐ハンガリア大使館商務参事官。

莫迺群 Mo Nai-chün

広西省の人。日本に留学。もと香港文匯報主筆。五三年十一月全国工商業連合会執行委員。五四年八月広西省人民政府副主席。同月第一期全国人民代表大会広西省代表。五五年二月広西省副省長。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員。十二月全国工商業連合会

范 永 Fan Yung

五三年七月当時全国鉄路労働模範。同月ブカレストにて開催の第三回世界青年代表大会および第四回世界青年学生平和友誼懇親節出席青年代表団員。十月工会代表団員として十月革命三六周年式典に参列のため訪ソ。五四年八月第一期全国人民代表大会長春市代表。九月同大会第一次会議主席団員。

范 鶴 言 Fan Hè-yèn (Hauh Yee Fang) 1901~

浙江省の人。寧波経済専門学校卒業。中国銀行秘書長、同行経済調査部長、同行顧問をへて、四九年一五年経済時報発行人。五一年連合報発行人。

范 希 孟 (女) Fan Hsi-mêng

五四年八月第一期全国人民代表大会旅大市代表。

范 紀 文 Fan Chi-wên 1922~

日本東京工業大学卒業。中共黨員、中共中央統一戦線工作部科長(東南アジア関係情報担当)、中国国際貿易促進委員会連絡部副部長といわれる。五五年三、四月の間、中共貿易代表団随員として来日。十、十一月の間中共見本市代表団副秘書長として来日。

范 仰 民 Fan Yang-min

五〇年一月設立された国营專業公司の一である中国塩業公司(北京)の最高責任者。

五二年十二月当時中共北京市委員会組織部副部長。五五年十一月中共北京市委員会副書記。

范 紹 增 Fan Shao-tsêng

五五年二月河南省人民委員会委員。

范 仲 山 Fan Chung-shan

五五年十二月上海公私合營新亜衛生材料廠廠長。

范 長 江 (諱、希文、號、長江) Fan Chang-chiang (Hsi-wên, Chang-chiang)

四川省の人。北京大学に入学したが、家貧しく退学して「大公報」記者。日華事変の際武漢陥落後、長沙で国際新聞を創刊。その後同紙は桂林に移る。重慶で沈鈞儒の娘沈譜と結婚。四一年皖南事件の際国際新聞を一時停刊。香港に移り、華商報を創刊。爾來終戦まで新華社勤務、上海中共辦事処のスポークスマン。四七年三月中共代表団延安引揚げ後、延安の新華社総社勤務。四九年三月中共中央の北平移転直後、人民日報の華北版を発刊し、論説委員兼総編集。五〇年政務院新聞総署副署長(但し五二年廃止とともに辞任)、人民日報社長、中国世界平和擁護委員会全国委員、中ソ友好協会総会理事。五三年二月ベルリンにおいて「中国ドイツ文化合作協定五三年度執行計画」に中央人民政府政務院文化教育委員会副秘書長として中共側を代表調印。五四年五月中国人民対外文化協会理事。十一月国務院第二辦公室副主任。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(対外平和友好団体)。五六年二月中央標準語普及工作委員

范 瑾 (女) Fan Chin

五三年十二月当時中共北京市委員会宣伝部長。五四年八月第一期全国人民代表大会北京市代表。五五年十二月中国新聞工作者連誼会北京分会会長。

范 谷 泉 Fan Ku-chüan

五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(江蘇省)。

范 子 文 Fan Tzu-wên

中央人民政府政務院人事部第三局局長。五二年八月政務院財政經濟委員会物資分配局副局長。五四年六月同院対外貿易部副部長。八月中央人民政府国家計画委員会国家物資分配局副局長を解任。五五年六月中共・ポーランド技術および技術科学合作連合常任委員会中共組委員。

范 式 人 Fan Shih-jên

四九年江西省人民政府副主席。五二年八月政務院糧食部副部長。十一月同郵電部副部長。五四年十一月国務院郵電部副部長。

范 若 一 Fan Juo-i

五三年九月中央人民政府国家計画委員会綜合計画局副局長。五四年六月河北省人民政府委員を解任。

范 儒 生 Fan Ju-shêng

会委員。三月国務院科学規劃委員会委員兼副秘書長。

范 禎 輝 Fan Chên-hui

五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。

范 能 力 Fan Nêng-li

五六年九月中共駐カンボディア經濟使節団員。

范 文 瀾 (仲雲、筆名、武陂) Fan Wên-lan (Chung-yün, Wu-po) 1819~

浙江省紹興生れ。北京大学文科卒業。南開大学教授、北京大学女子文理学院院長歴任。三五年政治犯の同僚を援助して逮捕されたが、蔡元培に救出された。間もなく延安に行き、中央研究院院長。冀中の北方大学校長。北方大学の「華北大学」に合併後、同大学副校長。この間「中国歴史簡論」を主編。四八年華北人民政府成立とともに同政府委員。中国科学院歴史研究所第三所長。五四年五月中国人民対外文化協会理事。八月第一期全国人民代表大会河南省代表。五五年五月中国科学院哲学社会科学学部委員。六月同学部常務委員会委員。五六年九月中共第八期中央委員会候補中央委員。著書「中国近代史」「文心雕龍講疏」(二〇卷二五年刊)、「水経注写景文鈔」(二九年北平樸社刊)、「正史考略」(三二年文化学社刊)、「群経概論」(三三年、北平樸社刊)等。

范 慕 韓 Fan Mu-han

五六年十一月国家計画委員会委員。

范 明 Fan Ming

五三年五月当時解放軍西藏军区副政治委員(階級は將官)。五四年八月第一期全国代表大会西藏地方代表。五五年十一月当時中共西藏工作委員会副書記。五六年四月西藏自治区準備委員会全体委員。

范 銘 Fan Ming

五三年二月当時政務院第二機械工業部第四局副局長。

范 予 遂 Fan Yu-sui

五三年十月当時中国国民党革命委員会山東省分会準備委員会召集人。五四年六月華東軍政委員会政治法律委員会委員を解任。十二月政治協商会議全国委員会委員(国民党革命委員会)。五五年三月山東省人民委員会委員。五六年二月国民党革命委員会中央委員。

班禪額爾德尼・却吉堅贊(本名、官保慈丹、パンチ

ハシ・ホルム) Pan-chan-ê-eh-tê-ni.
Chieh-chi-chien-tsan (Kuan-pao-tzu-tan)

第一〇世パンチェン。九世パンチェン羅桑吐丹入寂の時、青海で五歳で転生。ダライラマ三世との角逐から青海省グンブムに滞留すること二年。いち早く中共軍を迎える親電を毛澤東に送り、五一年五月中共西藏協定締結後ダライ一世との和解なり、北京を訪問、十月政治協商会議第一期全国委員会委員。五三年六月中国仏教協会名誉会長。五四年夏―五五年春の間北京および本土各地を歴訪。

五四年八月第一期全国人民代表大会西藏地方代表。九月同大会第一次会議主席団員、同大会常務委員会委員。十二月政治協商会議第二期全国委員会委員(少数民族Ⅱ西藏族)、同会議第二期全国委員会副主席。同月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表(少数民族)、同協会総会第二期理事会理事。五五年三月西藏自治区準備委員会第一副主任委員に予定され、五六年四月同準備委員会成立と同時に就任。五六年十一月―五七年一月インド各地を訪問。

樊 弘 Fan Hung

四九年九月政治協商会議全国委員会委員。五四年二月当時抗米援朝総会委員。十二月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表(教育界)。五五年七月中国人民外交学会第三期理事会理事。

樊 沘 如 Fan Chih-ju

五五年二月山西省人民委員会委員。

樊 執 中 Fan Chih-chung

五五年三月西康省西康族自治州副州長。

樊 清 江 Fan Ching-chiang

五五年二月山西省人民委員会委員。

樊 陶 齋 Fan Tao-chai

五五年九月当時中国百貨公司(中共側)副經理。

五一年一月國務院建築工程部部长助理。五六年六月建築工程部部长。

潘 琪 Pan Chi

中央人民政府交通部公路総局局長。五四年六月中央人民政府交通部副部长。

潘 久 芬 Pan Chiu-fên

五四年十一月当時中国銀行董事。

潘 源 泉 Pan Yuan-chuan

五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(陝西省)。

潘 古 Pan Ku

僮族。五三年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員会委員。七月中国新民主主義青年団第二期中央委員会候補委員。五四年八月第一期全国人民代表大会広西省代表。

潘 公 展 Pan Kung-chan (Y.T. Phen) 1895~

浙江省呉興県の人。上海セントジョン大学卒業。三六年以来中ソ文化協会の上海分会で、連ソ抗日運動。日華事変勃発後湖南省政府秘書。三九年国民党中央宣伝部副部长。四二年国民党中央執行委員会常任委員。四一年―四五年出版物検閲委員会主席。四六年―四九年上海市参事会議長、上海申報董事。現在滯米。

潘 光 旦(仲昂) Pan Kuang-tan (Chung-ang) 1898~

潘 鐸 鐘 Pan Ê-chang

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大会安徽省代表。五五年三月安徽省人民委員会委員。十一月当時安徽省工商業連合会主任委員。

潘 漢 年(筆名、蕭愷) Pan Han-nien (Hsiao-kai) 1901~

江蘇省宜興県の人。北伐に参加後、江西ソヴィエト区に入る。三年頃ソ連に留学。第二次中ソ全会において中央執行委員。紅軍の西遷に従い西北に赴く。第二次国共合作後は第八路軍駐滬辦事処主任として上海に潜入、「救亡日報」「抵抗」等を利用して共産軍の宣伝に努力。上海陥落後、武漢を経由して延安に赴く。四九年上海市人民政府副市長。四九年末華東軍政委員会委員。五二年十一月当時中共上海市委員会副書記。五三年一月華東行政委員会委員。同月華東軍政委員会委員を解任。八月当時上海市協商委員会副主席。十一月当時上海市中ソ友好協会副会長。五四年二月全国人民解放軍慰問代表团第四總分団副団長。四月上海憲法草案初稿討論委員会副主任。八月第一期全国人民代表大会上海市代表。五五年二月上海市副市長。当時中共上海市委員会第一書記。七月頃反革命分子として逮捕。

潘 紀 文 Pan Chi-wên

山西省の人。現在四四歳位。延安中共中央党校卒業。四九年綏遠軍政委員会委員、当時中共綏遠省委員会委員。五二年当時中共中央蒙綏分局統一戰線工作部部长。五三年一月綏遠省人民政府委員。五四年六月綏遠省軍政委員会委員および綏遠省人民政府委員を解任。五

江蘇省閔山県の人。清華学校を卒業後、米コロンビア大学に留学。優生学研究をもって知られている。吳淞政治大学教務長。上海「時事新報」編集、光学院院長等を歴任。また上海新月書店を経営。北平清華大学教授、同校校務委員会委員。四九年十月中央人民政府政務院文化教育委員会委員。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員（中国民主同盟）。同月中ソ友好協会第二次全国代表。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員。四月政治協商會議全国委員会民族組副組長。

潘 朔 端 Pan Shuo-tuan

雲南省の人。黄埔軍官学校第四期卒。かつて一八四師長として台児荘で戦う。四六年五月遼陽、海城で麾下部隊をひきいて中共軍側に寝返る。その後西南軍政委員会委員。雲南省昆明市人民政府市長。五三年一月西南行政委員会委員。同月西南軍政委員会委員を解任。五四年八月第一期全国人民代表大会雲南省代表。五五年二月雲南省人民委員会委員。九月一級解放勳章。

潘 梓 年 Pan Tzu-nien 1895~

江蘇省宜興県の人。潘漢年の兄。国立北京大学哲学科卒。保定二師高中部国文教員。北京中法大学、中俄大学国文科教授、上海群治大学社会科学科主任などを歴任。のち上海法政学院教授となり、中国外交史政治史を講義。対日戦中は中共機関紙「新華日報」主筆。四九年中原人民大学副校長、中原人民政府委員、中ソ友好協会総会理事。五〇年中南軍政委員会教育部長、中原大学校長。五三年一月中南行政委員会委員。同月中南軍政委員会委員を解任。七月当時中

南行政委員会文化教育委員会副主任。九月第一回全国綜合大学會議に中南高等教育局長として出席。五四年六月中原大学校長を解任。八月第一期全国人民代表大会江蘇省代表。五五年六月中国科学院哲学社会科学部常務委員会委員。六月当時科学院哲学研究所所長。五六年三月國務院科学規劃委員会委員。

潘 自 力 Pan Tzu-li

陝西省の人。四九年寧夏省人民政府主席。当時中共寧夏省委員会書記、人民解放軍兵団政治部主任。五一年西北軍政委員会委員。陝西省人民政府副主席。五三年一月西北行政委員会委員。三月当時中共陝西省委員会書記。五四年八月第一期全国人民代表大会陝西省代表。九月駐北鮮大使。五六年三月駐印大使。同月兼駐ネパール大使。九月カトマンズにおいて、中共ネパール友好協定に中共側代表として調印。同月中共第八期中央委員会候補委員。

潘 式 言 Pan Shih-yên

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。五五年二月江西省人民委員会委員。十一月江西省工商業連合会主任委員。五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員（江西省）。

潘 荪 Pan Shu

五三年九月第一回全国綜合大学會議に南京大学校長として出席。五四年六月華東軍政委員会文化教育委員会委員を解任。八月第一期全国人民代表大会江蘇省代表。五五年二月江蘇省人民委員会委員。五月中国科学院生物学地学学部委員。七月各国議會連盟参加人民代

表團執行委員会委員。五六年二月九三学社第四期中央委員会委員。七月中国心理学會理事長。

潘 振 武 Pan Chên-wu

五四年十月中国人民解放軍中南軍区駐武漢辦事処政治委員。

潘 震 亞 Pan Chên-ya

弁護士。復旦大学校務委員会常務委員兼法学院院長。四九年九月自由職業界民主人士首席代表として政治協商會議に出席。十月政務院人民監察委員会副主任委員。五三年一月政治協商會議全国委員会委員。五四年二月当時抗米援朝總會常務委員。六月中国政治法律学会理事會理事。七月第一期全国人民代表大会江西省代表。九月同大会予算委員会委員。十一月國務院監察部副部長。

潘 正 道 Pan Chêng-tao

湖北省の人。国民党革命委員会湖北省分会委員。四九年中南軍政委員会委員兼水利部副部長。五三年一月中南行政委員会委員。

潘 清 洲 Pan Ching-chou

五五年一月四川省人民委員会委員。

潘 大 達 Pan Ta-kui

五三年一月中国民主同盟重慶市支部委员会主任委員。十月当時重慶市抗米援朝分会副主席。五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。九月西南軍政委員会文化教育委員会委員を解任。五五年一

月政治協商會議第一期四川省委員会副主席。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員。同月民主同盟中央常務委員会委員。

潘 鐸 元 Pan Tuo-yüan

広東省梅県の人。現在四一歳。在日華僑（在日一九一一年）。もと大阪華僑連合会総会会長、国際新聞社社長兼編集局長。現在華僑企業株式会社社長、印華貿易有限公司取締役兼大阪支店長、大阪中華総商会（国府系）会長。

潘 仲 魚 Pan Chung-yü

五五年二月福建省人民委員会委員。

潘 長 有 Pan Chang-yu

天津の人。全国工業労働模範。中央人民政府政務院華北行政委員会委員。五三年一月世界人民平和大会中共代表團員。五四年九月華北行政委員会委員を解任。五五年一月天津市人民委員会委員。

潘 蕃 蓀 Pan Fan-sun (Van-sung) 1901~

浙江省の人。二一年上海セントジョン大学卒業。二四年米ハーバード大学卒業。二六年一二七年駐パダン領事。二八年上海外交部情報宣伝処処長。四七年一四九年連勤總司令部軍需品核定処副処長。五一年一五四年外交部米洲司司長。五四年駐コロンビア公使。

潘 復 生 Pan Fu-shêng

五五年二月河南省人民委員会委員。五六年九月中共第八期中央委

員会候補委員。

萬 毅 Wan I 1904~

滿洲遼寧省海城県の人。東北講武学堂卒業。張學良の旧部下。三年中共に入党。西安事変の際魯蘇戦区党政処長の資格で繆徵流五七軍一一師をひきいて山東省南部において叛乱。終戦前湖南蘇皖辺区行政公署主任。四五年中共七全大会にて中央候補委員。その後人民解放軍砲兵司令。五〇年中南軍政委員会委員。兵団司令員。八月中央人民政府第二機械工業部副部長、人民解放軍傘兵司令。五四年八月第一期全国人民代表大会代表。九月国防委員会委員。五五年五月歐洲国家による歐洲の平和と安全のためのワルシャワ會議に中共側オブザーバーの顧問として出席。九月一級独立自由勳章および一級解放勳章。十月当時人民解放軍中將。五六年九月中共第八期中央委員会候補委員。

萬 曉 塘 Wan Hsiao-tang

山西省の人。五二年天津市公安局長、当時中共天津市委員会社会部長、最高檢察総署委員。五三年十一月天津市人民政府政治法律委員會主任。五五年一月天津市副市長。

萬 鈞 Wan Chün

五六年十月上海造船学院副院長。

萬 耀 煌 (武樵) Wan Yao-huang (Wu-chiao)
1890~

皮 作 瓊 Pi Tsuo-chiung 1899~

湖南省沅江県の人。仏ナンシイ森林学校卒業。国立北平農業大学森林科主任、湖南大学農科準備主任、国民政府農礦部農政司科長を経て、三一年国立北平大学農学院院长。その後実業部林墾署に勤務。三五年國際森林會議に出席。三六年中央模範林区管理局長。四二年一四六年農林部技監。四六年一四八年浙江省建設処長。四八年一四九年考試院銓叙部政務次長。四九年一五二年同代理部長。五二年同部顧問。五二年一五四年台湾省政府農林庁副庁長、五六年当時台湾省政府林産管理局長。

斐 達 Fei Ta 1922~

河北省の人、人民日報記者。五六年五、六月の間訪日京劇代表団の随行者として来日。

費 彝 民 Fei I-min

江蘇省の人。現在五一歳位。香港在住。仏国留學生出身。民主建国会會員。五一年北京における全国新聞工作者會議に出席。その際香港大公報は正式に中共の宣伝機関紙の1に認可されたといわれる。五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員、当時香港大公報社長兼總經理、新晚報董事長、龍馬影業公司董事長。

費 啓 能 Fei Chi-nêng

五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。四月全国先進生産者代表會議主席団員。

湖北省黃岡の人。陸軍小、中学校より保定軍官学校に進み、陸軍大学校第五期卒業。北伐後第一三師師長兼江西撫州警備司令兼第八縱隊副總指揮、第二五軍軍長、第一五軍団長兼武漢衛戍副總司令、蔣珈山軍官訓練団將官班主任兼軍官訓練団副教育長、陸軍大学校教育長、中央軍官学校教育長、中央監察委員、第一回国民大会代表、湖北省政府主席、中央訓団教育長を経て、總統府戰略顧問、中央改造委員会幹部訓練委员会主任委員、革命實踐研究院院務委員兼主任。

萬 里 Wan li

四川省の人。フランスに留学。五〇年政務院參事。五一年西南軍政委員会工業部副部長。五二年十一月中央人民政府建築工程部副部長。五四年九月西南軍政委員会財政經濟委員会委員を解任。五五年四月國務院城市建设総局局長。五六年五月國務院城市建设部部長。

ひ

皮 以 書 (女) Pi I-shu 1908~

四川省南川県の人。北京中国大学卒業。二五年国民党に入党、北平市党部婦女部長、北平學生連合会婦女部長。同年モスクワ中山大学留学、留學中谷正鼎と結婚。戦時中国国民党陝西省党部婦女委员会主任委員、同省新生活運動会婦女工作委员会主任委員、また兒童保育院を設立。戦後中華婦女反共抗俄連合会常務委員兼總幹事、立法委員。五六年四月中華民国各界日本親善訪問団員として来日。

費 孝 通 Fei Hsiao-tung

江蘇省呉江県の人。社会学者。北平燕京大学社会学科卒業後、国立清華大学研究院でツングースの研究に従事し、シロゴルフ教授について研さん、のちロンドン大学に留学してマリノフスキイ教授に師事し博士号を受く。対日戦中は西南連合大学教授、太平洋問題調査会調査員、清華大学教授。四九年清華大学校務委員会委員。十月政務院文化教育委員会委員。中ソ友好協會總會理事。中国人民外交学会理事。五三年四月中国政治法律学会理事。六月当時中央民族学院副院長。十二月当時中央民族事務委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会江蘇省代表。九月同大会民族委員会委員。十二月中ソ友好協會總會第二期理事會理事。五五年七月外交学会第三期理事。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員。十月國務院專家局副局長。著書「中国農民生活」(英文)、「内地の農村」(雲南省農村社会の研究)、「郷土中国」、「民主、憲法、人權」等。

費 廣 泰 Fei Kuang-tai

五四年八月第一期全国人民代表大会撫順市代表。

費 振 東 Fei Chên-tung

江蘇省呉江県の人。費孝通の兄。南洋公学(上海交通大学)の前身)に入り、鉄道管理学を学ぶ。その後南洋に行き、スマトラ、パタビア等に居住し、文化新聞教育工作に従事。スマトラ民報の主筆。華僑工商業問題について商務印書館から著書を出版。四〇年インドネシア政庁から追放せられ、シンガポールに至り、椰子油工場

を經營。四九年九月海外華僑代表として、政治協商會議に出席、同會議第一期全國委員會委員。十月中央人民政府政務院華僑事務委員會委員。五三年七月當時同委員會文教宣傳司司長。八月當時北京歸國華僑連誼會副秘書長。五四年二月當時抗米援朝總會常務委員。八月第一期全國人民代表大會広西省代表。五六年二月民主同盟第二期中央委員會委員。

費 青 Fei Ching

北京において雑誌「新建設」を編集。大学教授。四九年最高人民法院委員。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員（教育界）。五五年七月中国人民外交学会第三期理事會理事。

美爾尼沙漠・艾尼(女) Mei-eh-ni-sha-han・Ai-ni

ウイグル族。五四年八月第一期全國人民代表大會新疆省代表。

糜 鏞 Mi Yung

五三年四月當時政務院鐵道部國際連運局局長。

畢 可 敬 Pi Kê-ching

五五年五月中共駐ビルマ大使館商務參事官。五六年一月駐ビルマ大使館商務參事官として、五五年―五六年におけるビルマ米と中共輸出商品との交換に関する議定書に調印。

畢 朔 望 Pi Shuo-wang

五五年八月中共駐ネパール大使館一等書記官。五六年四月外交部

馮 于 九 Fêng Yu-chiu

五六年十月國務院交通部部長助理。

馮 榮 Fêng Jung

五五年二月広東省人民委員會委員。

馮 簡 (君策) Fêng Chien (Chün-tsê) 1896~

江蘇省嘉定の人。米コーネル大学卒業、帰国後東北大学教授。三六年国立北平大学工学院電機科教授。第一次世界大戦当時ニコラエフスク、コムソモリスクなどを旅行。戦後北緯八〇度地帯に赴き北極光を観察。中国における北極探險の第一人者といわれる。五二年二月台湾大学教授。著書「東北路線」等。

馮 紀 新 Fêng Chi-hsin

五三年六月当時中共黒龍江省委員會書記。五五年一月黒龍江省第一期人民代表大會第二次會議において、中共黒龍江省委員會副書記として目前の形勢と題し所管事項を報告。

馮 基 平 Fêng Chi-ping

五五年二月北京市副市長。

馮 毅 Fêng I

五三年四月山西省人民政府教育庁秘書主任。九月上海新滬鋼鉄廠廠長。

亜洲司專員。同月ネパール訪問中共代表團團員。

畢 振 玉 Pi Chên-yü

中国国際貿易促進委員會秘書。五五年三、四月の間中共貿易代表團秘書として来日。

畢 占 雲 Pi Chan-yün

五五年二月河南省人民委員會委員。

畢 鳴 岐 Pi Ming-chi

五三年九月當時天津市工商業連合会副主任委員、天津市私營企業増産節約委員會副主任委員。中国人民第三回訪鮮慰問團第六總分團副團長として赴鮮。五四年八月第一期全國人民代表大會天津市代表。五五年一月天津市人民委員會委員。

畢 力 格 巴 圖 爾 Pi-li-kê-pa-tu-êh

蒙古族。五三年一月綏遠省人民政府委員。当時綏遠省烏蘭察布盟自治区人民政府主任。五四年六月綏遠省人民政府委員を解任。八月内蒙古自治区人民政府委員。当時中共内蒙古自治区烏蘭察布盟委員會書記。

馮 一 航 Fêng I-hang

五三年一月陝西省人民政府委員。当時中国民主同盟西北總支部候補委員。五四年十二月陝西省人民委員會委員。

馮 沅 君 (女) Fêng Yuan-chün 1902~

女流作家。哲学者馮友蘭の妹。ペンネーム、金女士。かつて創造社に属し、大胆な恋愛描写を盛った「旅行」「慈母」(二四年)等の小説で旧道徳からの女性の解放を叫ぶ一方、「中国詩史」(夫の陸侃如と共著)の學術研究もある。五四年八月第一期全國人民代表大會山東省代表。十一月山東大学教授。五五年三月山東省人民委員會委員。

馮 言 安 Fêng Yên-an

五五年三月安徽省人民委員會委員。

馮 鉉 Fêng Hsüan

五〇年九月中共駐スイス公使。五五年大使に昇進。

馮 考 Fêng Kao

五六年十二月当時中国雜品出口公司天津分公司經理。

馮 至 (承植) Fêng Chih (Chêng-chih)

詩人。評論家。五三年十月中国文学芸術界連合会第二期全國委員會委員。同月中国作家協會理事會理事。五四年八月第一期全國人民代表大會河南省代表。五五年五月中国科学院哲学社会科学学部委員。著書「昨日の歌」(詩集、二七年)「北遊およびその他」(二九年)「愛國詩人杜甫」(長篇、五一年)「東欧雜記」(東欧諸国の旅行記)等。

馮 爾 和 Fêng Erh-hé

タイ生れ。原籍広東省文昌県。タイ在住華僑。少年時代シンガポール、ジョホール州で労働に従事。バンコックに帰来後馮爾業局を開設。早くより中国国民党に加入し、四六年国民党大会に出席。憲政実施促進会委員、僑務委員会参議、糧食部募糧委員会委員、中華総商会常務委員、同主席等を歴任。

馮 雪 峰 Fêng Hsieh-fêng

浙江省の人。文芸思想評論家。中共黨員。汪静之らと湖畔詩社により「われらの六月」「われらの七月」等を発表。社会主義に転じ、主として科学的文芸理論を研究。魯迅研究の第一人者といわれる。四九年七月全国文学芸術界連合会全国委員会委員。華東軍政委員会委員、同委員会文化教育委員会委員。五一年十月中国作家訪ソ団团长。五三年十月中国文学芸術界連合会第二期全国委員会委員。同月中国作家協会理事、同副主席。五四年六月上海市人民政府委員を解任。十二月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表(中国文学芸術界連合会)。五五年一月「文芸報」編集委員会委員。訳著「芸術と社会生活」「社会的作家論」「枳花集」「科学的社会主義」「新ロシア文学の曙光」「魯迅と彼の少年時代の友達」(全国児童文芸創作詩評奨委員会より一等賞受賞)。

馮 占 海 Fêng Chan-hai

五五年二月吉林省人民委員会委員。

馮 宗 蕁 Fêng Tsung-ê (Tsun-ngoh) 1914~

五五年八月当時天津市公共衛生局工業衛生处处长。

馮 仲 雲 Fêng Chung-yün

五四年八月第一期全国人民代表大会春市代表。十一月國務院水利部副部长。五五年三月華東水利学院院长。九月一級八一勳章および一級独立自由勳章。

馮 定 (筆名、貝葉) Fêng-ting (Pei-yeh)

浙江省慈谿県の人。三〇年モスクワ中山大学卒業。日華事变中新四軍の「抗敵報」の編集長、中共中央駐滬經濟委員会委員長、抗日軍政大学華中総校副校長兼政治部主任。四九年華東軍政委員会文化教育委員会副主任。当時中共中央華東局宣伝部副部长、上海教育工作者工会準備会主任。五四年六月華東軍政委員会文化教育委員会副主任を解任。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(社会科学団体)。五五年五月中国科学院哲学社会科学学部委員。著書に「平凡なる真理」がある。

馮 鐵 城 Fêng T'ieh-chêng 1926~

中共黨員、もと中共中央政策研究室海外組職員、現在北京中日文化連合会秘書といわれる。中国土産出口公司副經理。五五年三、四月の間中共貿易代表团員として来日。五五年十、十一月の間中共見本市代表団の副团长として来日。

馮 德 培 Fêng Tê-pei 1907~

浙江省の人。生理学者。四九年当時中央研究院医学研究所専任研

上海中国学院に学ぶ。四一年—四六年国民党中央处长。四六年—四八年国民党大会处长。四八年外交部総務司長。

馮 乃 超 (李易水) Fêng Nai-chao (Li I-shui) 1901~

広東省南海県の人。日本に留学し、第八高等学校、帝国大学文学科を卒業。李初梨、朱鏡我らとともに後期創造社の中堅的グループ。かつて「創造月刊」を主編。四九年九月華南人民解放軍代表として政治協商會議に出席。同年政務院文化教育委員会副秘書長、中ソ友好協会総会理事。五三年八月当時中国人民世界平和擁護委員会広州市分会副主席。九月第一回全国綜合大学會議に中山大学副校长として出席。五四年八月第一期全国人民代表大会広州市代表。十二月中ソ友好協会第二次全国代表大会代表(教育界)。五五年七月中国人民外交学会第三期理事会理事。十二月中共學術視察代表团(团长郭沫若)秘書長として来日。著書「傀儡美人」(創作集)「紅紗燈」(詩集)等。

馮 澤 芳 (馥堂) Fêng Tse-fang (Fu-fang) 1897~

浙江省義烏の人。国立東南大学出身、米コーネル大学農学博士、帰国して母校の助教授。江蘇省棉作試驗場長、棉業統制委員会技術專員、全国經濟委員会中央棉産改進所副所長、南京中央大学農学教授等を歴任。中国における棉種改良の専門家。棉種改良の研究論文が多い。四九年六月全国科学會議準備委員。五五年五月中国科学院生物学地学学部委員。

馮 致 英 Fêng Chih-ying

宛員兼代理主任。四九年—五四年六月華東軍政委員会文化教育委員会委員。五三年二月中国科学院訪ソ代表团員として赴ソ。五四年八月第一期全国人民代表大会上海市代表。五五年五月中国科学院生物学地学学部委員。十二月当時中国科学院生理生化研究所所长。同月中共訪日科学代表团員として来日。

馮 白 駒 Fêng Pai-chü

海南島瓊山県の人。上海大学予科在学半カ年にて帰郷。中共に入党、区級党部工作を担当。二八年「繼周」を「白駒」と改名。二九年潰滅に瀕した瓊崖特区委員会の再建に当る。三八年瓊崖抗日民族統一戦線を結成、第一四区人民抗日自衛団独立大隊隊長兼政治委員。終戦後人民解放軍瓊崖縦隊司令兼政治委員。四九年瓊崖人民政府主席、広東省人民政府委員、中南軍政委員会委員。五三年一月中南行政委員会委員。七月海南黎族苗族自治区人民政府副主席。十二月広東省人民政府副主席。五四年八月第一期全国人民代表大会広東省代表。九月国防委員会委員。五五年二月広東省副省长。九月一級八一勳章、一級独立自由勳章および一級解放勳章。五六年九月中共第八期中央委員会候補委員。

馮 伯 華 Fêng Po-hua

五五年二月江蘇省人民委員会委員。

馮 賓 符 Fêng Pin-fu

五三年一月当時中国民主促進会北京市分会主任理事。五月北京市選挙委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会浙江省代表。

五五年七月中国人民外交学会第三期理事会理事。

馮文彬 Fêng Wên-pin 1911~

湖南省平江県の人。一九年一家とともに上海に至り、マッチ工場に働き、小学校一年で止め、夜学に転学。二五年共產主義青年団に加入。二六年国民党入党。二七年武漢農民運動工作員訓練所に入所。二八年中共入党、同年夏彭德懐の平江暴動に参加し、赤衛隊代表。三〇年十一月上海の地下工作より逃亡し、福建西方ソヴェト区に入り、紅軍第一軍団第四軍に加入、その後無線隊、特別警察隊で政治員。三二年第三軍団政治警察隊長。三三年福建省省委員會議記。その後青年団をもって編成された一箇師団の結成に際しその政治委員。西遷の時もこの職にあった。三五年共產主義青年団書記。三六年西安事変の際周恩来とともに中共交渉委員。四四年頃中共中央政治局の青年工作委員会主任。四八年八月中華全国総工会常務委員、同青工部部長。四九年四月新民主主義青年団中央委員会委員、同書記。十月最高人民法院委員。五一年九月ベルリンにおける世界青年学生平和大会に代表団員として参加。

馮秉珊(女) Fêng Ping-shan

五三年四月当時中華全国合作社連合總社幹部学校教導処処長。六月ロベンハーゲンにて開催の世界婦人大会出席代表団代表。

馮秉天 Fêng Ping-tian

五三年十二月当時旅大市人民政府副市長。五五年一月黒龍江省人

民委員会委員。

馮秉芬 Fêng Ping-fên 1911~

広東省新会の人。香港在住。治安判事。東亜銀行董事。中華百貨公司その他大会社のマネジャーを兼務。名譽職としては香港セントジョン救護隊の總監。五五年四月東京におけるエカフェ会議に香港首席代表として出席。

馮友蘭 Fêng Yu-lan 1894~

河南省唐河県生れ。北京大学哲学科を卒業後、米コロンビア大学に留学、博士号を受く。帰国後中山大学、燕京大学、清華大学の教授。対日戦中は昆明の西南連合大学教授。戦後北京に帰り清華大学哲学科主任教授、文学院院长。四六年米プリンストン大学法学博士。河南省人民政府委員。五一年インド、ビルマ訪問文化代表団員。五二年五月中印友好協合理事。五四年七月当時北京大学中国哲学史研究室主任。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員。同月中ソ友好協會第二次全国代表会代表(中国民主同盟)。五五年五月中国科学院哲学社会科学学部委員。五六年二月中国亜細亞結業委員会。同月民主同盟第二期中央委員会委員。著書、「中国哲学史」(三四年)、「新理学」(三九年)、「新原道」(四五年)等。

馮幼偉 Fêng Yu-wei

五四年十一月当時中国銀行董事。

馮樂進 Fêng Lê-chin

苗逢澍 Miao Fêng-chu

五五年一月西康省人民委員会委員。

苗鳳剛 Miao Fêng-kang

五四年八月第一期全国人民代表大会河北省代表(農場鍛工)。

敏林嘉様堅贊 Min-lin-chia-yang-chien-tsan

西藏族。五六年四月西藏自治区準備委員会全体委員。

閔剛侯 Min Kang-hou 1903~

江蘇省北蔡橋の人。上海東吳法学院卒業後、日本に留学。帰国後弁護士を開業。戦前中国人民救国会幹部。「七君子」の入獄の際張志讓、顧執中等とその救助運動に奔走。夫人柏心慧(柏文蔚の娘)は復旦大学で学生運動を指導した科で退学。戦争中重慶の朝陽学院教授。民主同盟中央委員。戦後上海に帰り郊外に閑居。四九年中共の上海占領後、沈鈞儒とともに北上。十月最高人民法院委員兼秘書長。五四年八月第一期全国人民代表大会吉林省代表。五五年一月國務院司法部副部長。五六年二月民主同盟第二期中央常務委員会委員。五六年五月ブラッセルにおいて開催の国際民主法律工作者協會第六回大会中国政治法律学会代表団員。

閔淑芬 Min Shu-fên

五三年八月中国紡織工会第二期全国委員会候補委員。五五年二月上海市人民委員会委員。

五四年十月当時國務院農業部水産管理總局局長。五六年六月中ソ朝越四国漁業研究會議中共政府代表団全体代表。

馮立民 Fêng Li-min

中共黨員。中国漁業協会技師。五六年五月日中漁業會議委員。十一月、十二月の間中共漁業代表団専門委員として来日。

馮礪冬 Fêng Li-tung

ビルマ生れ。原籍福建省。ビルマ在住華僑。戦後民主同盟に加入。帰国觀光団を指導。

苗海南 Miao Hai-nan

山東省の人。濟南通紗廠經理。四九年華東軍政委員会委員、同財政經濟委員会委員。五〇年三月山東省人民政府副主席。五三年一月華東行政委員会委員。十一月全国工商業連合会執行委員。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(中華全国工商業連合会)。五五年一月政治協商會議第一期山東省委員会副主席。三月山東省人民委員会委員。十一月山東省工商業連合会主任委員。五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(山東省)。

苗春亭 Miao Chun-ting

五五年二月貴州省人民委員会委員。

苗竹賢 Miao Chu-hsien

五三年十一月全国工商業連合会執行委員。

関乃大 Min Naita
五五年十一月当時中国科学院数学研究所研究員。

ふ

布和 Pu-hè

五五年六月当時中共内蒙古東部区委員会工業部林業処処長。五五、六年頃第一期全国人民代表大会内蒙古自治区代表に補選。

佈嚇 Pu-hè

蒙古族。五四年四月当時内蒙古自治区人民政府文化事業管理局副局長。

巫從理 Fu Tsung-li

五六年八月最高人民法院審判員。

符家環 Fu Chia-huan

広東省文昌県の人。現在三四歳。サイゴン在住華僑。中仏学校卒業。酒店を経営。サイゴン海南中華理事會理事長。

符浩 Fu Hao

中共黨員、中共中央社会部秘書、中央人民政府辦公庁機要処專員(暗号担当)、人民解放軍某師政治部主任、駐外蒙大使館參事官を歴任といわれる。五四年五月当時外交部亞細亞司專員。九月駐インド大使館參事官。

傅冠雄 Fu Kuan-hsiung 1900~

河北省の人。国立北京大学卒業。国連第四回総会中国代表団顧問。駐米大使館參事官。

傅景文 Fu Ching-wên

五四年四月当時武漢市二零一廠生産科副科長、同市特等労働模範。八月第一期全国人民代表大会武漢市代表。

傅紅蓼 Fu Hung-liao

河北省の人。三一年燕京大学卒業。上海中国晚报発行人。四九年台湾新生報主筆補佐。著書「熱」「上海における共産党の内幕」。

傅興 Fu Hsing

五六年十二月当時中国糧穀油脂出口公司(中共側)副經理。

傅鴻賓 Fu Hung-pin

五三年五月当時労働模範(天津建築公司行政組組長)。五四年八月第一期全国人民代表大会天津市代表。

傅作義(宜生) Fu Tsuo-i (I-shêng) 1893~

山西省孝義県の人。保定軍官学校卒業。二六年山西軍第四師長として奉天軍と闘う。二七年奉天派の京津撤退に際し山西軍第五軍長、天津警備司令。三〇年閻錫山の反蔣軍に参加、山東に出陣大敗。閻錫山大連に亡命するや、山西で張學良の部下。三二年第三五軍長兼

使館參事官。五五年三、四月の間中共貿易代表団顧問として来日。当時中国国際貿易促進委員会顧問。

符式珪 Fu Shih-kui

五五年二月江西省人民委員会委員。

符定一(宇澄) Fu Ting-i (Yu-chêng) 1879~

湖南省衡山の人。文字學者。前清の京師大学堂卒。湖南教育會長、高等師範学校長等を歴任。二六年北京政府財政次長兼塩務署長。二七年顧維鈞内閣財政部次長。四九年九月郭沫若、馬寅初、李達、張奚若らとともに、無党無派代表として政治協商會議に出席。同會議全国委員会委員。十月中央人民政府政務院文化教育委員会委員。五四年二月当時抗美援朝總会在京常任委員。八月第一期全国人民代表大会湖南省代表。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(無党派民主人士)。

傅雨田 Fu Yü-tien

五三年五月当時中共長春市委員会書記、長春市市長。五四年八月長春市人民政府市長を解任。同月第一期全国人民代表大会長春市代表。

傅可英 Fu Kè-ying

広東省梅県の人。現在六一歳位。スラバヤ在住華僑。中華總會より脱会して成立した中華商會の理事長で、中共系といわれる。他の資本家とともに百貨店「メトロ」を経営。

第七三師長。綏遠省政府委員兼主席。三五年国民党第五期中央執行委員。三九年一四五年第八戰区副總司令。四五年六月一二戰区總司令。四七年十二月察哈爾省主席、華北掃共總司令(河北、綏遠、察哈爾、熱河)。四九年一月北平陥落と同時に中共側に投降。綏遠軍政委員会主席。九月政治協商會議全国委員会委員。十月中央人民政府委員会委員、人民革命軍事委員会委員、政務院水利部長。五一年当時人民革命軍事委員会国防研究小組組員。五三年五月中央防汛總指揮部副主任。五四年六月綏遠省軍政委員会主席を解任。八月第一期全国人民代表大会内蒙古代表。九月同大会第一次會議主席団員、国防委員会副主席、國務院水利部部長。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(特別招請人士)、同常務委員。五五年七月各會議會連盟参加人民代表団執行委員会委員。九月一級解放勳章。五六年三月全国先進生産者代表會議準備委員会委員。同月スエーデンにおいて開催の世界平和理事會特別會議中共代表団員。四月中国水利部參観団団長として赴ソ。

傅子誠 Fu Tzu-chêng

五五、六年頃第一期全国人民代表大会河南省代表に補選。

傅子和 Fu Tzu-hé

五二年十一月当時青海省工商庁庁長。

傅種孫 Fu Chung-sun

五四年六月一五六年四月北京師範大学副校長。五五年二月北京市人民委員会委員。

傅秋濤 Fu Chiu-tao

戦争中は中共皖鄂贛区委員書記兼新編第四軍第七師副師長(當時師長は曾希聖)。その後中共中央山東分局副書記。五五年九月一級八一勳章、一級独立自由勳章および一級解放勳章。五六年三月全国文盲一掃協会委員。

傅肖先 Fu Hsiao-hsien

五五年一月政治協商會議第一期江西省委員副主席。二月江西省人民委員会委員。

傅鍾 Fu Chung 1891~

四川省生れ。一九年「工誼団」とともにフランスに赴き、二二年まで留学。中共パリ支部創立者の一人。帰国後ソヴェト区に入り四川紅軍第四方面軍政治部主任。二五年四中全会中央委員。中共六中全会中央委員。五三年七月当時人民革命軍委員会総政治部副主任。五四年八月軍人代表大会会議にて第一期全国人民代表大会軍隊代表。五五年五月—八月当時人民解放軍総政治部副主任。五五年十月当時人民解放軍上將。

傅崇碧 Fu Chung-pi

五四年三月当時石家莊駐屯軍部隊長。五五年九月一級解放勳章。

傅正松 Fu Cheng-sung

五五年一月西康省人民委員会委員。

傅正模 Fu Cheng-mo

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(特別招請人士)。五六年二月国民党革命委員会候補中央委員。

傅生麟 Fu Sheng-lin

五三年一月—五四年十二月当時対外貿易部出口局副局長。五四年二月ポーランドとの貿易協定調印のための商務代表団副団長。

傅柏翠 Fu Po-tsui

五五年二月福建省人民委員会委員。

傅彬然 Fu Pin-ian

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(新聞出版界)。五五年六月中国民主促進会文教委員会副主任委員。五六年八月中国民主促進会第四期中央委員会委員。

傅秉常 Fu Ping-chang (Foo Ping-sheung) 1895~

広東省の人。香港大学卒業。二八年—四一年立法院委員兼同院外交委員会主席。三五年国民党中央執行委員会委員。四一年—四二年外交部次長。四三年駐ソ大使。四九年三月何應欽内閣外交部長に一旦任ぜられたが就任を拒み、五月再び大使としてモスクワに帰任することを認められた。五五年当時外交部顧問の資格をもってフランスに駐在。

傅抱石 Fu Pao-shih

五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

傅懋勛 Fu Mao-chi

五六年三月当時中国科学院言語研究所研究員。

傅冬 Fu Tung

五三年三月—五五年十二月当時人民日報記者。

傅佑民 Fu Yu-min

ビルマ生れ。原籍広東省。ビルマ在住華僑。製酒業。国民党系和義館の副主席。

傅鷹 Fu Ying

五五年五年中国科学院物理学数学化学学部委員。五六年一月当時科学院応用化学研究所學術委員会委員。

傅連璋(連昌) Fu Lien-chang (Lien-chang)

1895~

福建省汀州生れ。汀州キリスト教会医学院卒業。二七年まで本院で実習。同年医師として紅軍に加入。三三年瑞金に中央医院および中央紅色医学専門学校を創設。内科医兼外科医として西遷に参加。三五年朱德軍とともに西康に止る。四〇年延安医務局長。四九年中共中央軍事委員会衛生部副部長。五一年頃中央人民政府衛生部副

部長。五三年一月当時中華医学会理事長。三月中華医学会主席。五四年五月人民対外文化協合理事。六月児童保護全国委員会副主席。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(医薬衛生界)。同月中ソ友好協会第二次全国代表会代表(医薬衛生界)。五五年九月一級解放勳章。十一月中華医学会理事長として、日本医学代表团との「協定」に調印。五六年二月中国亞洲団結委員会委員。

富振聲 Fu Chên-shêng

四九年当時中共中央東北局宣伝部宣伝処処長。四九年—五四年九月東北人民政府文化教育委員会委員。五三年二月当時中共吉林省委員会副書記。五五年二月吉林省人民委員会委員。

普照 Pu Chao

彝族。五三年十二月雲南省紅河哈尼族自治区第一回人民代表會議において同自治区人民政府副主席に当選。五四年八月第一期全国人民代表大会雲南省代表。

溥儀 Pu I 1906~

八年二歳で清朝の皇位を嗣いだだが、在位三年で辛亥革命により退位。後三四年滿洲国の建国時迎えられて帝位についたが、四五年八月終戦の際ソ連軍に逮捕。その後中共に引渡さる。

武可久 Wu Kê-chiu 1912~

江蘇省灌雲県の人。三八年交通大学唐山学院卒。西北鉄道幹線工程局副局長。五五年四月唐山鉄道学院副院長。

武競天 Wu Ching-tien
四八年八月華北人民政府成立と同時にその財政經濟委員會委員、
同交通部部長。人民革命軍事委員會鐵道部副部長。四九年十月政務
院鐵道部副部長。五四年十一月國務院鐵道部副部長。

武光 Wu Kuang
五五年一月北京航空學院院長。

武光湯 Wu Kuang-tang
五五年二月山西省副省長。

武衡 Wu Hêng
地質學者、五三年二月中国科学院訪ソ代表団員として赴ソ。五
四年四月科学院技術科学部副主任。五五年四月当時科学院副秘書
長。五月中国科学院生物學部委員。六月同学部常務委員會委
員。五六年三月國務院科學規劃委員會副秘書長。

武振聲 Wu Chên-shêng
元華北人民革命大學政治研究院副院長。五三年一月北京政治法學
院副院長。

武新宇 (漢三) Wu Hsin-yü (Han-san) 1902~
山西省の人。北京師範大學卒業後日本に留學。帰國後太原成仁中

武保山 Wu Pao-shan
五四年九月当時飛行大隊副隊長。

武法亭 Wu Fa-ting 1933~

五五年十月、十一月の間中共見本市代表団工作員として来日。当時
中国國際貿易促進委員會職員。

文芸 (女) Wên Yün

五四年八月第一期全国人民代表大會浙江省代表。

文群 (詔雲) Wên Chün (Chao-yün) 1883~

江西省萍鄉縣の人。日本中央大學卒業。江西省獨立の際江西省軍
政府外交処長兼都督秘書。一二年江西代表國會議員、憲法起草委員。
一三年衆議院議員。一五年香港にて雲南革命に参加、革命軍本部秘
書兼外交部長。一六年北京國會の衆議院議員。一六年—一七年農商
務次長兼大總統秘書兼總督參議。一九年広東にて軍政府財政次長。
その後國務院參議大總統顧問、南北統一問題研究常任委員。二二年
—二六年江西省財政廳長。二三年内債整理委員會副總裁。三〇年北
平政府秘書長、三一年江西省政府委員、三五年四川省行營第二副
廳長、國府立法委員。

文士楨 Wên Shih-chên

五五年二月当時中国國際貿易促進委員會副秘書長。四月リヨン國
際博覽會中共展覽團副團長。五六年五月中国パキスタン友好協合理

學校校長。終戦前晋西北軍区抗日新軍續範亭を助け閻錫山と戦う。
續の死後晋綏辺区行署主任。華北人民政府委員兼行政學校校長。山
西省人民政府副主席。四九年十月—五三年十二月政務院内務部副部
長。五三年一月婚姻法貫徹運動委員會委員。五四年八月第一期全国
人民代表大會山西省代表。五六年十一月—五七年一月全国人民代表
大會代表団員としてソ連、東欧訪問。

武旋聲 Wu Hsian-shêng

五四年二月河南省開封市人民代表大會代表。当時中共開封市委員
會書記。

武達平 Wu Ta-ping

綏遠省の人。現在三七歳位。延安抗日大學卒業。五三年一月当時
綏遠省文教廳副廳長。同月—五四年六月綏遠省人民政府委員。五四
年四月内蒙自治區人民政府文教委員會副主任。

武惕予 Wu Ti-yü

五六年二月国民党革命委員會候補中央委員。

武百祥 Wu Po-hsiang

五三年十一月全国工商業連合會執行委員。五四年八月松江省人民
政府委員を解任。十二月政治協商會議第二期全国委員會委員(中華
全国工商業連合會)。同月中ソ友好協會第二次全国代表會代表。五
五年一月黒龍江省人民委員會委員。十一月当時ハルビン市工商業連
合會副主任委員。

事。

文年生 Wên Nien-shêng

湖南省の人。現在三九歳位。延安抗日大學卒業。モスクワ軍事大
學砲兵科卒業。第四野戰軍第一三兵团師長、第一五兵团參謀長を歴
任。五三年一月中南軍政委員會委員を解任。五四年十月当時人民解
放軍中南軍区副參謀長。五五年六月当時人民解放軍広州軍区副司令
員。十月当時駐広州部隊長、人民解放軍中將。

文敏生 Wên Min-shêng

戦時中は予鄂辺区軍区第二軍分区政治委員。五〇年中南軍政委員
會副秘書長。五二年八月同委員會政治法律委員會委員。五四年六月
当時広東省人民政府委員。五五年二月広東省副省長。

聞家駟 Wên Chia-ssu 1900~

湖北省の人。フランス留學生。三五年北京大學文學院外國語文學
科教授、北京國立芸術專科學校講師歴任。フランス十九世紀象徴派
詩人ボードレールを研究。その論文、作品は「學文」「大公報文芸
副刊」「文學」などに掲載。民主同盟幹部。四九年五月北京で開か
れた中国民主同盟北平市臨時工作委員會大會に黃炎培、周新民、辛
志超、杜任之とともに主席団委員。五六年二月民主同盟第二期中央
委員會委員。

平 杰 Ping Chieh-san

河北省の人。北京大学、モスクワ中山大学卒業。政務院華北行政委員会委員を解任。五三年一月華北行政委員会委員。当時中共中央華北局統一戦線工作部部长。五月当時華北区少数民族訪問団团长。十月中国人民第三回訪鮮慰問団総団副团长兼第六總分団長。五四年八月第一期全国人民代表大会河北省代表。九月華北行政委員会委員を解任。五六年四月当時中共中央統一戦線工作部副部长。

平 錯 旺 階 Ping-tsoo-wang-chieh

西藏族。五〇年—五四年九月西南軍政委員会文化教育委員会委員。五三年七月中国新民主主義青年団第二期中央委員。五四年五月中国人民对外文化協合理事。八月第一期全国人民代表大会西康省代表。十二月当時國務院民族事務委員会第一司副司長。五五年三月当時昌都地区人民解放委員会副主任。五六年四月西藏自治区準備委員会委員。五月当時中共西藏工作委員会委員。

秉 志 (農工) Ping Chih (Nung-shan) 1889~

河南省開封の人。動物学者。北京大学卒業後渡米、コーネル大学卒業、博士号。二二年—二七年国立東南大学教授。二二年中国科学協会生物研究所所長。二八年方氏紀念生物学研究所主任。四九年末—五四年六月華東軍政委員会文化教育委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会河南省代表。五五年五月中国科学院生物学地学学部委員。六月同学部常務委員会委員。著書「中国に於ける昆虫化

石」「鯨魚の骨格」等。

米 建 書 Mi Chien-shu

五四年八月当時成都市人民政府副市長。

邊 潔 清 Pien Chieh-ching

五五年一月天津市人民委員会委員。

邊 子 棟 Pien Tzu-tung

五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(天津市)。

卞 竺 生 Pien Chu-shêng

五五年一月当時浙江省人民代表大会第一期代表、新登県農業労働模範。

ほ

保 君 建 (既星) Pao Chün-chien (C. J. Pao, Chi-hsing) 1898~

江蘇省南通県の人。二二年米コロンビア大学卒業。四七年サン・マルコ大学名誉博士号。一時上海特別市政府教育局長。四一年—四四年駐カルカッタ総領事。四四年—五五年当時駐ベルギー大使。

浦 化 人 Pu Hua-jên

五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員(社会救済福利団体)。

浦 熙 修 (女) Pu Hsi-hsiu

香港「文匯報」北京特派員。五四年十二月政治協商会議第二期全国委員会委員(新聞出版界)。五六年二月民主同盟第二期中央委員会候補委員。

浦 敬 詮 Pu Ching-chüan

五四年六月福建医学院副院長(もと厦門市人民政府衛生局長)。

浦 潔 修 (女) Pu Chieh-hsiu

四五年十二月民主建国会委員。五二年七月同会常務委員。五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年二月当時全国人民解放軍慰問代表団第六總分団副分団長。八月第一期全国人民代表大会北京市代表。五五年四月民主建国会中央常務委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(北京市)。

浦 山 Pu Shan

五四年七月ジュネーブにて在留者問題につき米國と交渉。当時中央人民政府外交部科長。

浦 薛 鳳 (逃生) Pu Hsüeh-fêng (Dison Hsueh-feng, Ti-shêng) 1900~

江蘇省常熟の人。二二年清華大学、二三年米ハムライン大学、二

五年ハーバード大学を卒業。四四年ハムライン大学名誉法学博士。

帰国して雲南東陸大学および国立浙江大学政治学教授。二八年—三九年国立清華大学政治科主任兼同教授、北京大学政治科講師。三九年—四五年国防最高委員会参事、中央設計委員会委員、重慶中央日報主筆論説員、中央大学教授。四四年ダンバートン・オークス会議中国代表。四五年太平洋学会中国代表、サンフランシスコ会議中国代表団専門員。四五年—四六年行政院善後救済総署副署長。四七年四月行政院副秘書長。四八年七月台湾省政府秘書長。五三年—五四年台湾省政府委員会委員。五五年—五六年当時台湾省政府顧問。著書「三種選挙制度の計画法」「英独革命の政治思想」「盧梭の政治思想」(清華学報七卷二期、六卷三期)「近代西洋政治思潮」(二卷)「於恐懼之自由」。

浦 忠 智 Pu Chung-chih

陝西省長安県王莽村労働模範。五四年八月第一期全国人民代表大会陝西省代表。

慕 生 忠 Mu Shêng-chung

五六年四月当時西藏自治区準備委員会委員。

方 燕 山 Fang Yên-shan (Phng Yen-san) 1915~

広東省の人。シンガポール在住華僑。自動車、同部分品、機械等の取扱業亞細アター公司経営者。五六年八月シンガポール工商業貿易視察団団員として中共を訪問。

方 紹 Fang Chi

五四四年四月中ソ友好協会ソ連ターデー參觀団員。五月中国人民対外文化協会理事。八月当時天津市文化事業管理局局長。五十六年十二月当時世界平和擁護委員会天津市分会副主席。

方 毅 Fang I

福建省の人。日、独、英、ソ語を解す。もと上海商務印書館の編集者。四九年末福建省人民政府副主席。四九年末—五三年一月華東軍政委員会委員。のち上海市人民政府副市長。五三年一月華東行政委員会委員。九月当時同委員会財政經濟委員会副主任、政務院財政部副部長。著書「白話字典」(商務印書館)「国音沿革」等。

方 宜 Fang I

五五年三、四月の間中共貿易代表団通訳として来日。当時新民主主義青年団員、北京中日科学研究会職員、國務院廣播(放送)事業管理局通訳(英語)といわれる。

方 恭 敏 Fang Kung-min

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五十六年十二月同第二期執行委員(浙江省)。

方 强 Fang Chiang

江西省の人。上將。現在五〇歳位。南昌暴動の際警察局長。その後林彪軍の連長、營長、団長を歴任し、四二年ソ連の紅軍大学に

方 石 珊 Fang Shih-shan

内科学専門家。五〇年八月中国医学会副理事長兼秘書長(五十六年当時も在任)。五三年五月ウイン世界医学會議に中共代表団団長として出席。五五年十一月中華医学会副理事長として日本訪華医学会代表と医学交流の「協定」に調印。五六年五月中国、キスタン友好協会理事。

方 壯 猷 Fang Chuang-yu

五五年七月当時湖北省文化局局長。

方 知 達 Fang Chih-ta

五六年十一月國務院國家經濟委員会委員。

方 仲 如 Fang Chung-ju

陝西省の人。西遷に参加。紅軍の団政治委員、中共陝甘寧辺区委員会委員、陝甘寧辺区人民政府委員、人民解放軍軍政治委員、人民解放軍第一野戦軍後勤部部長を歴任。四九年末西安市人民政府副市長兼陝西省人民政府委員会委員、後西安市長。五三年一月西北行政委員会委員。九月当時中共西安市委員会第二書記。五四年十一月当時西安市中ソ友好協会会長。十二月陝西省人民委員会委員。五五年三月政治協商會議陝西省西安市第一期委員会主席。五六年一月当時西安市工会連合会主席。

方 忠 晋 Fang Chung-chin

入学。帰国後師長。四八年第四四軍長。広東入城後広東警備司令、一五兵团代司令員、中南海軍司令員を歴任。五三年一月中南軍政委員会委員を解任。十月—五四年三月当時人民解放軍海軍副司令。

方 君 壯 Fang Chün-chuang

広東省普寧県の人。現在五〇歳位。もとマレイのペナン現代日報主筆、ペナン韓江公学校董事、ペナン同善義学校董事兼監学、ペナン中国記者公会主席を歴任。中央人民政府華僑事務委員会委員。五四年九月第一期全国人民代表大会華僑代表。

方 建 新 Fang Chien-hsin

五五年八月当時中共駐インド大使館臨時代辦。

方 光 燾 Fang Kuang-tao

五五年二月江蘇省人民委員会委員。

方 志 純 Fang Chih-chun

江西省の人。現在四六歳位。四九年当時江西省人民政府副主席兼民政庁長。四九年末江西省人民政府委員。五三年四月江西省選挙委員会主席。五五年二月江西省副省長。

方 心 芳 Fang Hsin-fang 1909~

細菌学者。科学院菌種保蔵委員会研究員。五六年十、十一月の間アジア太平洋電子顕微鏡會議出席のため代表として来日。

五五年二月湖北省人民委員会委員。

方 治 (希孔) Fang Chih (Hsi-kung) 1898~

安徽省桐城県の人。東京帝国大学卒業。国民党宣伝部秘書長、同中央宣伝部次長、四九年福建省政府秘書長兼代理主席。五六年当時總統府國策顧問、中国大陆救済總會秘書長。

方 治 平 Fang Chih-ping

五三年四月当時鞍山市市長。

方 鼎 英 Fang Ting-ying

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(特別招請)。五五年二月湖南省人民委員会委員。五六年二月国民党革命委員会第三期中央委員。

方 冰 曾 Fang Ping-tsêng

五五年六月当時旅大市人民委員会文化局局長。

方 復 生 Fang Fu-shêng

五五年七月当時國務院外交部ソ連東欧司專員。

方 方 Fang Fang 1904~

広東省普寧県の人。五四運動の時、普寧県学生連合会会長。二四年広州農民講習所に入所、同年冬潮汕地方に農会を組織。二五年の第一、二次東征では普寧国民党県委員会委員として農民軍を率いて

閩埠暴動を指導。中山艦事件後、国民党を脱して潮汕で再び農民運動を指導し、葉挺、賀龍軍の福建省西部移動後赤衛第三団党代表となり、福建革命に参加。三四年福建西南軍政治委員となりゲリラ戦を敢行、主力の西遷を援助。日華事変中新四軍に入り、後延安に赴く。戦後北平軍事調停執行部中共側代表葉劍英の政治顧問。四九年九月政治協商会議第一期全国委員。同年中南軍政委員会委員、十月広東省人民政府副主席、中共中央華南分局第三書記。ソ連に留学、五二年八月インドに潜入。五三年一月中南行政委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会広東省代表。十一月國務院華僑事務委員會副主任。五六年一月政治協商會議第二期全国委員会華僑代表委員。六月全国帰国華僑連合会準備委員会副主任委員。十月同連合会副主席。

方 明 Fang Ming

五三年二月当時中国教育工会全国委員会副主席。三月当時光明日報記者。七月ウイーンの世界教育工作者代表大会出席の中共代表団团长、十月当時中華全国総工会國際連絡部副部长。八月中国民主促進会第四期中央委員会委員。

方 亮 Fang Liang

五三年六月中華全国民主青年連合会常務委員。五六年二月九三学社第四期中央委員会委員。

方 令 孺(女) Fang Ling-ju

五三年三月当時上海市民主婦女連合会副主席。四月当時上海復旦

大学教授。同月世界婦人大会出席代表団員。同月中国第二回全国婦人代表大会主席団員。六月コペンハーゲンにて開催の世界婦人大会に出席の中国婦女代表団代表。五四年八月第一期全国人民代表大会安徽省代表。

包 華 國 Pao Hua-kuo 1903~

四川省成都市の人。清華大学、米スタンフォード大学卒業。国立四川大学教授、国連中国代表団一等書記官、日華事変中第三戦区政治部主任秘書、国防最高委員会秘書、重慶市参議員、重慶市社会局長、社会部福利司長、重慶空襲服務隊副隊長、社会部礦山労働検査処長、社会保険準備委員会副主任委員、國際労働者大会第一九回一二回および三一四一三三回の政府代表、アジア労働会議中国代表団長またその大会の副会長を歴任。四八年以来立法院立法委員。五五年当時アジア人民反共連盟中華全国総会常務理事兼秘書長、東吳法学院教授。五六年四月中華民国各界日本親善訪問団員として来日。

包 厚 昌 Pao Hou-chang

五五年二月江蘇省人民委員会委員。

包 達 三 Pao Ta-san

浙江省鎮海の人。日本大学商科卒業。帰国後実業界、開封にて乾燥雞卵製造工場、蘇北では製塩業、上海では土地建物等不動産信託事業、カーバイド化学工業等を経営。四五年十二月民主建国会常務委員。四九年当時信義不動産信託公司総経理(社長)。四九年九

工商連第二期執行委員(西藏)。

朋 錯 達 爾 吉 Pêng-tsuo-ta-êrh-chi

蒙古族。五四年一月青海省海西蒙古、西藏、ハサック族自治区協商委員会委員。

寶 音 閣 Pao Yin-ké

五五年六月当時中共内蒙古東部区党委員会農牧部牧業処処長。

彭 一 湖 Pêng I-hu

湖南省の人。四五年十二月民主建国会常務委員兼武漢市分会委員。四九年十二月一五三年一月中南軍政委員会委員。五二年八月同委員会政治法律委員会委員。五三年一月中南行政委員会委員。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(中国民主建国会)。五五年四月民主建国会中央常務委員。

彭 炎 Pêng Yèn

五五年十二月当時中国紅十字会総会副秘書長。五六年六月中国紅十字会代表として「日本戦犯釈放証書」に署名。

彭 嘉 慶 Pêng Chia-ching

五四年六月江西省人民政府委員を解任。同月山東省人民政府委員。当時人民解放軍山東軍区副政治委員。五五年三月山東省人民委員会委員。

月政治協商會議第一期全国委員会委員。十月政務院財政經濟委員会委員。四九年末一五四年六月華東軍政委員会委員。四九年十月中国友好協会総会理事。五三年一月華東行政委員会委員。十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年六月上海市人民政府委員を解任。八月第一期全国人民代表大会浙江省代表。五五年一月浙江省副省长。四月民主建国会中央常務委員。五六年十二月全国工商連第二期執行委員(浙江省)。

包 望 敏 Pao Wang-min

五五年二月福建省人民委員会委員。

邦 達 多 吉 Pang-ta-tuo-chi

西康省の人。西藏族。四九年末一五三年一月西南軍政委員会委員。五三年一月西南行政委員会委員。五四年六月一五六年三月当時昌都地区人民解放委員会副主任。八月第一期全国人民代表大会昌都地区代表。九月全国人民代表大会民族委員会委員。五五年九月西藏自治区準備委員会準備処副処長。五六年四月西藏自治区準備委員会委員兼副秘書長。

邦 達 養 丕 Pang-ta-yang-pi

五六年四月西藏自治区準備委員会工商処処長。

邦 達 養 璧 Pang-ta-yang-pi

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(全国工商連)。五六年十二月全国

彭桓武 Pêng Huan-wu
 五四年七月当時中国科学院近代物理研究所副所長。五五年五月中国科学院物理学数学学部委員。六月同学部常務委員。五六年二月当時中国科学院原子核学教授。五五、六年頃第一期全国人民代表大会貴州省代表に補選。

彭仰欽 Pêng Yang-chin
 五三年十月当時武漢冶電業局副局長、武漢市工業特等労働模範。五四年八月第一期全国人民代表大会武漢市代表。

彭光涵 Pêng Kuang-han
 五三年十月当時中央人民政府政務院華僑事務委員會辦公庁副主任。

彭康 Pêng Kang
 日華事変中中共中央華中局宣伝部長。四九年当時中共中央山東分局宣伝部部长。四九年—五四年六月華東軍政委員會文化教育委員會委員。五二年十一月交通大学校長。五三年一月ルーマニア訪問文化教育視察団副団長。五四年二月当時人民解放軍慰問代表団總分団（華東）副団長。五五年二月上海市人民委員會委員。

彭子岡 (本名、雪珍) (女) Pêng Tzu-kang
 (Hsieh-chên) 1914~

江蘇省蘇州の人。北京大学を卒業、上海で沈茲九女史と「婦女生

婦団後国民党新疆省党部主任委員。戦争中陝西省民政庁長、戦後国民政府内政部長等を歴任。国府の遷台後香港に移り第三勢力運動に従事、五二年來日。

彭紹輝 Pêng Shao-hui
 湖南省の人。上將。人民解放軍西北軍区參謀長。五三年一月西北行政委員會委員。五四年四月当時西北軍区副司令員。九月国防委員會委員。五五年九月一級八一勳章、一級独立自由勳章および一級解放勳章。十一月当時五五年度國際友誼射擊競技組織委員會副主席兼總裁判（審判長）。五六年二月当時人民解放軍副總參謀長。

彭城 Pêng Chêng
 五四年五月当時北京市人民政府商業局局長。五六年十一月北京人民委員會代表団員としてソ連東欧訪問。

彭真 Pêng Chên
 山西省の人。二一歳で共產主義青年団に参加、太原学生労働運動の中堅。正太路総工會主任。入獄六年。戦時中中共中央北方局書記兼統一戦線工作部部长、四一年晋察冀辺区党委員會委員。四五年中共第七期中央委員、中央東北局政治局主席。四九年—五五年当時中央北京市委員會書記（五六年一月当時同第一書記）。十月中央人民政府委員兼政務院政治法律委員會副主任。五一年中共中央政治局員。同年頃北京市長。五三年一月選挙法起草委員會委員、当時人民抗米援朝總會副主席、世界平和擁護委員會副主席。五四年七月当時中央政治幹部学校校長。八月第一期全国人民代表大会北京市代表。九月

活」を編集。戦後重慶大公報に入り通信記者。同社記者徐盈と結婚。四九年秋中共新聞界を代表し、ハンガリアの世界青年大会に出席。五五年六月ヘルシンキ世界平和大会中共代表団員。

彭思明 Pêng Ssu-ming
 五五年二月北京市人民委員會委員。十一月当時北京市工会連合会副主席。

彭潤民 Pêng Jun-min
 五六年十二月当時中国運輸機械進口公司（中共側）代經理。

彭劭農 Pêng Shao-nung
 五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大会四川省代表。五五年一月四川省人民委員會委員。七月四川省工商業連合会準備委員會主任。五六年十二月全国工商連第二期執行委員（四川省）。

彭笑千 Pêng Hsiao-chien 1896~
 安徽省蕭縣の人。予皖蘇行政公署主任、中原臨時人民政府委員兼農業部長、河南省人民政府農業庁長を歴任。四九年末—五三年一月中南軍政委員會委員。五三年一月中南行政委員會委員。五四年一月当時人民解放軍慰問代表団第五總分団（中南）副団長。

彭昭賢 Pêng Chao-hsien
 山東省牟平県の人。現在五九歳。在日華僑。ソ連東方大学卒業。

同大会常務委員會副委員長兼秘書長。十二月政治協商會議第二期全国委員會委員（対外平和友好団体）、同副主席。五五年二月北京市長再任、中国人民原子武器使用反対署名運動委員會副主席。五六年九月中共第八期中央委員會委員、中央政治局委員、中央書記処書記。十一月—五七年一月全国人民代表大会代表団団長、兼北京市人民委員會代表団員としてソ連、東欧訪問。その途次十二月イタリア共產党第八回代表大会に参列。

彭瑞林 Pêng Jui-lin
 五五年一月浙江省人民委員會委員。

彭青 (女) Pêng Ching
 五三年四月全国民主婦女連合会執行委員。五六年九月中共八大で「女黨員の發展」につき報告、当時河北省婦女連合会主任。

彭宗珠 Pêng Tsung-chu
 五五年三月安徽省人民委員會委員。

彭澤棠 Pêng Tsê-tang
 五四年十一月最高人民法院審判員。

彭冲 Pêng Chung
 五二年福建省労働局長。当時中共福建省委員會労働部長。五四年八月福建省人民政府委員を解任。五五年六月南京市長。八月当時中共南京市委員會第一書記。

彭長登 Pêng Chang-téng

五四年一月四川省人民政府文化事業管理局副局長。

彭程萬 Pêng Cheng-wan

五五年二月江西省人民委員会委員。

彭迪先 (偉烈) Pêng Ti-hsien (Wéi-liéh) 1909~

四川省眉山県の人。九州帝国大学経済学部卒業、同学部助手。中国民主同盟川西支部主任委員。四川省人民政府文化教育委員会副主任。五〇年一五四年九月西南軍政委員会文化教育委員会委員。五三年一月四川大学校長。五四年八月第一期全国人民代表大會四川省代表。五五年一月四川省人民委員会委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員。訳書「現在経済学論」(波多野鼎)。

彭濤 Pêng Tao

江西省の人。五〇年一五三年一月西南軍政委員会委員。五三年一月西南行政委員会委員。五四年四月ソ連メーデー参観代表団員。当時重慶市工会連合会委員。十一月国務院国家計画委員会副主任。五六年五月化学工業部部长。

彭德 Pêng Tè 1914~

台湾省の人。東京商大卒業。四八年一五〇年台湾省議會議員。四九年一五〇年台湾省政府建設庁長。四九年新生報董事。五〇年以來行政院参事。

彭德 Pêng Tè

五六年十二月国務院国家建設委員会委員。

彭德懷 Pêng Tè-huai 1900~

湖南省湘潭県の人。元帥。毛澤東と同郷で竹馬の友。二八年四月中共入党。湖南軍官学校卒業後、湖南国民党軍第二師營長。二八年夏何健麾下の国民党軍を指揮し、湖南省平江暴動を起して紅軍に加入、第一湖南ソヴェト政府を樹立。二九年江西に退き紅軍第五軍を編成その軍長。三〇年七月何健軍六万を撃破し、長沙を一週間占領。後第三軍団総指揮。三五年まで第五、第八軍一万を率いて江西省で作戦し、後西遷。三六年秋まで第一方面軍司令兼西北全紅軍總司令。三七年八月国民党軍第八路軍副總指揮。その後国民党軍第一八集團軍副總司令。四二年浦安修と結婚。四五年六月中共第七期中央委員。四六年西北人民解放軍司令。四九年当時第一野戦軍および西北軍区司令。九月政治協商會議第一期全国委員会委員。十月中央人民政府委員、人民革命軍事委員会副主席。四九年末一五三年一月西北軍政委員会主席。五〇年中国人民志願軍を率いて朝鮮に作戦。五三年一月西北行政委員会主席、憲法起草委員会委員。二月北鮮最高の一級国旗勲章を受く。五四年一五六年当時中共中央政治局員。五四年八月第一期全国人民代表大會軍隊代表。九月国防委員会副主席、国務院副總理、国防部部长。五五年五月東独「解放」十週年慶祝式典に中共政府代表団团长として参加、ワルシャワ會議に中共側代表オプザーバーとして出席。七月第一期全国人民代表大會第二次會議で兵役法草案について報告。九月一級八一勲章、一級独立自

長。五四年一五五年参謀總長代理。五五年以來参謀總長。

彭六安 Pêng Liu-an

五三年十月全国工商業連合会第一期執行委員。五六年十二月同第二期執行委員(湖南省)。

鮑國寶 (萼初) Pao Kuo-pao (Ê-chu) 1898~

広東省中山県の人。米コーネル大学卒業。鄭州豫豐紡織技師、浙江公立工業専門学校電機科教授、上海第一交通大学機械工程科教授、国民政府建設委員会電氣廠長、広東市電廠董事長を歴任。五六年一月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。六月電機工学會準備委員会副主任委員。

鮑爾漢 Pao-erh-han (Burhan) 1894~

新疆阿克蘇の人。正式呼称は鮑爾漢・夏赫德罕志。ウイグル族。一二年独ベルリン大学政治経済科卒業。一六年帰国新疆省政府に勤務。二八年ドイツ視察旅行。三七年ソ連のカザン領事。帰国後通独の嫌疑で七年間監禁。四四年末出獄、新疆省民政庁副庁長。四六年同省副主席。四八年冬新疆省主席。四九年中共軍が省境に迫るや中共に内応、西北軍政委員会委員兼新疆省人民政府主席。五一年十月政治協商會議全国委員会に補選。五三年一月西北軍政委員会委員を解任、西北行政委員会委員となる。二月政治協商會議全国委員会常務委員。五四年二月人民解放軍慰問団代表団第二總分団副团长。四月新疆省民族区域自治準備推進委员会主任委員。八月第一期全国人民代表大會新疆省代表。九月同大会民族委员会主任委員および予算委

由勲章および一級解放勲章。五六年九月中共第八期中央委員会委員、中央政治局委員、中共八全大会で「軍事活動の光榮ある任務を成功裡に完成しよう」と発言。

彭德清 Pêng Tè-ching

五六年六月当時人民解放軍海軍少將。

彭柏山 Pêng Po-shan

五五年二月上海市人民委員会委員。

彭夢庚 Pêng Mêng-kéng

五五年二月江西省人民委員会委員。

彭明治 Pêng Ming-chih

日華事变末期新四軍第三師黃克誠麾下の旅長。五〇年六月中共駐ポーランド大使。五二年辞任し広西軍区副司令。その後瀋陽警備司令。五五年当時武漢警備司令員。

彭孟緝 Pêng Mêng-chi 1907~

湖北省武昌の人。国立中山大学卒。二六年黄埔軍官学校卒業後渡日。三一年日本砲兵学校卒業。三二年砲兵学校教育長。三二年第一砲兵旅団大隊長。三五年第一〇砲兵連隊長。四一年第一砲兵旅団訓練主任。四三年野砲第一旅長。四五年中国陸軍總司令部中将砲兵指揮官。四六年高雄要塞司令官。四七年台湾全省防衛警備司令。五〇年台湾省保安副司令。五二年以來国民党中央委員。五四年副参謀總

員会委員。十二月政治協商會議第二期全國委員會副主席。五五年五月中国科学院哲学社会科学学部委員。六月中国インドネシア友好協會會長。ヘルシキ世界平和大会中共代表團團員。七月外交学会第三期理事會理事。九月新疆ウイグル自治区人民委員會委員。五六年二月中国亞洲團結委員會委員、エジプト訪問中共文化芸術代表團長。三月政治法律学会第二期副會長。四月政府代表として中共エジプト文化合作協定に署名。六月政府代表として中共シリア文化合作協定に署名。七月新疆学院院長。九月中共八全大会において「党の民族政策、統一戦線政策、および宗教政策の国内外における勝利について」報告。十一月中国エジプト友好協會會長。十二月中国イスラム教協會第二期委員會主任。

鮑 靜 安 Pao Ching-an 1901~

河北省の人。二五年国立北京大学卒業。三三年—三七年中央通訊社北平支局主筆。三八年—四四年軍事委員會參事。四四年—四六年中国陸軍總司令部副秘書長。四七年—四九年連勤總司令部對外關係事務局長。四九年行政院參事、情報局長。五〇年以來戰略顧問委員會參事。

鮑 廷 幹 Pao Ting-kan

五五年二月吉林省高級人民法院院長。

鮑 良 才 Pao Liang-tsai

五六年十二月当時中国進出口公司(中共側)副經理。

五三年一月当時中共雲南省瀘西県委員會書記。

房 師 亮 Fang Shih-liang

五五年三月安徽省人民委員會委員。

房 定 辰 Fang Ting-chên

五四年十二月当時東北国營農場管理局副局長。

茅 以 昇 (唐臣) Mao I-shêng (Tang-chên)

1896~

江蘇省丹徒県の人。一六年唐山交通大学土木工程科卒業。一七年米コーネル大学卒業、工学博士号。つづいてカーネギー技術研究所で研究。二〇年錢塘江鉄道建設局長。三四年—三八年唐山技術学院および交通大学校長、海河工程局局长、国府經濟建設委員會委員。四〇年教育部部長、四三年中国橋梁建設公司總經理。五三年九月当時中華全国科学技術普及協會副主席。五四年四月科学院技術科学部副主任。八月第一期全国人民代表大会江蘇省代表。十月当時鉄道研究所所長。十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(自然科学団体)、中ソ友好協會第二期理事會理事。五五年二月武漢長江大橋技術顧問委員會主任委員。十二月中共訪日科学代表團團員。五六年二月中国亞洲團結委員會委員、九三学社第四期中央委員會委員。三月國務院科学規劃委員會委員。四月訪伊文化代表團團員。

茅 顯 祺 Mao Hsien-chi

五四年八月第一期全国人民代表大会貴州省代表。

豐 國 清 Fêng Kuo-ching

五六年九月中共第八期中央委員會候補委員。

龐 球 Pang Chin

五六年四月当時西藏自治区準備委員會委員。

龐 之 江 Pang Chih-chiang

五五年十一月当時國務院對外貿易部運輸局副局長。

龐 樹 山 Pang Shu-shan

五四年十一月最高人民法院審判員。

鄧 雲 鶴 (女) Fêng Yün-hê

五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。

牟 海 秀 Mou Hai-hsiu

五五年十二月当時中共四川省自貢市委員會書記。

牟 澤 銜 Mou Tsê-hsien 1907~

四川省武勝の人。四九年北京市軍事管制委員會供給部長兼北京市人民政府工業局局长。十月北京市人民政府委員。五五年二月北京市人民委員會委員。

牟 梅 生 Mou Mèi-shêng

茅 琛 Mao Chên

上將。五六年二月当時中共駐インドネシア大使館武官。

朴 若 (女) Po Juo

五五年二月北京市人民委員會委員。

朴 紹 西 Po Shao-hsi

五五年二月吉林省人民委員會委員。

朴 新 波 Po Hsin-po

五五年一月天津市人民委員會委員。

朴 存 訓 Po Tsun-hsun

五五年二月河北省人民委員會委員。

朴 佩 珊 Po Pei-shan

五五年三月國務院法制局副局長。

墨林阿旺却扎 Mo-lin-a-wang-chüeh-cha

五六年四月西藏自治区準備委員會委員。

穆 義 提 Mu-i-ti

ウイグル族。五四年六月当時新疆省人民政府民政庁長。八月第一期全国人民代表大会新疆省代表。九月同大会民族委員會委員。

穆 芝 房 Mu Chih-fang

五五年一月天津市人民委員会委員。五六年一月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。當時天津市人民代表大會代表。

穆 林 Mu Lin

五三年十二月當時中共中央山東分局農村工作委員會副書記。五五年三月山東省人民委員會委員。

ま

麻 貴 書 Ma Kuei-shu

五四年四月當時中共太原市委員會副書記。

め

明 克 Ming Kè

五六年十月中共駐ソ大使館商務參事官。

も

毛 永 福 Mao Yung-fu 1923~

湖南省湘潭県の人。毛澤東の次子（母は前夫人楊氏）。三五年中共軍に入る。一四歳にしてソ連に流亡、十余年を経て終戦後帰国。

毛 鶴 年 Mao Hè-nien

五四年八月第一期全国人民代表大會遼寧省代表。

毛 岸 英 Mao An-ying 1920~

湖南省湘潭県の人。毛澤東の長子。四〇年頃モスクワ中山大学で蔣經國と同学。卒業後モスクワで研究。四六年国共内戦開始後帰国、延安労働大学に入り、ロシア語の翻訳に従事。五〇年頃チャトフスキー編「ソ連国民経済領導研究提綱」を陸風と共に訳して出版。

毛 齊 華 Mao Chi-hua

山東省の人。現在五六歳位。ソ連東方労働大学卒業。延安労働運動を指導。四〇年頃中共中央書記処職工部長。中共中央政治局工人運動委員会主任委員。上海市総工会秘書長。四九年十月中央人民政府政務院労働部副部長。五四年十一月國務院労働部副部長。

毛 子 長 Mao Tzu-chang

五五年八月當時國務院糧食部倉儲局副局長。

毛 澤 東 (潤之) Mao Tse-tung (Jun-chih) 1893~

湖南省湘潭県韶山の農民出身。一八歳にして辛亥革命に遭遇。後長沙の湖南省立第一師範在学中、一七年新民学会（通称マルクス学会）を組織。一八年同校卒業後、北京大学図書館主任兼教授李大釗の下で、図書館の助理員、傍ら同校に学び、二、三の学生機関誌を編集、各種の団体を組織。二一年五月上海に赴き、陳獨秀、李大釗と共に中国共産党の創立に参加、中共一大大会には湖南代表として出席（出席者二三名）。二一年十月湖南省第一支部長。二四年中央委員。一月中国国民党一大大会に出席、国共合作により国民党第一期候補中央執行委員、上海執行部宣伝部秘書兼農工委員会委員として十一月まで在勤。十二月当時上海執行部の最有力者葉楚傖にきられ郷

里に帰還。爾後十カ月間農民問題の研究に没頭。二五年広東で国民党機関紙「政治週報」を編集。九月国民党中央宣伝部長代理(部長は汪兆銘)を兼任。二六年一月国民党第二期候補中央執行委員、宣伝部長代理、中央農民運動講習所長、政治週報社長、中央政治講習班理事。五月農民運動講習所長専任。ついで華北農民運動を視察。二七年武漢に入り、中共中央農民部長。八月国共分裂後、湖南に潜入、九月秋収暴動を指導して紅軍の組織を始め、工農紅軍第一軍第一師前敵委員会主席。二八年五月工農紅軍第四軍政治委員(軍長は朱德)。二九年第一軍団(一万人)の政治委員。三〇年紅軍第一方面軍政治委員、中国工業革命委員主席。五月上海で第一回ソヴェト区域代表大会(代表四九名)に出席。七月彭德懷軍の長沙占領の時、妻楊凱輝は湖南省主席何鍵により逮捕銃殺。三〇年末一三一年反毛運動「黄陂事变」「贛東事变」「富田事变」が統発、これを肅正して党の覇権を掌握、三二年十一月中華ソヴェト中央執行委員会主席。同人民委員会主席に選ばれ政、軍の最高権掌握。三四年第二次全国ソ区代表会議で西遷準備。三五年一月貴州進出。夏陝北到着。三六年十二月十二日の西安事变に蒋介石を生かして抗日民族統一戦線の樹立をはかり、翌三七年日華事变勃発後第二次国共合作が成立し、九月紅軍を国民革命軍第八路軍に改編。三八年五月「持久戦論」、十月「新段階論」、四〇年一月「新民主主義論」(後に中共中央が党のテーゼとして採択)を発表。四五年四月中共七全大会で政治報告として「連合政府論」を発表。この大会で、六月七期中央委員会主席、中国人民革命軍事委員会主席。八月末重慶訪問、蔣毛会談。四六年一月政治協商会議で国内平和建国の諸原則を決定(未実施)。四六年春から国共両党は再度全面的に抗争。四九年七月「人

高級人民法院院長。

孟 雨 Mèng Yǔ

五四年八月第一期全国人民代表大会河南省代表。

孟 英 Mèng Yīng

五六年一月駐外蒙大使館参事官。八月ウランバートルの中蒙経済技術援助協定調印式に中共側委員として出席。

孟 鉞 Mèng Yuè

五三年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員会委員。七月中国新民主主義青年団第二期中央委員。当時中国新民主主義青年団中南工作委員会副書記。同月ブカレストの第三回世界青年代表大会および第四回世界青年と学生平和友誼懇親節出席代表団員。

孟 啓 明 Mèng Qǐ-míng

五五年六月当時大同市副市長。

孟 憲 承 (伯洪) Mèng Xiàn-chéng (Po-hung) 1893~

江蘇省武進県の人。米ワシントン大学卒。英ロンドン大学修業。国立東南大学、北京清華大学、上海セントジョンズ大学、光華大学等の教授、江蘇省教育庁科長、江蘇省立民衆教育院研究部主任、中央政治学校教育科教授を歴任。四九年末華東軍政委員会文化教育委員。当時浙江大學教授。五一年一五四年六月華東軍政委員会委

五六年九月中共駐カンボディア経済使節団員。

毛 飛 (松園) Mao Fei (Sung-yüan) 1901~

湖南省沅江県の人。湖南明德大学卒業。南京政府秘書。三四年湖南省党部第四期執行委員。四八年以来国府立法委員。

毛 邦 初 Mao Pang-chu

浙江省の人。二五年黄埔軍官学校卒業。三七年ソ連軍事飛行学校卒業。四一年中国空軍野戦司令。四三年一四六年全国航空委員会副主席。四六年国民政府空軍副司令、空軍研究のため渡米。四五年一五一年国連軍事委員会中国代表。

毛 鳳 翔 Mao Fèng-hsiang

陝西省の人。現在五三歳位。中共中央党校卒業。四九年末陝西省人民政府委員。当時陝甘寧辺区漢中分区専員。五四年十二月陝西省

員兼文化教育委員会副主任。五三年一月華東行政委員会委員。七月当時同委員会教育局長。五四年二月人民解放軍慰問代表団第四總分団(華東)副団長。八月第一期全国人民代表大会上海市代表。

孟 憲 民 Mèng Xiàn-mín

五五年五月中国科学院生物学地学部委員。

孟 少 農 Mèng Shao-nung

五四年六月一五六年一月当時第一汽車製造廠副廠長兼総工程師。

孟 昭 英 Mèng Zhao-ying

五三年三月当時清華大学無線電科主任。五五年五月中国科学院技術科学学部委員。五六年六月電子学学会準備委員会副主任委員。

孟 昭 瓚 (叔玉) Mèng Zhao-tsau (Shu-yü) 1907~

河南省舞陽県の人。中央大学経済科、英ロンドン大学卒業。河南省政府委員兼財政庁長。国民大会代表、中央銀行理事、行政院設計委員。五四年六月行政院政務委員。

孟 泰 Mèng Tai 1897~

河北省の人。一九歳で鞍山の配管工、後配管技術員。五三年十月当時鞍鋼特等労働模範。五四年八月第一期全国人民代表大会鞍山市代表。

孟 著 圃 Mèng Chu-pu

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員会常務委員。五六年十二月同第二期執行委員(遼寧省)。

孟天祿 Mèng Tien-lu

五四年八月第一期全国人民代表大会陝西省代表。

孟夫唐 Mèng Fu-tang

五四年六月中原大学副校長を解任。八月第一期全国人民代表大会河南省代表。五五年一月武漢市副市長。

孟用潜 Mèng Yung-chien

四九年十月政務院財政經濟委員会委員、同委員会中央合作事業管理局局長。五〇年七月中華全国合作社連合会臨時理事会副主任。兼供応局局長。五二年五月中国国際貿易促進委員会委員。五三年十一月ウイーンの世界平和理事会に理事として出席。同月全国商業連

合会副主任委員。五四年十月全国購販合作總社理事会副主任。十二月中ソ友好協会總會第二回理事会理事。

蒙素芬(女) Mèng Su-fèn

佈依族。五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大会貴州省代表。九月同大会民族委員会委員。五五年七月ワルンヤワの第五回世界青年および学生平和友誼交歓節参加の中共青年代表団員。五六年四月当時西藏自治区準備委員会成立大会における中央代表団佈依族代表。

沐臘茲 Mu-la-tzu

五五年六月雲南省西双版纳傣族自治州人民委員会委員。

門堆・洛桑旺堆 Mèn-tui・Luo-sang-wang-tui

五六年四月当時西藏自治区準備委員会委員。

俞建章 Yü Chien-chang

五五年五月中国科学院生物学地学部委員。五六年三月東北地質学院及び科学院共同建設の東北地質研究室主持、当時東北地質学院教授。

俞鴻鈞 Yü Hung-chün (O. K. Yui) 1898~

広東省新会県の人。上海セントジョン大学卒業。三〇年一三七年上海市政府秘書長。三七年上海市長。三八年一四一年中央信託局總裁。四一年一四四年財政部次長。四四年一四八年財政部長。四八年一四九年及び五〇年以來中央銀行總裁(五六年当時も在職)。四八年五月以來米援運用委員会主任委員(五六年当時も在職)。同年八月上海区經濟統制督導主任委員。五〇年一五四年当時交通銀行總經理。五一年以來フィリピン交通銀行董事長。五二年一五五年台湾銀行董事長。五三年国民党中央委員。五三年一五四年台湾省政府主席。五四年六月行政院長。

俞佐宸 Yü Tso-chên

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五六年十二月同第二期執行委員(浙江省)。

俞濟時 Yü Chi-shih 1904~

浙江省奉化の人。黄埔軍官学校、陸軍大学将官班卒業。三〇年国府警衛旅長。三一年第八師長、浙江省保安処長。三四年第五八師長。三七年第七四軍長。三八年第三六軍團長、一九集團軍副總司令

ゆ

俞靄峯(女) Yü Ai-fêng

天津市立総醫院婦産科主任。五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員。六月コペンハーゲンの世界婦人大会出席の中共婦人代表団員。五四年八月第一期全国人民代表大会天津市代表。五五年一月天津市人民委員会委員。八月当時天津市民主婦女連合会副主席。

俞震澄(鴈詔) Yü Huan-chêng (Yèn-shao)

1885~

浙江省興興県の人。一一年辛亥革命に参加、新軍部督府に勤め、一三年第一期国会議員、ついで中国銀行副總裁。その後、上海で通易銀行、証券物品交易所を經營。広東時代の国民政府を財政的に援助。南京の国民政府財政部、中央銀行などの要職に参劃。日華事変中東南、西南を転々とし、戦後上海、香港に逃避、ついで北京に赴く。四九年九月民主建国会常務委員。十月中央人民政府財政經濟委員会委員。当時江南紙廠董事長。四九年末一五四年六月華東軍政委員会財政經濟委員会委員。五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問団員。十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五四年八月第一期全国人民代表大会江蘇省代表。五五年四月民主建国会中央常務委員会副秘書長。五六年十二月全国工商業連合会第二期執行委員(特別招請)。

令。四〇年三民主義青年團中央監察會監察兼中央幹事會幹事。四二年一四五年軍事委員會蔣委員長侍衛長。四五年三六集團軍總司令。四六年一四八年國府軍務局長。四五年カイロ會議參加、國民黨中央執行委員。四六年國民代表大會軍隊代表。四八年一四九年總統府第三局長。四九年國府總統府總務部長。五〇年以來總統府戰略顧問委員會第二局長。五五年一五六年當時總統府國策顧問。著書「時代新軍人必有之修養」「孫子之戰術戰略思想探微」。

俞子夷 Yu Tzu-i

五五年一月浙江省人民委員會委員。五六年八月民主促進會第四期中央委員會委員。

俞大維 Yu Ta-wei 1898~

浙江省の人。二二年米ハーバード大学で博士号。後独ベルリン大学修学。三三年一四五年軍政部兵工署長。四四年十二月一四五年軍政部次長。四六年五月一四八年交通部長、米援運用委員會委員。四八年十二月一四九年三月孫科内閣國防部長。五一年一五四年六月米援運用委員會副主任委員兼駐米大使館顧問。五四年六月國防部長。

俞大紱 Yu Ta-fu

五五年一月當時北京農業大学植物保護科教授。五五年五月中国科学院生物学地学学部委員。五六年一月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。

俞仲武 Yu Chung-wu

五四年六月浙江師範學院院長。當時浙江省人民政府教育庁長。

俞沛文 Yu Pei-wên

五五年七月外交學會第三期理事會理事。當時上海市外事代理処長。五六年三月當時上海市人民委員會外事処処長。

俞飛鵬 (樵峯) Yu Fei-pêng (Chiao-fêng)

1884~

浙江省奉化の人。七年寧波師範學校、一三年北京軍需學校卒業。二三年粵軍總司令部審計長。二六年北伐に際し總司令部兵站總監。二七年江海關監督。二八年兵站總監。三〇年交通部政務次長。三四年陸軍輜重兵學校を設立。三五年通信兵學校副校長、國民黨五全大會候補中央執行委員。三五年一三八年交通部長。三七年一四五年後方勤務部長、運輸統制局參謀長、糧食部主任委員、滇緬公路運輸工程監理委員會主任委員、中緬運輸總局局長。四五年一四七年交通部長。四七年一四八年糧食部長。四八年以來總統府國策顧問。五〇年當時招商局董事長、中華海員黨部改造委員會主任委員。五二年國民黨中央評議委員、中國驗船協會理事長。

俞平伯 Yu Ping-po 1899~

浙江省德清県の人。崑曲の専門家。北京大学国文学国文科卒業後、燕京大学講師を経て清華大学、中国大学国文科、北京大学の教授を歴任。五三年十月中国文学芸術界連合會第二期全國委員會委員、中國作家協會理事會理事。五四年四月當時民族音樂研究所通信研究員。八月第一期全國人民代表大會浙江省代表。五四年末人民日報、

光明日報、文芸報、作家協會から紅樓夢研究方法を批判する。五六年二月中国亜洲團結委員會委員、九三學社第四期中央委員會委員。著書に「冬夜」「西還」「雜拌兒」「燕知草」「憶」「紅樓夢弁」等。

俞方泉 Yu Fang-kao

五四年十二月甘肅省人民委員會委員。

俞銘璜 Yu Ming-huang

五四年七月當時中共江蘇省委員會宣傳部部長、江蘇省人民政府文化教育委員會委員。五五年二月江蘇省人民委員會委員。

喻杰 Yu Chieh

五四年十一月國務院糧食部副部長。

喻子鳳 Yu Tzu-fêng

五六年十二月全國工商業連合會第二期執行委員(湖北省)。

喻德淵 Yu Tè-yüan

五四年八月第一期全國人民代表大會長春市代表。五六年二月民主同盟第二期中央委員會委員。三月東北地質學院及び科學院共同建設の東北地質研究室主持、當時東北地質學院副院長。

游彌堅 Yu Mi-chien (Yew, M. K.) 1896~

台湾省の人。東京法政大学、ジュネーヴ大学、パリ大学に学ぶ。元中央軍官學校教官。国立湖南大学教授、棉花棉系統制局長、台湾

に於ける財政特別委員、台北市長、台湾省政府委員會委員を歴任。五五年一五六年當時國民大會代表、行政院設計委員會委員、台湾紙業公司董事長。

猶鳳岐 Yu Fêng-chi

五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問團總團秘書長兼第三總分團秘書長。五六年三月國務院機關事務管理局副局長。

熊應棟 Hsiung Ying-tung

五五、六年頃第一期全國人民代表大會西安市代表に補選。

熊開友 Hsiung Kai-yu

苗族。五四年八月第一期全國人民代表大會雲南省代表。

熊瑾玠 Hsiung Chin-ting

五三年二月當時中国紅十字會副會長。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(社会救濟福利団体)。

熊向暉 Hsiung Hsiang-hui

五四年五月中国人民对外文化協會理事。

熊克武 (錦帆) Hsiung Kè-wu (Chin-fan)

1881~

四川省井研の人。日本陸士卒業。一一年黃興と広東總督衙門攻撃に失敗。二五年広東で許崇智を駆逐全権掌握。のち逮捕下獄。二七

年國民政府委員。三一年廣東獨立に参加、廣東政府委員。同年末國民黨第四期中央執行委員。三四年南下香港に隠居。五〇年一五三年一月西南軍政委員會副主席。五一年十月政治協商會議第一期全國委員に補充。五三年一月西南行政委員會副主席。當時中國國民黨革命委員會川康臨時工作委員會召集人。五四年八月第一期全國人民代表大會四川省代表。九月同大會常務委員會委員。五六年三月國民黨革命委員會第三期中央委員會副主席。

熊子民 Hsiung Tzu-min

五五年二月湖北省人民委員會委員。

熊壽祺 Hsiung Shou-chi

五〇年中南軍政委員會民族事務委員會副主任委員。五二年八月中南軍政委員會政治法律委員會委員。五四年六月中南各民族參觀團代表。五五年三月中央民族學院副院長。

熊尙元 Hsiung Shang-yuan

五四年八月第一期全國人民代表大會四川省代表。

熊晉槐 Hsiung Chin-huai

湖北省の人。四九年湖北省人民政府副主席。十二月一五三年一月中南軍政委員會委員。五三年一月中南行政委員會委員、當時中國國民黨革命委員會湖北省分會委員。五四年八月第一期全國人民代表大會湖北省代表。五五年二月湖北省副省長。五六年二月國民黨革命委員會第三期中央委員。

熊大仕 Hsiung Ta-shih

五五年一月當時北京農業大學畜牧獸醫科教授。五六年一月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。

熊天荆 Hsiung Tien-ching

五四年三月當時政務院內務部辦公廳副主任。

熊伯濤 Hsiung Po-tao

五三年三月當時中國人民解放軍公安部隊副參謀長。五五年九月一級解放勳章。

熊飛 Hsiung Fei

五六年九月當時武漢市副市長。

熊復 Hsiung Fu 1916~

四川省の人。漢口長江日報社社長。四九年七月中華全國新聞工作者協會準備會準備委員。五四年五月中國人民對外文化協會理事。五五年十二月中國科學院歷史研究所第三所研究員、中共學術視察團副秘書長として来日。五六年二月中國亞洲團結委員會委員。四月當時中共中央宣傳部秘書長。五六年十一月一五七年二月周恩來に隨行東南アジア、ソ連、東欧諸國訪問。

熊佛西 (福禧) Hsiung Fo-hsi (Fu-hsi) 1900~

末一五三年一月華東軍政委員會委員。四九年末一五四年六月華東軍政委員會土地改革委員會委員。五三年一月華東行政委員會委員。五四年八月第一期全國人民代表大會安徽省代表。五六年二月國民黨革命委員會第三期中央委員。

余益菴 Yü Ian

五五年二月湖北省人民委員會委員。

余家菊 (景陶) Yü Chia-chü (Ching-rao) 1891~

湖北省黃坡の人。英國留學。中國青年黨領袖。かつて國民政府委員。四八年以來總統府國策顧問。

余海清 Yü Hai-ching

彝族。五四年八月第一期全國人民代表大會雲南省代表。

余漢謀 (握奇) Yü Han-mou (Wuo-chi)

廣東省高要県の人。二九年廣東クーデター直前旅長。後國軍第五九師長。三一年第一集團軍第一軍長、國民黨第四期中央執行委員。三二年國民政府西南軍事委員會剿共軍第一路縱隊指揮。三五年國防會議議員、上將待遇陸軍中將。三六年十月廣東駐防第四路軍總司令、ついで廣東綏靖主任。四六年第七戰區司令官兼廣東省主席。四八年五月陸軍總司令。四九年一月廣東省治安公署主任。五五年一五六年當時總統府戰略顧問。

余金堂 Yü Chin-tang

江西省豊城の人。北京燕京大學在學中文雜誌「燕大週刊」を編集、三三年卒業。米コロンビア大學研究院で演劇を研究。帰国後國立北京大學芸術學院戲劇科主任教授、私立燕京大學文科講師、中華平民教育促進會定県実験區戲劇部主任を歴任。日華事変中は四川省立実験劇院長。四九年七月全國文學藝術界連合會全國委員、全國戲劇工作者協會常務委員、上海戲劇學校長。同年末一五四年六月華東軍政委員會文化教育委員會委員。五三年十月中國人民第三回訪鮮慰問團第四總分團副團長、中國文學藝術界連合會第二期全國委員會委員、五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。五五年六月當時中央戲劇學院華東分院院長、著書「新聞記者」「青春の悲哀」(商務印書館)「一片愛國心」(文化學社)「王三」「洋状元」「詩人の悲劇」「蟋蟀」「喇叭」「藝術家」「臥薪嘗胆」「愛情の結晶」「鋤頭健兒」「摸特兒と裸体」「屠夫」「蒼蠅世界」「仏西論劇」(新月書店)「写劇原理」「戲劇と文芸雜誌」「仏西戲劇」第一―四集(民國一九、二二年商務印書館)等。

熊楊 Hsiung Yang

五四年一月當時中共四川省委員會統一戰線工作部副部長。

よ

余亞農 Yü Ya-nung

安徽省の人。中國國民黨革命委員會安徽省分會常務委員。四九年

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五五年七月中国
人民外交学会第三期理事會理事。

余 光 Yu Kuang

五六年十二月当時中国土產出口公司(中共側)副經理。

余 光 生 Yu Kuang-shêng

四九年東北鐵路總局局長、東北人民政府委員。五〇年四月中国長
春鐵道会社理事會主席、中央人民政府鐵道部駐東北特派員。五三年
一月東北人民政府委員を解任。五五年一月國務院鐵道部副部長。

余 克 堅 Yu Kè-chien

五六年十二月当時中国機械進口公司(中共側)副經理。

余 際 唐 Yu Chi-tang

四九年当時四川省川東人民行政公署副主席。五二年八月四川省人
民政府副主席。五五年一月四川省副省長。五六年二月国民党革命委
員会第三期中央委員。

余 秋 Yu Chiu

広東省東莞縣の人。現在四五歳。ヴェトナム・シロン在住華
僑。輸入商。シロン客家中華理事會理事長。

余 秋 里 Yu Chiu-li

中將。五五年九月一級解放勳章。五六年八月解放軍財務部長。

余 昭 華 Yu Chao-hua

五三年十一月全国工商業連合会第一期執行委員。五六年十二月同
第二期執行委員(江西省)。

余 心 清 Yu Hsin-ching

安徽省合肥縣の人。二七年馮玉祥に隨行訪ソ、ついで訪米、三年
滞在。帰国後陝西教育考察專員。三三年福建革命に参加。その人民
政府委員經濟委員會主席。四七年北平で逮捕下獄一年余、釈放後香
港經由中共地区に入る。四九年九月政治協商會議第一期全国委員會
委員。十月中央人民政府委員會辦公庁副主任兼典禮局長。五四年二
月当時抗米援朝總会在京常任委員。五月中国人民对外文化協會理
事。八月第一期全国人民代表大会山東省代表。九月同大会常務委員
会副秘書長。五六年二月国民党革命委員會第三期中央委員。

余 振 瀛 Yu Chên-ying

五四年八月第一期全国人民代表大会陝西省代表。

余 瑞 璜 Yu Jui-huang

五四年七月当時東北人民大学教授(結晶学)。五五年二月吉林省
人民委員會委員。五月中国科学院物理学数学化学学部委員。

余 井 塘 Yu Ching-tang 1896~

江蘇省の人。米アイオワ大学卒業。二九年—五〇年国民党中央執
行委員會委員。三九年—四四年教育部次長。四四年—四八年国民党

組織部副部長。五〇年—五二年内政部長。五二年行政院政務委員。
五四年六月行政院政務委員再任。

余 先 榮 Yu Hsien-jung (Hsien-yung, Sydney

Sien-yung) 1906~

湖南省の人。四四年米カリフォルニア大学卒業。四〇年—四五年
サンフランシスコ領事待遇副領事。四五年—五〇年駐米ヒュースト
ン領事。五〇年シカゴ総領事。

余 存 永 Yu Tsun-yung

五五年一月四川省人民委員會委員。

余 達 之 Yu Ta-chih 1894~

広東省惠陽縣の人。香港在住。香港糖蜜貿易公司總經理、シंगा
ポールおよび南洋群島達明洋行總經理、香港江利洋行理事。華商總
会第一七期理事、香港中華廠商連合会會長。

余 湛 Yu Chan

五五年一月中共駐ポーランド大使館參事官。十二月駐ポーランド
大使館臨時代辦。五六年度中共ポーランドパートナーおよび支払協定
に調印。五六年五月当時駐ポーランド大使館參事官。

余 超 平 Yu Chao-ping

カナダ在住華僑。国民党在カナダ総支部執行委員、新民國報社長、
国民党第六次全国代表大会代表等を歴任。

余 伯 泉 Yu Po-chuan (Yu Pok-chuen) 1909~

広東省の人。三二年英ケンブリッジ大学得業士。三五年同大学学
士。三六年ロンドン・インナー・テムブル法学院弁護士。三六年—三
七年第一二集團軍司令部少佐參謀。三七年—三九年同司令部分遣防
空大隊中佐司令。四二年貴陽陸軍訓練本部大佐副司令。四三年—四
五年第七戰区模範步兵連隊長。四六年—四七年国連軍事參謀委員會
中国代表團軍事補佐員。四七年—四八年少將、同中国代表團第二課
長。四八年行政院國防部副行政官、第二八五歩兵團長。四九年第一
五三歩兵師團長。五二年—五四年国防大学副校長。五四年以来副參
謀總長。

余 萍 Yu Ping

五五年八月—五六年十二月当時中国食品出口公司(中共側)副經理

余 夢 燕(女) Yu Mêng-yên (Yu Nancy) 1916~

湖南省の人。四三年燕京大学卒業、四七年米コロンビア大学卒業。
三九年—四二年重慶チャイナタイムズ通信員。四四年—四五年宣伝
部国際局記者。四八年—四九年国際亡命者機関職員。五二年以来英
文中国郵報発行人兼社長。

余 友 泰 Yu Yu-tai

五五年一月黒龍江省人民委員會委員。

姚 依 林 Yao I-lin

日華事変中、中共中央北方局北方分局秘書長。四九年一月華北人民政府財政經財委員會委員兼工商部長。十月中央人民政府政務院貿易部副部長。貿易部幹部學校校長。五二年八月政務院商業部副部長。五四年七月第一期全國人民代表大會江西省代表。九月同大會預算委員會委員。十一月國務院商業部副部長。

姚會賓 Yao Hui-pin

五三年四月當時華北商業管理局副局長。五六年一月當時國務院商業部第一局副局長。

姚宜民 Yao I-min

五三年一月陝西省人民政府委員。五四年十二月陝西省人民委員會委員。

姚曉程 Yao Hsiao-cheng

五三年七月人民志願軍上校として朝鮮軍事停戰委員會連合視察小組首席組員。

姚惠泉 Yao Hui-chuan

五六年十二月全國工商業連合會第二期執行委員（上海市）。

姚廣 Yao Kuang

五四年十二月—五五年六月當時湖北省人民委員會外事處長。五六年五月當時國務院外交部西歐アフリカ司副司長。

姚克方 Yao Ké-fang

五五年二月湖北省人民委員會委員。五六年一月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。二月國民黨革命委員會第三期候補中央委員。

姚國桐 Yao Kuo-tung

五三年十一月全國工商業連合會第一期執行委員。

姚順甫 Yao Shun-fu

五四年八月第一期全國人民代表大會浙江省代表。五五年一月浙江省人民委員會委員。五六年十二月全國工商業連合會第二期執行委員（浙江省）。

姚仲康 Yao Chung-kang

五二年七月當時中央駐カルカッタ總領事。

姚仲明 Yao Chung-ming

日華事変末期賀龍の晉陝甘寧辺軍区第二五九旅參謀長。のち第一八集團軍（第八路軍）政治委員。終戦直前は山東省濰坊特別市長。五〇年六月駐ビルマ大使。五四年十二月ビルマ首相ウーヌーの中共訪問に同行。五五年十二月ラングーンにて中共ビルマ・パートナー協定に調印。五六年二月帰国。

姚定塵 Yao Ting-chên

月中国亞洲團結委員會委員。

楊尉屏 Yang Wei-ping

五四年四月當時中共河南省委員會第一副書記。五五年二月河南省人民委員會委員。

楊惟義 Yang Wei-i

五四年七月第一期全國人民代表大會江西省代表。六月中国科学院生物学地学学部委員。五六年二月當時江西農學院院長。

楊煜 Yang Yu

五五年五月—五六年十二月當時中国漁業協會主任。五五年五月北京の日中漁業會談中共代表團團長として黄海東海漁業の有効期限延期に関する議定書に署名。五六年十一月、十二月の間、漁業代表團團長として来日。

楊一辰 Yang I-chên

五四年六月まで河南省人民政府委員。五五年二月広東省人民委員會委員。七月國務院農産品採購部部長。五六年四月全國先進生産者代表會議主席團團員。十一月國務院城市服務部部長。

楊一堂 Yang I-tang

五三年七月中国新民主主義青年團第二期中央委員。

楊一波 Yang I-po

五六年六月當時國府駐タヒチ總領事。

姚登山 Yao Têng-shan

五四年七月當時中共駐フィンランド公使館臨時代辦。五五年一月駐フィンランド大使館參事官。

姚令 Yao Nien

五一年一月中共駐インド大使館參事官。五三年一月駐ボンベイ總領事（新設）。

姚戊 Yao Wu

広東省潮陽縣の人。現在三五歳。サイゴン在住華僑。中仏学校修業。サイゴン潮州中華理事會理事長。

容祖誥 Jung Tsu-ka

五五年二月広東省人民委員會委員。

陽翰笙 Yang Han-shêng

作家。四九年七月中華全國文學藝術界連合會全國委員會常務委員兼福利部長。四九年十月政務院文化教育委員會委員。五三年十月中国作家協會理事會理事、全國文芸連第二期全國委員會委員兼秘書長。五四年中ソ友好協會ソ連メーデー參觀團副團長。五月中国人民對外文化協會常務理事、副會長。八月第一期全國人民代表四川省代表。五五年六月中国インドネシア友好協會理事。十一月日本憲法擁護國民連合と對外文化協會との日中文化交流協定に調印。五六年二

四九年十二月民主同盟中央委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員。

楊 一 木 Yang I-mu

五五年五月當時中央蘭州市委員會書記。

楊 逸 棠 Yang I-tang

五一年十二月當時中國農工民主黨中央委員兼中央執行局組織部副部長。五四年八月第一期全國人民代表大會上海市代表。

楊 雨 民 Yang Yü-min

旧熱河省の人。現在四一歳位。五三年十月中国人民第三回訪鮮慰問団第七總分団副団長。十月一五五年二月當時熱河省人民政府副主席。五四年八月第一期全國人民代表大會熱河省代表。

楊 雲 之 Yang Yün-chih

五五年二月當時遼寧省人民政府工業庁副庁長。

楊 雲 竹 Yang Yün-chu 1900~

湖北省の人。東京帝大卒業。三六年一三七年駐橫濱總領事。三八八年駐日大使館代理大使。三八年一四〇年外交部亞細亞司長。四〇年一四七年亞東司長。四七年一五二年極東委員會中國代表顧問。五二年八月駐日大使館公使。

楊 蘊 玉(女) Yang Yün-yü

五三年四月中華全國民主婦女連合會第二期執行委員。七月當時北京市民主婦女連合會副主任。五四年八月第一期全國人民代表大會河南省代表。五五年六月スイスの世界母親大會中共代表団員。九月當時國際民主婦女連合會書記処書記。

楊 英 傑 Yang Ying-chieh

五四年十一月國務院國家計画委員會副主任。

楊 榮 國 Yang Jung-kuo

四九年十二月民主同盟中央委員。五五年二月廣東省人民委員會委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員會委員。

楊 衛 玉 Yang Wei-yü

四五年十二月民主建國會常務委員。四九年九月同會の全國會務推進委員會宣傳教育委員會副主任委員。十月中央人民政府政務院輕工業部副部長兼同部辦公庁主任。五三年一月婚姻法貫徹運動委員會委員。十二月全國工商業連合會第一期執行委員。五四年十一月國務院輕工業部副部長。十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(中國民主建國會)。五五年四月民主建國會中央常務委員兼宣傳教育委員會副主任委員。五六年二月死去。

楊 亦 周 Yang Ichou

五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(中國國民黨革命委員會)。五五年一月天津市副市長。五六年二月國民黨革命委員會第二期中央委員。

楊 易 辰 Yang I-chên

吉林省の人。四九年一五四年八月遼西省人民政府主席。四九年十月一五三年一月東北人民政府委員會委員。五三年十一月當時中央遼西省委員會書記。五四年八月黑龍江省人民政府副主席。

楊 益 民 Yang I-min

五五年二月當時北京市人民政府農林局副局長。

楊 樾 林 Yang Yüeh-lin

五五年三月山東省人民委員會委員。

楊 果 英 Yang Kuo-ying

五五年一月黑龍江省人民委員會委員。

楊 嘉 瑞 Yang Chia-jui

陝西省の人。現在四一歳。モスクワ紅軍大學卒業。共產軍の師長、軍長を歴任。五三年一月陝西省人民政府委員。當時人民解放軍陝西軍区司令。五四年十二月陝西省人民委員會委員。

楊 海 波 Yang Hai-po

五三年一月當時遼東省人民政府委員。五三年一月一五四年九月東北行政委員會委員。五三年三月當時中國新民主主義青年團東北區工作委員會副書記。五三年六月中國新民主主義青年團第二期中央委員會常務委員。七月當時中華全國民主青年連合會東北辦事処主任。七

月ブカレストの第三回世界青年代表および第四回世界青年と学生平和友誼親節出席代表団副秘書長。八月第一期全國人民代表大會撫順市代表。五五年五月當時青年團遼寧省委員會書記。

楊 晦 Yang Hui

作家。四九年七月全國文學工作者協會全國委員。五三年十月中國作家協會理事會理事。五六年四月中國チエロソロバキア文化合作協定に基きチエロソロバキア第二期作家代表大會に參列。

楊 開 渠 Yang Kai-chü

五六年一月政治協商會議第二期全國委員會特別招請委員。

楊 貫 之 Yang Kuan-chih

五四年八月當時人民解放軍新疆軍区生産管理部副部長。

楊 漢 先 Yang Han-hsien

貴州省の人。苗族。五四年八月第一期全國人民代表大會貴州省代表。五五年二月貴州省人民委員會委員。

楊 希 堯 Yang Hsi-yao

五三年一月當時青海省人民政府委員。五四年十二月青海省人民委員會委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員會委員。

楊 希 文 Yang Hsi-wên

五五年三月山東省人民委員會委員。五六年七月山東大學副校長。

楊 奇 銳 Yang Chi-jui
五四年十一月最高人民法院審判員。五五年二月最高人民法院審判委員會委員。

楊 奇 清 Yang Chi-ching
湖南省の人。四八年華北人民政府公安部副部長。四九年十月中央人民政府政務院公安部副部長兼同部政治保衛局局長。五〇年中南軍政委員會公安部部長。五三年一月中南行政委員會委員。五四年九月政務院公安部副部長(補充)。十一月國務院公安部副部長。五五年四月、バンドンのアジア・アフリカ会議出席の中共代表團顧問。

楊 琪 良 Yang Chi-liang
五二年一月中共駐ポーランド大使館參事官。五五年二月當時駐ポーランド大使館臨時代辦。

楊 貴 林 Yang Kuei-lin 1926~
遼寧省の人。五五年一、二月中共學術視察團通訳として来日。當時中国科学院通訳。

楊 義 平 Yang I-ping
五四年八月第一期全国人民代表大會四川省代表。
楊 吉 甫 Yang Chi-fu
五五年一月四川省人民委員會委員。

楊 慧 潔(女) Yang Hui-chieh
五四年十二月當時北京第一棉紡織廠廠長。

楊 慶 春 Yang Ching-chun
五四年二月當時中共鞍山鋼鐵公司機械總行委員會書記。
楊 繼 曾 Yang Chi-seng 1898~
安徽省の人。二六年独ベルリン高等工業学校卒業。四四年一四九年国防部砲兵部長。五〇年国防部次長、經濟部長。五二年當時以降台湾糖業公司總經理。

楊 杰 Yang Chieh
五五年十二月當時安徽省文化局局長。
楊 建 寶 Yang Chien-pao 1901~
河南省南陽生れ。二四年米ペンシルヴァニア大学卒業。五七年二月當時南京工学院建築科教授、中国建築学会副理事長。

楊 獻 珍 Yang Hsien-chên
湖北省の人。哲学者。現在六三歳位。北京師範大学卒業。モスクワ大学卒業後ドイツ留学。五三年五月當時中共中央マルクス・レーニン学院副院長。五四年八月第一期全国人民代表大會湖南省代表。五五年六月中国科学院哲学社会科学学部委員。五六年九月中共第八期中央委員會候補委員。

楊 業 孔(聖泉) Yang Yeh-kung (Shêng-chüan) 1909~
山東省禹城の人。東北講武堂一〇期砲科卒業。陸軍大学第一期、同校研究院第四期。卒業後同大学教授。三八年駐ソ軍事代表團員。三九年陸軍第一八五師少將參謀長、長江上流江防司令部參謀長。四〇年軍令部第一少將。四二年遠征軍第一路司令部參謀長。四五年軍政部騎砲兵中將司令、山東挺進軍副總司令。四六年国防部第四厅副庁長。四七年同庁長。四八年一四九年米國參謀大学に留学。四九年東南軍政長官公署中將參謀長。五〇年国防部戰略計画委員會委員。五一年国防部次長(五六年當時在職)。

楊 旭 Yang Hsi
五六年三月當時中共広東省潮安縣委員會委員。

楊 珏 Yu Yang Yu
五五年二月河南省人民委員會委員。十二月當時中共河南省委員會第四副書記。

楊 君 勸(君邁) Yang Chün-mai(Chün-mai)1901~
山東省の人。広島高等師範留学。元内政部民政司長、山東省政府顧問、考試院參事。五二年以來考試院考選部政務次長。

楊 桂 芬(女) Yang Kuei-fên
五四年八月第一期全国人民代表大會上海市代表。

楊 顯 之 Yang Hsien-chih
五四年十一月最高人民法院 判員。

楊 顯 亭 Yang Hsien-ting
五四年一月當時全國労働模範、黒龍江省克山県北興区民立村農業生産合作社主任。八月第一期全国人民代表大會黒龍江省代表。

楊 顯 東 Yang Hsien-tung
自然科学者。元武漢大学農學院院長。四九年十月政務院農業部副部長。五三年九月ブダペストの国際科学工作者協会第三回代表大會に全国自然科学専門学会連合会組織部副部長として出席。五四年八月第一期全国人民代表大會河南省代表。十一月國務院農業部副部長。同月アルバニア「解放」一〇周年慶祝大会に中共代表團員として出席。五五年三月ハンガリア「解放」一〇周年慶祝式典に中共代表團員として出席。五六年二月中国亜細亞團結委員會委員。

楊 元 忠 Yang Yuan-chung 1908~
青島海軍兵学校卒業。四一年一四五年駐米大使館附武官。四六年一四七年海軍兵学校監督代理。四七年一四八年海軍本部第五庁庁長。四八年一四九年第四海軍区司令。四九年一五〇年東南司令部副參謀長。五〇年一五一年国防部戰略計画委員會海軍委員。五二年以來海軍總司令部副參謀長。

楊 虎 城 Yang Hu-cheng

陝西省蒲城の人。もと西北軍の指導者。陝西講武堂卒業。国民政府陝西省主席、西安綏靖公署主任その他を歴任。三六年中共と合作して西安事変に参加。そのため日華事変勃発直後逮捕下獄。一二年の後重慶で生き埋め、夫人は楊の逮捕後絶食して死去といわれる。

楊 公 庶 Yang Kung-shu

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会特別招請委員。

楊 公 素 Yang Kung-su

五四年一月当時中央政府駐西藏代表外事幫辦(補佐)。五六年八月中共駐ネパール代表団員。

楊 宏 猷 Yang Hung-yu

五五年二月河南省人民委員会委員。

楊 効 春 Yang Hsiao-chun

五五年安徽省人民檢察院檢察長。

楊 浩 廬 Yang Hao-lu

五五年四月当時第三七回(リヨン)国際博覧会参加中共展覽団团长。五六年八月当時國務院對外貿易部第四局局長。五六年十月對外貿易部部長助理。

楊 廣 Yang Kêng

五二年八月まで東北人民政府新聞局局長。ついで東北日報社長。

五六年一月当時通俗読物出版社副社長。

楊 剛 (本名、楊季徵)(女) Yang Kang (Yang Ch'ichêng) 1905~

湖北省の人。燕京大学卒業後専ら文芸運動に従事。三七年日華事変初期天津大公報副刊を編集、大公報の移転とともに香港版、桂林版、重慶版を編集。国府軍の桂林撤退後大公報を辞して渡米。四七年帰国中共地区に入り、中共軍の天津、北京占領後、天津で旧大公報を改名し「進歩日報」を編集発行。四九年十月中央政府政務院外交部秘書主任兼外交部外交政策委員会秘書主任、当時北京人民日報副編集。五四年八月第一期全国人民代表大会湖北省代表。五五年十一月訪鮮文化代表団員。同月外交学会第三期常務理事。五六年四月当時人民日報総編集。

楊 剛 毅 Yang Kang-i

五三年八月当時全国合作社連合總社供応業務第一批發管理局局長。五五年四月当時全国購販合作社供応局副局長。

楊 克 現 Yang Kê-hsien

五四年七月—五六年六月当時新華社記者。

楊 克 成 Yang Kê-chêng

民家族。五五年二月雲南省人民委員会委員。

楊 克 冰(女) Yang Kê-ping

四九年四月全国民主婦女連合会執行委員、当時東北民主婦女連合会主任。四九年—五三年一月東北人民政府委員。五四年八月第一期全国人民代表大会山東省代表。

楊 佐 青 Yang Tso-ching

五四年十月当時黒龍江省人民政府外事処長兼ハルビン市人民政府外事処長。

楊 在 先 Yang Tsai-hsien

五三年十月当時志願軍二級模範一等功臣。五四年八月第一期全国人民代表大会志願軍代表。

楊 朔 Yang Shuo

四九年七月全国文学工作者協会全国委員会候補委員。五三年十月作家協会理事。五五年二月当時作家協会外国文学委員会副主任。

楊 士 傑 Yang Shih-chieh

五五年二月山西省人民委員会委員。十二月当時中共鞍山市委員会第一書記。五五年八月—五六年六月の間第一期全国人民代表大会鞍山市代表に補選。

楊 士 達 Yang Shih-ta

もと震旦大学教務長兼医学院院長。五三年十二月上海第二医学院副院長。五五年六月ヘルシンキ世界平和大会中共代表団員。

楊 士 法 Yang Shih-fa

五三年当時中共上海市委員会重工業部部長。

楊 子 恒 Yang Tzu-hêng

四四年民主同盟中央委員。五四年八月第一期全国人民代表大会甘肅省代表。十二月甘肅省人民委員会委員。五六年二月民主同盟第二期中央委員会委員。

楊 子 明 Yang Tzu-ming

五五年二月湖北省人民委員会委員。

楊 子 廉 Yang Tzu-lien

陝西省の人。四九年末—五三年一月西北軍政委員会委員。四九年十二月民主同盟中央委員。五三年一月西北行政委員会委員。五四年六月西北軍政委員会土地改革委員会委員を解任。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(中国民主同盟)。五五年三月政治協商會議陝西省第一期委員会副主席。五六年二月民主同盟第二期中央委員。

楊 之 華(女) Yang Chih-hua

瞿秋白未亡人。四八年八月全国総工会常務委員兼女工部副部長。四九年四月全国民主婦女連合会常務委員兼国際工作部部長。五三年一月婚姻法貫徹運動委員会副秘書長。四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員兼常務委員。五月中国総工会第七期執行委員兼女工部副部長。九月ウィーンの世界労働組合第三回代表大会に中共工会

代表団員として出席。八月第一期全国人民代表大会上海市代表。十月政治協商會議第二期全国委員会委員(中華全国総工会)。九月中共八全大会で「女工保護の政策をまじめに執行せよ」と発言、当時総工会女工部部长。

楊 志 範 Yang Chih-fan

五五年五月当時玉門礦油工会主席。

楊 芝 芳(女) Yang Chih-fang

五四年八月第一期全国人民代表大会陝西省代表。

楊 思 一 Yang Ssu-i

四九年当時中共浙江省委員会組織部長。四九年末一五四年六月華東軍政委員会人民監察委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会浙江省代表。五五年一月浙江省副省長。二月政治協商會議第一期浙江省委員会副主席。

楊 趾 麟 Yang Chih-lin

五五年二月熱河省人民委員会委員。

楊 自 秀 Yang Tzu-hsiu

五五年二月山西省人民委員会委員。五六年二月国民党革命委員会第三期中央委員。

楊 秀 峰(秀林) Yang Hsiu-fêng (Hsiu-lin)

1898~

楊 春 松 Yang Chun-sung

五四年十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(台湾民主自治同盟)。五五年三月ニューデリーのアジア諸国会議に中共代表団員として出席。

楊 春 甫 Yang Chun-fu

元中央人民政府人民革命軍事委員会空軍司令部幹部部部长。五四年六月中央人民政府政務院第二機械工業部副部长。十一月國務院第二機械工業部副部长。

楊 春 茂 Yang Chun-mao

五五年一月一五六年六月國務院建築工程部部长助理。五六年六月建築工程部部长。

楊 純(女) Yang Chun

四九年末一五四年六月華東軍政委員会土地改革委員会委員。五三年四月中華全国民主婦女連合会第二期執行委員兼常務委員。八月第一期全国人民代表大会山東省代表。

楊 如 坤 Yang Ju-kun

五四年七月第一期全国人民代表大会重慶市代表。

楊 汝 瑤 Yang Ju-yao

元中共中央華東区地下工作部科長といわれる。五五年十月、十一

河北省遷安の人。北京高等師範学校卒業。二九年仏国留学。帰国後北京各中等学校校長を経て、河北省教育庁長。三五年国立師範大学歴史科講師。三七年日華事変勃発後、平津地区学生を率い太行山にて遊撃戦を指導。四一年七月晋冀魯豫辺区政府主席。四八年八月華北人民政府委員兼第三副主席、人民監察院院長。四九年一五三年一月河北省人民政府主席。四九年九月政治協商會議第一期全国委員会常務委員。五二年一月一五三年一月政務院華北行政委員会委員。五二年中央人民政府高等教育部副部长。五四年二月当時抗米援朝總会在京常務委員。八月第一期全国人民代表大会河北省代表。九月國務院高等教育部部長。五六年一月中国・ポロランド五六年度文化合作執行計画に中共代表団团长として署名。三月國務院科学規画委員会委員。当時全国大学高等專門学校生徒募集委員会主任委員。九月中共第八期中央委員会委員。

楊 述 Yang Shu

五三年四月当時中国新民主主義青年団中央委員会中央書記処候補書記。四月青年出版社と開明書店が合併して中国青年出版社が成立し、その社長。五三年十一月一五五年十一月当時中共北京市委員会宣伝部部长。五六年十一月一五七年一月北京市人民委員会代表団員としてソ連及び東欧諸国を訪問。

楊 俊 生 Yang Chün-shêng

五四年八月第一期全国人民代表大会江蘇省代表。九月当時公私合營上海中華造船廠廠長。

月の間中共見本市代表団秘書として来日。当時國務院公安部外事局秘書、中国国際貿易促進委員会職員。

楊 少 橋 Yang Shao-chiao

五五年一月國務院財政部部长助理。

楊 尙 奎 Yang Shang-kui

五三年十月一五五年一月当時中共江西省委員会書記。五五年一月政治協商會議第一期江西省委員会主席。二月江西省人民委員会委員。五六年九月中共八全大会で「革命の老根拠地工作を強化せよ」と発言、当時中共江西省委員会第一書記。

楊 尙 昆 Yang Shang-kun 1907~

四川省の人。モスクワ留学。二七年陳紹禹と共に帰国。三〇年頃李伯釗と結婚。三二年第二次中ソ全会には中央執行委員、また紅軍第一部政治部主任。日華事変中西北で前鋒劇団を組織。四三年頃中共中央華北局書記兼統一戦線工作部部长、五四年七月当時中共中央委員会辦公庁主任。十二月政治協商會議第二期全国委員会委員(共産党)。五五年十月当時中共中央副秘書長。五六年九月中共第八期中央委員会委員、中央書記処候補書記。

楊 尙 灼 Yang Shang-shao

五五年十二月当時中国科学院金属研究所學術委員会委員。

楊 松 青 Yang Sung-ching

五五年七月外交学会第三期理事會理事。

楊拯民 Yang Chêng-min

陝西省の人。楊虎城の子。四九年西北解放区代表として政治協商會議に出席。五四年十二月政治協商會議第二期全國委員會委員(特別招請)、当時玉門礦務局局長。

楊笑萍 Yang Hsiao-ping

陝西省の人。五四年九月西康省人民政府委員、当時西康省人民政府交通庁庁長。

楊鍾健 Yang Chung-chien 1897~

陝西省の人。考古学者。二三年北京大学卒業。二七年独ミュンヘン大学碩士。二八年中国地質学会技師長。四八年中国科学院院士、東北大学総長、北京大学教授。五四年八月第一期全國人民代表大會河南省代表。五五年五月中国科学院生物学地学学部委員。六月同学部常務委員會委員。五六年二月九三学社第四期中央委員會委員。当時科学院古脊椎動物研究室主任。五月科学院編訳出版委員會委員。

楊植霖 Yang Chih-lin

旧綏遠省の人。四九年一五四年六月綏遠省軍政委員會委員。五三年一月一五四年六月綏遠省人民政府副主席。二月内蒙古自治区愛国衛生運動委員會副主任。五四年二月当時全國人民解放軍慰問代表團第六總分団副団長。四月当時成吉思汗陵遷移新陵園建築委員會委員。五五年二月政治協商會議第一期内蒙古自治区委員會主席。四月

内蒙古自治区人民委員會副主席。

楊心生 Yang Hsin-shêng 1926~

延安大学卒業。もと山東軍区司令部軍需処職員といわれる。五五年十、十一月の間中共見本市代表団工作員(美術担当)として来日。当時中国国際貿易促進委員會職員。

楊振亞 Yang Chên-ya

五四年十、十一月の間中国紅十字会訪日代表団通訳として来日。

楊森(子惠) Yang Sên (Tzu-hui) 1889~

四川省広安県の人。四川陸軍速成学校、雲南講武学堂卒業。一六年袁世凱の帝制に反対し第三革命護国軍団長、後北方に内通してその旅長。二六年万県に司令部を設けて一〇個師を編成、万県事件(万県停泊中の英艦艇砲撃)を起す。四川省長。国民革命軍の北上に際し吳佩孚にくみし、吳惨敗するや国民革命軍に投じ、第五路総指揮。三一年川陝边防司令。三二年四川軍閥劉湘を援けて劉文輝を追討。三五年一三六年第二〇軍軍長。三七年七七事变に川東軍を率いて抗戦。三八年一三九年第二七集團軍總司令。三九年一四〇年第六戦区副總司令。四〇年一四五年第九戦区副總司令。四五年一四八年貴州省政府主席。四八年一四九年重慶市長、南京軍政委員會副主任委員。五五年一五六年当時總統府国策顧問。

楊世謀 Yang Shih-mou (Yong S. M.) 1908~

マライのセラランガール生れ。クアララムプール在住華僑。弁護

六年五月中国ペキスタン友好協會理事。十一月中国エジプト友好協會理事。十二月中国イスラム教協會第二期委員會副主任。

楊石先 Yang Shih-hsien

五三年一月当時中国民主促進会天津市分会責任者。九月第一回全國綜合大学會議に南開大学副校長として出席。十一月当時天津市中ソ友好協會副會長。五四年八月第一期全國人民代表大會天津市代表。五五年一月天津市人民委員會委員。五月中国科学院物理学数学化学学部委員。六月同学部常務委員。五六年一月科学院応用化学研究所學術委員會委員。八月中国民主促進会第四期中央委員會委員。

楊節 Yang Chieh

五五年三月山東省人民委員會委員。

楊宣誠 Yang Hsuan-chêng 1889~

湖南省の人。東京海軍砲術学校卒業。三九年一四四年軍事委員會作戦庁第二部長、四四年一四五年軍事委員會外交局長。四五年一四六年北京政府秘書長。四七年一五四年台湾農林公司社長。

楊宣武 Yang Hsuan-wu

五五年三月山東省高級人民法院院長。

楊戰韜 Yang Chan-tao

五五年二月吉林省人民委員會委員。

公証人、マライ連邦立法議員。ロンドン大学卒業、インナー・テムプル検定弁護士試験合格。マライ華僑公会法律分科会主席、セラランガールのセント・ジョン病院董事長。

楊西萍 Yang Hsi-ping

五三年九月当時中共旅順市委員會書記、旅順市人民政府市長。

楊成森 Yang Chêng-sên

五六年十月國務院内務部部長助理。

楊成武 Yang Chêng-wu 1912~

福建省の人。上將。赤軍軍官学校卒。四一年冀西軍区第五分区司令。四九年解放軍華北軍区第二〇兵团司令兼天津市警備司令。五〇年一月天津市人民政府委員。五二年華北軍区司令部參謀長。五三年一月華北行政委員會委員。十月当時京津衛戍司令部副司令。五四年八月第一期全國人民代表大會天津市代表。九月国防委員會委員。五五年二月当時京津衛戍司令。九月一級独立自由勳章及び一級解放勳章。五六年九月中共第八期中央委員會候補委員。

楊靜仁 Yang Ching-jên

甘肅省の人。回族。中共の延安時代中央西北局少数民族科科長、陝甘寧辺区政府民族事務委員會委員兼辦公庁主任。四九年末中央人民政府政務院民族事務委員會委員。五三年一月西北行政委員會委員。五月中国イスラム教協會委員會副主任。五四年八月第一期全國人民代表大會甘肅省代表。十一月國務院民族事務委員會副主任。五

楊祖彤 Yang Tzu-tung

五五年二月江蘇省人民委員會委員。

楊邨 Yang Tsun

五六年十二月當時中國國際貿易促進委員會工作員。

楊代蒂(女) Yang Tai-ti

彝族。五四年六月當時四川省雷波縣人民政府副縣長。八月第一期全國人民代表大會四川省代表。

楊丹珠 Yang Tan-chu

西藏族。五三年六月中國佛教協會常務理事。九月甘肅省甘南藏族自治州各族各界人民代表會議協商委員會副主席。

楊肇嘉 Yang Chao-chia 1892~

台灣省台中市の人。早稻田大學留學。日本統治時代台灣地方自治同盟の盟主、新民報社理事、大東實業公司理事長。四九年台灣省政府委員。五〇年台灣省政府民政廳長。五四年六月台灣省政府委員。

楊竺坡 Yang Chu-po

五三年十一月全國工商業連合會第一期執行委員。五四年八月まで遼東省人民政府委員。同月第一期全國人民代表大會遼寧省代表。五六年十二月全國工商業連合會第二期執行委員(遼寧本省)。

楊廷寶 Yang Ting-pao

五四年八月第一期全國人民代表大會河南省代表。五五年二月江蘇省人民委員會委員。五月中國科學院技術科學部委員。十月當時中國建築學會副理事長。

楊定安 Yang Ting-an

五四年八月第一期全國人民代表大會湖南省代表。

楊東蓴 Yang Tung-shun

湖南省の人。現在五四歳位。広西師範專門學校長、幹部學校教育長を歴任。四九年末—五三年一月中南軍政委員會委員兼同委員會文化教育委員會委員。五三年一月—五四年六月広西大學校長、中南行政委員會委員。五四年八月第一期全國人民代表大會広西省代表。九月広西省人民政府委員を解任。五五年二月湖北省人民委員會委員。

楊東生 Yang Tung-sheng

五六年四月西藏自治區準備委員會民政處副處長。

楊湯城 Yang Tang-cheng

五四年十二月政治協商會第二期全國委員會委員(華僑)。五六年十二月全國工商業連合會第二期執行委員(華僑)。

楊得志(德志) Yang Tè-chih (Tè-chih)

日華事變中冀魯豫軍區司令として黄河一帯で活動。四九年—五三

年一月西北軍政委員會委員。四九年—五〇年當時解放軍寧夏軍區主任兼兵團司令。五一年援朝人民志願軍總部參謀長として赴鮮。五三年二月中國人民志願軍副司令としての功により北鮮最高の一級國旗勳章。五四年二月當時中國人民志願軍政治部副主任。九月國防委員會委員。五五年三月中國人民志願軍副司令を解任。五六年九月中共第八期中央委員會候補委員。

楊德華 Yang Tè-hua

五四年九月広西省人民政府委員に補充任命。當時広西省人民法院院長。五五年二月広西省人民委員會委員。五月広西農學院副院長。

楊德高 Yang Tè-kao

哈尼族。五三年十二月雲南省紅河哈尼族自治區人民政府委員會委員。

楊德講 Yang Tè-kiang

五五年二月雲南省人民委員會委員。

楊梅生 Yang Mei-sheng

五五年二月湖南省人民委員會委員。

楊伯瑤 Yang Po-yao

彝族。五五年二月貴州省人民委員會委員。

楊伯倫 Yang Po-lun

五三年一月陝西省人民政府委員、當時陝西省人民政府民政廳長。五四年十二月陝西省人民委員會委員。五五年三月政治協商會陝西省第一期委員會副主席。

楊發榮 Yang Fa-jung

回族。五三年十二月青海省海南西藏族自治區人民政府委員、青海省海南西藏族自治區協商委員會副主席。

楊扶青 Yang Fu-ching

五五年二月河北省人民委員會委員。

楊復興 Yang Fu-hsing

西藏族。五三年一月甘肅省甘南西藏族自治區人民政府設立準備委員會副主任。六月中華全國民主青年連合會第二期全國委員會委員。九月甘肅省甘南西藏族自治區人民政府副主席。五四年八月第一期全國人民代表大會甘肅省代表。十二月甘肅省人民委員會委員。

楊文蔚 Yang Wèn-wei

五五年二月福建省人民代表大會にて「福建省五四年度地方予算執行情況と今年の地方予算草案」を報告。同月福建省人民委員會委員。

楊文漢 Yang Wèn-han

五四年七月當時中央人民政府水利部工程管理局局長。

楊文貴 Yang Wên-kui

苗族。五四年八月第一期全国人民代表大会広西省代表。五五年二月広西省人民委員会委員。五六年三月広西省桂西僮族自治州副州長。六月全国人民代表大会民族委員会委員に補選。

楊文發 Yang Wên-fa

福建省の人。ビルマ在住華僑。建徳公司(青幫系の反共的団体)幹部であったが、その後中共側に接近、対中共ゴム輸出のエージェンとなる。ウ・バ・スエ首相と親交があるといわれる。

楊炳忠 Yang Ping-chung

彝族。五三年十二月雲南省紅河哈尼族自治区協商會議副主席。

楊勉 Yang Mien

五三年一月対ルーマニア、三月対ハンガリア、五月対チェコおよびポーランドの五三年度バーター貿易および支払協定調印式に政務院対外貿易部交際処処長として列席。五五年一月当時國務院対外貿易部交際処処長。

楊放之 Yang Fang-chih

五一年政務院財政經濟委員會中央財政經濟計画局副局長。五二年八月同財政經濟委員會副秘書長。五四年十一月國務院副秘書長、國務院專家工作局局長。

楊萬銀 Yang Wan-yin

楊茂林 Yang Mao-lin

五二年当時中長鉄道管理局ハルビン駅計量係主任。鉄道労働模範。ソ連の荷積方法を研究して「楊茂林積荷法」を創案。五三年六月中華全国民主青年連合会第二期全国委員会委員。五四年八月第一期全国人民代表大会ハルビン市代表。

楊勇 Yang Yung 1908~

湖南省の人。湖南暴動の際遊撃隊員。三三年抗日大学入校。三四年西遷に参加、抗日大学を卒業。三七年第八路軍第一一五師第三四三旅第六八六団長。三九年山東省西部に進出、独立第一旅旅長、第八軍第一一五師第三旅旅長、魯西軍区副司令を歴任。四一年二月冀魯予軍区副司令。戦後人民解放軍兵団司令。四九年十二月貴州省人民政府主席。五〇年一五三年一月西南軍政委員会委員。五二年人民解放軍西南軍区空軍司令。五四年五月当時人民志願軍副司令。九月国防委員会委員。五六年九月中共第八期中央委員会候補委員。

楊裕進 Yang Yü-chin

五三年七月新民主主義青年団第二期中央委員。

楊幼炯 Yang Yu-chiung 1901~

湖南省の人。復旦大学卒業。国立中央大学教授兼教頭。三五年以来国府立法委員(五六年当時在職)。

楊葉澎 Yang Yeh-pêng

五六年四月安徽省淮河水上当安保衛委員会副主任、当時全国人民警察治安保衛委員功臣模範代表大会代表。

楊萬選 Yang Wan-hsuan

五五年一月西康省人民委員会委員。

楊明 Yang Ming

五五年三月安徽省人民委員会委員。六月当時中国民主促進会地方組織代表。

楊明軒 Yang Ming-hsuan

陝西省の人。日華事变中陝甘寧辺区政府副主席。四九年九月政治協商會議第一期全国委員。十二月民主同盟中央委員兼西北総支部主任委員。四九年一五三年一月西北軍政委員会委員。五〇年一月陝西省人民政府委員。五二年西北軍政委員会文教委員会主任。五三年一月西北行政委員会副主席。五三年十月当時西北抗米援朝総分會主席。五四年二月当時解放軍慰問代表団第二總分団(西北)団長。八月第一期全国人民代表大会甘肅省代表。九月同大会常務委員会委員。七月当時中国人民世界平和擁護委員会西北総分會主席。五六年二月民主同盟第二期中央常務委員。

楊銘鼎 Yang Ming-ting

五六年十、十一月アジア産業保健會議出席中共代表団員として来日。当時上海第一医科大学教授。

四九年当時解放軍綏遠軍区副司令員。四九年一五四年六月綏遠軍政委員会委員。五五年四月内蒙自治区人民委員会委員。

楊蘭花(女) Yang Lan-hua

五二年十二月一五三年一月ウィーンの世界人民平和大会出席中共代表団員、当時上海国営第二綿紡織廠先進工作者。五四年六月当時上海市労働模範。

楊力生 Yang Li-shêng

五四年四月当時寧夏省蒙古自治区人民政府副主席(漢族)。

楊立功 Yang Li-kung

五五年五月当時第一拖拉機製造廠(洛陽)第一副廠長。

楊立之 Yang Li-chih

五五年一月西康省人民委員会委員。

楊亮功 Yang Liang-kung 1896~

安徽省巢県の人。二〇年北京大学卒業。二四年米スタンフォード大学卒業。二七年ニューヨーク大学博士号。開封中山大学文科主任教授。二八年河南大学教授。二九年吳淞中国公学副校長兼哲学系主任、国立暨南大学教授。二九年一三一年および四八年一四九年安徽大学校長。三一年一三三年北京大学教授。三三年一三八年監察委員。三八年一四四年皖贛監察使。四四年一四八年閩台監察使、国民大会代表。五〇年一五四年監察院秘書長。著書「中国中学課程組